

令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」

**地域中小企業と連携による IT 担当者育成・
採用促進モデル開発と普及推進事業
成果報告書**

学校法人 YIC 学院

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《学校法人 YIC 学院(YIC 情報ビジネス専門学校)》が実施した令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」の成果をとりまとめたものです。

目次

第1章 事業の構成機関・構成員	5
1-1. 構成員	5
1-2 事業の実施体制	6
1-3 各委員の役割.....	6
第2章 事業の内容	8
2-1 事業の趣旨・目的.....	8
2-2 当該モデルが必要な背景について.....	8
2-3 開発講座の概要	10
2-4 計画の全体像	13
第3章 今年度の具体的活動内容	16
3-1 今年度実施の概要.....	16
3-2 設置・実施した委員会.....	16
3-3 実施した調査	17
3-4 開発に際して検討した実証講座の内容.....	28
3-5 大学・専門学校等文献調査 ※資料17.....	30
3-6 年限・カリキュラム案作成とりまとめ ※資料18.....	30
3-7 開発するモデルの検証.....	30
3-8 ホームページの作成他.....	33
第4章 事業終了後に実施予定の取組及び成果の活用方針・手法	34
4-1 事業終了後の取組と成果の活用方法.....	34
第5章 令和6年度事業実施に伴う成果物	36
5-1 中小企業・誘致企業人材ニーズアンケート調査 資料13-1.....	36
.....	36
5-3 高校生地域進路意識調査 資料14.....	76

5-4	専門学校生地域就職意識アンケート調査 資料15-1.....	97
5-5	専門学校生地域就職意識ヒアリング調査 資料15-2	120
5-6	高校生地域中小企業説明会実施およびアンケート集計報告書 資料16	136
5-7	大学・専門学校等文献調査 資料17	142
5-8	年限・カリキュラム案作成とりまとめ ※資料18	157
第6章	次年度以降に向けて	165
6-1	次年度以降の取組	165
6-2	次年度に向けて	167

第1章 事業の構成機関・構成員

1-1. 構成員

(1) 教育機関

	名称	役割等	都道府県名
1	学校法人 YIC 学院 YIC 情報ビジネス専門学校	◎事業推進委員 ◎カリキュラム作成委員 企業連携委員 調査・普及委員	山口県
2	学校法人 YIC 学院 経営管理部 常務理事 経営戦略課・地域連携事業室 管理課等	事業推進委員 カリキュラム作成委員 企業連携委員 ◎調査・普及委員	山口県
3	学校法人 YIC 学院 社会事業本部・事務統括 事業企画推進室	事業推進委員 ◎企業連携委員	山口県
4	学校法人 YCI 学院(京都)	調査・普及委員	京都府
5	大分大学 IR センター	事業推進委員	大分県
6	山口大学大学院 技術経営研究科	カリキュラム作成委員	山口県
7	国際電子ビジネス専門学校 ICT マネジメント科	調査・普及委員	沖縄県

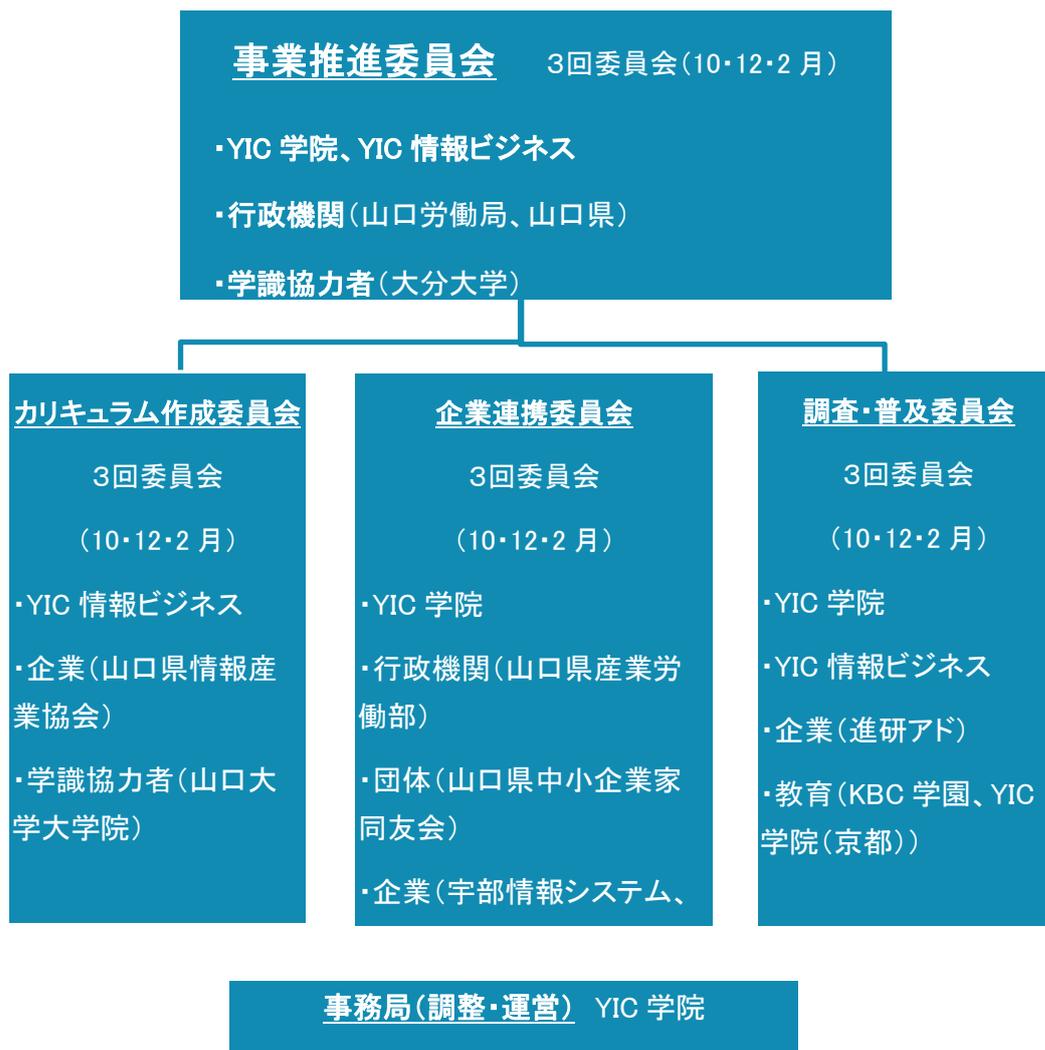
(2) 企業・団体

	名称	役割等	都道府県名
1	山口県情報産業協会	カリキュラム作成委員	山口県
2	山口県中小企業家同友会	企業連携委員	山口県
3	株式会社進研アド (ベネッセグループ)	調査・普及委員	大阪府
4	株式会社宇部情報システム	企業連携委員	山口県
5	株式会社 KUNO	企業連携委員	東京都

(3) 行政機関・その他

	名称	役割等	都道府県名
1	山口労働局職業安定部	事業推進委員	山口県
2	山口県産業労働部	事業推進・企業連携委員	山口県

1-2 事業の実施体制



1-3 各委員の役割

○教育機関

機関名	具体的な役割
-----	--------

学校法人 YIC 学院 統括本部 YIC 情報ビジネス専門学校 情報ビジネス科(認定課程) 経営管理部 社会事業本部	・全体統括管理運営(予算・進捗、目標と成果の調整、各委員会連携、運営等)、事務局 ・実証講座実施、カリキュラム作成
学校法人 YIC 学院(京都) 〈専〉YIC京都工科自動車大学校 自動車整備科(認定課程)	・情報共有、調査・普及への連携
国際電子ビジネス専門学校 ICT マネジメント科(認定課程)	・情報共有、普及への連携
以下、教育機関所属学識者	
山口大学大学院 技術経営研究科	・カリキュラムについての助言
大分大学 IR センター	・調査、エビデンスの分析活用についての助言

○企業・団体

機関名	具体的な役割
山口県情報産業協会	・業界、企業への情報提供
山口県中小企業家同友会	・調査・実証の連携、各団体・企業への情報提供
株式会社進研アド	・調査、プログラム開発についての助言
株式会社宇部情報システム	・調査・実証の連携
株式会社 KUNO	・調査・実証の連携

○行政機関・その他

機関名	具体的な役割
山口労働局職業安定部	・カリキュラム、企業、調査の情報共有
山口県産業労働部	・調査・検証の連携、各団体・企業への情報提供

第2章 事業の内容

2-1 事業の趣旨・目的

経済財政運営と改革の基本方針 2023(令和5年6月16日閣議決定)において、成長分野への学部再編や先端技術に対応した高専教育の高度化などによる学びの転換の促進、未来を支える高度専門人材を育成する専門学校等の機能強化が重要課題として指摘されています。

一方、民間調査では、IT関連製品・サービスを提供するITベンダーやユーザ企業の情報システム部門で活躍するIT人材が2030年には45万人不足するとの試算もあり、地方におけるIT人材不足への対応も急務です。特に、2024年問題も重なり、働き盛りの若者人口が少ない地方都市では、コロナ禍後の経済活動活発化に伴い人材不足が深刻化しています。山口県中小企業家同友会では、会員企業の人材不足解消に向け、山口県と連携して採用強化に取り組んでいます。また、山口県は産業活性化・人口減少対策として、魅力ある働き先としての企業誘致にも力を入れています。誘致企業にとって人材採用・育成は大きな魅力となるため、地域密着型の職業教育機関との連携が不可欠です。

本事業では、以上のような地域ニーズに応えるため、中小企業で働くために必要とされる「汎用的かつ多様な能力・スキルを強みとし、協働的な働き方でICT技術を駆使して積極的に課題解決に取り組める人材」を育成する学科を構築します。

2-2 当該モデルが必要な背景について

(1)全国的なIT人材育成課題

- ① ICT技術の発展により、従来型の一般職としてのパソコン利用技術だけでは、就職先に対応できなくなった。
- ② 地方の中小企業においては、1つの職種に絞った人材ではなく、ビジネスとICT技術を複合的に融合できる人材が不足している。
- ③ 地方の中小企業内で、就業している社員に新規技術を習得させる時間が確保できない。
- ④ 高校生が地元就職したい中小企業理解が不足しており、魅力ある学習内容を提供できる学部・学科がない。
- ⑤ 情報系職種対象への地方中小企業との連携ができていない。

(2)地方都市におけるIT人材育成課題

- ① 人口減少と高齢化
多くの地方都市では人口減少と高齢化が進行しており、労働力不足や市場の縮小が深刻な問題となっている。
- ② デジタル化の遅れ

デジタル技術の導入が遅れている地方企業も多く、生産性や競争力の向上が遅れが生じる。

また、デジタル技術に興味があっても、現役社員では現状の業務が忙しく、新規の技術習得ができていない。

③人材確保の難しさ

優秀な人材が都市部に流出しやすく、地方都市では専門的なスキルを持つ人材の確保が難しい。その中でも比較的大学生は、大手企業を好む傾向にあり、専門学生が中小企業の担い手になっている。

④企業の人材育成難

都市部に比べ中小企業の割合が多く、1人が担当する業務幅が広く、採用後の人材育成が難しくなっている。

上記の課題に対して、地方自治体や企業と専門学校が協力し合い、様々なビジネス上の課題を解決できる「デジタル分野に強いビジネスパーソン」の育成と輩出する取り組みが求められている。

また、従来の専門学校ビジネス系学科は、ビジネスマナー、簿記会計、パソコンスキル中心のカリキュラムであるが、本モデルのような、企業のニーズとシーズを調査分析、個々のビジネス教育とデジタル・IT スキルの融合、地方中小企業ならではの多様な業務に適應できる”課題解決型人材”を育成する実践的カリキュラム開発が求められている。

(3)特に地方都市での IT 人材育成課題

①地方における地域中小企業の IT 人材ニーズと高校生の学習環境の乖離

地方の中小企業は、単に IT スキルを持つ人材だけでなく、地域に根差した課題解決能力やコミュニケーション能力、協調性などを備えた人材を求めている。しかし、従来の高校教育では、こうしたニーズに十分に答えられるカリキュラムがまだ整備されておらず、地方の高校生は、進学先や就職先で必要とされるスキルを十分に身につけることができない状況にある。

②高校生の進学先傾向と県内 IT 人材育成

令和 4、5 年度の学校基本調査によると山口県の高校生 9980 人のうち大学短大進学者が 5,479 人、うち県内進学者が 27.4%となっており大学進学層の流出は多くなっている。

一方で、専修学校進学は 1740 人のうち県内専門課程入学者 1260 人で 72.4%となっており地元進学傾向が高い。県内中小企業のニーズに合う、さらに魅力あるカリキュラムで地元経済活性化の一翼を担う新学科設置が望まれる。

(4)背景をふまえた上での本事業の特徴

①企業とともに学び成長する開発カリキュラム

山口県教育委員会による「第 3 期山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、地域経済の活性化と持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みが推進されています。
(<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/19/11463.html>)

※総合戦略より一部抜粋 1. 産業振興における雇用の創出(1)デジタル技術の活用による新たなビジネ

スの創出、(4)地域の雇用を支える中堅・中小企業の応援、2. 時代を担う人材の育成と新たな人の流れの創出・拡大(2)若者や女性のやまぐちへの定着促進、4. 時代に対応した持続可能な地域社会の形成(1)デジタルの力を活用した豊かな社会づくり等

上記の通り、本事業において企業と共に創る新規教育カリキュラムは、この戦略に合致した人材育成を可能にし、地域経済の活性化と持続可能な地域社会の実現に大きく貢献します。

②誘致企業との人材育成と採用不安減による誘致安定化

誘致企業にとって、人材採用は大きな課題である。本事業は、誘致企業と連携して開発するカリキュラムにより最先端の企業が求める人材を効率的に育成し、地方における採用不安を減少させ、総合戦略に掲げられた KPI 40 件の成約向上に貢献し地域経済の活性化に寄与します。

③YIC の最先端の募集広報ノウハウの活用

YIC 学院において、広報マーケティング部門における戦略的ブランディングと Web マーケティングの知見と実績がある。そのため、対象年度の高校生が進学し学び・働きたくなる仕組みづくりを企業と連携して入学者・就職者数安定化のノウハウを構築出来ます。

参考：事業年度の高校生数予測値 (人)

	高校1年生	高校2年生	高校3年生
令和6年度	10,578	11,023	10,363
令和7年度	10,941	10,578	11,023
令和8年度	10,614	10,941	10,578

④YIC の委託事業実績からの展開

令和3年度「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」において、当法人にて「課題解決型 DX 人材育成プログラム(観光・サービス業を中心として)」として委託事業を行い、観光業界に特化して調査を行い求職者向けの DX 人材育成プログラム開発を行なっている。この調査を根拠として、広く中小企業のビジネス分野にて求められているユーザーサイドで活躍する人材養成を産学連動して行うことで、採用不足にも対応する社会システムを構築します。

※web サイト <https://www.yic.ac.jp/monka-itaku/2022/>

2-3 開発講座の概要

(1)学科名 仮称「地域共創ビジネスIT科」

未来を支えるデジタルスキル、アントレプレナーや地域課題発見解決等の多彩な科目を加えた新設学科

(2)新設学科の目的

ビジネス基礎知識とデジタル技術を学び、地域や企業が抱える様々な課題に対して、デジタル技術を活用して、コミュニケーション活動により多様な発想から、地域の具体的かつ実践的な体験活動を通じて、新たな解決方策やイノベーションを創出し、デジタル社会の実現に貢献できる人材育成を目指す。

(3) 学科新設の背景と規模

企業は、ビッグデータなどのデータと AI や IoT を始めとするデジタル技術を活用して、業務プロセスを改善するという従来の業務の延長上だけでなく、企業が取り扱う製品やサービス、ビジネスモデルそのものを変革する。つまり、組織、企業文化、風土を改革し、社会での優位性を確立することにある。

従来の情報ビジネス科は、デジタル技術を活用した改善・効率化を推進する人材育成を行ってきた。今後は、組織変革を推進する上で、デジタル技術を前提として、ビジネスモデルを変革して、新たな企業の成長・競争力強化につなげる DX 推進者であり実践者を育成する。

現実課題をもとに企業と学校がこれまで以上に連携して人材育成を行う 30 名を目処とした産学連携実践モデルを作る。

(4) 具体的な科目(案)

科目		1 年生	2 年生
授業科目	リテラシー分野	デジタルシティズンシップ、Well-Being、キャリアデザイン、語学	
	IT 分野	IT スキル(IT パスポートレベル)、DX スキル(ローコード開発、RPA、生成 AI)、ネットワーク利用技術(サービス・クラウド・SNSなど)	
	ビジネス分野	財務会計、人事、法務、マーケティング(ビッグデータマーケティング、デジタルマーケティング)	
	コミュニケーション・連携・交流分野	マナープロトコル、コミュニケーション、アントレプレナー、国際交流	
	地域課題発見解決分野	フィールドワーク(地域・海外)、長期企業実習 【本事業で重点的に開発する科目】 地域産業研究、PBL 入門(企業訪問など)、PBL(オーダーメイド型企業 DX 課題解決)	
育成方法		ビジネススキル、IT/DX スキルを実践的課題解決学習において、選択的融合的に用い、現実課題への取組みと産学関係による経験学習にて修得	

現在開講している工業専門課程(情報工学科、メディアデザイン科)、商業実務専門課程(情報ビジネス科)にて実施している学科の教育課程およびこれまでの文科省委託事業成果および現在行なっている厚生労働省委託事業成果を参考に IT スキルを参照する。それ以外については、今後委員会の内外関係者が開発する。なお、中小企業の現在抱える課題を企業人と学生そして教員が連携して解決するために主体的に学びを行い、実践的に取り組んでいく学習を行うことで、実務能力となるように実習する。厚生労働省委託事業成果サイト (<https://yic-ict.com/>)

(5)実践的な主な授業内容

①地域産業研究

内容	山口県や全国の地方都市が直面する具体的な課題に対して、データを活用した解決案を提案する。
テーマ(例)	・人材不足・採用の伸び悩みへの解決案 ・業務効率化への解決案 等
活動の流れ	①課題分析 グループ内でデータを分析し、問題の原因を探る ②解決案の提案 分析結果を基に、解決策を考察 ③発表 グループごとに解決策を発表し、他のグループや指導教員からフィードバックを受ける

②PBL 入門(机上調査や企業訪問など)

内容	データ収集や実際に中小企業に訪れ、中小企業が直面する課題を調査し、データに基づいた解決案を提案する。
訪問場所	地域(山口県内)中小企業
活動の流れ	①調査準備 事前にデータや情報を収集し、調査企業や業界分野についての予備知識を持つ ②現地訪問 対象企業で直面する具体的な問題 (人材、デジタル化など)を現地で観察・調査 ③問題分析 現地で得た情報を基に、問題の原因や影響を分析 ④解決案の考察 得られたデータと現地の観察結果をもとに、具体的な解決案を考察 ⑤報告書作成 調査結果と解決案をまとめた報告書を作成し、発表

③PBL(オーダーメイド型 PBL、企業 DX 課題解決)

内容	PBL 入門を深堀するために、業種に合わせた PBL ユニットを選択実施し、データを活用した課題解決案をプレゼンする。
期間	1～3カ月程度
対象企業	地域企業(5業種程度)

活動内容	①初期調査:対象企業と共同で PBL メニューを選択、決定 ②PBL ユニット実施:企業提供されたデータやオープンデータをもとに、課題の詳細な分析を行う ③課題解決案の提案:分析結果を基に、具体的な課題解決策を提案。後日プレゼンテーションを行い、企業からのフィードバックを受ける
------	---

更に、企業への地域課題および人材スキルニーズを調査から抽出し、先行している高等教育機関等の教育課程等を調査することで、山口県内の企業を対象としたカリキュラム・人材像を設定していく予定である。なお、内外の人材および企業および学校と連携して、内部保有教育資源を補完する形で運用を可能とし、変化スピードの速い社会に対応するために、オンラインによる教育環境の整備と学習そのものをDX化することで、体験的な学習(いかに学ぶか)により、学び続ける主体的なリスキリングマインドを養成することを検討している。

2-4 計画の全体像

<p>3か年間の事業計画は以下の通り</p> <p>【1年目】</p> <p>(1)事業実施体制の構築(10月～)</p> <p>各3回委員会実施(ハイブリット形式)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業推進委員会 ・カリキュラム作成委員会 ・調査・普及委員会 ・企業連携委員会 <p>事務局にて調整して運営</p> <p>(2)「調査・普及」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業・誘致企業人材ニーズ調査 (アンケート調査) ・中小企業・誘致企業人材ニーズ調査 (ヒアリング調査) ・中小企業・誘致企業事業説明・協力依頼 ・高校生地域進路意識調査 (アンケート調査) ・高校生地域中小企業説明会実施 ・専門学校生地域就職意識調査 (アンケート調査、ヒアリング調査) <p>(3)「カリキュラム作成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・専門学校等文献調査 ・年限・カリキュラム案作成 (科目名・時間数・おもな学習内容・目標) <p>(4)「企業連携」</p>
--

- ・連携中小企業・誘致企業選定
- ・連携内容検討

(5)「成果報告等」

- ・調査報告書 作成・印刷
- ・カリキュラム案 作成
- ・年間報告書 作成
- ・ホームページ作成
(ポータルサイト新規作成含む)

【2年目】

(1)事業実施体制の構築(6月～)

各5回委員会実施(ハイブリット形式)

- ・事業推進委員会
- ・カリキュラム作成委員会
- ・調査・普及委員会
- ・企業連携委員会

事務局にて調整して運営

(2)「調査・普及」

- ・中小企業・誘致企業カリキュラム案意見調査
(ヒアリング調査)
- ・高校生地域中小企業説明会実施
- ・専門学校生地域就職意識調査
(ヒアリング調査)
- ・高校生対象 PR 動画作成

(3)「カリキュラム作成」

- ・科目別シラバス・コマシラバス作成
- ・一部教材(動画含む)作成
- ・一部実証講座 実施
- ・教員研修

(4)「企業連携」

- ・連携中小企業・誘致企業連携先交渉
- ・海外研修先選定交渉

(5)「成果報告等」

- ・事業 PR 動画
- ・シラバス・コマシラバス・教材作成
- ・年間報告書 作成
- ・新設学科申請書 作成準備
- ・ホームページ作成

【3年目】

(1) 事業実施体制の構築(6月～)

各5回委員会実施(ハイブリット形式)

- ・業推進委員会
- ・カリキュラム作成委員会
- ・調査・普及委員会
- ・企業連携委員会

事務局にて調整して運営

(2) 「調査・普及」

- ・中小企業・誘致企業求人調査 (アンケート調査)
- ・中小企業・誘致企業学科説明・協力依頼
- ・高校生地域進路調査 (アンケート調査)
- ・高校生地域中小企業説明会実施
- ・高校生対象 PR 動画 作成

(3) 「カリキュラム作成」

- ・科目別シラバス・コマシラバス(改訂)
- ・一部教材(動画含む)作成
- ・一部実証講座 実施
- ・教員研修

(4) 「企業連携」

- ・関係中小企業・誘致企業 PBL・企業実習実証
- ・企業対象学科説明会

(5) 「成果報告等」

- ・調査報告書 作成・印刷
- ・カリキュラム案 作成
- ・成果報告書 作成
- ・新設学科申請書 提出
- ・ホームページ作成

第3章 今年度の具体的活動内容

3-1 今年度実施の概要

事業計画を基本に、事業推進委員会における委員からの意見に基づき、年度の計画を進めていく。なお、調査結果および委員会による委員からの助言により、開発内容の検討を平行して進めていき、委託事業後の知見となるように、運用記録も行う。

令和6年度は、「企業・高校生・専門学校生の調査と連携企業の選定・内容検討、カリキュラム開発の案作成」を行うこととする。

3-2 設置・実施した委員会

1) 事業推進委員会 3回

第1回	令和6年10月23日(水) 15時30分～17時00分
第2回	令和6年12月23日(月) 15時30分～17時00分
第3回	令和7年2月20日(木) 15時30分～17時00分

2) カリキュラム作成委員会 3回

第1回	令和6年10月16日(水) 15時30分～17時00分
第2回	令和6年12月12日(木) 15時30分～17時00分
第3回	令和7年2月14日(金) 15時30分～17時00分

3) 企業連携委員会 3回

第1回	令和6年10月15日(火) 15時30分～16時00分
第2回	令和6年12月19日(木) 15時30分～17時00分
第3回	令和7年2月19日(水) 15時30分～17時00分

4) 調査・普及委員会 3回

第1回	令和6年10月7日(月) 10時30分～12時00分
第2回	令和6年11月29日(金) 13時00分～14時30分
第3回	令和7年2月12日(水) 10時30分～12時00分

3-3 実施した調査

(1) 中小企業・誘致企業人材ニーズ調査 ※報告書後述 資料13-1、13-2

調 査 名	中小企業・誘致企業人材ニーズ調査
調 査 目 的	地域中小企業・誘致企業が求める人材像を把握し、工業専門課程のカリキュラム開発に反映する 地域産業の課題や将来展望を理解し、それに対応した人材育成プログラムを検討する
調 査 対 象	地域中小企業及び誘致企業
調 査 手 法	定量)アンケート調査(200件程度)、定性)10件程度:個別面談調査
調 査 項 目	①企業規模、業種、従業員数 ②求める人材の職種、スキル、社会人基礎力 ③今後の事業展開の課題と展望 ④採用活動・人材の問題点 ⑤OJT の内容
分 析 内 容 (集 計 項 目)	①求める人材の職種・スキル・経験の需要度 ②企業規模・業種別の求める人材像 ③今後の事業展開における課題と展望の共通点・相違点 ④現在の採用活動・人材の問題抽出⑤OJT の内容分析(3つの観点:マインド面、ポータブルスキル面、テクニカルスキル面)
調 査 結 果	山口県内の中小企業と山口県へ誘致対象となっている企業を対象とした。 調査件数 200 企業、回収 有効回答数 54 件(有効回収率 27.0%) 調査結果の概要 (1)企業属性 企業規模: 小規模企業が大半を占め、従業員 20 人以下の企業が約 8 割であった。 業種: 卸売業・小売業が最も多く、多様な業種から回答が集まった。 売上高: 1 億円～5 億円未満の企業が最も多く、中小企業が中心であった。 (2)人材に関する意識 人材の重要性: 従業員満足の向上や利益の増加を重視する企業が多く、人材の重要性を認識していた。

	<p>求める人材像: 前向きで素直な姿勢、会社の方針への理解、コミュニケーション能力などを求める企業が多い。特別な能力よりも、基本的な仕事に対する姿勢を重視する傾向が見られた。</p> <p>IT 人材: IT ツールの活用は進んでいるものの、IT 人材の不足が課題となっていた。</p> <p>新卒採用: 高校卒業生の採用に関心を持つ企業は少ないが、専門学校卒業生に対しては、実務に直結するスキルやビジネスの基本を身につけてほしいという期待があった。</p> <p>(3)人材育成</p> <p>OJT: OJT を実施している企業は少なかった。</p> <p>人材育成の課題: OJT の仕組みやカリキュラムが未整備な企業が多く、人材育成の体系化が課題となっていた。</p> <p>(4)採用活動</p> <p>採用課題: 求める人材の理想が高く、人材不足に悩んでいる企業が多かった。</p> <p>専門学校への期待: 実務に直結するスキルやビジネスの基本を身につけてほしいという期待があった。</p> <p>(5)分析結果と考察</p> <p>本調査の結果から、山口県内企業は、人材の重要性を認識しつつも、人材不足や IT 人材の不足といった課題を抱えていることが明らかになった。特に、中小企業においては、人材育成に十分な時間やリソースを割くことが難しいという課題が顕在化している。</p> <p>また、OJT の未整備や人材育成の体系化が遅れているなど、人材育成面でも課題が見られる。これは、中小企業が人材育成のノウハウ不足や、人材育成に係る費用負担を懸念していることが一因と考えられる。</p>
<p>構築しようとしているモデルの検討にどのように反映させるか(活用手法)</p>	<p>①工業専門課程のカリキュラム開発 ②地域産業に特化した人材育成プログラムの検討 ③企業との連携強化による実習・就職機会の創出 ④実践的な OJT 内容データ提示とカリキュラム反映</p>

(2)高校生地域進路意識調査 ※報告書後述 資料14

調 査 名	高校生地域進路意識調査
調 査 目 的	<p>高校生の地域進路意識、進学・就職希望状況を把握し、工業専門課程の必要性を検討する</p> <p>高校生の地域将来に対する希望や不安を理解し、進路選択支援に役立てる</p>
調 査 対 象	高校生 5校程度 1～3年生
調 査 手 法	定量的)アンケート調査
調 査 項 目	①進路希望(進学・就職・その他)②希望する進路先(大学・専門学校・企業等)③将来の夢(職種)④社会人基礎力12項目⑤地域に対する意識⑥専修学校に対するイメージ、期待、どんな価値があれば進学するのか?(資格・就職率・就職先・就職先の初任給・有名企業等)⑦良く見る SNS と進路情報取得経路
分 析 内 容 (集 計 項 目)	①進路希望状況と割合(進学・就職・その他)②希望する進路先(大学・専門学校・企業等)の割合③将来像の内容④地域に対する意識⑤専修学校に対するイメージ、期待度、どんな価値があれば進学するのか?(資格・就職率・就職先・就職先の初任給・有名企業等)
調 査 結 果	<p>山口県内の高等学校複数校の生徒(1～3年生)を対象とした。</p> <p>調査人数 1000 人、回答 576 名、回答率 57.6%</p> <p>調査結果、主要な傾向と考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路選択の多様化と地域への意識 ・進学希望: 進学希望者が全体の半数以上を占め、大学、専門学校、短大への進学を検討している。 ・進学先: 県内と県外の進学を希望する割合がほぼ同数であり、地元への愛着と同時に、より広い世界へ羽ばたきたいという意欲も強いことが伺える。 ・将来のキャリア: 医療・福祉、美容、IT など、多岐にわたる分野への関心が見られる。また、具体的な職業名まで回答している学生もあり、将来像を明確に描いている学生が多いことがわかる。 <p>専門学校への期待と不安</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校への期待: 専門学校は、短期間で専門的な知識やスキルを習得できる点、就職に強い点が評価されている。 ・専門学校への不安: 一方で、専門学校に関する情報不足や、大学との比較における優位性について疑問を持つ学生も一定数存在する。 <p>山口県へのイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元への愛着: 山口県への愛着は根強く、自然や人情味といったポジティブなイメージを持つ学生が多い。 ・地域への貢献: 地元の企業に就職したいと考えている学生もおり、地域への貢献意識が高いことが伺える。 <p>SNS 利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS の浸透: 現代の高校生は、SNS を日常的に利用しており、情報収集やコミュニケーションの手段として活用している。 ・情報発信: SNS 上で積極的に情報発信を行っている学生も少なくないことから、自己表現の場として利用していることがわかる。 <p>専門学校に関する詳細分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校の魅力: 資格取得、実践的な学び、短期間での就職といった点が魅力として挙げられている。 ・専門学校への不安: 学費が高い、情報が少ない、大学との違いがよくわからないといった点が不安として挙げられている。 ・専門学校への期待: 専門学校では、自分の興味のある分野を深く学べると期待している。 <p>キャリアプランに関する分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価: 自身の能力については、客観的な自己評価ができている学生が多い一方で、将来のキャリアについては、まだ漠然としたイメージを持っている学生もいる。 ・仕事選びの基準: 好きなこと、得意なこと、将来の安定などを重視しており、多様な価値観に基づいて仕事を選んでいることがわかる。
--	--

	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口県へのイメージ: 山口県を「のどかで安心できる」「自然が多い」と評価する一方で、「交通機関が少ない」「人が少ない」といったネガティブなイメージを持つ学生もいる。 ・進路相談: 親や学校の先生に相談する学生が多く、周囲の意見を参考にしながら進路を決めていることがわかった。
構築しようとしているモデルの検討にどのような反映させるか(活用手法)	<p>①高校生のニーズ、シーズに則したカリキュラム開発への発展 ②地域活性化に向けた高校生への情報提供内容の考察 ③地域人材の確保方法・育成方法</p>

(3) 専門学校生地域就職意識調査 ※報告書後述 資料15-1, 15-2

調査名	専門学校生地域就職意識調査
調査目的	専門学校生の地域就職への意識、就職活動状況を把握し、カリキュラム開発の中でもキャリア教育・就職支援スキームの開発知見を得る 専門学校生の将来に対する希望や不安を理解し、キャリアカウンセリングに役立てる
調査対象	本校・委員会参加校の商業実務課程学生、工業専門課程学生
調査手法	定量)アンケート調査 定性)個別面談調査 各学科5名程度
調査項目	①就職希望地調査 ②希望する就職先(企業規模・業種等)③就職活動状況(自己分析時期、活動開始日等)④就職活動で苦手なこと、不安なこと ④社会人基礎力12項目 ⑤就職に関する8項目の価値観で調査 ⑥専修学校に進学して良かったこと、悪かったこと
分析内容(集計項目)	定量)①全専門学校生に対する各項目の単純集計各項目の地域別クロス集計②各項目の分野別クロス集計 定性)個別面談時の発言録を作成し、内容を整理する。就職および就職活動に関する価値観・不安要素などポイントとなる発言をピックアップ。調査の目

	<p>的・仮説に関係するワードや、共感が多い発言、類似したワード等を整理する。</p>
<p>調 査 結 果</p>	<p>本校・委員会参加校の商業実務専門課程学生、工業専門課程学生に対して、実施</p> <p>調査747名、 回答207名、回答率 27.7%</p> <p>●全専門学校生に対する各項目の単純集計について</p> <p>1. 進路希望</p> <p>回答者の 87.4%が就職を希望しており、最も優先度の高い進路希望地域は県内(58.9%)であった。</p> <p>2. 就職希望:</p> <p>情報通信業(31.6%)が最も多く、次いでサービス業(28.6%)が多くなっていた。</p> <p>3. 仕事選びの基準</p> <p>最も重視されているのは「自分の好きな仕事」(66.7%)であり、次いで「自分の得意が活かせる仕事」(52.2%)や「キャリアが安定した仕事(給与・待遇)」(46.9%)も重視されていた。</p> <p>4. 大切にしている価値観</p> <p>「お金・経済」(29.0%)が最も優先的に選択された。</p> <p>5. 就職活動への不安</p> <p>「理由はないが、焦りや不安がある」(37.7%)が最も多く、次いで「面接で話すことができるか不安」(36.7%)や「自分のアピールポイントがわからない」(35.3%)といった具体的な不安を抱えている者もいた。</p> <p>6. 就職活動支援</p> <p>「就職ガイダンスや就職に関する授業」(40.1%)、「面接対策の個別指導」(35.7%)、「学内企業説明会の開催」(32.9%)、「クラス担任からの個別相談」(32.9%)などを期待していた。</p> <p>7. 専門学校への満足度: 91.8%の学生が肯定的に評価していた。</p> <p>まとめ)</p> <p>専門学校生は、将来について安定した生活を送るための経済的な基盤と、充実したプライベートの両立を重視していると考えられる。また、地元就職に対しては、メリットとデメリットの両方を認識した上で、自分にとって最適な選択を</p>

したいと考えていることがわかった。さらに、就職活動に関する知識や経験が不足しているため、手厚いサポートを必要としていると考えられた。

●地域別クロス集計について

クロス集計①:希望する進路の場所(県内/県外)×希望企業規模、希望初任給、希望年収について

結論:専門学校生の進路希望地は、希望する企業規模、給与、年収に影響を与えていた。

1. 企業規模

従業員 101 名以上の企業を希望する割合は、県内希望者で 41.3%、県外希望者で 51.9%と、県外希望者の方が高い。

2. 給与(月給)

県内希望者は「20 万円～22 万円」が 52.9%と最多であるのに対し、県外希望者は「22 万円～24 万円」または「25 万円以上」が最多であった。

3. 年収: 県内希望者は「200 万円～299 万円」が 41.3%と最多であるのに対し、県外希望者は「400 万円以上」が 46.3%と最多であった。

まとめ)

県外就職を希望する学生は、より規模の大きい企業で、より高い給与・年収を得ることを志向する傾向があることがわかります。この背景には、都市部と地方の経済状況や賃金水準の差、専門学校生のキャリア意識などが考えられ

●クロス集計②:希望する進路の場所(県内/県外)×能力意識

結論:専門学校生の進路希望地は、能力意識に影響を与えていた。

1. 自分の意見を伝える力

県外希望者の方が、自分の意見をはっきりと伝える力があると認識している割合が高い。(県内:71.3%、県外:81.5%、差:10.2%)

2. 自分の意見をわかりやすく伝える力

県外希望者の方が、自分の意見をわかりやすく伝える力があると認識している割合が高い。(県内:53.7%、県外:64.8%、差:11.2%)

新しい価値を生み出す力: 県外希望者の方が、新しい価値を生み出す力があると認識している割合が高い。(県内:52.9%、県外:66.7%、差:13.8%)

3. 目標を設定し確実に行動する力

	<p>県外希望者の方が、目標を設定し確実に行動する力があると認識している割合が高い。(県内:70.2%、県外:81.5%、差:11.3%)</p> <p>まとめ)</p> <p>県外就職を希望する学生は、自分の能力に対する自己評価が高い傾向があった。この背景には、都市部と地方の雇用環境や企業文化の違い、専門学校での教育内容などが考えられた。</p> <p><u>定性調査 ヒアリング)13人</u></p> <p>●就職および就職活動に関する価値観・不安要素について</p> <p>1. 労働条件</p> <p>多くの学生が、給与や休日などの労働条件を重視しており、ワークライフバランスを重視する傾向が見られた。</p> <p>2. 地元就職:</p> <p>地元就職には、安心感や住み慣れた土地であることなどのメリットを感じる一方、地元企業の選択肢の少なさや賃金の低さなどに不安を感じていた。</p> <p>3. 就職活動支援</p> <p>履歴書の書き方や面接対策などの基本的な指導から、専門的なキャリアカウンセリングまで、幅広い支援を求めています。</p> <p>まとめ)</p> <p>以上3点から定性調査より、専門学校生は、安定した生活を送るための経済的な基盤と、充実したプライベートの両立を重視していると考えられた。</p> <p>また、地元就職に対しては、メリットとデメリットの両方を認識した上で、自分にとって最適な選択をしたいと考えており、就職活動に関する知識や経験が不足しているため、手厚いサポートを必要としていた。</p> <p>●調査の目的・仮説に関するワードの整理</p> <p>1. 地域就職</p> <p>多くの学生が、地元あるいは近隣県での就職を希望しており、専門学校生の地元志向の高さが示唆された。</p> <p>2. 中小企業</p> <p>地元中小企業への就職に関心を持つ学生がいる一方、企業規模や賃金などに不安を感じている学生もいた。</p> <p>3. ICT(IT)</p>
--	---

	<p>情報系分野の学生を中心に、ICT 関連スキルへの関心が高く、自主的に学習に取り組む様子が見られた。</p> <p>4. オープンキャンパス</p> <p>オープンキャンパスは、専門学校への進学を検討する上で重要な情報源であるとともに、入学後の学びを具体的にイメージできる機会として捉えられていた。</p> <p>まとめ)</p> <p>専門学校生の地元志向の高さ、地元中小企業への関心と不安、ICT 関連スキルへの関心、そしてオープンキャンパスの重要性が明らかになった。これらの結果は、今後のキャリア教育や就職支援のカリキュラムを検討していく上で重要な示唆を与えた。</p>
<p>構築しようとしているモデルの検討にどのようなように反映させるか(活用手法)</p>	<p>① 専門学校生の就職に対する価値観と社会人基礎力・就職基礎力を明確化し、科目・カリキュラム検討へ反映させる (調査結果の活用方法)</p> <p>科目・カリキュラム検討では、経済的安定とプライベートを両立させる視点を取り入れたキャリア教育や、地元就職のメリット(安心感)とデメリット(給与や選択肢の少なさ)を比較し、最適な選択を促す授業を設計する必要があるためその視点を導入する。さらに、面接対策や自己 PR のスキル向上など、就職基礎力を強化する実践的なサポートを充実させる</p> <p>② 専門学校生が地域産業に魅力を感じる機会創出の人材育成プログラムの検討 (調査結果の活用方法)</p> <p>人材育成プログラムでは、地元企業との連携を強化し、インターンシップ・セミナー・共同プロジェクトなどを通じて学生が地域産業の魅力と自身の貢献力を直接感じられるような機会を創出することが調査結果からも示唆された。</p> <p>今後連携企業開拓を進め、地元就職への不安を軽減し、地域産業への関心を高め、学生の地元志向をキャリアに結びつけることを今後のプログラムへ反映していくとともに、本事業独自のアントレプレナーシップ実践教育プログラムを開発していくことで ICT を自然に利活用できる「デジタル・スキル面」、部門横断的なコラボレーションなども可能にする「ヒューマン・スキル面」が強化できるプログラムを検討する。</p>

(4)高校生地域中小企業説明会実施およびアンケート集計 ※報告書後述 資料16

調 査 名	高校生地域中小企業説明会実施およびアンケート集計
調 査 目 的	<p>1、地域中小企業の魅力を高校生に伝え、地域就職への関心を高める</p> <p>2、地域中小企業と高校生の相互理解を促進し就職するための社会人基礎力向上への意欲を高める</p> <p>この2点を目的として、参加企業は中小企業、参加者は地域高校生を対象として説明会を企画し運営する。</p> <p>同時に、地域の高校生、専門学校生等地域の企業へ就職をする対象層へアンケート実施する事により、本事業に反映させる。</p>
調 査 対 象	山口県内の高校生および本校へ進学予定の山口県内の高校生
調 査 手 法	<p>・企業説明会へ参加した高校生にWebアンケート</p> <p>・本校へ進学予定の山口県内の高校生にWebアンケート</p>
調 査 項 目	<p>①企業認知度 ②職種認知度 ③就職に対する不安(自身について、企業について) ④就職をしたい時期 ⑤</p> <p>相談者 ⑥就職の際の決め手(場所、親、賃金、休日数、福利厚生、その他)</p> <p>⑤説明会を終えて自分が身につけたいスキル</p>
分 析 内 容 (集 計 項 目)	<p>①参加者数、参加者の満足度②認知度(企業、職種)と地元企業への就職意識 ③不安要素分析 ④身につけたいスキル分析</p>
調 査 結 果	<p>① 参加者数</p> <p>説明会参加者が1名/970名配布(0.1%)</p> <p>入学予定者が57名/178名配布(32.0%)</p> <p>② ・参加前の企業認知度:16.7%⇒参加後の企業認知度: 69.1%</p> <p>・職業認知度</p> <p>75%以上: 営業・販売職</p> <p>50～74%: 専門・技術的職業(情報・研究等)、教育・研究者、事務職(窓口業務含む)、医療・保健技術者サービス職</p> <p>25～49%: 運搬・清掃・包装等従事者、農林漁業作業員、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者</p> <p>0～25%: 保安的職業、生産工程従事者、管理的職業</p> <p>③ 不安要素分析</p>

	<p>・就職に対する不安については、面接への不安、初めての就職活動への戸惑い、自分に合う仕事・就職先を見つけることへの不安、企業理解などの順で不安が上げられた。</p> <p>・社会人生活における不安については主に円滑な職業生活を送るためのビジネスマナーについて不安を上げていた生徒が多かった。</p> <p>④身につけたいスキル分析</p> <p>調査結果として社会人としてのマナー: 31人が選択、専門知識を身につける: 23人が選択、語学力を向上させる: 3人が選択しており、「社会人としてのマナーを学ぶ」と回答した高校生が最も多く、全体の約半数を占めた。</p>
<p>構築しようとしているモデルの検討にどのような反映させるか(活用手法)</p>	<p>① 高校生のニーズ、シーズに則したカリキュラム開発への発展</p> <p>・高校生の就職に対する不安: 面接への不安、初めての就職活動への戸惑い、自分に合う仕事・就職先を見つけることへの不安、企業理解不足などが示唆された。</p> <p>・高校生の就職の決め手: 場所、休日数、賃金が上位を占め、待遇面を重視する傾向が示された。</p> <p>・高校生の相談相手: 親が最も多く、次いで先生、同級生という順で相談者の多様性が乏しいことが分かった。</p> <p>・高校生が身につけたいスキル: 社会人としてのマナーが最も多く、専門知識も重視していた。</p> <p>これらの知見を踏まえ、次年度はPBL授業体験会について、高校生の不安解消や疑問解決にも繋がるプログラムを構築していく必要がある</p> <p>②地域活性化に向けた高校生への情報提供内容の考察</p> <p>・この事業を通じて教育連携企業をつくり、高校生に対して、仕事内容や職場の魅力、働くやりがいを直接伝える機会を設けるなど、企業との連携を強化する。</p> <p>③地域人材の確保方法・育成方法</p>

	<p>・例えば、高校の探求の授業に合わせたテーマ設定（地域課題や SDGs など）を行い、高校生の興味関心に沿ったテーマを設定。</p> <p>グループワークも体験してもらい専門学校生と高校生が混ざり合い、グループで課題について話し合うことで学び活性化を深める。</p> <p>そしてグループごとに話し合った内容を発表し、参加者全体で共有し、他者の考えを理解し、多様性への対応力を磨いていく。</p> <p>さらに専門学校生が高校生のアイデアに対して、1年間学んだ専門的な知識や視点からアドバイスをし専門学校生にも有益な時間とする。</p> <p>なお、評価については、高校教員、専門学校教員、企業、行政、地元経済団体の方にも協力頂き、考えたことが形になる過程を共に楽しむといった探求の時間を作ることで高校の授業に組み込み早期人材確保の一助とする。</p> <p>高校生が主体的に考え、学び、成長する楽しさを味わいながら、地域企業への理解を深め、将来のキャリア形成に繋げたい。</p>
--	--

3-4 開発に際して検討した実証講座の内容

(1)地域産業研究

実証講座の対象者	専門学校 該当学科の1年生
期間 (日数・コマ数)	令和7年6月～9月(5～10コマ程度)
実施手法	<p>山口県や全国の地方都市が直面する具体的な課題に対して、ビックデータを活用した解決案を提案する。</p> <p>①ビックデータ概論から学習をはじめ、例題として小売業のビックデータ活用を学習する</p> <p>②地域経済分析システム(RESAS)などを用いて、現状分析と解決策を考察する</p> <p>③グループ単位で解決策を発表し、他グループや指導教員からフィードバックを受ける</p>
検討結果	令和7実施予定

(2) PBL 入門(机上調査や企業訪問など)

実証講座 の対象者	専門学校 該当学科の1年生
期 間 (日数・コマ数)	令和7年10月～令和8年2月(5～10コマ程度)
実施手法	データ収集や実際に中小企業に訪れ、中小企業が直面する課題を調査し、データに基づいた解決案を提案する。 ①調査準備:事前にデータや情報を収集し、調査企業や業界分野についての予備知識を習得 ②現地訪問:対象企業で直面する具体的な問題(人材、デジタル化など)を現地で観察・調査 ③問題分析:現地で得た情報を基に、問題の原因や影響を分析 ④解決案の考察:得られたデータと現地の観察結果をもとに、具体的な解決案を考察 ⑤報告書作成:調査結果と解決案をまとめた報告書を作成し、発表
実証結果	カリキュラム作成委員会の検討により、当初予定令和7年度から令和8実施予定へ変更

(3) PBL(オーダーメイド型 PBL、DX 企業課題解決)

実証講座 の対象者	専門学校 該当学科の2年生
期 間 (日数・コマ数)	令和8年6月～9月(10～15コマ程度)
実施手法	PBL 入門を深堀するために、業種に合わせた PBL ユニット※を選択実施し、データを活用した課題解決案をプレゼンする。 対象企業:山口県内地域企業(5業種程度) ①初期調査:対象企業と共同で PBL メニューを選択、決定する ②PBL ユニット実施;企業提供されたデータやオープンデータをもとに、課題の詳細な分析を行う

	③課題解決案の提案:分析結果を基に、具体的な課題解決策を提案する。プレゼンテーションを行い、企業からのフィードバックを受ける
実証結果	令和8年度実施予定

3-5 大学・専門学校等文献調査 ※資料17

「マネジメント分野」、「情報分野」、「マーケティング分野」に関する学科を有する

大学のディプロマポリシーを調査し、リンクを収集。(大学 70 校 93 学部、専門学校複数校)

リンク先に示されている大学の学科情報をもとに共通するディプロマポリシーの項目でまとめた資料を作成し、カリキュラム構築のまとめ資料を作成。

3-6 年限・カリキュラム案作成とりまとめ ※資料18

商業分野(マーケティング、マネジメント)・工業分野(DX)を融合した商業分野に精通したDX推進を推し進める地域DX人材育成するためのカリキュラム構築を次の方向性でカリキュラムを作成。

- a.企業連携先のDXを実現するためにノーコード開発、ローコード開発ができ、各種データの整合性を保ったデータベースの構築・運用ができる人材を育成するカリキュラムを作成。
- b.アントレプレナーシップの精神をもって企業連携時に果敢に取り組むため、マーケティングの知識を学び、データ重視でマーケティングができる人材を育成するカリキュラムを作成。
- c.PBLで企業DXに係るために業務を可視化するモデリング技法を習得、実践できる人材を育成するカリキュラムを作成。

3-7 開発するモデルの検証

(1)モデルの評価項目と活用方法

- ・実証授業後の学生・教員やインターンシップ先企業へのアンケート・ヒアリングにより、モデルの有効性を評価する。
- ・他の専門学校でも実証を実施し、導入意欲を評価する。

a.実施内容と評価

実施内容	評価者	評価項目(5段階)
講義 インターンシップ	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・授業全体の満足度について自己評価アンケート ・授業理解度についてレポートのパフォーマンス評価 ・対象学科への興味関心 ・ビジネスにおけるデータ活用の有効性 ・教員の指導 ・ポートフォリオ評価(学修活動を通じた過程で地域課題発見解決する手法・知識が身についたか自己、相互評価) ・地元企業での就労意識度合 ・授業の感想(自由記入)
	教員	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度 ・指導のしやすさ ・教育効果 ・本学科を導入したいか ・改善点(自由記入)
	企業・団体	<ul style="list-style-type: none"> ・実習効果 ・企業の負担 ・IT人材採用のイメージができたか ・本学科の学生をIT人材として採用したいか ・本学科設置の有効性 ・改善点(自由記入)
研修	教員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題発見解決する手法・知識が身についたか ・改善点(自由記入)
学科周知	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・対象学科への興味関心 ・地域課題発見解決する手法を学ぶことは有益だと思うか

b.反映方法

①定量的分析

各質問項目を集計し、パーセンテージを計算、グラフ化

②定性的分析

自由記入欄を内容ごとに分類

ポジティブ・ネガティブ意見をグループ化し、共通の課題やテーマを抽出

③結果の報告

定量的・定性的分析の結果をまとめ、教員、企業、委員へ共有し、意見を聴取

④改善策の立案と実施

委員会にて改善策を議論・立案、具体的なプランを決定

⑤モデルのブラッシュアップ

教材の見直し、授業方法の改善、フィードバック方法を検討、次年度に再評価を行う

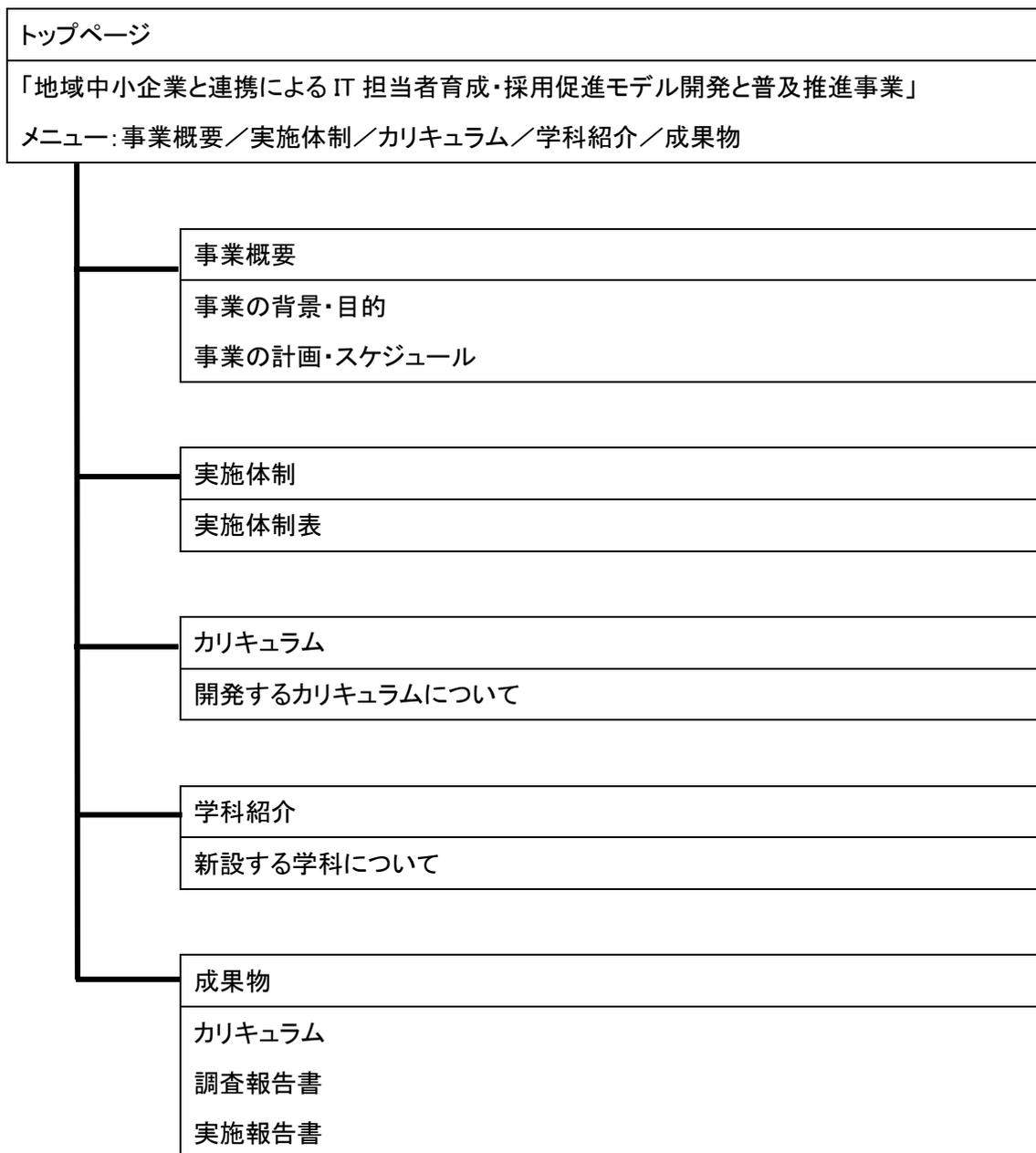
3-8 ホームページの作成他

(1) ホームページ URL

下記のとおりホームページを作成した。

<https://yic-sc.com/>

(2) ページ構成



(3) 周知チラシの作成 資料19

添付のとおり周知用のチラシを作成した。

第4章 事業終了後に実施予定の取組及び成果の活用方針・手法

4-1 事業終了後の取組と成果の活用方法

1. 地域企業との連携で成果を創出

1-1 継続的なカリキュラム改善

- ・卒業生就職状況・企業意見を分析し、カリキュラムの定期的な見直し
- ・最新技術や企業ニーズを取り入れた教育を提供

1-2 学生満足度と就職の関係把握

- ・学生アンケートやインタビューで、求める教育内容や企業連携プログラムを把握
- ・カリキュラムやプログラムに反映し、就職に繋がる人材育成を実施

1-3 企業ニーズに合致した人材育成

- ・企業と連携し、必要なスキルや知識を習得できるカリキュラムを開発
- ・企業講師招聘やインターンシップで、学生の実務経験機会を創出

2. 成果の共有と普及

2-1 全国展開に向けた情報発信

- ・事業成果やノウハウを、全国専門学校教育研究会の会員を中心に情報発信
- ・研修会開催や報告書作成・配布で、全国の専門学校における理系転換や企業連携を推進

2-2 産学連携推進体制の構築

- ・中小企業の社内 IT 人材育成を支援
- ・他機関担当者向け研修会や事例集作成・配布で、早期企業連携や入社後研修の重要性を理解促進
- ・産学連携推進人材育成研修で、推進体制を構築

2-3 持続的な人材確保ができる広報ノウハウ構築

- ・高校生が積極的に進学できるような広報ノウハウの構築

3. 期待される成果

- ・地域中小企業の IT 人材不足解消
- ・地域経済活性化
- ・学生就職率向上

- ・専門学校教育力向上
- ・地域における専門学校の存在価値向上

4. まとめ

本事業は、地域企業との連携強化、学生の満足度・理解度把握、企業ニーズ合致した人材育成を行い、地域経済活性化と学生就職促進に貢献する。また、成果やノウハウを共有・普及することで、全国の専門学校における理系転換や企業連携推進に貢献する。

また今後、学科新設の過程や産学連携等の事例を発表する場を作る。文科省事業としての成果発表をオンライン活用により行い、全国専門学校教育研究会の会員の学習の場にも提供していき、さらには支援策としてより具体的な個別コンサルティングを行っていく。

第5章 令和6年度事業実施に伴う成果物

5-1 中小企業・誘致企業人材ニーズアンケート調査 資料13-1

文部科学省委託事業
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」
『地域中小企業と連携によるIT技術者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業』

中小企業・誘致企業ニーズ調査報告書

学校法人 YIC 学院

目次

- 1. 事業の目的..... 1
- 2. アンケート調査の趣旨・目的..... 1
- 3. 中小企業・誘致企業ニーズのアンケート調査..... 1
 - 3-1. 調査方法..... 1
 - 3-2. 調査項目..... 2
 - 3-3. 調査結果..... 3
- 4. 講評..... 77

1. 事業の目的

IT 関連製品・サービスを提供する IT ベンダーやユーザ企業の情報システム部門で活躍する IT 人材が 2030 年には 45 万人不足との試算がある中、働き盛りの若年人口が少ない地方都市では、「人口増減の経済活動活性化に伴い人材不足が深刻化している。産業活性化・人口減少対策として、魅力ある働き先としての企業誘致に力を入れるため、誘致企業にとって大きな魅力となる人材採用・育成のための地域密着型職業教育機関との連携は不可欠である。

本事業では、以上のような地域ニーズに応えるため、中小企業で働くために必要とされる「汎用的かつ多様な能力・スキルを録みとし、広範的な働き方で ICT 技術を駆使して積極的な問題解決に取り組める人材」を育成することを目指す。

2. アンケート調査の趣旨・目的

この調査は、地域中小企業・誘致企業が求める人材像を把握し、工業専門課程のカリキュラム開発に反映するため、地域産業の課題や将来展望を理解し、それに対応した人材育成プログラムを検討することを目的とする。事業現場や研修内容に応じて、求める人材・職能・スキル・社会人基礎力を把握し、事業展開と採用活動・人材の初任地や採用後の OJT の現在の行り方を要素分析することで、人材育成像・訓練目標・カリキュラム開発・評価基準などに反映させることを目指す。

3. 中小企業・誘致企業ニーズのアンケート調査

3-1. 調査方法

- (1) 調査手法
郵便(200件)および Google フォームにてアンケート調査を実施した。
- (2) 調査対象
山口県内の中小企業と山口県へ誘致対象となっている企業を対象とした。

- (3) アンケート実施(内訳)
 対象……… 山口県内の中小企業と山口県へ誘致対象となっている企業
 合計……… 200 企業が母数
 回答数……… 54 件
- (4) 調査日程
 令和 6 年 11 月 11 日～令和 6 年 11 月 25 日
- (5) 回収結果
 有効回答数 54 件(有効回収率 27.0%)

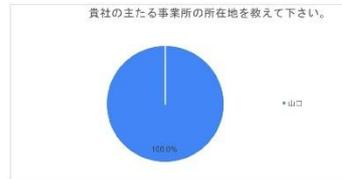
3-2. 調査項目

A 基礎情報(企業情報)	
①所在地	
②業種	
③従業員数	
④事業規模	
⑤海外事業展開状況	
⑥今後の事業展開	
B 基礎情報(ITの活用)	
①ITツールの利用状況	
②ITツールの活用課題	
C 人材ニーズ	
①人員不足状況	
②IT人材の採用状況	
③IT人材の採用基準	
④企業が求める人材	
⑤採用活動においての問題点と期待	
D 人材計画	
①OJTについて	
E 今後について	
①企業説明会への興味	

3-3. 調査結果

【問 1】 基礎情報(企業所在地)

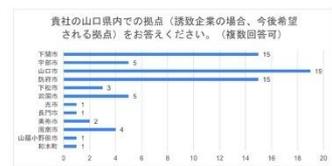
山口県	54
総計	54



本調査のアンケートの目的に記載のとおり、回答があった全 54 件の企業は山口県内の所在企業より 100%の回答を得た。

【問 2】 基礎情報(山口県内の市町村所在地)

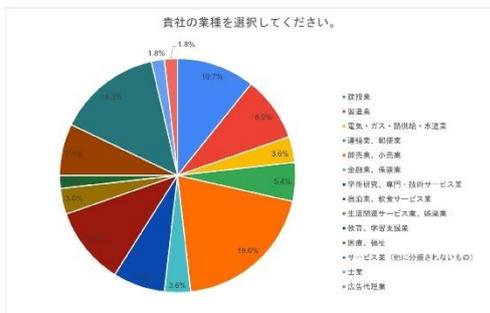
下関市	15
宇部市	5
山口市	19
防府市	15
下松市	3
岩国市	5
光市	1
長門市	1
美祿市	2
阿南市	4
山陽小野田市	1
和木町	1



本調査の回答で多いものから順に、山口市 19 件(33.9%)、下関市・防府市 15 件(26.8%)、宇部市・岩国市 5 件(8.9%)であった。人口が多い下関市・山口市が上位に位置している。

【問 3】 基礎情報(企業業種)

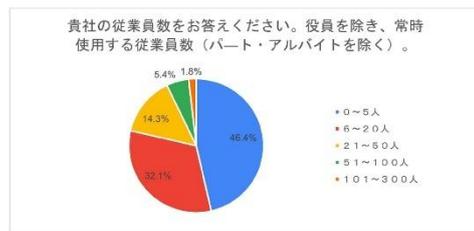
建設業	6
製造業	5
電気・ガス・熱供給・水道業	2
運輸業、郵便業	3
卸売業、小売業	11
金融業、保険業	2
学術研究、専門・技術サービス業	4
宿泊業、飲食サービス業	6
生活関連サービス業、娯楽業	2
教育、学習支援業	1
医療、福祉	4
サービス業(他に分類されないもの)	8
土業	1
広告代理業	1



本調査の回答で多いものから順に、卸売業・小売業 11 件(19.6%)、サービス業(他に分類されないもの) 8 件(14.3%)、建設業 6 件(10.7%)であった。一番多い卸売業・小売業でも全体の二割に満たず、さまざまな業種の企業が回答に協力している。

【問 4】 基礎情報(企業従業員数)

0~5人	26
6~20人	18
21~50人	8
51~100人	3
101~300人	1

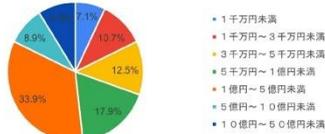


本調査の回答で多いものから順に、0~5人 26 件(46.4%)、6~20人 18 件(32.1%)、21~50人 8 件(14.3%)であった。20 人以下の企業は約 8 割となっており、小人数の企業が大半を占めている。

【問 5】 基礎情報(企業事業規模)

1千万円未満	4
1千万円～3千万円未満	6
3千万円～5千万円未満	7
5千万円～1億円未満	10
1億円～5億円未満	19
5億円～10億円未満	5
10億円～50億円未満	5

売上高(年間)をお答えください。1～6月決算の方は直近の決算、それ以外の方は今期の見込み。

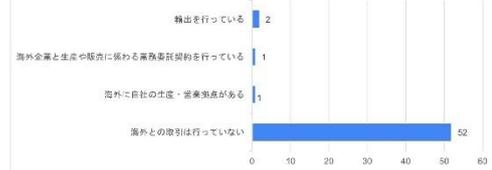


本調査の回答で多いものから順に、1億円～5億円未満 19件(33.9%)、5千万円～1億円未満 10件(17.9%)、3千万円～5千万円未満 7件(12.5%)であった。上位二項目で約半数を占める結果となった。

【問 6】 基礎情報(企業 海外事業展開)

輸出を行っている	2
海外企業と生産や販売に係わる業務委託契約を行っている	1
海外に自社の生産・営業拠点がある	1
海外との取引は行っていない	52

海外との取引状況をお答えください。(複数回答可)

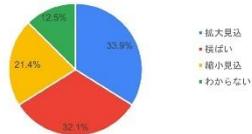


本調査の回答で多いものから順に、海外との取引は行っていない 52件(92.9%)、輸出を行っている 2件(3.6%)、海外企業と生産や販売に係わる業務委託契約を行っている・海外に自社の生産・営業拠点がある1件(1.8%)であった。ほとんどの企業が海外との取引を行っていないことが分かった。

【問 7】 基礎情報(企業 今後の事業展開 1)

拡大見込	19
横ばい	18
縮小見込	12
わからない	7

今後3～5年先の中期展望について、お伺いします。業界の中期展望、貴業界の市場規模の見通しについて、1つご回答ください。

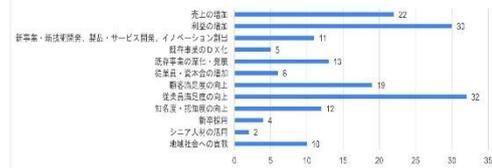


本調査の回答で多いものから順に、拡大見込 19件(33.9%)、横ばい 18件(32.1%)、縮小見込 12件(21.4%)であった。6割を超える企業が現状からの横ばい以上の見通しとなっている。

【問 8】 基礎情報(企業 今後の事業展開 2)

売上の増加	22
利益の増加	30
新事業・新技術開発、製品・サービス開発、イノベーション創出	11
既存事業のDX化	5
既存事業の深化・発展	13
従業員・資本金の増加	6
顧客満足度の向上	19
従業員満足度の向上	32
知名度・認知度の向上	12
新卒採用	4
シニア人材の活用	2
地域社会への貢献	10

貴社の成長の要素：貴社が考える成長の要素について、最も重視するものを3つまでご回答ください。

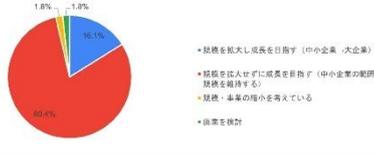


本調査の回答で多いものから順に、従業員満足度の向上 32件(57.1%)、利益の増加 30件(53.6%)、売上げの増加 22件(39.3%)であった。特に従業員満足度の向上と利益の増加は半数以上の企業が重視するものと捉えている。

【問 9】 基礎情報(企業 今後の事業展開 3)

規模を拡大し成長を目指す(中小企業→大企業)	9
規模を拡大せずに成長を目指す(中小企業の範囲で規模を維持する)	45
規模・事業の縮小を考えている	1
産業を検討	1

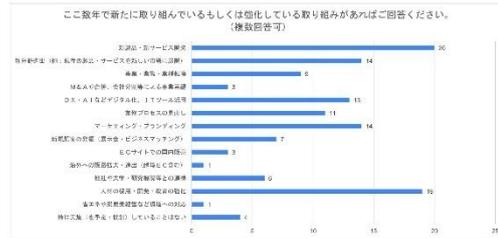
貴社の事業方針、貴社事業の展望について、1つご回答ください。



本調査の回答で多いものから順に、規模を拡大せずに成長を目指す(中小企業の範囲で規模を維持する)45件(80.4%)、規模を拡大し成長を目指す(中小企業→大企業)9件(16.1%)、規模・事業の縮小を考えている・産業を検討1件(1.8%)であった。8割の企業が事業規模の維持を見通している。

【問 10】 基礎情報(企業 今後の事業展開 4)

新製品・新サービス開発	20
新分野進出(例:既存の製品・サービスを新しい市場に展開)	14
事業・業態・業種転換	9
M&Aや合併、会社分割等による事業再編	3
DX・AIなどデジタル化、ITツール活用	13
業務プロセスの見直し	11
マーケティング・ブランディング	14
新規顧客の発掘(展示会・ビジネスマッチング)	7
ECサイトでの国内販売	3
海外への販路拡大・進出(越境EC含む)	1
他社や大学・研究機関等との連携	6
人材の採用・開発・教育の強化	19
省エネや脱炭素経営など環境への対応	1
特に実施(を予定・検討)していることはない	4



本調査の回答で多いものから順に、新製品・新サービス開発20件(35.7%)、人材の採用・開発・教育の強化19件(33.9%)、新分野進出・マーケティング・ブランディング14件(25%)であった。企業としては新製品の開発による利益の増加と、そのための人材育成に力を入れていることが分かる。

【問 11】 基礎情報(企業 今後の事業展開 5)

原文回答
・仕入方法の見直しによる原価の削減と粗利の向上
・同業者との差別化(業務・業務外共に)
・子育て世代の採用
・業務 職場改善
・各社の業務内容の把握
・現在、山口大学の授業にて学生さんと連携させていただいています。
・社内 DX 化のために RFID を導入
・大きな成果では無いが、他業種からの仕事を請け負った。
・給排水管工事からリフォーム工事への展開
・価格改定
・小売業への進出
・新商品の分割払い導入
・オンラインセミナー
・店舗独自の企画(刺繍提案)を立ち上げ、進めている。新規顧客の創出や来店動機のアップ等により良い影響を与えている。
・AIによる製品制作。
・リアルな繋がりを増やすこと
・人材募集(成果)アナログ(口コミ)を強化して紹介制は時間がかかるけれども信頼度は高い
あるけど、社外秘です。
・営業地域・サービス事業の拡大

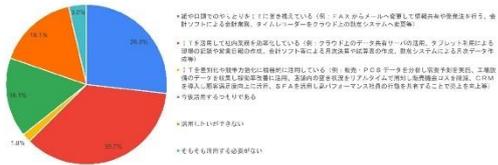
●ここ数年で新たに取組んでいる、もしくは強化している取り組み、成果(売上や収益)につながった取り組みがあれば具体的に回答ください(自由記述)
 ※重複・類似する回答をまとめて、属性ごとに整理した。
 ※原文は極力変えず、そのまま記載した。

- コスト削減・価格戦略**
- 仕入方法の見直しによる原価の削減と粗利の向上 (1)
 - 価格改定 (1)
- 差別化・新規事業開発・市場拡大**
- 同業者との差別化(業務・業務外共に) (1)
 - 給排水管工事からリフォーム工事への展開 (1)
 - 小売業への進出 (1)
 - 営業地域・サービス事業の拡大 (1)
- 新商品・新サービス導入・顧客創造**
- 新商品の分割払い導入 (1)
 - オンラインセミナー (1)
 - 店舗独自の企画(刺繍提案)を立ち上げ、新規顧客創出・来店動機アップ (1)
 - AIによる製品制作。(1)
- 業務改善・DX化・連携**
- 業務 職場改善 (1)
 - 各社の業務内容の把握 (1)
 - 現在、山口大学の授業にて学生さんと連携 (1)
 - 社内 DX 化のために RFID を導入 (1)
- 新規顧客・新分野進出**
- 大きな成果では無いが、他業種からの仕事を請け負った (1)
 - リアルな繋がりを増やすこと (1)
- 人材確保・採用戦略**
- 子育て世代の採用。(1)
 - 人材募集(成果)アナログ(口コミ)強化、紹介制 (1)
- 社外秘**
- あるけど、社外秘です。(1)
- 合計回答数:18件

【問 12】 基礎情報(ITの利活用 1)

紙や口頭でのやりとりをITに置き換えている(例:FAX からメールへ変更して情報共有や受発注を行う、会計ソフトによる会計業務、タイムレコーダーをクラウド上の勤怠システムへ変更等)	15
ITを活用して社内業務を効率化している(例:クラウド上のデータ共有サーバの活用、タブレット利用による現場の記録や営業日報の作成、会計ソフト等による月次決算や試算表の作成、勤怠システムによる月次データ作成等)	20
ITを差別化や競争力強化に積極的に活用している(例:販売・POS データを分析し需要予測を実施、工場設備のデータを収集し稼働率改善に活用、店舗内の空き状況をリアルタイムで把握し販売機会ロスを削減、CRMを導入し顧客満足度向上に活用、SFAを活用し高パフォーマンス社員の行動を共有することで売上を向上等)	1
今後活用するつもりである	9
活用したいができない	9
そもそも活用する必要がない	2

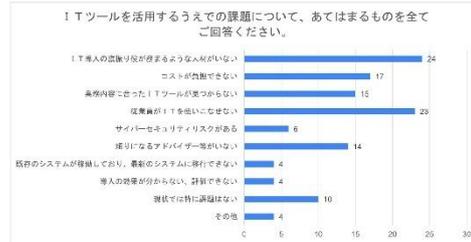
ITツールの活用状況について、自社に最もあてはまるものを1つご回答ください。



本調査の回答で多いものから順に、ITを活用して社内業務を効率化している 20 件(35.7%)、紙や口頭でのやりとりをITに置き換えている 15 件(26.8%)、活用したいができない/今後活用するつもりである 19 件(16.1%)であった。ITツールによる業務の効率化を半数以上の企業が実施している。導入できていない企業も全体の 3 割以上あるが、そのほとんどは活用に対して必要性を感じていることが分かった。

【問 13】 基礎情報(ITの利活用 2)

IT導入の旗振り役が務まるような人材がない	24
コストが負担できない	17
業務内容に合ったITツールが見つからない	15
従業員がITを使いこなせない	23
サイバーセキュリティリスクがある	6
類似になるアドバイザー等がない	14
既存のシステムが稼働しており、最新のシステムに移行できない	4
導入の効果が分からない、評価できない	4
現状では特に課題はない	10
その他	4



本調査の回答で多いものから順に、IT導入の旗振り役が務まるような人材がない 24 件(42.9%)、従業員がITを使いこなせない 23 件(41.1%)、コストが負担できない 17 件(30.4%)であった。企業内の IT ツールに関する専門家不足がうかがえる。

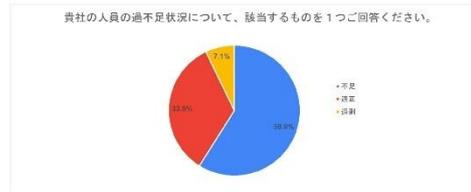
【問 14】 基礎情報(ITの利活用 3)

●ITツールを活用するうえでの課題について、「その他」の方は具体的にご回答ください(自由記述)。

原文回答
・ITツールは有るが社員の理解が乏しく活用出来ない。
・現状の規模では必要ないというところである。未来を見据えて考えると、必要なので上記の回答にしました。
・使いこなす効果に繋げるには担当者の能力や熟練度にかかっている、次の世代への継承も視野に入れる必要がある
・導入のコストと初期設定の不安
・導入する分野の各ツール(無数に市販されているため)の比較評価と、確認に時間がかかる。
既存システムとの連携

【問 15】 人材ニーズ(採用活動 人員不足)

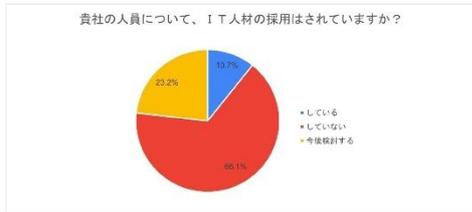
不足	33
適正	19
過剰	4



本調査の回答で多いものから順に、不足 33 件(58.9%)、適正 19 件(33.9%)、過剰 4 件(7.1%)であった。半数以上の企業が人員不足を感じている。

【問16】 人材ニーズ(採用活動 IT人材)

している	6
していない	37
今後検討する	13

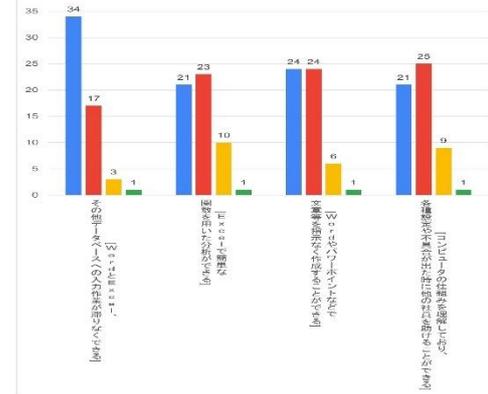


本調査の回答で多いものから順に、していない 37件(66.1%)、今後検討する 13件(23.2%)、している 6件(10.7%)であった。今後検討するという企業を含めてもIT人材採用の実施企業が4割満たないため、半数以上の企業がIT人材採用について検討がされていない。

【問17】 人材ニーズ(採用活動 IT人材採用基準1)

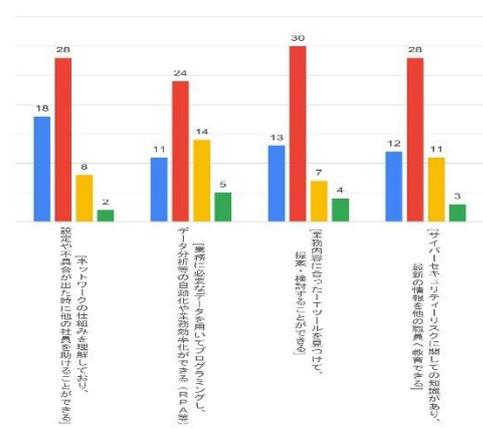
	WordとExcel、その他データベースへの入力作業が滞りなくできる	Excelで簡単な関数を用いた分析ができる	Wordやパワーポイントなどで文章等を指示なく作成することができる	コンピュータの仕組みを理解しており、各種設定や不具合が出た時に他の社員を助けることができる
必須	34	21	24	21
望ましい	17	23	24	25
不必要	3	10	6	9
わからない	1	1	1	1

業種で最も多いIT人材の採用基準を次の4点から選取して下さい。



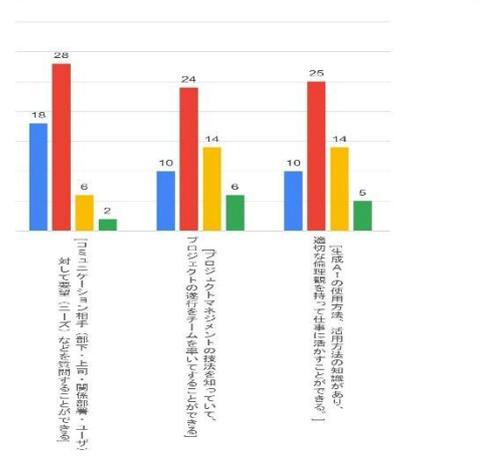
	ネットワークの仕組みを理解しており、設定や不具合が出た時に他の社員を助けることができる	業務に必要なデータを用いてプログラミングし、データ分析等の自動化や業務効率化ができる(RPA等)	業務内容に合ったITツールを見つけ、提案・検討することができる	サイバーセキュリティリスクに関しての知識があり、最新の情報を他の職員へ教育できる
必須	18	11	13	12
望ましい	28	24	30	28
不必要	8	14	7	11
わからない	2	5	4	3

業種で最も多いIT人材の採用基準を次の4点から選取して下さい。



	【コミュニケーション相手(部下・上司・関係部署・ユーザー)に対して要望(ニーズ)などを質問することができる】	【プロジェクトマネジメントの技法を知っていて、プロジェクトの遂行をチームを率いることができる】	【生成AIの使用法、活用方法の知識があり、適切な倫理観を持って仕事に活かすことができる。】
必須	18	10	10
望ましい	28	24	25
不必要	6	14	14
わからない	2	6	5

業種で最も多いIT人材の採用基準を次の4点から選取して下さい。



本調査で必須と回答した項目で一番目に多いのがWordとExcel、その他データベースへの入力作業が滞りなくできる 34 件で、二番目に多いのがWordやパワーポイントなどで文章等を指示なく作成することができる 24 件で、三番目に多いのがExcelで簡単な関数を用いた分析ができる・コンピュータの仕組みを理解しており、各種設定や不具合が出た時に他の社員を助けることができる 21 件であった。

望ましいと回答した項目で一番目に多いのが業務内容に合ったITツールを見つけて、提案・検討することができる 30 件で、二番目に多いのがネットワークの仕組みを理解しており、設定や不具合が出た時に他の社員を助けることができる・サイバーセキュリティリスクに関しての知識があり、最新の情報を他の職員へ教育できる・コミュニケーション相手(部下・上司・関係部署・ユーザー)に対して要望(ニーズ)などを質問することができる 28 であった。

不必要と回答した項目で一番多いのが業務に必要なデータを用いてプログラミングし、データ分析等の自動化や業務効率化ができる(RPA等)・プロジェクトマネジメントの技法を知っていて、プロジェクトの遂行をチームを率いてすることができる・生成AIの使用手法、活用方法の知識があり、適切な倫理観を持って仕事に活かすことができる 14 件であった。

最低限の PC 作業に対し多くの企業が必須項目としており、少し発展した IT に関する知識を必要とした項目も採用基準として望ましいと回答する企業が多かった。どの項目についても望ましいと回答する企業は多かったため、IT に関する関心の高さがうかがえる。

【問 18】 人材ニーズ(採用活動 IT 人材採用基準 2)

●貴社の人員について、IT人材の採用をされている場合、新卒IT人材採用への初任給(高校生、専門学校生、大学生)の目安をご回答ください。(新卒採用がない場合は、「なし」と記載下さい)
※回答項目を整理し合計回答数を表記した。
※原文は極力変えず、そのまま記載した。

1. 高校生:18万円、専門・大学生:20万円
2. 専門:22万円、大卒:25万円
3. 20万円
4. 20万円~40万円
5. 23万円
6. なし(3票)

合計回答数:8 件

【問 19】 人材ニーズ(採用活動 社会人基礎力)

物事に進んで取り組む力がある	34
他人に働きかけ巻き込む力がある	11
目的を設定し確実に行動する力がある	19
現状を分析し目的や課題を明らかにする力がある	13
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力がある	5
新しい価値を生み出す力がある	11
自分の意見をわかりやすく伝える力がある	6
相手の意見を丁寧に聴く力がある	15
意見の違いや相手の立場を理解する力がある	12
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力がある	14
社会のルールや人との約束を守る力がある	24
ストレスの発生源に対応する力がある	4



本調査の回答で多いものから順に、物事に進んで取り組む力がある 34 件(60.7%)、社会のルールや人との約束を守る力がある 24 件(42.9%)、目的を設定し確実に行動する力がある 19 件(33.9%)であった。特別な能力にたけた人材というよりは、仕事に対するひたむきさや勤勉な姿勢を求めている企業が多いことが分かる。

【問 20】 人材ニーズ(採用活動 企業が求める人材)

原文回答
・コミュニケーション能力
・素直な人
・根気
・社内及び社外とのコミュニケーション能力
・外の世界とのコミュニケーション力
・誠実さ
・社交性 コミュニケーション能力
・コミュニケーションを必要と考える人材
・コミュニケーション力
・協調性
・古いものや慣習を否定せず、温故知新のような柔軟性も望ましい
・正直である事。
・誠実で元気であること
・ネットに頼らず、自身の考え方を持っている事
・デザインセンス
・気付き力
・上記以外は特にありません。
・なし
・物事の本質を見抜く力
・うそをつかない
・失敗を他人のせいとしない。特に自分以外の人の失敗についても。
・素直さ
・失敗を恐れず挑戦する意欲のある方

●貴社が採用したいと考える人材の能力で上記以外に特に必要だと思われるものを記載ください。
 ※重複・類似する回答をまとめ、属性ごとに整理した。
 ※原文は極力変えず、そのまま記載した。

コミュニケーション関連

- コミュニケーション能力・力(社内外・外部含む、コミュニケーションを必要と考える人材も含む):(6)

社交性

- 社交性:(1)

誠実・正直・素直系

- 素直さ(「素直な人」「素直さ」より):(2)
- 誠実さ:(1)
- 誠実で元気であること:(1)
- 正直である事:(1)
- うそをつかない:(1)

柔軟性・挑戦意欲・協調性・根気系

- 協調性:(1)
- 古いものや慣習を否定せず柔軟性を発揮:(1)
- 失敗を恐れず挑戦する意欲:(1)
- 根気:(1)

自律的思考・観察力・洞察力・責任感・創造性系

- ネットに頼らず自分の考えを持つ:(1)
- デザインセンス:(1)
- 気付き力:(1)
- 物事の本質を見抜く力:(1)
- 失敗を他人のせいにならない:(1)

その他・該当なし

- 上記以外は特ありません。(1)
- なし:(1)

合計票数:23件

【問 21】 人材ニーズ(採用活動 採用活動の問題点)

原文回答

- 必要とするスキル等の洗いだし
- 採用するタイミングが固まってない
- 資金
- 認知度
- 現在の人材確保については公共機関を使っているが、近年問い合わせが減少している
- 求めている人材の理想が高い
- 人材不足
- 自社の理念を理解してもらい、それを自分なりにそしゃくしてもらえようとする伝え方
- 必要最低限でしか採用できない。
- 採用したのだが、家庭内のゴタゴタが多すぎた事と、なかなか我慢が出来ない人だった。中途採用は家庭環境にも気をつけたいと感じた。
- 経理、総務の仕事の難易度が高いため、次世代の採用と育成が課題 現場作業員の若い人材が必要だが、今育成中の人材が育って来ないと言われ採用が難しい
- 今はパートのみの募集としている
- 人件費
- 専門性を備え、即戦力となる人が見つからない
- 現在は特ありません。
- なし
- 業務量と人数のバランスをとること
- スピード
- 定期的採用ができていない。
- 先ずは応募してほしい。
- 例年10名程度新卒採用をしているが、年によりばらつきがあり、必要数に満たない年がある。魅力発信が足りない。

●貴社の採用活動に関する課題があれば教えて下さい。
 ※重複・類似する回答をまとめ、属性ごとに整理した。原文は極力変えず、そのまま記載した。

人材不足・理想人材確保困難

- 求めている人材の理想が高い (1)
- 人材不足 (1)
- 専門性を備え、即戦力となる人が見つからない (1)

採用条件・スキルセット

- 必要とするスキル等の洗いだし (1)

採用時期・手法・方針

- 採用するタイミングが固まってない (1)
- 定期的採用ができていない。(1)
- 今はパートのみの募集としている (1)
- 必要最低限でしか採用できない。(1)
- 先ずは応募してほしい。(1)

採用コスト・資金面

- 資金 (1)
- 人件費 (1)

知名度・魅力発信

- 認知度 (1)
- 例年10名程度新卒採用をしているが、年によりばらつきがあり、必要数に満たない年がある。魅力発信が足りない? (1)

人材紹介チャネル・公共機関への依存

- 現在の人材確保については公共機関を使っているが、近年問い合わせが減少している (1)

理念理解・伝達方法

- 自社の理念を理解してもらい、それを自分なりにそしゃくしてもらえようとする伝え方 (1)

採用後の定着・質的課題

- 採用したのだが、家庭内のゴタゴタが多すぎた事と、なかなか我慢が出来ない人だった。中途採用は家庭環境にも気をつけたいと感じた。(1)

特定部門の人材確保・育成難

- 経理、総務の仕事の難易度が高いため、次世代の採用と育成が課題 現場作業員の若い人材が必要だが、今育成中の人材が育って来ないと言われ採用が難しい (1)

業務量・スピード要件

- 業務量と人数のバランスをとること (1)
- スピード (1)

該当なし・特になし

- 現在は特ありません。(1)
- なし (1)

合計回答数:21件

【問 22】人材ニーズ(採用活動 期待すること)

原文回答

- 特になし
- 学生が有する資格やスキルについて知りたい
- 業務に直結するスキルを身につけるのはもちろんですが、対人スキルなど人間力に対しても関わって欲しい
- 中小零細企業はとにかく余裕がない。本音は新卒であっても即戦力となる人材が欲しい。そこまで行かないまでも、営業や事務ができれば DX に対するスキルなどの以前に、ビジネスの基本(敬語、ビジネスマナー、一般常識、仕事に対する姿勢、など)は最低限として身に付けさせておいて欲しい。
- 学生のコミュニケーション能力の向上
- 会社情報の閲覧
- 基本的技術の習得
- その次代での時流に対しての意識や感覚を仕事に転用できる発想力を養っていただけたら
- 説明会の実施やインターンの給付。
- やる気を持って就職して欲しい。
- 地元にもいい会社(中小企業)が沢山あることを伝えてもらいたい
- 学生の段階からインターンシップで体験して欲しい。
- 現状はありません。
- なし
- 即戦力
- 学生の時に、社会経験(アルバイトなど)を学業に支障がない程度で働きかけてほしい
- 特になし

●貴社の採用活動に関して、専門学校に期待することはありますか？
 ※重複・類似する回答をまとめ、属性ごとに整理した。
 ※原文は極力変えず、そのまま記載した。

特になし系

- 特になし
- なし
- 現状はありません。
- 特になし。

スキル・養育の習得・改善要望

- 学生が有する資格やスキルについて知りたい (1)
- 業務に直結するスキルを身につけるのはもちろんですが、対人スキルなど人間力に対しても関わって欲しい (1)
- 中小零細企業とはにかく余裕がない。本音は新卒であっても即戦力となる人材が欲しい。そこまで行かないまでも、営業や事務ができるとか DX に対するスキルなどの以前に、ビジネスの基本(敬語、ビジネスマナー、一般常識、仕事に対する姿勢、など)は最低限として身に付けさせておいて欲しい。(1)
- 学生のコミュニケーション能力の向上 (1)
- 基本的技術の習得 (1)
- 即戦力 (1)
- 学生の時に、社会経験(アルバイトなど)を学業に支障がない程度で働きかけてほしい (1)
- やる気を持って就職して欲しい。(1)
- その次代の時流に対しての意識や感覚を仕事に転用できる発想力を養っていただけたら (1)

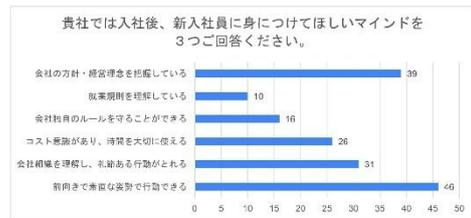
情報提供・機会創出

- 会社情報の開示 (1)
- 説明会の実施やインターンの輪旋。(1)
- 地元にもいい会社(中小企業)が沢山あることを伝えてもらいたい (1)
- 学生の段階からインターンシップで体験して欲しい。(1)

合計回答数:17件

【問 23】 人材計画(人材育成 OJT1)

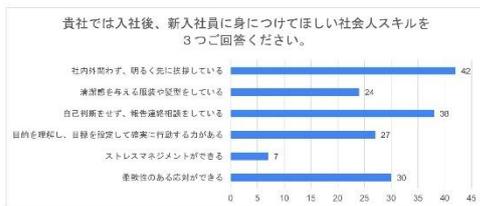
会社の方針・経営理念を把握している	39
就業規則を理解している	10
会社独自のルールを守ることができる	16
コスト意識があり、時間を大切に使える	26
会社組織を理解し、礼節ある行動がとれる	31
前向きで素直な姿勢で行動できる	46



本調査の回答で多いものから順に、前向きで素直な姿勢で行動できる 46 件(82.1%)、会社の方針・経営理念を把握している 39 件(69.6%)、会社組織を理解し、礼節ある行動がとれる 31 件(55.4%)であった。上位三つの項目はどれも半数以上の企業が必要と感じていることが分かる。

【問 24】 人材計画(人材育成 OJT2)

社内外問わず、明るく先に挨拶している	42
清潔感を与える服装や髪型をしている	24
自己判断をせず、報告連絡相談をしている	38
目的を理解し、目標を設定して確実に行動する力がある	27
ストレスマネジメントができる	7
柔軟性のある対応ができる	30



本調査の回答で多いものから順に、社内外問わず、明るく先に挨拶している 42 件(75%)、自己判断をせず、報告連絡相談をしている 38 件(67.9%)、柔軟性のある対応ができる 30 件(53.6%)であった。新入社員に身につけてほしいマインドと同様、上位三つのどの項目についても半数以上の企業が必要性を感じている。

【問 25】 人材計画(人材育成 OJT3)

原文回答	<ul style="list-style-type: none"> 失敗を恐れず主体的に行動できる コミュニケーション能力 挨拶、礼儀、世の中のルール 挨拶、報連相、目標設定 SNS 運用 動画編集 専門知識 システムへの入力(パソコン、スマホからでも) 自分の行っている仕事の意味を常に考える力 その仕事かどれだけ社会で役立ち必要とされているか考える力 1. 理念・方針の理解と実践 2. コミュニケーションスキル 3. 基本的介護技術 適切な会話が出来ること。 明るく元気で、誠実にコスト意識を持って、この道のプロであってほしい 接客対応術 自主的行動 サボらない 綺麗で清潔で見た目が良い SNS 発信と動画編集、趣味のマーケティング調査 独自のスキルはありません。 法律知識 税金に関する知識 資格取得 自己研鑽 スピード コミュニティの創出 営業作法、あいさつ、普通車免許 社内で教えてもらえないことを自ら学ぶ姿勢と能力 挨拶 親切丁寧 安全運転 ありません 傾聴 共感 自己覚知
------	---

●貴社独自に新入社員に身につけてほしいスキルを3つご回答ください。
 ※重複・類似する回答をまとめ、属性ごとに整理した。
 ※原文は極力変えず、そのまま記載した。

ビジネスマナー・基本的素養・コミュニケーション等

- 失敗を恐れない 主体的に行動できる コミュニケーション能力 (1)
- 挨拶、礼儀、世の中のルール (1)
- 挨拶、報道相、目標設定 (1)
- 1.理念・方針の理解と実践 2.コミュニケーションスキル 3.基本的介護技術 (1)
- 適切な会話が出来ること。(1)
- 明るく元気で、誠実にコスト意識を持って、この道のプロであってほしい (1)
- 接客対応術 自主的行動 サボらない (1)
- 自己研鑽 スピード コミュニティの創造 (1)
- 営業作法、あいさつ、普通車免許 (1)
- 社内で教えてもらえないことを自ら学ぶ姿勢と能力 (1)
- 挨拶 親切丁寧 安全運転 (1)
- 傾聴 共感 自己覚知 (1)

デジタルスキル・専門知識・思考力

- SNS 運用 動画編集 (1)
- 専門知識 (1)
- システムへの入力(パソコン、スマホからでも)、自分の行っている仕事の意味を常に考える力、その仕事でどれだけ社会で役立ち必要とされているか考える力 (1)
- 綺麗な清潔で見た目が良い SNS 発信と動画編集 趣味のマーケティング調査 (1)
- 法律知識 税金に関する知識 資格取得 (1)

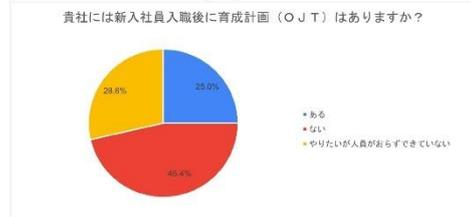
なし

- 独自のスキルはありません。(1)
- ありません(1)

合計回答数:19 件

【問 26】 人材計画(人材育成 OJT4)

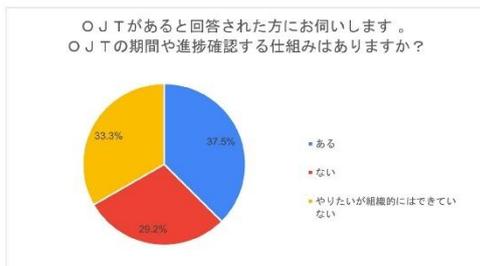
ある	14
ない	26
やりたいが人員がおらずできていない	16



本調査の回答で多いものから順に、ない 26 件(46.4%)、やりたいが人員がおらずできていない 16 件(28.6%)、ある 14 件(25%)であった。約 7 割の企業が OJT が実施できていないことが分かる。

【問 27】 人材計画(人材育成 OJT5)

ある	9
ない	7
やりたいが組織的にはできていない	8



本調査の回答で多いものから順に、ある 9 件(37.5%)、やりたいが組織的にはできていない 8 件(33.3%)、ない 7 件(29.2%)であった。OJT 実施による適切な振り返りまでが実施できていない企業が半数以上を占めている。

【問 28】 人材計画(人材育成 その他)

原文回答	<ul style="list-style-type: none"> 個人事業主なので、現在はそこまで人材育成に時間を割くことは出来ない 仕組みの作成 育成カリキュラムの作成が充分でない 上記で聞かれて改めて自社の OJT が形骸化していることに気付いたこと 介護保険上、余剰に人員を採用できない。 育成には時間がかかるが、その期間が短縮できるしくみがあるといい 雇用できるレベルの人員が不足している 特ありません。 場当たり的になっている 仕事以外の育成 自社マニュアルが必要 あまり過保護にはしないことくらいかな。 チューターやジョブローテーション制度などの導入をしたいがそこまで手が回っていない
------	---

●人材育成に対してその他課題があればご回答ください。
 ※重複・類似する回答をまとめ、属性ごとに整理した。
 ※原文は極力変えず、そのまま記載しています。

人材育成の時間・リソース不足系

- 個人事業主なので、現在はそこまで人材育成に時間を割くことは出来ない (1)
- 育成には時間がかかるが、その期間が短縮できるしくみがあるといい (1)
- チューターやジョブローテーション制度などの導入をしたいがそこまで手が回っていない (1)

仕組み・制度整備不足系

- 仕組みの作成 (1)
- 育成カリキュラムの作成が不十分でない (1)
- 上記で聞かれて改めて自社の OJT が形骸化していることに気付いたこと (1)
- 増当たりになっている (1)
- 自社マニュアルが必要 (1)
- あまり過保護にはしないことくらいかな。 (1)

人員不足・雇用制約系

- 介護保険上、余剰に人員を採用できない。 (1)
- 雇用できるレベルの人員が不足している (1)

その他

- 仕事以外の育成 (1)

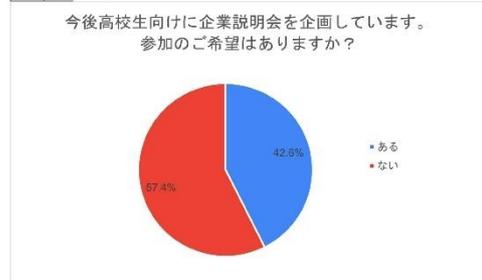
なし系

- 特にありません。 (1)

合計回答数:13 件

【問 29】 今後について(企業説明会への興味)

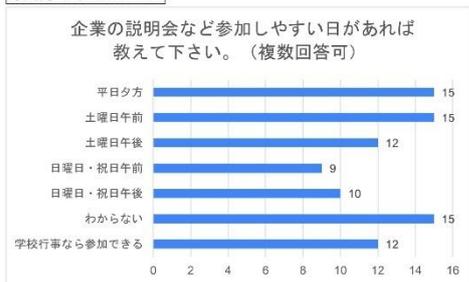
ある	23
ない	31



本調査の回答で多いものから順に、ない 31 件(57.4%)、ある 23 件(42.6%)であった。高校卒業生の採用に関心を示す企業が少ない。

【問 30】 今後について(企業説明会の開催日アンケート)

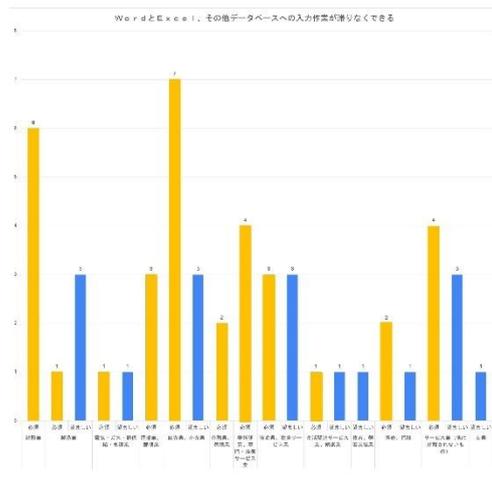
平日夕方	15
土曜日午前	15
土曜日午後	12
日曜日・祝日午前	9
日曜日・祝日午後	10
わからない	15
学校行事なら参加できる	12



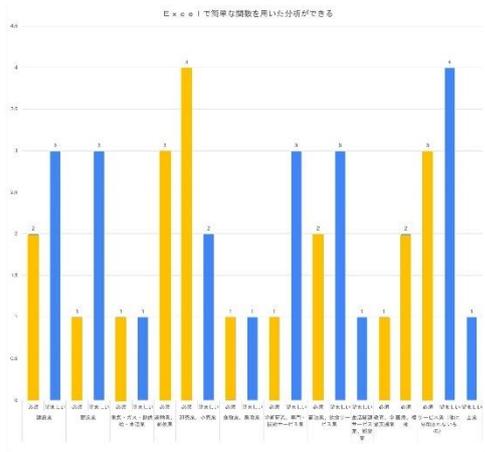
本調査の回答で多いものは、平日夕方・土曜日午前・わからない 15 件(31.3%)であった。企業の稼働日に合わせた開催に参加のしやすさを感じる企業が多い。
 以下、調査目的に伴うクロス集計結果・考察を記載する。

【クロス集計1】 業種 × 求めるスキル・能力

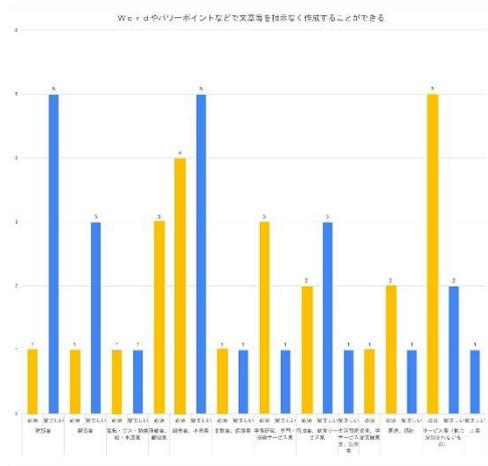
●業種ごとに特に求められるスキルや能力を比較し、業界特有のニーズを明確化する。



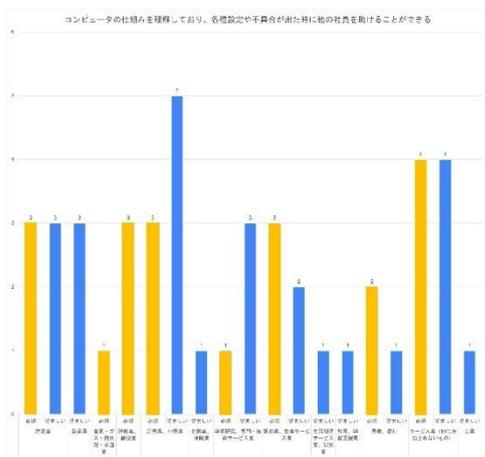
「Word と Excel など、その他データベースへの入力作業」について、卸売業では「必須」が7件で最も多く、基礎的な IT スキルの重要性が示されている。建設業も 6 件で最多となり、基本スキルとしての期待が伺える。



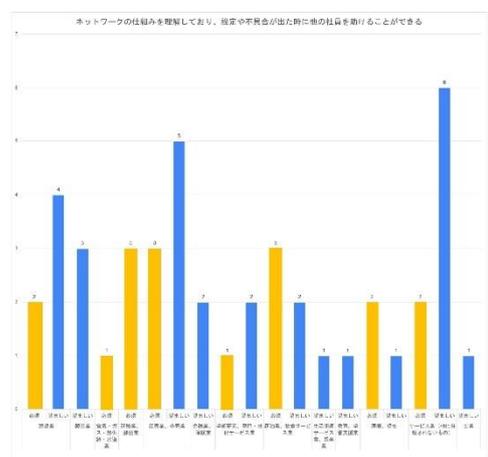
「Excelで簡単な関数を用いた分析ができる」では、卸売業・サービス業(その他)で「望ましい」がそれぞれ4件と最も多い結果となっている。他の業種においても、基本的な分析スキルはこれらの業界で特に重視されていることがわかる。



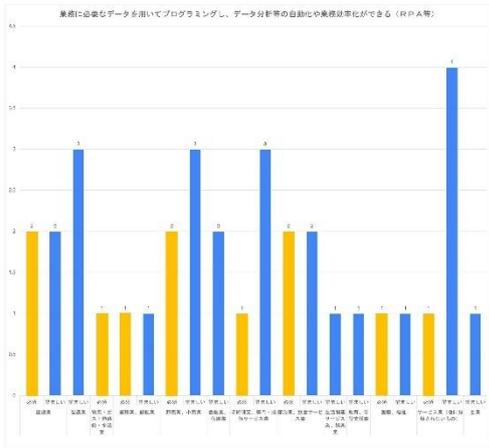
「WordやPowerPointなどで文書等を指示なく作成することができる」では、建設業、卸売業、小売業、サービス業(その他)で「望ましい」がそれぞれ5件と最多である。



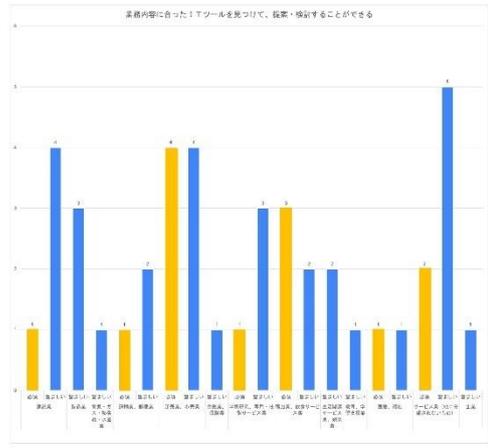
「コンピュータの仕組みを理解しており、各種設定や不具合が出た時に他の社員を助けることができる」では、製造業で「望ましい」が5件、サービス業(その他)で「望ましい」が4件と高い件数を示している。この結果から、製造業やサービス業では、基本的なコンピュータスキルと問題解決能力が特に重視されていることがわかる。



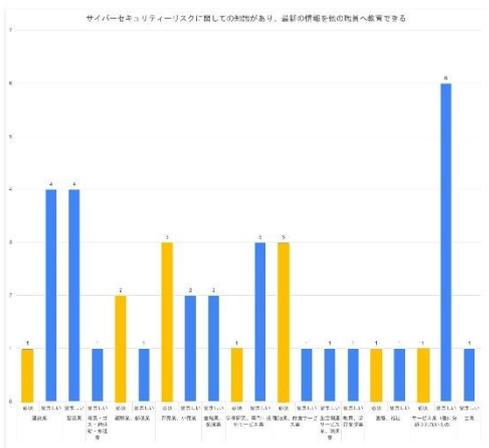
「ネットワークの仕組みを理解しており、設定や不具合が出た時に他の社員を助けることができる」では、製造業で「望ましい」が5件、サービス業(その他)で「望ましい」が6件と多く挙がっている。この結果から、ネットワーク関連の知識やサポート能力が幅広い業種で高く評価されていることがわかる。



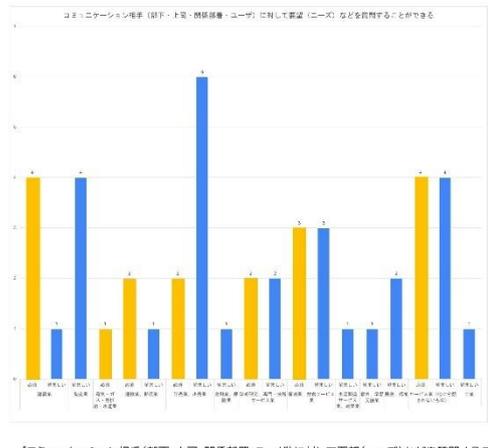
「業務に必要なデータを用いてプログラミングし、データ分析等の自動化や業務効率化ができる (RPA 等)」では、製造業で「望ましい」が 3 件、サービス業(その他)で「望ましい」が 4 件と多く挙がっている。この結果は、特に業務効率化や自動化に対するニーズが高いことを示している。



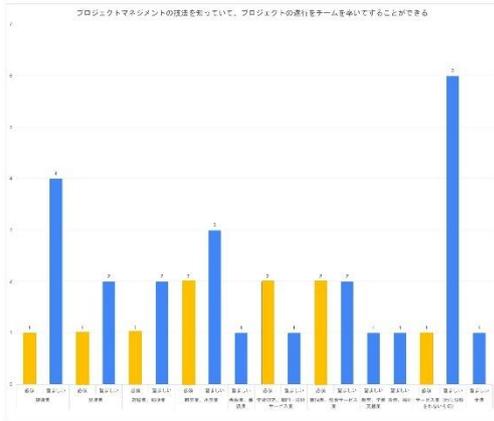
「業務内容に合った IT ツールを見つけて、提案・検討することができる」では、製造業と建設業で「望ましい」が各 4 件、サービス業(その他)で「望ましい」が 5 件と最も多く挙がっている。この結果は、業務効率化を目指す多様な業種で IT ツールの活用能力が求められていることを示している。



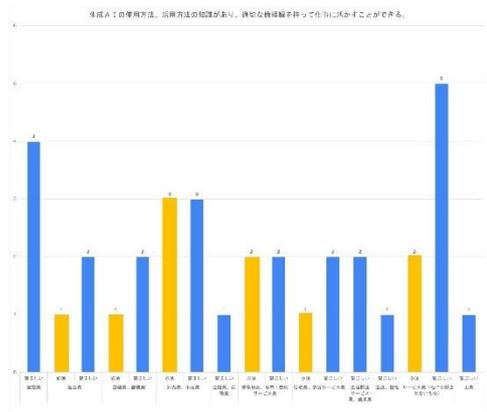
「サイバーセキュリティリスクに関する知識があり、最新の情報を他の職員へ教育できる」では、製造業と建設業で「望ましい」が各 4 件、サービス業(その他)で「望ましい」が 6 件と最多である。この結果は、特にサービス業を含む多くの業種で、サイバーセキュリティ教育の必要性が高まっていることを示している。



「コミュニケーション相手(部下・上司・関係部署・ユーザー)に対して要望(ニーズ)などを質問することができる」では、製造業と建設業で「望ましい」が各 4 件、サービス業(その他)でも「望ましい」が 4 件と高い結果である。これにより、多くの業種で、業務における円滑なコミュニケーション能力が重視されていることが明らかである。



「プロジェクトマネジメントの技法を知っていて、プロジェクトの遂行をチームを率いできる」では、サービス業(その他)が「望ましい」で6件と最も高く、建設業では「望ましい」が4件、小売業が3件で続いている。これにより、幅広い業種でプロジェクト遂行能力を持つ人材への需要が高いことが示されている。



「生成 AI の使用方法、活用方法の知識があり、適切な倫理観を持って仕事に活かすことができる」では、サービス業(その他)が「望ましい」で5件と最も多い。次いで建設業が4件、小売業が3件となっている。多くの業種で生成 AI の活用と倫理観を備えた人材の需要が見られる。

【クロス集計】 業種 × 求めるスキル・能力の考察①

このクロス集計結果から、業種ごとに求められるスキルに明確な傾向が見られた。特に、AI や IT を活用した即戦力を求める業界が多く、専門学校で理系転換がこれらのニーズを満たすために不可欠であることが示唆される。この分析は、専門学校が地域の産業ニーズに応じた教育カリキュラムを設計する際の重要な指針となる。以下、業種ごとに「求められるスキル・能力」の考察をする。

- ・建設業では、基本的な IT スキル(Word や Excel など)に加え、ネットワークやサイバーセキュリティの知識が重要視されている。これにより、建設現場での効率化やトラブル対応が期待されている。
- ・製造業では、「データ分析」や「プログラミングスキル」のニーズが高く、自動化技術(RPA)や IoT 活用が業務改善の要である。特に業務効率化や生産管理に直結するスキルが重視されている。
- ・情報通信業では、専門的な IT 知識(ネットワーク管理やプログラミング)に加え、プロジェクト管理能力が求められる。AI ツールの提案力やクラウドスキルも必要とされ、技術進化に対応する力が期待されている。
- ・小売業やサービス業では、データ管理や分析スキル(特に Excel)へのニーズが高く、マーケティングや顧客管理の効率化が目的である。データを活用し、顧客ニーズに応じた施策を立案する能力が求められている。
- ・金融業では、情報セキュリティスキルが非常に重視されている。さらに、データ分析能力や AI 活用によるリスク管理能力も重要視されており、ビジネス判断を支える技術力が必要とされている。
- ・教育・研究分野では、IT 基礎知識の普及や活用能力が求められている。特に、AI やデジタルツールを活用し、教育の質を向上させるスキルに期待が寄せられている。

分野別には上記のような結果となった。全体的には下記の考察ができた。

- ・生成 AI の活用知識に関するスキルのニーズ
全体的に「望ましい」と回答した企業が多く、特に卸売業やサービス業からのニーズが目立つ。これにより、生成 AI に関する基礎的なリテラシーや倫理観を備えた人材の育成が求められている。また、製造業などの従来型の産業においても、AI 活用を視野に入れた人材確保の意識が広がっている。
- ・採用したい人材の能力
「目標に向けて主体的に行動できる」能力が最も多く選ばれ、特に宿泊業・飲食サービス業で高い支持を得ている。これは、変化の激しい業界で即戦力として期待される傾向を示している。また、「他者の意見を的確に汲み取り、自分の意見を分かりやすく伝える」能力も広く求められており、コミュニケーションスキルの重要性が確認されている。

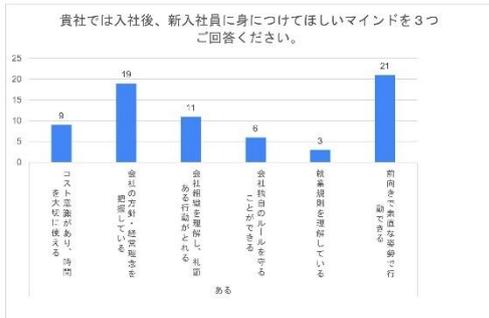
【クロス集計】 業種 × 求めるスキル・能力の考察②

今回の調査により、業種ごとに異なる IT 人材のニーズが明確化された。製造業では「プログラミング」や「データ分析」スキルが求められる一方、サービス業では「生成 AI の活用知識」や「コミュニケーション能力」が重視されている。また、全体的に「目標に向けて行動できる」主体性や柔軟な対応力が重要視されている点も特徴的である。専門学校における理系転換の必要性を裏付ける結果であり、カリキュラムの再編や産学連携の推進が急務であることが示唆される。今後、これらのデータをもとに、地域産業と連携した教育モデルの構築を進めることが期待される。

【クロス集計2】 新卒採用活動(有無)×求める社会人基礎力

●新卒を採用する企業が特に重視する基礎力や姿勢を明らかにする。

「今後高校生向けに企業説明会を企画しています。参加ご希望はありますか?」で「はい」と答えた企業と「貴社では入社後、新入社員に身につけてほしいマインドを3つご回答ください」のクロス集計を行った。



「貴社では入社後、新入社員に身につけてほしいマインドを3つご回答ください」では、「前向きで素直な姿勢で行動できる」が21件と最も多く選ばれている。次いで「会社の方針・経営理念を把握している」が19件となっており、前向きな姿勢と会社の理念の理解が重視されている。

【クロス集計2】 新卒採用活動(有無)×求める社会人基礎力の考察①

・前向きな姿勢と行動力:
新卒採用を行う企業が最も重視するマインドは「前向きで素直な姿勢で行動できる」(21件)である。これは、柔軟に環境に適応し、積極的に業務に取り組む姿勢が新入社員に期待されていることを示している。

・会社の方針・経営理念の理解:
次に多く選ばれたのは「会社の方針・経営理念を把握している」(19件)である。企業は、自社の方向性を理解し、その理念に沿った行動を取ることができる人材を求めている。

・組織理解と礼節:
「会社組織を理解し、礼節ある行動が取れる」(11件)も重視されている。新卒社員が職場のルールを理解し、円滑な人間関係を構築できることが期待されている。

・その他:
「コスト意識があり、時間を大切に使える」(9件)や「会社独自のルールを守ることができる」(6件)は補足的な要素であり、特定の業務環境における重要性を反映している。

【クロス集計2】 新卒採用活動(有無)×求める社会人基礎力の考察②

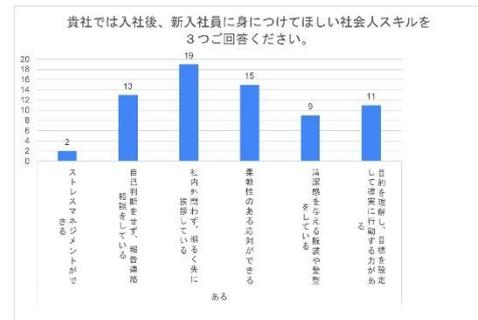
新卒採用を行う企業は、スキルや専門性以上に、仕事への姿勢や会社の価値観への適応力を重要視している。特に、「前向きな行動力」と「会社理念の理解」は、全業種を通じて一貫して高い重要性を持つ項目である。このような結果は、企業が新入社員に即戦力以上の「柔軟性」と「社会人としての基本的な姿勢」を求めていることを示唆している。

また、この分析は高校生向けに企業説明会の企画において、説明内容の重点を定める際に有用である。特に、企業が求める社会人基礎力に焦点を当てた説明を行うことで、参加企業と学生のニーズのマッチングが向上すると考えられる。

【クロス集計3】 専門学校に期待する内容×求めるスキルや能力

●教育機関に期待される役割と具体的な能力の結びつきを把握する。

「貴社が採用したいと考える人材の能力を3つご回答ください」の結果と「貴社の採用活動に関して、専門学校に期待すること(社会人スキル)はありますか?」のクロス集計を行った。



「貴社では入社後、新入社員に身につけてほしい社会人スキルを3つご回答ください」では、「社内外問わず、明るく先へ挨拶している」が19件と最も多く選ばれている。次いで「柔軟性のある対応ができる」が15件であり、挨拶や柔軟な対応が重視されている。

【クロス集計3】 専門学校に期待する内容×求めるスキルや能力の考察①

・基礎的な社会人スキルの重要性:
専門学校に期待する内容と求めるスキルの結果から、「社内外問わず、明るく先へ挨拶をしている」(19件)や「柔軟性のある対応ができる」(15件)が特に高い支持を得ている。このことは、社会人としての基本的なマナーやコミュニケーション能力が企業から強く期待されていることを示している。

・専門学校に対する具体的な期待:
「自己判断せず、報告・連絡・相談をしている」(13件)や「目的を理解し、目標を設定して確実に行動する力がある」(11件)といったスキルも求められている。これらの結果から、専門学校に対して、学生が実社会において実践的に役立つ能力を養成する教育の実施が求められていることが分かる。

・就職活動への支援:
自由記述の分析から、学校側への要望として「企業情報の積極的な提供」「インターンシップの強化」「実社会での経験機会の提供」などが挙げられている。これは、学生が職場での役割をイメージしやすくするための支援や、就職活動の橋渡しとしての役割を学校に期待していることを示唆している。

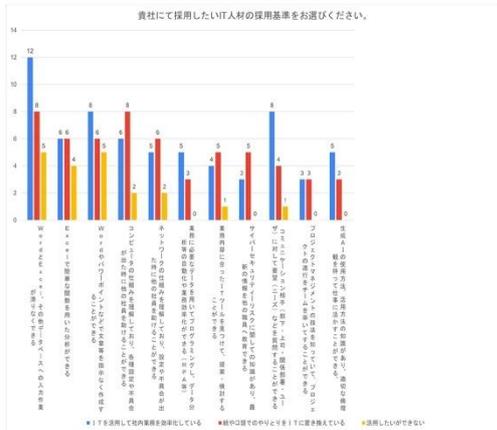
【クロス集計3】 専門学校に期待する内容×求めるスキルや能力の考察②

このクロス集計から、企業が求めるスキルは「社会人としての基礎的な行動力」と「職場環境への適応能力」に重点が置かれていることが明確になった。専門学校は、これらのスキルを養成するために、学生の基礎力育成プログラムを充実させる必要がある。また、就職活動における企業との連携を強化し、学生が実際の職場環境を理解するためのインターンシップや実務経験の機会を増やすことが期待される。

この結果は、専門学校が企業ニーズに基づいた教育改革を行い、地域産業と連携して学生の就職率と実務適応力を高めるための重要な指針となる。

【クロス集計4】 IT ツール活用状況×採用したい IT 人材の基準

●現在の IT ツール活用状況が、企業が採用したいと考える IT 人材の基準にどのような影響を及ぼしているかを明らかにする。



「IT ツール活用状況」と「企業が採用したい人材の採用基準」をクロス集計した結果、Word や Excel など基礎的なスキルについては多くの企業が採用基準として選択している。一方で、高度なスキル(例えばプログラミングやAIの活用方法)に関しては、IT ツールを積極的に活用している企業が一定数選択する傾向が見られる。しかし、「採用したいができない」と回答する企業はほとんど存在せず、多くの企業は必要な基礎スキルを重視し、採用可能な範囲に基準を設定していることが示唆される。

【クロス集計4】 IT ツール活用状況×採用したい IT 人材の基準の考察①

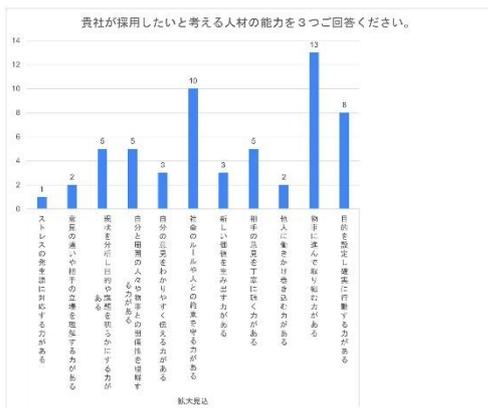
「IT ツール活用状況」と「企業が採用したい IT 人材の採用基準」のクロス集計結果から、企業が求める人材像の傾向と IT ツールの活用度との関連が浮かび上がった。Word や Excel といった基礎的な IT スキルは、どの企業も幅広く採用基準として挙げており、これらのスキルは業務遂行上の最低限の要件として認識されていることがわかる。IT ツールを活用して社内業務を効率化している企業ほど、プログラミングやデータ分析、サイバーセキュリティといった高度なスキルも重要視する傾向が強い。しかし、「採用したいができない」と回答する企業は少なく、企業側の採用基準は現実的に達成可能な範囲に留められていると考えられる。一方で、IT ツール活用が進んでいない企業では、基礎スキルのみが重視される傾向があり、IT 業務の高度化には至っていない可能性が示唆される。これらの結果から、企業がより高度な IT 人材を採用し、育成するためには、社内の IT 環境や業務のデジタル化をさらに推進することが必要であり、それに伴う採用基準の高度化が求められることが考察される。

【クロス集計4】 IT ツール活用状況×採用したい IT 人材の基準の考察②

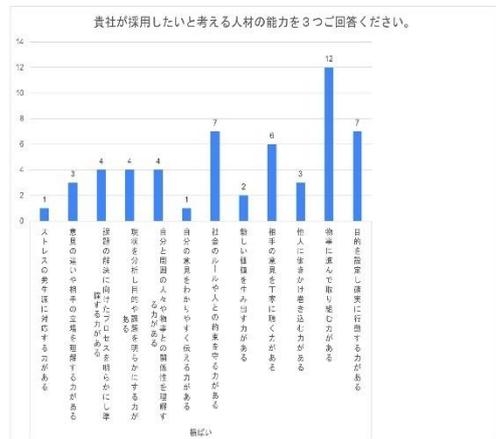
「IT ツール活用状況」と「企業が採用したい IT 人材の採用基準」のクロス集計から、企業の現状や将来への期待が反映されていると考えられる。基礎的なスキルである Word や Excel の活用能力は、多くの企業が「業務の効率化」として即戦力を求めている表れであり、現場での実務を支える重要な能力と認識されている。一方で、プログラミングやデータ分析、サイバーセキュリティなど専門的で高度なスキルについては、IT ツールを活用している企業ほど重視しているが、ツール活用が進んでいない企業では採用基準としては低い傾向が見られる。これは、企業の IT 化の進捗度合いが採用基準に影響を及ぼしていることを示唆している。また、「採用したいができない」という回答が少ない点に注目すると、企業は現実的な人材市場の中で採用活動を行っており、実現可能なスキル範囲に焦点を当てていると考えられる。しかし裏を返せば、企業側の期待が十分に高まっていない可能性もあり、将来的なデジタル人材の確保に向けて、より高度なスキルや専門知識を持つ人材への需要が潜在的に存在することも考えられる。このことから、企業が次のステップとして求める IT スキルを高めるためには、業務内容の IT 化と並行して、採用基準の再評価や明確化が重要であると考えられる。

【クロス集計5】 業界の中期展望×専門学校に期待する内容

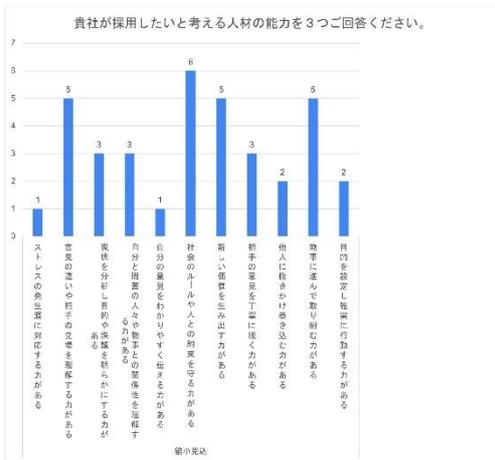
●業界の中期展望が専門学校に期待される教育内容や育成方針にどのような影響を与えているかを明らかにする。



業界の中期展望が「拡大見込」の企業が採用したい人材には「物事に進んで取り組む力」(13 票)や「目的を設定し確実に行動する力」(8 票)といった主体性や実行力が最も求められていることがわかる。また、「社会のルールや人との約束を守る力」(10 票)も重視されており、協調性や責任感が業務遂行の基盤として期待されている。これらの結果から、専門学校には技術教育だけでなく、主体性や計画性、責任感を育む教育が求められており、業界の課題解決に対応できる人材育成が期待されている。



業界の中期展望が「横ばい」の企業が求める人材には、「物事に進んで取り組む力」(12 票)が最も重視され、主体性や積極性が強く期待されていることがわかる。次いで「社会のルールや人との約束を守る力」(7 票)や「目的を設定し確実に行動する力」(7 票)が選ばれ、責任感や計画的な行動力も重要視されている。また、「課題の解決に向けた準備力」や「現状分析力」も一定の評価を受けており、専門学校には技術力の育成に加え、問題解決力や主体性を養う教育が求められている。



業界の中期展望が「縮小見込み」の企業が求める人材の能力として、「社会的ルールや人との約束を守る力」(6票)や「新しい価値を生み出す力」(5票)が重視されていることがわかる。また、「意見の違いや相手の立場を理解する力」や「物事に進んで取り組む力」(各5票)も高く評価されており、協調性や主体性が求められている。一方、「目的を設定し確実に行動する力」(2票)や「他人に働きかけ巻き込む力」(2票)は比較的少なく、専門学校には責任感や協調性に加え、創造力を育む教育が期待されている。

【クロス集計5】 業界の中期展望×専門学校に期待する内容の考察①

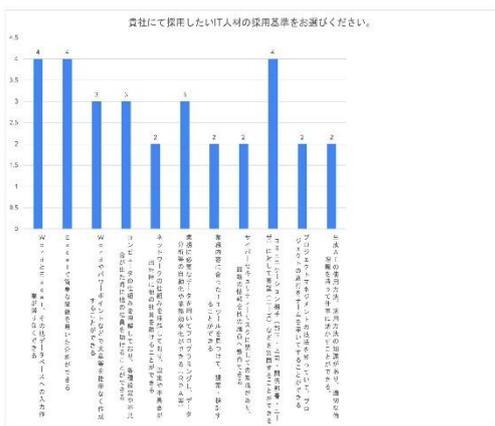
・業界の成長度合いによる人材要件の違い
 クロス集計の結果から、成長業界では「社会のルールや約束を守る力」や「物事に積極的に取り組む力」が重視されている傾向がある。これは、新しいビジネスチャンスへの挑戦や組織の拡大が求められるため、主体性や責任感を備えた人材が必要とされていると考えられる。一方、縮小傾向にある業界では「協調性」や「問題解決力」にも重点が置かれており、組織内での安定した業務遂行や現状打破のための調整力を重視していると推測できる。成長度合いに応じた人材育成が専門学校には求められる。

【クロス集計5】 業界の中期展望×専門学校に期待する内容の考察②

・専門教育へのバランスの重要性
 票が分散している縮小見込みの企業は、多様な能力を必要としており、特定分野に依存しない幅広いスキルを持つ人材の採用が重要とされている。一方、成長企業では積極性や実行力を中心とした基礎力が重視されていることから、専門学校は「即戦力」と「多様な力」の両方をバランスよく育成するカリキュラムを設ける必要がある。業界ごとの展望に応じ、主体性や協調性、問題解決力などを段階的に学べる教育が重要である。

【クロス集計6】 新卒 IT 人材の初任給目安×求める IT 人材の能力

●新卒 IT 人材の初任給目安と求める IT 人材の能力との関連性を明らかにする。



新卒 IT 人材の初任給目安が高い企業ほど、コミュニケーション能力や Word-Excel などの基本的なスキルを求める傾向が見られる。また、採用基準として「サイバーセキュリティ」や「プログラミング」「業務の自動化」などの専門スキルに票が集まる一方で、初任給が低い企業では基本的なスキルの重視が目立つ。このことから、高い初任給を提示する企業は即戦力となる専門スキルを求め、給与水準が低い企業は基礎能力を重視する傾向があると考えられる。

【クロス集計6】 新卒 IT 人材の初任給目安×求める IT 人材の能力の考察①

・初任給と求めるスキルの高度化
 クロス集計の結果から、初任給が高い企業ほど「プログラミング」「サイバーセキュリティ」など高度な IT スキルや「コミュニケーション力」を重視していることがわかる。これらの企業は即戦力となる専門スキルと、チーム内で円滑に業務を進められる能力を併せ持つ人材を求めていると考えられる。一方で、初任給が低い企業では「Word-Excel の活用」など基本的な IT スキルに重点が置かれており、業務遂行に必要な最低限の能力を持つ人材が求められている傾向が見られる。

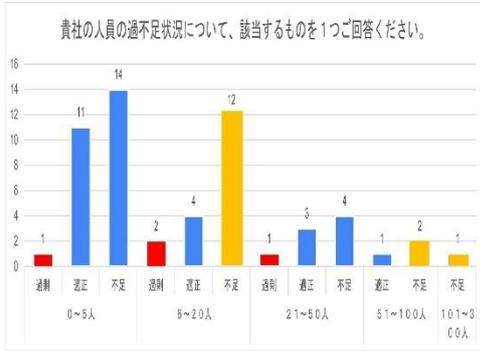
【クロス集計6】 新卒 IT 人材の初任給目安×求める IT 人材の能力の考察②

・企業の成長ステージと人材要件の違い
 初任給が高い企業は成長段階にあることが多く、より高度な業務の自動化やデジタル推進を視野に入れており、高度な IT スキルやリーダーシップを発揮できる人材を採用する傾向が強い。一方、初任給が低い企業では、基本的なスキルを持つ人材を育成しながら活用する姿勢が見える。これは、業務の IT 化が進んでいない企業や成長途上の企業で多く見られる傾向と考えられる。専門学校や教育機関は、企業の成長段階に応じて、基礎スキルと高度スキルをバランスよく育成することが求められる。

(注)「新卒 IT 人材の初任給」(自由記述)については、全 54 件中 5 件の企業しか記載がなかったため、適正な評価基準として判断するには慎重な検討が必要である。

【クロス集計7】 従業員数×人材の過不足状況

●従業員数と人材の過不足状況との関係性を明らかにする。



従業員数と人材の過不足状況を示しており、従業員 20 人以下の企業で「人員不足」が特に多いことがわかる(0~5 人で 14 件、6~20 人で 12 件)。小規模な企業ほど人材不足が深刻であり、業務を支える十分な人員確保が課題となっている。一方、従業員数が 21 人以上の企業では「適正」とする回答が比較的多く、一定の人員バランスが保たれている傾向がある。しかし、従業員数 100 人以上の企業でも少数ながら「不足」の回答があり、企業規模を問わず人材確保が重要な課題であることが示唆される。

【クロス集計7】 従業員数×人材の過不足状況の考察①

・小規模企業における人材確保の難しさ

従業員数 20 人以下の企業で「人員不足」の回答が圧倒的に多いことから、小規模企業は複数的な人材不足に直面していると考えられる。背景には、大企業に比べて待遇や職場環境、成長機会の面で競争力が低いことが影響している可能性がある。特に、IT 技術の進展により即戦力が求められる中、小規模企業では採用活動のリソースが限られ、必要な人材を確保しづらい現状が浮かび上がる。また、少人数体制の企業では一人ひとりの業務負担が増加しやすく、これが離職率の上昇や人材流出を招く悪循環を生んでいる可能性がある。こうした課題を解決するには、職場環境の改善や柔軟な働き方の導入、専門教育機関との連携を強化し、小規模企業でも魅力的なキャリアパスを提示できるような施策が求められる。

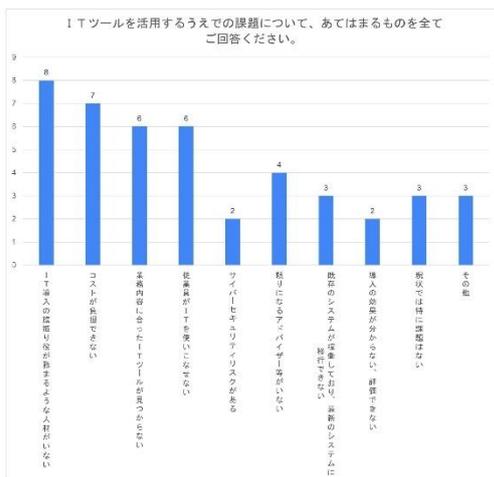
【クロス集計7】 従業員数×人材の過不足状況の考察②

・中規模~大規模企業でも潜在的な人材課題

従業員数が 21 人以上の企業では「適正」と回答する割合が多いものの、「人員不足」の回答も一定数存在している点に注目すべきである。これは、企業規模が大きくなるほど事業拡大や業務多様化に伴う新たな人材ニーズが生まれ、既存の人員配置では対応しきれない状況が発生していると考えられる。特に、中堅企業では新たな業務領域の拡大やデジタル化への対応が求められる一方、採用コストや教育体制の面で課題が残る可能性がある。また、従業員数 100 人以上の大規模企業においても「不足」の回答が見られることから、人材の定着率や配置の最適化が十分に機能していない可能性がある。今後、企業は量的な人材確保に加え、質の高い育成やスキル向上、配置転換による最適化を進めることが重要である。

【クロス集計8】 IT ツールの活用課題×採用活動の課題

●IT ツールの活用課題と採用活動の課題との相関関係を明らかにする。



「貴社の採用活動に関する課題があれば教えてください」(自由記述)に回答があった企業が「IT ツールを活用するうえでの課題についてあてはまるものを全てご回答ください」に回答したものをグラフ化した。「IT ツールの活用課題」と採用活動における課題の相関関係を示している。上位 4 項目は「IT 導入の旗振り役がいない」(8 票)、「コスト負担」(7 票)、「業務内容に合った IT ツールが見つからない」(6 票)、「従業員が IT を使いこなせない」(6 票)であり、全体集計と同じ傾向となった。各項目の票数が小さいことから、企業は IT ツール導入において、人的リソース、コスト、適合性、従業員教育のすべてに課題を感じていることがわかる。採用活動の課題とも関連し、人材確保が IT 導入推進の大きな要因と考えられる。

【クロス集計8】 IT ツールの活用課題×採用活動の課題の考察①

・IT 導入推進に必要な人材不足の深刻さ

「IT 導入の旗振り役がいない」(8 票)や「従業員が IT を使いこなせない」(6 票)という課題が上位に挙がっていることから、企業内で IT ツール導入を推進できる人材不足が深刻であることが明らかになった。中小企業を中心に、IT リテラシーを持つ人材の確保や育成が難しいという可能性が高い。IT ツールの効果的な活用には、導入段階から運用までをリードする旗振り役や、従業員への適切な研修が不可欠である。しかし、採用活動においても IT に精通した人材を確保することが難しく、その結果、導入後に定着せず活用が停滞する悪循環が生まれていると考えられる。企業が IT 活用を進めるためには、専門人材の採用や育成を強化し、内部から IT 推進の土台を固める施策が求められる。

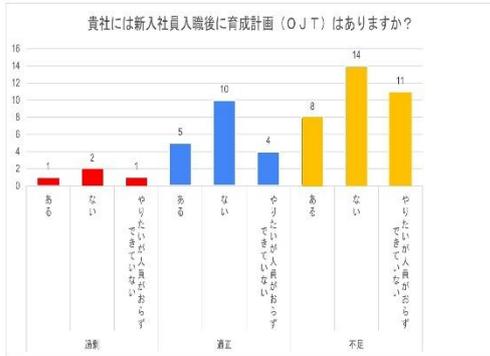
【クロス集計8】 IT ツールの活用課題×採用活動の課題の考察②

・コスト負担とツール選定の難しさが採用活動にも影響

「コスト負担」(7 票)と「業務内容に合った IT ツールが見つからない」(6 票)という課題は、企業の IT 導入の停滞を引き起こし、結果として採用活動にも影響を与えている可能性がある。IT ツール導入が進んでいない企業は、業務効率化が遅れ、人材不足に対する改善が難しい状況に直面しやすい。さらに、コスト面での制約が大きい企業ほど、採用活動に予算を十分に割けないことも考えられる。IT ツール導入が遅れた企業は、業務改善や生産性向上を実現できず、魅力的な職場環境を構築しづらくなり、人材確保の競争で不利になるリスクがある。これらの課題を解決するには、導入コストを抑えたツールの選定や補助金の活用、既存業務の見直しを進め、IT 活用と採用活動を連動させる戦略が求められる。

【クロス集計9】 人材過不足状況×OJT実施状況

●人材の過不足状況とOJT(職場内研修)の実施状況との関連性を明らかにする。



「人材の過不足状況」と「OJT実施状況」の関連性が明らかになった。人材不足を感じている企業では、「OJTをやりたいが人員が足りていない」(11件)や「OJTがない」(14件)という回答が多く、人材育成の担い手不足が課題となっていることがわかる。一方、適正と回答した企業では「OJTを実施している」(5件)という割合が高く、十分な人員確保がOJTの実施に寄与していると考えられる。人材不足の企業では育成計画の実行が難しく、結果として新入社員の定着や成長に影響を与える可能性が示唆される。

【クロス集計9】 人材過不足状況×OJT実施状況の考察①

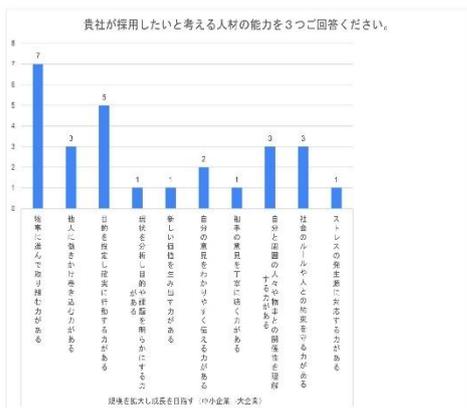
・OJTの未実施が人材不足の悪循環を生む
 人材不足に直面している企業では「OJTをやりたいが人員が足りていない」や「OJTがない」と回答する割合が高いことがわかる。OJT(職場内研修)は、新入社員が早期に戦力化するための重要な手段であり、未実施の状態が続くと、新入社員の成長が遅れ、既存社員の業務負担が増大する悪循環が生じる可能性がある。特に人材不足の企業では、限られたリソースで業務を回す必要があるため、OJTの計画や実施の余裕がない現状が浮かび上がる。これにより、育成が不十分なまま社員が離職するリスクも高まり、人材不足がさらに深刻化する恐れがある。これを解決するためには、外部の育成支援サービスの活用や、短期間で効果が出る研修プログラムの導入、業務の効率化を通じてOJT実施のリソースを確保する工夫が求められる。

【クロス集計9】 人材過不足状況×OJT実施状況の考察②

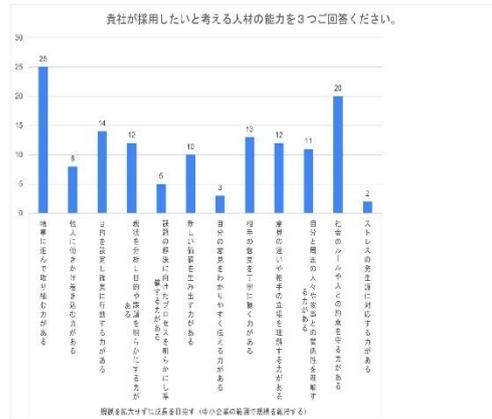
・適正な人員配置とOJT実施の相関関係
 適正と回答した企業では、「OJTを実施している」との回答が比較的多いことから、人材が適正に配置されている企業ほど育成計画が機能していることが示唆される。人員が充足していることで、既存社員が余裕を持って新入社員の教育に時間を割くことが可能となり、OJTの質が高まりやすい。一方、人材不足の企業では、OJT実施の担い手が不足しているため、業務遂行が優先され、教育が後回しになっていることが課題である。こうした結果は、企業規模や業務量に応じた適切な人材配置の重要性を示している。人材育成を成功させるには、採用活動を強化して適正な人員体制を整えるとともに、OJTを制度として仕組み化し、既存社員が無理なく育成業務を担える環境を構築することが必要である。

【クロス集計10】 企業の事業展開方針×求める人材像

●企業の事業展開方針と求める人材像との関係性を明らかにする。



「規模を拡大し成長を目指す」企業では「物事に進んで取り組む力」(7票)や「目的を設定し確実に行動する力」(5票)が最も重視されており、主体性や実行力のある人材が求められている。一方で、「他人に働きかけ巻き込む力」(3票)や「社会的ルールや人との約束を守る力」(3票)も挙げられており、組織内外での協調性や責任感も重要視されている。事業展開には、主体性と協調性を兼ね備えた人材が不可欠と考えられる。



「規模拡大せずに成長を目指す企業」では「物事に進んで取り組む力」(25票)や「社会的ルールや人との約束を守る力」(20票)を特に重視していることがわかる。これは、企業が主体性と責任感を備えた人材を成長の原動力として期待していることを示している。また、「目的を設定し確実に行動する力」(14票)や「相手の意見を丁寧に聴く力」(13票)も選ばれており、計画性と協調性を兼ね備えた人材が求められている。一方で、「他人に働きかけ巻き込む力」(8票)や「課題の解決に向けたプロセスを準備する力」(10票)も一定数票を集めており、組織内外での調整力や問題解決力が成長戦略において不可欠であると考えられる。

【クロス集計 10】 企業の事業展開方針×求める人材像の考察①

・事業展開方針に応じた主体性と行動力の重視

クロス集計の結果から、どの企業も「物事に進んで取り組む力」を最重視していることが分かる。これは、企業の事業展開方針に関わらず、主体性と積極性が働く上で基本的かつ重要な能力として共通認識されているためである。一方で、規模を拡大し成長を目指す企業では「目的を設定し確実に行動する力」(14 票)や「現状を分析し目的や課題を明らかにする力」(12 票)も高く評価されている。成長を目指す企業は、主体的に取り組むだけでなく、計画的に目標達成を進める行動力や課題解決力を求めていることがうかがえる。これに対し、現状維持を重視する企業では、組織内の円滑なコミュニケーションや協調性を重視する傾向が見られる。事業方針によって、求める人材像に「行動力」と「協調性」の比重が変わることが示唆される。

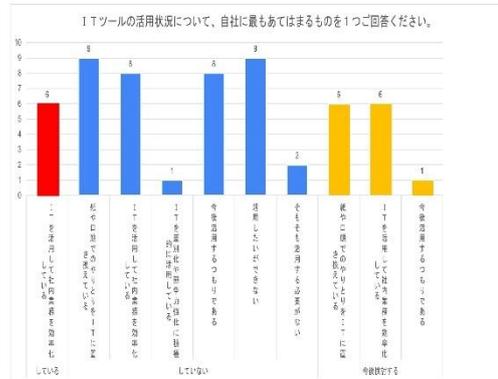
【クロス集計 10】 企業の事業展開方針×求める人材像の考察②

・成長を目指す企業と維持を志向する企業の人材要件の違い

2つの表の比較から、成長を目指す企業は「物事に進んで取り組む力」(25 票)と「社会のルールや人の約束を守る力」(20 票)を重視しており、主体性と組織内外の責任感を持つ人材を求めている。一方、現状を維持する企業では「物事に進んで取り組む力」(7 票)と共に「他人に働きかけ働き込む力」(3 票)や「自分と周囲の関係性を理解する力」(3 票)も評価されており、組織内での協調性や調整力が求められていることがわかる。この違いは、企業が成長に伴う事業拡大や新規市場開拓を進める際に、外部との関わりや実行力を発揮できる人材を必要としている一方で、現状維持を重視する企業は内部の安定と調和を支える人材を求めていることを示している。企業は自社の展望に応じた、必要な人材要件を明確にし、採用基準を最適化することが重要である。

【クロス集計 11】 IT ツールの活用状況×新卒 IT 人材の採用状況

●IT ツールの活用状況と新卒 IT 人材の採用状況との関連性を明らかにする。



「貴社の人員について、IT 人材の採用はされていますか」と「IT ツールの活用状況について、自社に最もあてはまるものを一つご回答ください」をクロス集計した。IT ツールの活用状況と新卒 IT 人材採用の関連性が見えてくる。「IT ツールを活用している」企業は「IT を活用して社内業務を効率化している」(6 件)や「紙や口頭のやりとりを IT に置き換えている」(9 件)と回答しており、新卒 IT 人材を採用している傾向が高い。一方、「IT ツールを活用していない」企業では「活用したいができない」(9 件)や「そもそも活用する必要がない」(2 件)が目立ち、IT 人材の不足が IT 導入の障壁になっていることがうかがえる。さらに「今後検討する」企業も「今後活用するつもりである」(6 件)と回答しており、IT ツール導入と人材採用は今後の成長課題であることが示唆される。

【クロス集計 11】 IT ツールの活用状況×新卒 IT 人材の採用状況の考察①

・IT ツール活用の進展と IT 人材の確保の相互関係

この結果から、IT ツールを「活用している」企業は新卒 IT 人材の採用にも積極的であることが示唆される。例えば、「IT を活用して社内業務を効率化している」(6 件)や「紙や口頭のやりとりを IT に置き換えている」(9 件)と回答した企業は、IT ツールを既に導入し、業務効率化を推進している。このような企業では、IT を理解し運用できる新卒 IT 人材の存在が不可欠であり、そのために積極的な採用活動が行われていると考えられる。一方、「活用したいができない」(9 件)と回答した企業は、IT 導入に対する意欲はあるものの、IT 人材の不足や知識・リソースの欠如が障壁となり、導入が進んでいない可能性が高い。IT 人材を採用し、適切に配置することで、導入推進が進む好循環を生み出せるだろう。企業は IT 人材確保と教育を強化し、IT 活用を次の段階へ進める体制を整えることが求められる。

【クロス集計 11】 IT ツールの活用状況×新卒 IT 人材の採用状況の考察②

・今後の IT 導入検討企業の成長ポテンシャルと課題

「今後活用するつもりである」(6 件)や「今後検討する」(1 件)と回答した企業は、IT 導入に前向きな姿勢を示しており、今後の成長ポテンシャルが高いことがわかる。しかし、現状では IT ツールの導入が進んでおらず、IT 人材の不足や初期コスト、業務内容に適したツールの選定が課題であると考えられる。一方、「活用したいができない」(9 件)と回答した企業も一定数存在し、導入意欲はあってもリソース不足や旗振り役の不在がボトルネックとなっている。これらの企業が IT ツールを効果的に導入・運用するためには、IT 人材の採用や外部サポートの活用が重要になる。教育機関や専門機関との連携を通じて、IT スキルを持つ人材を確保し、効率的な導入を進めることで業務の効率化と競争力強化が実現できるだろう。企業がデジタル化に取り組むには、IT 導入と人材確保を両輪で進める必要がある。

4. 講評

1. 調査目的

本調査は、山口県内企業における人材育成の実態を把握し、企業が抱える人材に関する課題を明らかにすることを目的とした。

具体的には、企業が求める人材像、人材育成に関する現状、採用活動における課題などを多角的に分析し、地域全体の人材育成の活性化に貢献するための提言を行うことを目指した。

2. 調査方法

山口県内の企業を対象に、Web アンケートを実施した。質問項目は、企業属性、経営状況、人材に関する意識、採用活動、人材育成など、多岐にわたった。

3. 調査結果の概要

(1) 企業属性

- ・ 企業規模: 小規模企業が大半を占め、従業員 20 人以下の企業が約 8 割であった。
- ・ 業種: 卸売業・小売業が最も多く、多様な業種から回答が集まった。
- ・ 売上高: 1 億円～5 億円未満の企業が最も多く、中小企業が中心であった。

(2) 人材に関する意識

- ・ 人材の重要性: 従業員満足の上昇や利益の増加を重視する企業が多く、人材の重要性を認識していた。
- ・ 求める人材像: 前向きで素直な姿勢、会社の方針への理解、コミュニケーション能力などを求める企業が多い。特別な能力よりも、基本的な仕事に対する姿勢を重視する傾向が見られた。
- ・ IT 人材: IT ツールの活用は進んでいるものの、IT 人材の不足が課題となっていた。
- ・ 新卒採用: 高校卒業生の採用に関心を持つ企業は少ないが、専門学校卒業生に対しては、実務に直結するスキルやビジネスの基本を身につけてほしいという期待があった。

(3) 人材育成

- ・ OJT: OJT を実施している企業は少なかった。
- ・ 人材育成の課題: OJT の仕組みやカリキュラムが未整備な企業が多く、人材育成の体系化が課題となっていた。

(4) 採用活動

- ・ 採用課題: 求める人材の理想が高く、人材不足に悩んでいる企業が多かった。
- ・ 専門学校への期待: 実務に直結するスキルやビジネスの基本を身につけてほしいという期待があった。

(5)分析結果と考察

本調査の結果から、山口県内企業は、人材の重要性を認識しつつも、人材不足や IT 人材の不足といった課題を抱えていることが明らかになった。特に、中小企業においては、人材育成に十分な時間やリソースを割くことが難しいという課題が顕在化している。

また、OJT の未整備や人材育成の体系化が遅れているなど、人材育成面でも課題が見られる。これは、中小企業が人材育成のノウハウ不足や、人材育成に係る費用負担を懸念していることが一因と考えられる。

4. 提言

山口県内企業の人材育成に関する課題を解決するためには、以下の施策が考えられる。

- **人材育成支援策の強化:**
 - OJT のモデルケース作成や、外部研修の補助など、人材育成を支援する制度の導入を検討すべきである。
 - 中小企業向けのコンサルティングサービスを提供し、人材育成の課題解決を支援する。
- **IT 人材育成の促進:**
 - IT 教育の充実や、IT 人材育成のためのプログラムの開発を推進する。
 - 地域の大学や専門学校と連携し、IT 人材の育成を共同で行う。
- **採用活動の支援:**
 - 地域の企業と求職者をマッチングさせるためのプラットフォームを構築する。
 - 中小企業の魅力を発信し、若年層の採用を促進する。

5. 今後の展望

本調査の結果を踏まえ、山口県内企業が抱える人材に関する課題を解決し、地域全体の活性化に貢献できるよう、更なる調査研究を進めていく。具体的には、以下の取り組みを検討している。

- **定量的なデータ分析:** より詳細な分析を行うために、定量的なデータを用いた分析を実施する。
- **企業へのヒアリング調査:** 企業へのヒアリング調査を行い、深層的なニーズを把握する。
- **地域連携:** 地域の大学、専門学校、行政機関と連携し、人材育成に関する取り組みを共同で実施する。

6. まとめ

本調査の結果、山口県内企業の人材育成に関する実態が明らかとなり、地域活性化に向けた重要な知見が得られた。人材育成は、企業の成長だけでなく、地域全体の活性化にもつながる重要な要素である。人材の育成を通じて、地域に根ざしたイノベーションを創出し、新たな産業を創出することが期待される。

今後は、本調査の結果を基に、地域全体で人材育成を推進するための具体的な施策を検討していく必要が示唆された。

文部科学省委託事業
令和 6 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」
「地域中小企業と連携による IT 担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業」

中小企業・誘致企業ニーズ調査報告書

令和 7 年 2 月
学校法人 YIC 学院
〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町 2 番 24 号

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。

5-2 中小企業・誘致企業人材ニーズヒアリング調査 資料13-2



目次

1. 事業の目的	1
2. ヒアリング調査の趣旨・目的	1
3. 中小企業・誘致企業ニーズ調査	1
3-1. 調査方法	1
3-2. 調査項目	2
3-3. 調査結果	4
4. ヒアリング記録	24
4-1. 株式会社メタインフォ	24
4-2. 同崎木材工業株式会社	35
4-3. 株式会社フイロム	48
4-4. 株式会社三雲	65
4-5. 株式会社シーパーツ	80
4-6. 新日本造船船務株式会社	94
4-7. 岩見倉社協同グループワーク	107
4-8. サンレコム株式会社	117
4-9. 株式会社 KUNO	138
4-10. 株式会社PHONE APPLI	150
5. 総評	160

1. 事業の目的

① 中小企業・誘致企業ニーズヒアリング調査の趣旨・目的を整理する。② 人財が不足している中小企業・誘致企業を抽出し、調査対象企業を決定する。③ 調査対象企業にヒアリング調査を実施し、調査結果を整理する。④ 調査結果を踏まえ、中小企業・誘致企業の人材ニーズを把握し、人材確保支援策を提案する。⑤ 調査結果を踏まえ、中小企業・誘致企業の人材ニーズを把握し、人材確保支援策を提案する。

2. ヒアリング調査の趣旨・目的

① 中小企業・誘致企業の人材ニーズを把握し、人材確保支援策を提案する。② 調査対象企業にヒアリング調査を実施し、調査結果を整理する。③ 調査結果を踏まえ、中小企業・誘致企業の人材ニーズを把握し、人材確保支援策を提案する。

3. 中小企業・誘致企業ニーズ調査

3-1. 調査方法

- ① 調査対象企業を抽出する。
- ② 調査実施
 - ヒアリング調査の実施方法として、個人インタビューとグループインタビューの2種類を実施する。

① 調査対象企業

- ① 株式会社メタインフォ
- ② 同崎木材工業株式会社
- ③ 株式会社フイロム
- ④ 株式会社三雲
- ⑤ 株式会社シーパーツ
- ⑥ 新日本造船船務株式会社
- ⑦ 岩見倉社協同グループワーク
- ⑧ サンレコム株式会社
- ⑨ 株式会社 KUNO
- ⑩ 株式会社PHONE APPLI

② 調査実施
実施日：11月22日～11月27日

3-2. 調査項目

会社情報

- ① 業種・商品
- ② 事業内容
- ③ 従業員数

1. 人材確保に関する人財観

- ① 人材確保の現状
 - ・採用手段・採用方法の状況
 - ・採用活動の状況
 - ・採用活動への課題
 - ・採用活動の改善
 - ・人材確保の課題
 - ・人材確保の今後の展望
- ② 多様な人材の確保
 - ・多様な人材の確保の必要性
 - ・多様な人材の確保の取り組み

2. 調査対象企業ヒアリング

① 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善
② 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善
③ 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善
④ 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善
⑤ 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善
⑥ 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善
⑦ 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善
⑧ 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善
⑨ 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善
⑩ 経営者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の認識 ・経営者の認識の現状 ・経営者の認識の課題 ・経営者の認識の改善

3-3. 調査結果

① 株式会社メタインフォ

企業名	株式会社メタインフォ
本社所在地	東京都港区赤坂1-15-212
URL	https://www.metainfo.co.jp/
事業内容	IT関連の企画・制作・運用、Web制作、アプリ開発、クラウドサービス等の提供
調査日時	平成30年11月22日(火) 16:00~17:00
調査場所	オンライン
調査者	株式会社YIC学園 研修 桐村

1. 人材確保に関する人財観
 経営者として、人材確保は非常に重要であると考えている。特に、IT関連の分野では、人材確保が非常に重要であると考えている。また、人材確保は、企業の成長にとって非常に重要な要素であると考えている。また、人材確保は、企業の成長にとって非常に重要な要素であると考えている。また、人材確保は、企業の成長にとって非常に重要な要素であると考えている。

2. 調査対象企業ヒアリング
 調査対象企業として、株式会社メタインフォを選定した。これは、IT関連の分野で、人材確保に関する課題を抱えている企業であるためである。また、調査対象企業として、株式会社メタインフォを選定した。これは、IT関連の分野で、人材確保に関する課題を抱えている企業であるためである。

② 同崎木材工業株式会社

企業名	同崎木材工業株式会社
本社所在地	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
URL	http://www.dozaki.co.jp/
事業内容	木材の製造・販売、木材加工製品の製造・販売
調査日時	平成30年11月22日(火) 16:00~17:00
調査場所	同崎木材工業株式会社 本社
調査者	株式会社YIC学園 研修 桐村

1. 人材確保に関する人財観
 経営者として、人材確保は非常に重要であると考えている。特に、木材の分野では、人材確保が非常に重要であると考えている。また、人材確保は、企業の成長にとって非常に重要な要素であると考えている。また、人材確保は、企業の成長にとって非常に重要な要素であると考えている。

2. 調査対象企業ヒアリング
 調査対象企業として、同崎木材工業株式会社を選定した。これは、木材の分野で、人材確保に関する課題を抱えている企業であるためである。また、調査対象企業として、同崎木材工業株式会社を選定した。これは、木材の分野で、人材確保に関する課題を抱えている企業であるためである。

③ 株式会社フイロム

企業名	株式会社フイロム
本社所在地	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
URL	http://www.firo.com/
事業内容	IT関連の企画・制作・運用、Web制作、アプリ開発、クラウドサービス等の提供
調査日時	平成30年11月22日(火) 16:00~17:00
調査場所	オンライン
調査者	株式会社YIC学園 研修 桐村

1. 人材確保に関する人財観
 経営者として、人材確保は非常に重要であると考えている。特に、IT関連の分野では、人材確保が非常に重要であると考えている。また、人材確保は、企業の成長にとって非常に重要な要素であると考えている。また、人材確保は、企業の成長にとって非常に重要な要素であると考えている。

2. 調査対象企業ヒアリング
 調査対象企業として、株式会社フイロムを選定した。これは、IT関連の分野で、人材確保に関する課題を抱えている企業であるためである。また、調査対象企業として、株式会社フイロムを選定した。これは、IT関連の分野で、人材確保に関する課題を抱えている企業であるためである。

[7] 有限会社福田フーズパーク

<ヒアリング詳細>

企業名称	有限会社福田フーズパーク
本社所在地	山口県美祿町美祿2丁目2番地
URL	https://www.fukuda-fs.com/
企業概要	食品製造において食品工場（フーズパーク）を核とし、観光、観光交流イベントの企画・実行などの運営
日経	令和7年3月31日(月) 10:30~11:30
実施場所	オンライン
実施者	代表取締役 福田 隆一

1. 人材育成と求人の特徴

職能を軸とした研修や研修制度の充実が、専門的知識やスキル向上、お客様のニーズに応えるためのスキルアップに貢献している。また、企業研修は必ずしも雇用者側の都合で実施されるわけではなく、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

2. 採用活動と人材育成

採用において、職務内容や給与体系、ワークライフバランスや福利厚生などの観点から、求職者のニーズやスキルを把握している。また、採用活動においては、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

3. 今後の展望と課題

今後の展望として、デジタル化やAIの活用による業務効率化や生産性向上を図りたい。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

19

スキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

3. 今後の展望と課題

今後の展望として、デジタル化やAIの活用による業務効率化や生産性向上を図りたい。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

4. 専門学校の期待

専門学校との連携や協働について、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

19

[10] 株式会社 PHONE APPLI

<ヒアリング詳細>

企業名称	株式会社PHONE APPLI
本社所在地	東京都港区赤坂7丁目3番3号 赤坂パークビル5階
URL	https://phoneappli.com/
企業概要	PHONE APPLIは、プロフェッショナルな人材を育成する教育機関として、Cisco、Salesforce等の企業向けに、オンライン学習プラットフォームの開発・提供、および教育IPXプラットフォームの開発・提供を行っています。
日経	令和7年2月7日(金) 14:00~15:00
実施場所	オンライン
実施者	ヒューマンリソース本部 副部長 大庭 大介
所属	人事採用部 大庭 大介 総務課 採用担当 竹内 正樹

1. 人材育成と求人の特徴

求職者に対しては、ITスキルや英語力などのスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

2. 採用活動と人材育成

採用において、職務内容や給与体系、ワークライフバランスや福利厚生などの観点から、求職者のニーズやスキルを把握している。また、採用活動においては、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

3. 今後の展望と課題

今後の展望として、デジタル化やAIの活用による業務効率化や生産性向上を図りたい。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

20

の企業としての強みを生かし、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

4. 専門学校の期待

専門学校との連携や協働について、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

[8] サントリー株式会社

<ヒアリング詳細>

企業名称	サントリー株式会社
本社所在地	東京都港区赤坂1丁目1番地
URL	https://suntory.com/jp/
企業概要	食品・飲料・酒類の製造・販売を行う企業。サントリーホールディングス株式会社の傘下企業。サントリーホールディングス株式会社の傘下企業。サントリーホールディングス株式会社の傘下企業。
日経	令和7年2月16日(水) 15:00~16:00
実施方法	オンライン
実施者	総務課 総務 藤本 直樹

1. 人材育成と求人の特徴

求職者に対しては、ITスキルや英語力などのスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

2. 採用活動と人材育成

採用において、職務内容や給与体系、ワークライフバランスや福利厚生などの観点から、求職者のニーズやスキルを把握している。また、採用活動においては、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

19

スキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

3. 今後の展望と課題

今後の展望として、デジタル化やAIの活用による業務効率化や生産性向上を図りたい。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

4. 専門学校の期待

専門学校との連携や協働について、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

4. ヒアリング記録

ヒアリング記録として、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

21

英語として表現がわかりやすいように記載されている。

4. 専門学校の期待

専門学校との連携や協働について、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

4-1. 株式会社メタインフォ

日経	令和7年1月22日(水) 16:00~17:00
実施者	人事採用部 総務課 井井 井井 英語課 総務課 井井 井井

(注: 敬称略)

敬称略として記載されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

採用

採用において、職務内容や給与体系、ワークライフバランスや福利厚生などの観点から、求職者のニーズやスキルを把握している。また、採用活動においては、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

所属

所属として記載されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。また、求職者のスキルアップやキャリアアップの機会として提供されている。

20

24

5. 総評

＜中小企業・活動企業ニース ヒアリング調査＞

1. 人材育成と求人の現状

それぞれの業種や業種に特化した人材育成を始めており、併せて「成長投資」や「新分野」を無視していない。特に、経験豊富で成果を出せる人材を重視し、OJT を重視してスキルアップを支援している。また、未経験者でも成長できる環境を提供し、OJT を重視してスキルアップを支援している。また、未経験者でも成長できる環境を提供し、OJT を重視してスキルアップを支援している。また、未経験者でも成長できる環境を提供し、OJT を重視してスキルアップを支援している。

2. 採用活動と人材確保

地域性や業界ニースに合わせた採用活動が行っており、特にリモートワークの普及により地方の人材確保が進んでいる。地域との連携を強化し、学校やインターンシップを通じて企業文化の浸透を図っている。また、地域との連携を強化し、学校やインターンシップを通じて企業文化の浸透を図っている。また、地域との連携を強化し、学校やインターンシップを通じて企業文化の浸透を図っている。

3. 今後の課題と対策

現在の事業と異なりながら、新たな市場を見つけていく準備も進んでいる。多くの企業が、業種のデジタル化や新分野の事業に取り組んでいる。また、地域とのつながりを強化し、地域経済の活性化を目指す動きが広がっている。併せて、業績成長を促すための地域連携や、他社企業のアジア・インターンシップ(DX)を促進する取り組みが期待されている。また、地域とのつながりを強化し、地域経済の活性化を目指す動きが広がっている。

積極的な支援のもと、DXは、デジタル化を推進し業務プロセスの再構築や人材育成の促進が期待されており、これらの活動に取り組むことが企業の成長を促進するための重要な要素となる。

4. 専門学校への期待

企業・専門学校の協力が進む中で、学生の就業力向上がますます進んでいる。特に、IT 技能の向上に伴い、専門学校で実践的知識やスキルを習得する機会が増えている。また、企業・専門学校の協力が進む中で、学生の就業力向上がますます進んでいる。特に、IT 技能の向上に伴い、専門学校で実践的知識やスキルを習得する機会が増えている。

【まとめ】

企業は意識、強化する準備も進んでいる。競争力を高めるために、業務のデジタル化や効率化を進めている。しかし、人材の確保と育成の観点からは、依然として IT 人材の確保と育成が課題となっている。企業は意識、強化する準備も進んでいる。競争力を高めるために、業務のデジタル化や効率化を進めている。しかし、人材の確保と育成の観点からは、依然として IT 人材の確保と育成が課題となっている。

文部科学省が実施
令和 6 年度「地方デジタル化の促進に関する調査研究報告書」
【地域中小企業と連携による IT 活用推進技術・人材育成支援調査】

中小企業・活動企業ニース ヒアリング調査報告書

令和 7 年 2 月
調査法人 VICO 専任
〒754-0021 山口県山口市明徳町 2 番 24 号

●本学の報告書は機密情報と見做され、掲載することはできません。

5-3 高校生地域進路意識調査 資料14

文部科学省委託事業
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」
「地域中小企業と連携によるIT担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業」

高校生地域進路意識調査報告書

学校法人 YIC 学院

目次

1. 事業の目的	1
2. アンケート調査の趣旨・目的	1
3. 高校生地域進路意識のアンケート調査	1
3-1. 調査方法	1
3-2. 調査項目	2
3-3. 調査結果	4
4. 講評	74

1. 事業の目的

IT関連製品・サービスを提供するITベンダーやユーザ企業の情報システム部門で活躍するIT人材が2030年には45万人不足するとの試算がある中、働き盛りの若年人口が少ない地方都市では、コロナ禍後の経済活動活性化に伴い人材不足が深刻化している。産業活性化・人口減少対策として、魅力ある働き先としての企業誘致に力を入れるため、誘致企業にとって大きな魅力となる人材採用・育成のための地域密着型職業教育機関との連携は不可欠である。

本事業では、以上のような地域ニーズに応えるため、中小企業で働くために必要とされる「汎用的かつ多様な能力・スキルを強みとし、協働的な働き方でICT技術を駆使して積極的に関与解決に取り組める人材」を育成することを目指す。

2. アンケート調査の趣旨・目的

この調査は、高校生の地域進路意識、進学・就職希望状況を把握し、工業専門課程の必要性を検討することで、高校生の地域将来に対する希望や不安を理解し、進路選択支援に役立てることを目的とする。現在の進路希望状況を把握し、将来像・地域に対する意識を分析することで、工業専門課程の必要性・魅力・進学メリットを明確にすることで進学する価値を見出すことを目指す。

3. 高校生地域進路意識のアンケート調査

3-1. 調査方法

- 調査手法
高校への持参(1000件)およびGoogleフォームにてアンケート調査を実施した。
- 調査対象
山口県内の高等学校複数校の生徒(1~3年生)を対象とした。

(3) アンケート実施(内訳)
 対象…………… 山口県内の高等学校の1～3年生の生徒
 合計…………… 1000人分のアンケートを各高等学校へ持参した。
 回答数…………… 山口県に所在する19高等学校より合計576名の生徒より回答を得た

(4) 調査日程
 令和6年11月11日～令和6年11月28日

(5) 回収結果
 有効回答数 576件(有効回収率 57.6%)

D 専修学校に対するイメージ
①イメージ ②進学価値(メリット・デメリット) ③進学環境
E 山口県に対するイメージ
①イメージ ②居住希望
F ITコミュニケーション
①SNS利用媒体 ②SNS発信媒体
G 今後について
①企業説明会への興味

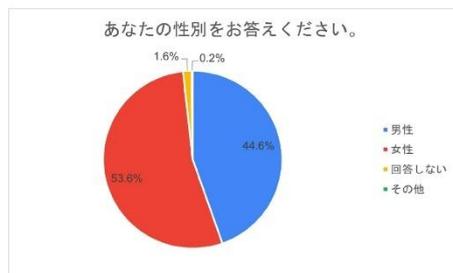
3-2. 調査項目

A 基礎情報
①回答者情報 ②年齢 ③居住地 ④在籍高校名・学科・学年
B 進路希望状況
①進路 ②(進学)相談相手 ③(進学)進路分野・進学先・進学地 ④(進学)将来の就職業種・職種・具体的職業名 ⑤(就職)就職地 ⑥(就職)就職業種・職種・具体的職業名 ⑦(就職)希望勤務形態
C キャリアプラン
①非認知力(今の自分) ②社会基礎力 ③職業選択基準

3-3. 調査結果

【問1】 回答者情報(性別)

男性	257
女性	309
回答しない	9
その他	1

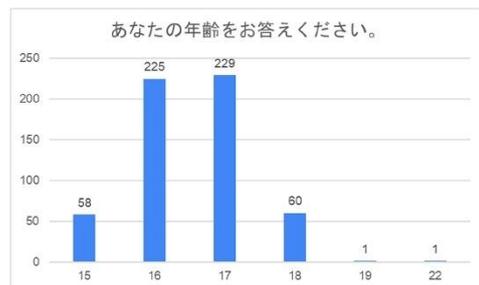


本調査の回答で多いものから順に、女性 309人(53.6%)、男性 257人(44.6%)であった。男女ともに多くの回答を得ることができた。

【問2】 回答者情報(年齢)

15	58
16	225
17	229
18	60
19	1
22	1
総計	574

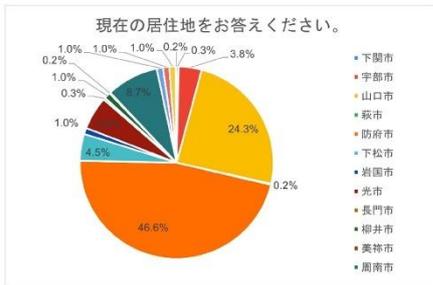
※年齢の明らかに誤入力があった2件は対象除外としている。



本調査の回答で多いものから順に、17歳 229件、16歳 225件、18歳 60件、満年齢のため16歳・17歳の回答が多く、高校2年生が回答者の大半であることがわかる。

【問 3】 回答者情報(居住地)

下関市	2
宇部市	22
山口市	140
萩市	1
防府市	268
下松市	26
岩国市	6
光市	32
長門市	2
柳井市	6
美祿市	1
周南市	50
山陽小野田市	6
田布施町	6
平生町	6
阿武町	1



本調査の回答で多いものから順に、防府市268件(46.6%)、山口市 140 件(24.3%)、周南市 50 件(8.7%)であった。広範囲の学生から回答を得ることができた。

【問 4】 在籍校情報(高校名)

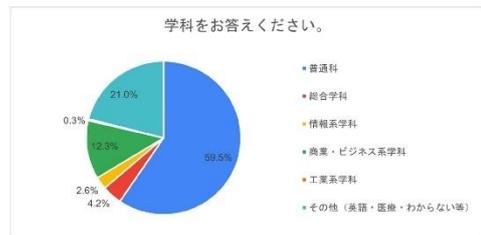
※実際の高校名は匿名化して掲載した。

※回答数が一桁の学校は「その他」回答欄へ集約した。

高校名	件数
A 高等学校	292
B 高等学校	84
C 高等学校	80
D 高等学校	57
(その他・高等学校)	31
(不明・未回答)	32
総計	576

【問 6】 在籍校情報(学科名)

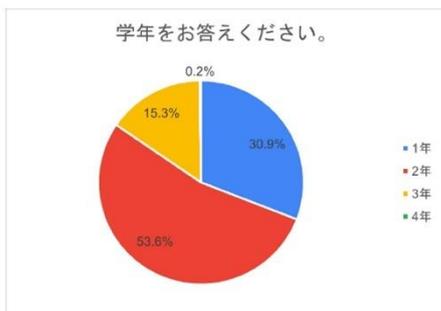
普通科	343
総合学科	24
情報系学科	15
商業・ビジネス系学科	71
工業系学科	2
その他(英語・医療・わからない等)	121



本調査の回答で多いものから順に、普通科 343 件(59.5%)、その他(英語・医療・わからない等) 121 件(21.0%)、商業・ビジネス系学科 71 件(12.3%)であった。本結果は県内の各学科の母数の影響も大きい。

【問 5】 在籍校情報(学年)

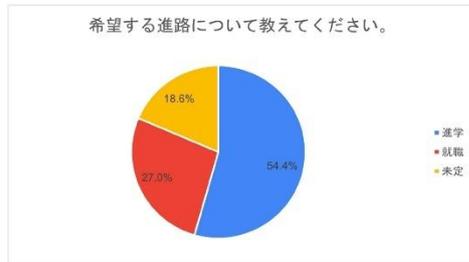
1 年	178
2 年	309
3 年	88
4 年	1



本調査の回答で多いものから順に、2 年 309 件(53.6%)、1 年 178 件(30.9%)、3 年 88 件(15.3%)であった。これから具体的な進路を考えていく立場になる 2 年生が本調査に一番関心を示したと思われる。

【問 7】 進路希望情報

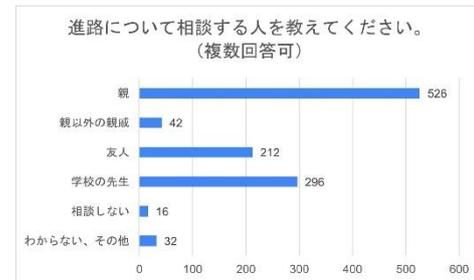
進学	313
就職	155
未定	107



本調査の回答で多いものから順に、進学 313 件(54.4%)、就職 155 件(27.0%)、未定 107 件(18.6%)であった。全体の半数以上が進学を希望していることが分かるが、就職希望者も約 3 割と少なくない。

【問 8】 進路希望情報(相談相手)

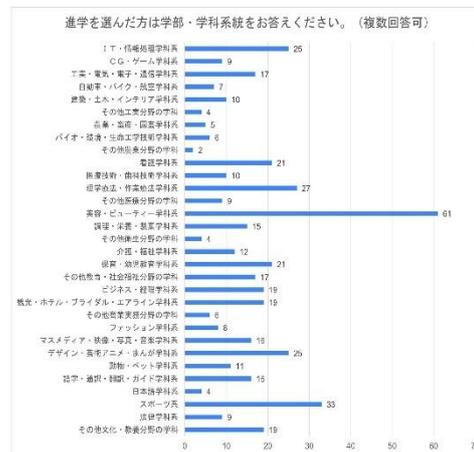
親	526
親以外の親戚	42
友人	212
学校の先生	296
相談しない	16
わからない、その他	32



本調査の回答で多いものから順に、親 526 件、学校の先生 296 件、友人 212 件であった。日頃のコミュニケーションが頻繁に行える存在が相談相手になる傾向が強い。

【問 9】 進学希望状況(進学分野)

IT・情報処理学科系	25
CG・ゲーム学科系	9
工業・電気・電子・通信学科系	17
自動車・バイク・航空学科系	7
建築・土木・インテリア学科系	10
その他工業分野の学科	4
農業・畜産・園芸学科系	5
バイオ・環境・生命工学技術学科系	6
その他農業分野の学科	2
看護学科系	21
医療技術・歯科技術学科系	10
理学療法・作業療法学科系	27
その他医療分野の学科	9
美容・ビューティー学科系	61
調理・栄養・製菓学科系	15
その他衛生分野の学科	4
介護・福祉学科系	12
保育・幼児教育学科系	21
その他教育・社会福祉分野の学科	17
ビジネス・経理学科系	19
観光・ホテル・ブライダル・エアライン学科系	19
その他商業実務分野の学科	6
ファッション学科系	8
マスメディア・映像・写真・音楽学科系	16
デザイン・芸術アニメ・まんが学科系	25
動物・ペット学科系	11
語学・通訳・翻訳・ガイド学科系	16
日本語学科系	4
スポーツ系	33
法律学科系	9
その他文化・教養分野の学科	19



本調査の回答で多いものから順に、美容・ビューティー学科系 61 件、スポーツ系 33 件、理学療法・作業療法学科系 27 件であった。美容・ビューティー学科系希望者数は突出しているが、それ以外の学科は大きな差は見られない。

【問 10】 進学希望状況(進学先)

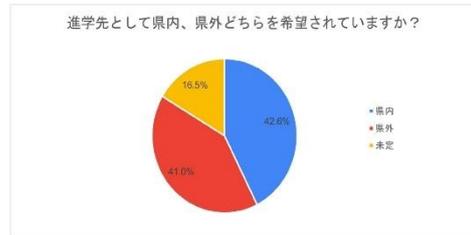
	大学	短大	専門学校	その他
1位	146	17	144	4
2位	41	56	64	13
3位	23	71	25	10
4位	7	8	2	90



本調査で希望順位一位と回答した項目で一番目に多いのが、大学 146 件で、二番目に多いのが専門学校 144 件で、三番目に多いのが短大 17 件だった。大学と専門学校の票数は僅差で、短大、その他と大きく差が開いている。

【問 11】 進学希望状況(進学地)

県内	132
県外	127
未定	51

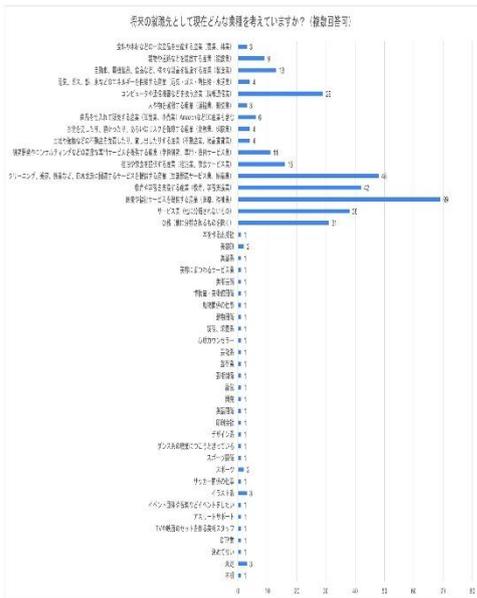


本調査の回答で多いものから順に、県内 132 件(42.6%)、県外 127 件(41.0%)、未定 51 件(16.5%)であった。県内・県外どちらも票数はほぼ同じで、地元にとまらない学生も一定以上いることが分かる。

【問 12】 進学後、就職希望状況(就職先業種)

食料や木材などの一次産品を生産する産業(農業、林業)	3
建物や道路などを建設する産業(建設業)	9
自動車、電機製品、食品など、様々な製品を製造する産業(製造業)	13
電気、ガス、熱、水などのエネルギーを供給する産業(電気・ガス・熱供給・水道業)	4
コンピュータや通信機器などを扱う産業(情報通信業)	29
人や物を運搬する産業(運輸業、郵便業)	3
商品を仕入れて販売する産業(卸売業、小売業)Amazon など EC 産業も含む	6
お金を貸したり、預かったり、あるいはリスクを保障する産業(金融業、保険業)	4
土地や建物などの不動産を売買したり、貸し出したりする産業(不動産業、物品賃貸業)	4
研究開発やコンサルティングなどの高度な専門サービスを提供する産業(学術研究、専門・技術サービス業)	11
宿泊や飲食を提供する産業(宿泊業、飲食サービス業)	16
クリーニング、美容、娯楽など、日常生活に関連するサービスを提供する産業(生活関連サービス業、娯楽業)	48
教育や学習を支援する産業(教育、学習支援業)	42
医療や福祉サービスを提供する産業(医療、福祉業)	69
サービス業(他に分類されないもの)	38
公務(他に分類されるものを除く)	31
本を作る出版社	1
美容師	2
美容系	1
美容にまつわるサービス業	1
美術芸術	1
博物館・美術館関係	1
動物関係の仕事	1
動物関係	1
調理、栄養系	1
心理カウンセラー	1
芸能系	1
芸術業	1
芸術関係	1
経営	1
開発	1
英語関係	1
印刷会社	1

デザイン系	1
ダンス系の職業にこうと思っている	1
スポーツ関係	1
スポーツ	2
サッカー関係の仕事	1
イラスト系	3
イベント団体や音楽などイベントをしたい	1
アシリートサポート	1
TV や映画のセットを作る美術スタッフ	1
DTP 業	1
決めてない	1
未定	3
不明	1

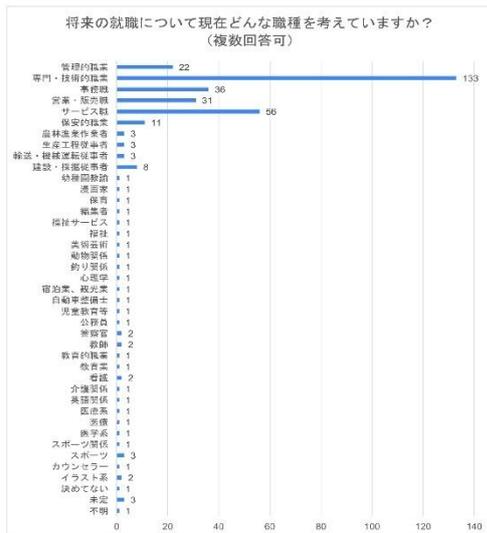


本調査の回答で多いものから順に、医療や福祉サービスを提供する産業(医療、福祉業)69件、クリーニング、美容、娯楽など、日常生活に関連するサービスを提供する産業(生活関連サービス業、娯楽業)48件、教育や学習を支援する産業(教育、学習支援業)42件であった。その他サービス業や情報通信業も多く回答が集まっている。

【問13】進学後、就職希望状況(就職先職種)

管理職	22
専門・技術的職業	133
事務職	36
営業・販売職	31
サービス職	56
保安的職業	11
農林漁業作業者	3
生産工程従事者	3
輸送・機械運転従事者	3
建設・採掘従事者	8
幼稚園教諭	1
漫画家	1
保育	1
編集者	1
福祉サービス	1
福祉	1
美術芸術	1
動物関係	1
釣り関係	1
心理学	1
宿泊業・観光業	1
自動車整備士	1
児童教育等	1
公務員	1
警察官	2
教師	2
教育的職業	1
教育業	1
看護	2
介護関係	1
英語関係	1
医療系	1
医療	1
医学系	1
スポーツ関係	1

スポーツ	3
カウンセラー	1
イラスト系	2
決めてない	1
未定	3
不明	1



本調査の回答で多いものから順に、専門・技術的職業133件、サービス業56件、事務職36件であった。前項の結果からも専門の資格や技術を用いた職業の希望は多いことが分かる。

【問14】進学後、就職希望状況(具体的職業名)

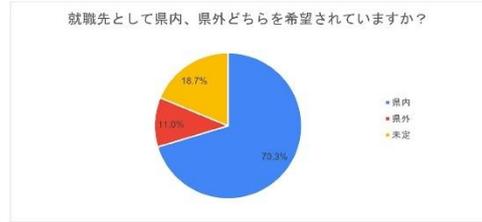
●具体的な職業名がある方は職業名を教えてください。
 ※自由記述を「同系統の職業」でまとめ、その合計件数を示した。また、同一カテゴリ内で具体的な職業名が挙がっている場合には、その例も列記している。一部の職業は複合的な表現になっているため、該当するすべての系統にカウントした。(例:「美容師、トリマー」は「美容系」と「動物関連」にそれぞれ1件ずつカウント)。
 ※多い順番にて整理列挙した。()の中は実際の回答。
 ※重複・類似する回答をまとめ、属性ごとに整理した。
 ※原文は極力変えず、そのまま記載した。

1. 医療・ヘルスケア系(40件)
 (看護師、助産師、理学療法士、臨床心理士、カウンセラー、心理カウンセラー、薬剤師、言語聴覚士、放射線技師、歯科衛生士、医療事務、柔道整復師、鍼灸、作業療法士、医学療法士 など)
2. 美容系(39件)
 (美容師、アーティスト、エステティシャン、ヘアメイクアーティスト、ネイリスト、ビューティアドバイザー、美容部員、ブライダリスト、理容師、美容関係トータルビューティアー など)
3. クリエイティブ・デザイン・アート系(13件)
 (CGアニメーター、アニメーター、漫画家、イラストレーター、WEBデザイナー、ジュエリーデザイナー、グラフィックデザイナー、デザイナー)
4. 教育系(12件)
 (情報の教師、学校教員、教員、教師、小学校教員、養護教諭、特別支援学校教諭、塾講師)
5. 公務員系(10件)
 (警察官、消防士、国家公務員、市役所職員)
6. スポーツ系(8件)
 (サッカー選手、スポーツトレーナー、パーソナルトレーナー、スポーツインストラクター、トレーナー、指導者、アスレチックトレーナー)
7. 食品・調理・栄養系(7件)
 (調理師、管理栄養士、食品開発者、料理人、製菓衛生師)
8. 保育・幼児教育系(6件)
 (保育士 など)
9. 未定・なし(6件)
 (ない、なし、今はない、?、未定)
10. 建築・環境系(5件)
 (建築士、建築大工技師、建築設備エンジニア、環境デザイナー)
11. 芸能・エンタメ系(5件)
 (声優、PAエンジニア、コンサートスタッフ、ライブPA、美術スタッフ)

- 12. 動物関連(5件)
(動物看護師、トリマー など)
- 13. 編集・出版・図書館系(4件)
(編集者、図書館司書)
- 14. サービス・ホスピタリティ系(3件)
(ホテルスタッフ、ウェディングプランナー、ホテルのパン屋さん)
- 15. 福祉系(3件)
(介護福祉士、社会福祉士)
- 16. 会計・経理系(2件)
(公認会計士)
- 17. 技術系(2件)
(電気工事士、自動車整備士)
- 18. その他(2票)
(船乗り、マイリスト(不明))
- 19. 研究・学術系(1件)
(歴史学者)
- 20. 通訳・翻訳系(1件)
(通訳)

【問 15】 就職希望状況(就職地)

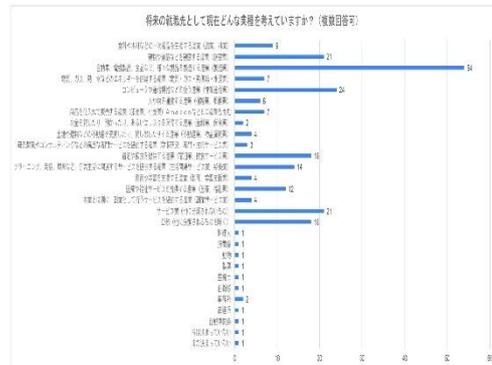
県内	109
県外	17
未定	29



本調査の回答で多いものから順に、県内 109 件(70.3%)、未定 29 件(18.7%)、県外 17 件(11.0%)であった。希望する進路先の結果とは変わり、就職先は県内を希望する学生が多いことが分かる。

【問 16】 就職希望状況(就職業種)

食料や木材などの一次産品を生産する産業(農業、林業)	9
建物や道路などを建設する産業(建設業)	21
自動車、電機製品、食品など、様々な製品を製造する産業(製造業)	54
電気、ガス、熱、水などのエネルギーを供給する産業(電気・ガス・熱供給・水道業)	7
コンピュータや通信機器などを扱う産業(情報通信業)	24
人や物を運搬する産業(運輸業、郵便業)	6
商品を仕入れて販売する産業(卸売業、小売業)AmazonなどEC産業も含む	7
お金を貸したり、預かったり、あるいはリスクを保障する産業(金融業、保険業)	2
土地や建物などの不動産を売買したり、貸し出ししたりする産業(不動産業、物品賃貸業)	4
研究開発やコンサルティングなどの高度な専門サービスを提供する産業(学術研究、専門・技術サービス業)	3
宿泊や飲食を提供する産業(宿泊業、飲食サービス業)	18
クリーニング、美容、娯楽など、日常生活に関連するサービスを提供する産業(生活関連サービス業、娯楽業)	14
教育や学習を支援する産業(教育、学習支援業)	4
医療や福祉サービスを提供する産業(医療、福祉業)	12
本業とは別に、副業として行うサービスを提供する産業(副業サービス業)	4
サービス業(他に分類されないもの)	21
公務(他に分類されるものを除く)	18
料理人	1
農関係	1
動物	1
製菓	1
整備士	1
白衛隊	1
事務系	2
看護系	1
自動車関係	1
今は決まっていない	1
まだ決まっていない	1

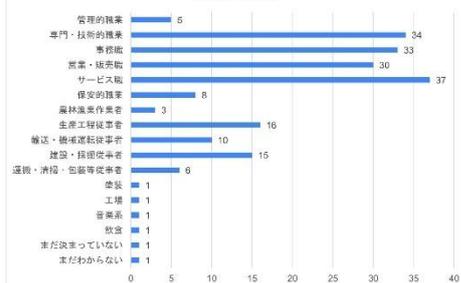


本調査の回答で多いものから順に、自動車、電機製品、食品など、様々な製品を製造する産業(製造業)54件、コンピュータや通信機器などを扱う産業(情報通信業)24件、建物や道路などを建設する産業(建設業)・サービス業(他に分類されないもの)21件であった。特に製造業は票が多く集まり、県内産業の特徴とも類似している。

【問 17】 就職希望状況(就職先職種)

管理的職業	5
専門・技術的職業	34
事務職	33
営業・販売職	30
サービス職	37
保安的職業	8
農林漁業作業者	3
生産工程従事者	16
輸送・機械運転従事者	10
建設・採掘従事者	15
運搬・清掃・包装等従事者	6
塗装	1
工場	1
音楽系	1
飲食	1
まだ決まっていない	1
まだわからない	1

将来の就職について現在どんな職種を考えていますか？
(複数回答可)



本調査の回答で多いものから順に、サービス業 37 件、専門・技術的職業 34 件、事務職 33 件であった。また営業・販売職も 30 件と多く、希望する職種が集中している。

【問 18】 就職希望状況(具体的職業名:自由記述)

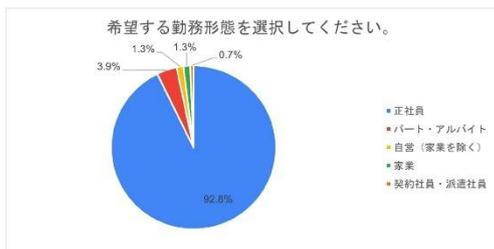
●具体的な職業名がある方は職業名を教えてください。
※類似する回答は合計数をまとめて表記し一覧とした。
※会社名等の固有名称は一部回答を加工した。

- 鉄道運転士系(5 件)
・運転士(鉄道関係)(3)、電車の運転士・乗務員(1)、電車運転士(JR 関係)(1)
- 介護系(6 件)
・介護士、介護職、介護福祉士(6)
- 警察官(3 件)
・警察官(3)
- 自衛隊系(3 件)
・自衛隊(2)、陸上自衛隊(1)
- 「ない」「なし」(5 件)
・ない(2)、なし(3)
- その他(13 件)
・製菓会社(1)、ウェディングプランナー(1)、ショップ店員(1)、自動車ディーラー(2)、空港セキュリティ(1)、工業(1)、工場勤務(1)、飼育員(1)、事務員(1)、自動車整備士(1)、消防(1)、編集社(1)

全体件数: 35 件(変更なし)

【問 19】 就職希望状況(勤務形態)

正社員	141
パート・アルバイト	6
自営(家業を除く)	2
家業	2
契約社員・派遣社員	1



本調査の回答で多いものから順に、正社員 141 件(92.8%)、パート・アルバイト 6 件(3.9%)、自営(家業を除く)・家業 2 件(1.3%)であった。正社員希望者が圧倒的に多い。

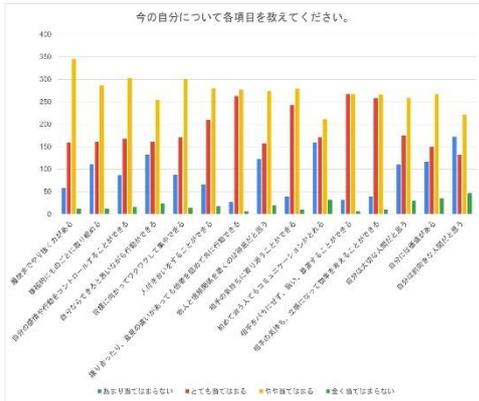
【問 20】 キャリアプラン(非認知力、今の自分)

	最後までやり抜く力がある	積極的にものごとに取り組める	自分の感情や行動をコントロールすることができる	自分ならできると思いながら行動ができる
あまり当てはまらない	58	111	87	133
とても当てはまる	160	161	168	161
やや当てはまる	345	287	303	254
全く当てはまらない	12	12	16	24

	目標に向かってワクワクして集中できる	人付き合いをすることができる	譲り合ったり、意見の違いがあっても他者を認め、共に行動できる	他人と信頼関係を築くのは得意だと思う
あまり当てはまらない	88	66	27	123
とても当てはまる	171	210	263	157
やや当てはまる	301	280	277	274
全く当てはまらない	14	17	6	20

	相手の気持ちに寄り添うことができる	初めて会う人でもコミュニケーションがとれる	相手をバカにせず、敬い、尊重することができる	相手の気持ち、立場になって物事を考えることができる
あまり当てはまらない	39	159	32	39
とても当てはまる	243	171	267	258
やや当てはまる	279	211	267	266
全く当てはまらない	10	32	7	10

	自分は大切な人間だと思う	自分には価値がある	自分は前向きな人間だと思う
あまり当てはまらない	110	117	172
とても当てはまる	175	150	132
やや当てはまる	259	267	221
全く当てはまらない	30	36	46



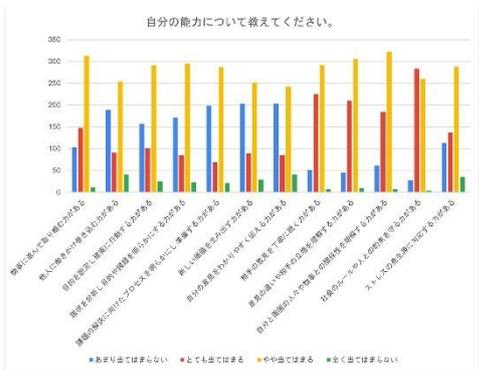
本調査の回答でどの項目も、「やや当てはまる」についての票数が一番多い。また大半の項目で「とても当てはまる」が二番目に票数が多い。自身を過小評価する学生が少ないことが分かる。

【問 21】 キャリアプラン(社会人基礎力)

	物事に進んで取り組む力がある	他人に働きかけ巻き込む力がある	目的を設定し確実に行動する力がある	現状を分析し目的や課題を明らかにする力がある
あまり当てはまらない	103	189	157	172
とても当てはまる	148	91	101	85
やや当てはまる	313	254	291	295
全く当てはまらない	12	41	25	23

	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力がある	新しい価値を生み出す力がある	自分の意見をわかりやすく伝える力がある	相手の意見を丁寧に聴く力がある
あまり当てはまらない	198	203	204	51
とても当てはまる	69	90	85	225
やや当てはまる	287	252	242	292
全く当てはまらない	22	29	41	8

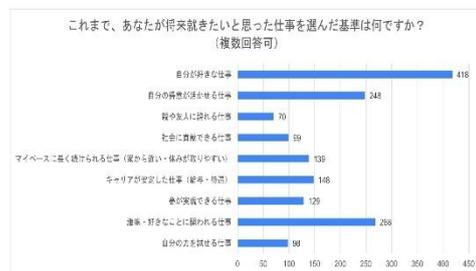
	意見の違いや相手の立場を理解する力がある	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力がある	社会のルールや人との約束を守る力がある	ストレスの発生源に対応する力がある
あまり当てはまらない	45	62	27	113
とても当てはまる	210	184	284	137
やや当てはまる	306	322	260	288
全く当てはまらない	10	8	4	35



本調査の回答で、ほとんどの設問について「やや当てはまる」の回答が一番多くなっている。また前項とは逆に「あまり当てはまらない」の回答が多かった設問も半数ほどあり、自身の能力については自己評価がやや低い傾向が見られる。

【問 22】 キャリアプラン(職業選択基準 1)

自分の力を試せる仕事	98
趣味・好きなことに関われる仕事	268
夢が実現できる仕事	129
キャリアが安定した仕事(給与・待遇)	148
マイペースに長く続けられる仕事(家から近い・休みが取りやすい)	139
社会に貢献できる仕事	99
親や友人に誇れる仕事	70
自分の得意が活かせる仕事	248
自分が好きな仕事	418



本調査の回答で多いものから順に、自分が好きな仕事 418 件、趣味・好きなことに関われる仕事 268 件、自分の得意が活かせる仕事 248 件であった。自身の好きや得意が感じられる仕事に興味を惹かれる学生が多いことが分かる。

【問 23】 キャリアプラン(職業選択基準 2)

●上記でチェックした仕事選びの基準についてなぜ思うのか簡単に教えてください。

※自由記述について、生成 AI(chatGPT4.0)にて、回答をまとめて整理をした(分類カテゴリと概算件数(目安数)を記載し多い順番で並べた。

※代表的な回答を「 」にて記載した。

1. 好きなこと・得意なことを活かして長く続けたい・楽しく働きたい:約 300 件

- ・全体の中で最も多く、この趣旨で繰り返し言及している回答が多数存在
- 「別に夢がないから好きなことを仕事にしたら楽しく人生を送れると思ったから」
- 「好きなことならしゅうちゅうできるから」
- 「自分の好きなことで仕事することによって、楽しく作業が出来ると思ったから。」
- 「好きなことを仕事にできた方が、頑張れると思ったから。」
- 「好きなことをして生きていけるということが僕にとって生きがいだと思う」

2. 安定・収入重視:約 100 件

- ・安定した収入、給料、お金に関する記述が見られる回答
- 「お金を稼ぐためだから」
- 「お金は仕事を探そうで一番大切なことだから」
- 「安定した職業につくため」
- 「給料が大事だから。楽しく働きたい。」
- 「安定した給料がいいから。」

3. 社会貢献・人の役に立ちたい:約 50 件

- ・「人を助けたい」「社会に貢献」などの記述が見られる回答
- 「社会貢献は好きだから」
- 「人を支える仕事がしたいから」
- 「誰かの役に立ったり、人を助けることが好きだから」
- 「社会に貢献しながら、自分の夢であることができるから」
- 「人の役に立ちたいから」

4. 昔からの夢・憧れ・目標:約 30 件

- ・「小さい頃からの夢」「昔から憧れていた」などの記述が見られる回答
- 「小さい頃からの夢だから。」
- 「昔からしている習い事を活かしたいから」
- 「実際に経験して夢になったから」
- 「昔からその職業に関心があったわけではないが…」
- 「子供の頃からやりたい仕事だったから。」

5. 家族・親の影響:約 10 件

- ・「親がその仕事をしている」「家族が応援」などの記述が見られる回答
- 「親が仕事をされていて関心を持ったから。」
- 「家族が応援してくれるから」
- 「親の仕事とかだとその仕事の良いところ悪いところ聞くことができるから」
- 「父、母、姉が働いて楽しそうだから。」
- 「親が自衛隊だったというのもあるので自衛隊に憧れ」

6. その他(直感・なんとなく等):約 10 件

- ・「なんとなく」「特になし」「勘」など明確な基準を示さない回答
- 「単純な人間だから」
- 「勘」
- 「特になし」
- 「わからない」
- 「なんとなく」

【問 24】 専門学校について(イメージ)

●あなたにとっての専門学校のイメージを教えてください。

※自由記述について、生成 AI(chat-GPT4.0)にて、回答をまとめて整理をした(分類カテゴリと概算件数(目安数)を記載し多い順番で並べた。

※代表的な回答を「 」にて記載した。

1 位:専門的なことを学べる・特化した分野を深く学ぶ:約 100 件

- ・「特定の分野を深く学べる場所」
- ・「専門的なことを深くまで学んでいくイメージ」
- ・「専門的な知識を学べる場所」
- ・「その専門のことだけを学ぶ」
- ・「一つのことを徹底的に学び、卒業後すぐに就職できる力を身に着ける場」

2 位:就職に有利・資格取得できる:約 50 件

- ・「就職で強い」
- ・「就職に直結した学びや支援を行ってくれる学校」
- ・「資格を取るための学習ができる。」
- ・「専門の技術を学ぶ場所で資格など取りやすそう。」
- ・「就職に必要な学校だと思います」

3 位:好きなこと・興味あることに集中・楽しそう:約 40 件

- ・「興味があることに今まで以上に取り組める」
- ・「好きなことをする学校」
- ・「自分が学びたいことを専攻する場」
- ・「自分の好きなことを大学よりも短期間で学んで早く就職することができる」ところ」
- ・「好きなことを極める」

4 位:お金がかかる・学費が高い:約 30 件

- ・「お金がたくさんかかる」
- ・「学費が高い」
- ・「お金が高そう」
- ・「お金がかかる」
- ・「お金がかかること」

5 位:短期間・短期集中で学べる:約 25 件

- ・「大学に比べ、短期間でより専門的な技術を学べる場所」
- ・「短期間で専門的なことを深く学べるところ。」
- ・「期間が短い。」
- ・「短い期間かつ一つ一つの技術がとても丁寧」
- ・「学ぶ期間が短いけど、深く学べる。」

6 位:難しそう・大変そう・忙しそう:約 20 件

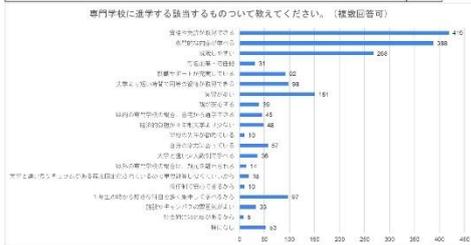
- ・「難しそう」
- ・「大変」
- ・「辛く厳しい」
- ・「忙しい」
- ・「大変そう」

7 位:わからない・特になし:約 10 件

- ・「わからない」
- ・「わからない。」
- ・「わからない」
- ・「特になし」
- ・「よくわからない」

【問 25】 専修学校について(価値 1)

資格や免許が取得できる	419
専門的な内容が学べる	388
就職しやすい	268
有名企業・初任給	31
就職サポートが充実している	92
大学より短い時間で同等の資格が取得できる	98
実習が多い	151
親が安心する	39
県内の専門学校の場合、自宅から通学できる	45
経済的負担が4年制大学より少ない	48
学校の先生が熱めている	10
自分の学力に合っている	57
大学と違い少人数制で学べる	36
県外の専門学校の場合は、親元を離れられる	14
大学と違いカリキュラムがある程度固定化されているので単位計算しなくていいから	18
担任制で安心できるから	10
1年生の時から好きな科目を多く集中して学べるから	97
施設やキャンパスの雰囲気が良い	33
社会的に知名度があるから	8
特になし	53



本調査の回答で多いものから順に、「資格や免許が取得できる」419件、「専門的な内容が学べる」388件、「就職しやすい」268件であった。他項目と票数が大きく開いていることから、専門学校に期待することはどの学生もこの3つの回答をする傾向が強く見られた。

【問 26】 専修学校について(価値 2)

資格や免許が取得できる	459
専門的な内容が学べる	396
就職しやすい	274
有名企業・初任給	27
就職サポートが充実している	64
大学より短い時間で同等の資格が取得できる	57
実習が多い	119
親が安心する	34
県内の専門学校の場合、自宅から通学できる	23
経済的負担が4年制大学より少ない	32
学校の先生が熱めている	8
自分の学力に合っている	39
大学と違い少人数制で学べる	24
県外の専門学校の場合は、親元を離れられる	5
大学と違いカリキュラムがある程度固定化されているので単位計算しなくていいから	11
担任制で安心できるから	6
1年生の時から好きな科目を多く集中して学べるから	64
施設やキャンパスの雰囲気が良い	18
社会的に知名度があるから	13
特になし	55



本調査の回答で多いものから順に、資格や免許が取得できる 459 件、専門的な内容が学べる 396 件、就職しやすい 274 件であった。前項と同じ結果となり、専門学校に対するイメージと価値を同一視していることがわかった。

【問 27】 専修学校について(課題点 1)

資格や免許が取得できる	45
専門的な内容が学べる	32
就職しやすい	49
有名企業・初任給	63
就職サポートが充実している	15
大学より短い時間で同等の資格が取得できる	28
実習が多い	43
親が安心する	109
県内の専門学校の場合、自宅から通学できる	38
経済的負担が4年制大学より少ない	45
学校の先生が熱めている	82
自分の学力に合っている	47
大学と違い少人数制で学べる	58
県外の専門学校の場合は、親元を離れられる	66
大学と違いカリキュラムがある程度固定化されているので単位計算しなくていいから	39
担任制で安心できるから	48
1年生の時から好きな科目を多く集中して学べるから	24
施設やキャンパスの雰囲気が良い	38
社会的に知名度があるから	84
特になし	222



本調査の回答で多いものから順に、「特になし」222件、「親が安心する」109件、「社会的に知名度があるから」84件であった。進路希望が大学と専門学校でほぼ同数であったことから、多くの学生は専門学校進学に対して、逆にメリットを感じている高校生が多いことが分かる。

【問 28】 専修学校について(課題点 2)

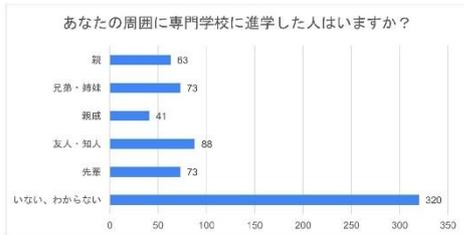
資格や免許が取得できる	52
専門的な内容が学べる	36
就職しやすい	56
有名企業・初任給	82
就職サポートが充実している	29
大学より短い時間で同等の資格が取得できる	49
実習が多い	64
親が安心する	156
県内の専門学校の場合、自宅から通学できる	63
経済的負担が4年制大学より少ない	64
学校の先生が熱めている	141
自分の学力に合っている	55
大学と違い少人数制で学べる	97
県外の専門学校の場合は、親元を離れられる	123
大学と違いカリキュラムがある程度固定化されているので単位計算しなくていいから	78
担任制で安心できるから	99
1年生の時から好きな科目を多く集中して学べるから	36
施設やキャンパスの雰囲気が良い	71
社会的に知名度があるから	171
特になし	206



本調査の回答で多いものから順に、「特になし」206件、「社会的に知名度があるから」171件、「親が安心するから」156件であった。「メリットがない」と思わない学生が一番多いことが分かると同時に、他項目についても親や先生等他者に関する項目についてメリットのなきを感じる学生が多い。

【問 29】 専門学校について(進学環境 1)

親	63
兄弟・姉妹	73
親戚	41
友人・知人	88
先輩	73
いない、わからない	320



本調査の回答で多いものから順に、「いない、わからない」320件、「友人・知人」88件、「兄弟・姉妹・先輩」73件であった。高校卒業者のうち、専門学校進学の全国平均は15%を超えているが、本調査の回答では「いない、わからない」とする回答が一番多かった。認知度や周知度が課題であると考えられる。

【問 30】 専門学校について(進学環境 2)

●専門学校がもっとこうなったら進学しやすいと思うことを書いて下さい。
※自由記述回答を前回同様に類似の内容でまとめ、多い順に並べた。

1位:学費・金銭面の負担軽減を望む:約100件

- 「学費が安くなったら進学しやすい」
- 「入学金や授業料を安くしてほしい」
- 「金銭的な負担が少なければ行きやすい」
- 「奨学金や補助金などサポートを増やしてほしい」
- 「お金がかからないようにしたい」

2位:特になし・わからない:約80件

- 「特になし」
- 「わからない」
- 「分からない」
- 「ない」
- 「考えが見つかりませんでした」

3位:宣伝・情報発信・知名度向上を求める:約30件

- 「もっと宣伝する」
- 「CMやSNSなどで呼びかける」
- 「パンフレットで大学との違いを詳しく説明」
- 「専門学校の特徴をもっと知らせる」
- 「PRを強化して遊びやすくする」

4位:通いやすさ・立地改善:約20件

- 「駅が近いところがあれば通いやすい」
- 「家の周りに建てる」
- 「都会だけでなく田舎にも増やす」
- 「近くにあると進学しやすい」
- 「アクセスしやすい場所」

5位:カリキュラム・学習内容の明確化・多様化:約20件

- 「大学とどう違うのかわかるようにしてほしい」
- 「具体的な学習内容が知りたい」
- 「幅広い分野が学べると進学しやすい」
- 「実習を増やす」
- 「専門知識以外の社会的な知識も学べるように」

6位:就職・将来性の向上:約15件

- 「給料が高くなる・大学と差を無くす」
- 「就職しやすくする・就職先を明確に」
- 「就職率100%を目指すなど将来性を示す」

7位:その他(学校名のわかりやすさ、サークル、雰囲気、人間関係など):約15件

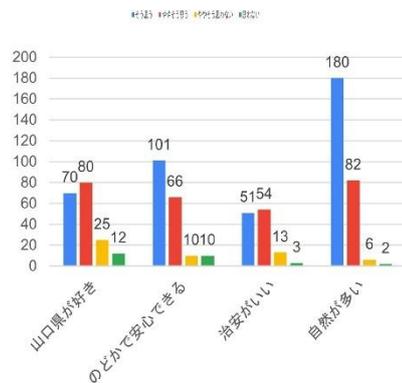
- 「学校名をわかりやすく」
- 「サークルを増やす」
- 「人間関係を築きやすくする」
- 「雰囲気を良くする広告」
- 「待遇を良くする」

以上のように「学費・金銭面への要望」が最も多く、「特になし・わからない」が次点となり、その後に「宣伝・情報発信」「通いやすさ」「カリキュラムの明確化・多様化」「就職・将来性の改善」などが続く傾向が見られます。

【問 31】 山口県について(イメージ 1)

	山口県が好き	のどかで安心できる	治安がいい	自然が多い
そう思う	70	101	51	180
ややそう思う	80	66	54	82
ややそう思わない	25	10	13	6
思わない	12	10	3	2

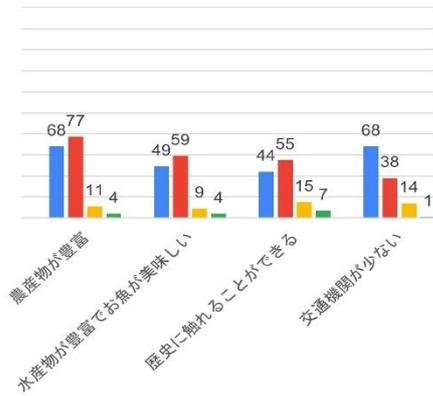
山口県についてのイメージを4つの中で選んで下さい。



	農産物が豊富	水産物が豊富で お魚が美味しい	歴史に触れること ができる	交通機関が少な い
そう思う	68	49	44	68
ややそう思う	77	59	55	38
ややそう思わない	11	9	15	14
思わない	4	4	7	1

山口県についてのイメージを4つの中で教えて下さい。

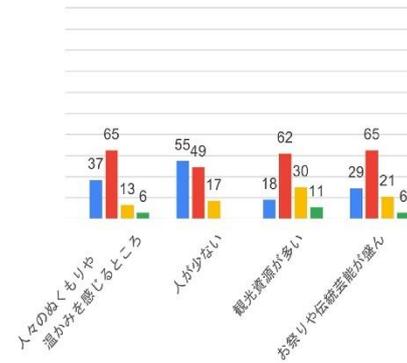
■そう思う ■ややそう思う ■ややそう思わない ■思わない



	人々のぬくもりや 温かみを感じると ころ	人が少ない	観光資源が多い	お祭りや伝統芸能 が盛ん
そう思う	37	55	18	29
ややそう思う	65	49	62	65
ややそう思わない	13	17	30	21
思わない	6	0	11	6

山口県についてのイメージを4つの中で教えて下さい。

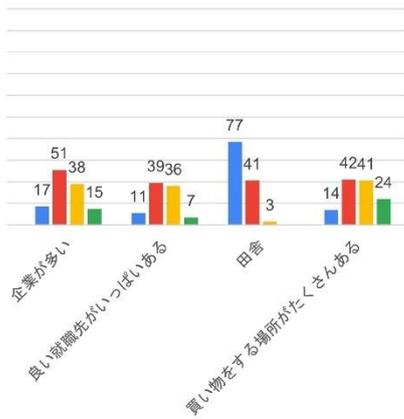
■そう思う ■ややそう思う ■ややそう思わない ■思わない



	企業が多い	良い就職先が いっぱいある	田舎	買い物をする場 所がたくさんある
そう思う	17	11	77	14
ややそう思う	51	39	41	42
ややそう思わない	38	36	3	41
思わない	15	7	0	24

山口県についてのイメージを4つの中で教えて下さい。

■そう思う ■ややそう思う ■ややそう思わない ■思わない



本調査の回答で、自然の豊かさやのどかさを感じる学生が多いことが分かった。同時に他設問と比べて企業や商業施設に関する設問に「ややそう思わない」との回答が集中している。

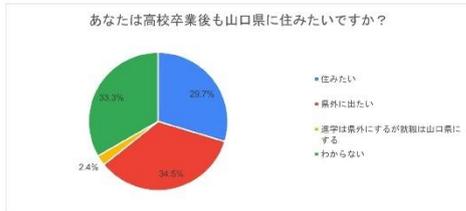
【問 32】 山口県について(イメージ 2)

●その他、山口県についてのイメージを教えてください。

- 1位:田舎・自然豊か:約 110 件
・「田舎」「自然が多い」「山が多い」「空気が美味しい」などを含む
- 2位:何も無い・遊べる場所が少ない:約 60 件
・「何も無い」「遊ぶ場所が少ない」「商業施設不足」など
- 3位:治安が良く人が優しい:約 30 件
・「治安が良い」「人が優しい」「人柄が良い」など
- 4位:落ち着く・のどか・平和:約 40 件
・「のどか」「落ち着く」「平和」「住みやすい」など
- 5位:交通・買い物などの不便さ:約 30 件
・「交通機関が少ない」「電車が少ない」「不便」など
- 6位:歴史・政治的背景:約 15 件
・「総理大臣が多い」「歴史が多い」「吉田松蔭」など
- 7位:特になし・わからない:約 10 件
・「特になし」「ない」「わからない」など

【問 33】 山口県について(居住可否)

住みたい	171
県外に出たい	199
進学は県外にするが就職は山口県にする	14
わからない	192



本調査の回答で多いものから順に、県外に出たい199件(34.5%)、わからない192件(33.3%)、住みたい171件(29.7%)であった。上位三つの項目について大きく票が分かれることはなかった。

【問 34】 山口県について(居住可否理由)

●あなたは高校卒業後も山口県に住みたいですか？
※回答を山口県内外への志向や理由ごとに分類し、多い順に積算票数を示した。

- 1位:まだ決まっていない/わからない:約120件**
-「まだ決めていない」「わからない」「特になし」「まだ考えていない」
-将来の進路(県内・県外)や就職先を決めていない、判断がつかない回答が最も多い。
- 2位:県外に出たい(都会・新天地志向):約80件**
-「都会に行きたい」「他の県に行って色々学びたい」「広い世界を見たい」
-都会や県外で新たな経験や刺激、より多様な職業・学びの機会を求める声。
- 3位:地元に残りたい(県内志向):約60件**
-「地元から出たくない」「住み慣れて安心」「親元を離れたくない」
-安定・安心・家族が近いなど、地元定着を希望する回答。
- 4位:県外に出る方が良い(より良い環境・就職先重視):約50件**
-「県外の方が仕事多そう」「県外の方が便利・物が多い」
-より発展した場所での就職や利便性、職業選択肢を求める声。
- 5位:山口県は何もない・不便・物足りない:約40件**
-「山口県は何もない」「飽きる」「不便」
-地元や山口県の環境に不満を抱き、外へ出ることを検討する回答。
- 6位:経済的理由(下宿・一人暮らしの費用、生活費):約30件**
-「県外に出るとお金がかかる」「一人暮らしは費用が負担」
-経済的観点から県内外を検討する声(「家から通える範囲で」などの理由も含む)
- 7位:その他個別要因:約20件**
-「親に恩返ししたい」「福岡や他県に知り合いがいる」「海外・別地域出身なので特に山口に執着ない」
-特殊な事情や個人的な背景による回答。
-以上から、最も多いのは「未定・わからない」とする回答で、次いで「県外志向(都会・新天地)」「地元定着志向」「利便性・就職先重視で県外選好」「地元への不満」「経済的理由」などが続く構成です。

【問 35】 ITコミュニケーションツール(利用 SNS 1)

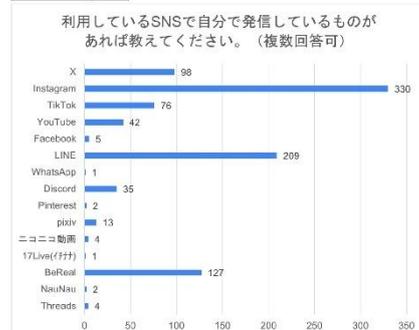
X	325	ニコニコ動画	51
Instagram	501	Pococha	1
TikTok	435	Voicy	1
YouTube	534	Snapchat	11
Facebook	34	SHOWROOM	2
LinkedIn	4	17Live(fff)	2
LINE	540	Lemon8	45
WhatsApp	10	BeReal	199
Discord	116	NauNau	5
Pinterest	102	Threads	41
pixiv	95		



本調査の回答で多いものから順に、LINE(540件)、YouTube(534件)、Instagram(501件)となっている。また TikTokやXも利用者が多いが、その他、SNS等の媒体も幅広く利用されていることが分かった。

【問 36】 ITコミュニケーションツール(発信 SNS)

X	98
Instagram	330
TikTok	76
YouTube	42
Facebook	5
LINE	209
WhatsApp	1
Discord	35
Pinterest	2
pixiv	13
ニコニコ動画	4
17Live(fff)	1
BeReal	127
NauNau	2
Threads	4

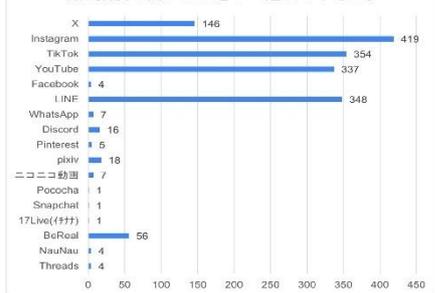


本調査の回答で多いものから順に、Instagram(330件)、LINE(209件)、BeReal(127件)となっている。前設問と比べると回答数自体が大きく減っており、多くは情報受信者として利用している。

【問 37】 ITコミュニケーションツール(利用 SNS 2)

X	146
Instagram	419
TikTok	354
YouTube	337
Facebook	4
LINE	348
WhatsApp	7
Discord	16
Pinterest	5
pixiv	18
ニコニコ動画	7
Pococha	1
Snapchat	1
17Live(17th)	1
BeReal	56
NauNau	4
Threads	4

利用頻度の高いSNSを3つ選んで下さい。



本調査の回答で多いものから順に、Instagram419件、TikTok354件、LINE348件であった。各媒体の利用者数が多いものに回答が集中している。

【問 38】ITコミュニケーションツール(利用 SNS その他)

●その他、選択されていないSNSで使用しているものがあれば記入ください
※以下は「ない」「なし」「特になし」「わからない」「ありません」など、新たな SNS 名を挙げていない回答を除いた上で、重複(末尾に数字があるもの)をまとめた SNS(サービス名)の一覧。

・記載のあった SNS・アプリ名(重複・類似含む1つに統合)

- BeautyPlus(1)
- BlueSky(1)
- line 漫画(1)
- Mirrativ(ミラティブ)(1)
- Netflix(2)
- spoon(1)
- Strava(ストラバ)(1)
- WePlay(1)
- Weverse(1)
- whoo(3)
- YouTube(ユーチューブ)(1)
- カラスタ(1)
- ステラミー(1)
- パラレル(1)
- ビッコマ(1)
- メルカリ(1)
- ミクチャ(1)
- ラインミュージック(Line Music)(1)
- ツイキャス(ツイさす)(1)

以上が、その他回答で挙げた SNS・アプリ名である(回答票の原文をそのまま掲載している)。

【問 39】 今後について(企業説明会への興味)

●今後、山口県の企業説明会がありますか参加してみたいですか? また、何か特典があれば参加しますか?

※自由提示された回答を「参加意欲」と「特典有無」などの観点で大まかな傾向に分類し、概算の票数を示した(原文から読み取れる大まかな目安であり、正確なカウントではありません。また、1 回答に複数のニュアンスがある場合は主たる内容で分類しています。)

1. 主な分類カテゴリ:

1. 特典がなくても参加したい:約60件
 - 「特典がなくても参加する」「参加する」「参加したい」「参加してみたい」などの明確な肯定
2. 特典があれば参加したい:約 80 件
 - 「特典があれば参加したい」「特典があると行く気がする」
 - (特典例としては、QUO カード、図書カード、お菓子、ギフトカード、スタバカード、交通費補助などが挙げられる)
3. 興味がある企業・分野なら参加したい / 条件付き参加:約50件
 - 「興味があれば参加」「自分の関心ある職種なら」「有名企業が来るなら」など、条件付きで参加意欲を示す回答
4. 参加したくない / 参加しない:約120件
 - 「参加しない」「参加したくない」「思わない」「いいえ」など明確な否定
5. わからない・未定・今は考えていない:約50件
 - 「わからない」「今は大丈夫」「まだ分からない」「考えていない」など

2. 特典の具体例の言及数:約 40 件

- 「QUO カード」「図書カード」「お菓子」「スタバカード」「ギフトカード」「交通費補助」「実習体験」などの具体的特典例を挙げた回答

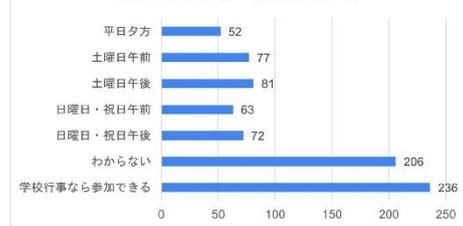
3. 分析

・「特典があれば参加」派や「興味・条件次第で参加したい」派が比較的多い一方で、「参加しない」と答える否定的回答も多く見られます。「特典なしでも参加する」と答える純粋な肯定派はそれらと比べてやや少なめであった。また「わからない・未定」の層も一定数存在した。特典の具体例としては金券系(QUO カード、図書カード、ギフトカードなど)やお菓子、交通費補助などが多く挙げられた。

【問 40】 今後について(企業説明会の開催日アンケート)

平日夕方	52
土曜日午前	77
土曜日午後	81
日曜日・祝日午前	63
日曜日・祝日午後	72
わからない	206
学校行事なら参加できる	236

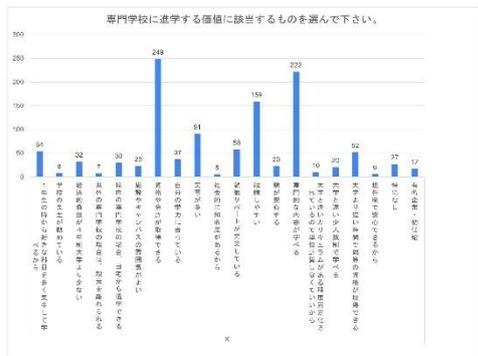
企業の説明会など参加しやすい日があれば教えてください。(複数回答可)



本調査の回答で多いものから順に、学校行事なら参加できる 236 件、わからない 206 件、土曜日午後 81 件であった。説明会参加にあたり自ら時間を調整するより学校の行事に合わせた方が動きやすいという意向が強い。

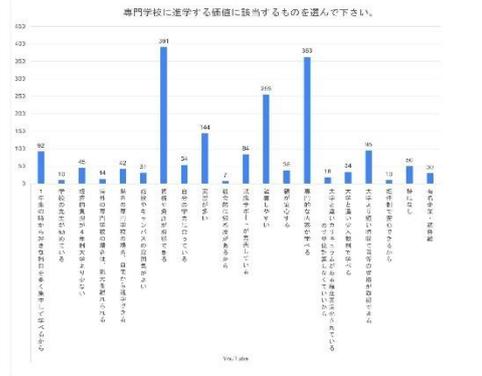
【クロス集計①】 SNS 利用状況 × 専門学校へのイメージ(進学する価値)

●使用している SNS の利用状況や種類を調べ専門学校に対するイメージが異なるかを分析した。各専門学校の広報等に役立てるデータとなる可能性を示している。



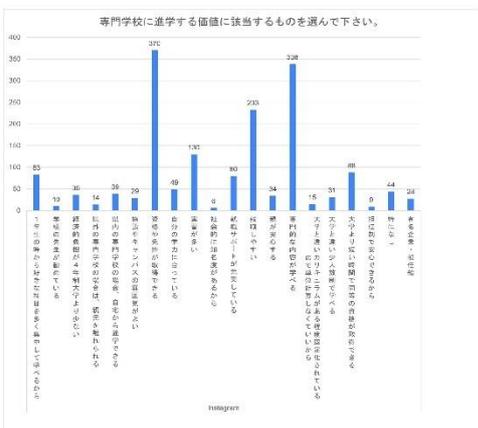
・X(エックス)の利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 249 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 222 票、「就職サポートが充実している」が 159 票である。一方、「親が安心する」は 23 票、「経済的負担が少ない」は 30 票にとどまり、専門スキルやサポート面が高校生にとって強いイメージであることが示された。



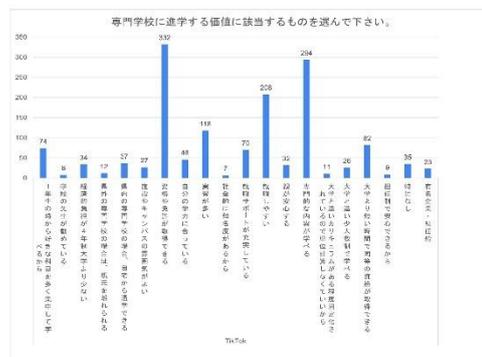
・YouTubeの利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 391 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 363 票、「就職サポートが充実している」が 255 票である。一方、「親が安心する」は 45 票、「経済的負担が少ない」は 45 票にとどまった。YouTube 利用者にとっては、資格取得や専門分野の学習、就職支援が専門学校に対する強い価値として捉えられていることが分かった。



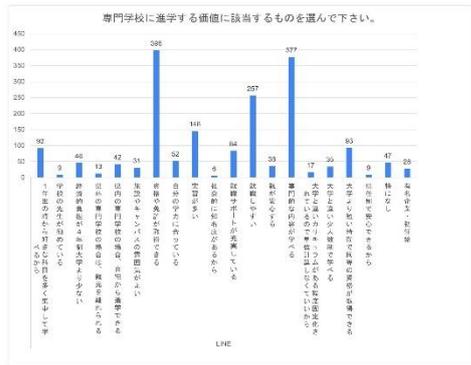
・Instagramの利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 370 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 338 票、「就職サポートが充実している」が 233 票である。一方、「親が安心する」は 34 票、「経済的負担が少ない」は 36 票にとどまった。Instagram 利用者では、資格取得や専門知識の習得、就職サポートへの関心が高く、他の価値よりも実践的・具体的な進学理由が重視されている傾向が見られた。



・TikTokの利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 332 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 294 票、「就職サポートが充実している」が 208 票である。一方、「親が安心する」は 32 票、「経済的負担が少ない」は 34 票にとどまった。TikTok 利用者では、資格取得や専門知識の習得に加え、就職支援に対する関心も比較的高く、進学において実践的な価値が重視される傾向が示された。



【クロス集計①: 考察】

「利用している SNS を教えてください」の回答が多かった上位 5 つの項目（「X」「Instagram」「TikTok」「YouTube」「LINE」）について、「専門学校に進学する価値に該当するもの」をクロス集計した結果、どの SNS でも学生が重視する価値は大きく変わらなかった。

「資格や免許が取得できる」はすべての SNS で最も多く票を集め、特に LINE(398 票)と YouTube(391 票)では高い関心が示された。次いで「専門的な内容が学べる」も各 SNS で上位に位置し、LINE(377 票)、X(222 票)などで支持が高かった。また「就職サポートが充実している」は、TikTok(208 票)や LINE(257 票)で注目され、実践的支援に対する期待がうかがえる。

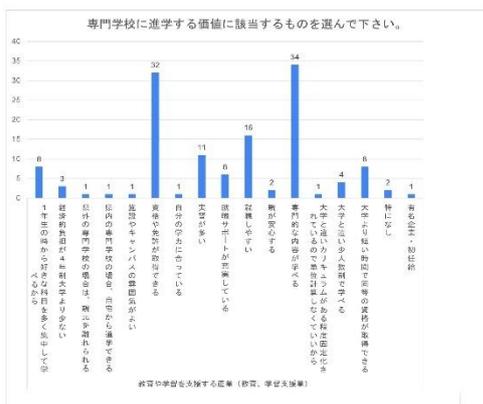
一方で、「親が安心する」や「経済的負担が少ない」などは全体的に票数が少なく、具体的な専門スキルや資格取得、就職サポートが学生にとって専門学校進学のための重要な価値として捉えられていることが明らかとなった。これらの結果から、SNS 利用者層に関わらず、専門学校の実践的かつ具体的な価値が重視されていることが示唆された。

・LINE の利用状況と専門学校に対するイメージ

「資格や免許が取得できる」が 398 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 377 票、「就職サポートが充実している」が 257 票である。一方、「親が安心する」は 36 票、「経済的負担が少ない」は 46 票にとどまった。LINE 利用者では、資格取得や専門知識の習得が圧倒的に重視され、次いで就職支援が進学の大きな動機となっていることが示された。

【クロス集計②】 希望職業 × 専門学校のイメージ

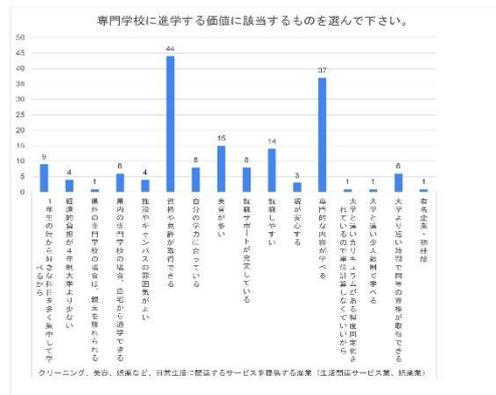
●特定の職業を志望する生徒がどのように専門学校を見ているかを理解する。



・希望職業(教育・学習支援系) × 専門学校のイメージ

教育や学習支援系の職業を希望する生徒では、「専門的な内容が学べる」が 34 票と最も多く、次いで「資格や免許が取得できる」が 32 票となった。これは、教育分野への進学において専門知識や資格取得が重要視されていることを示している。一方、「就職サポートが充実している」は 16 票と中程度の関心を集め、「実習が多い」が 11 票となったことから、実践的な学びも一定の需要があることが分かる。

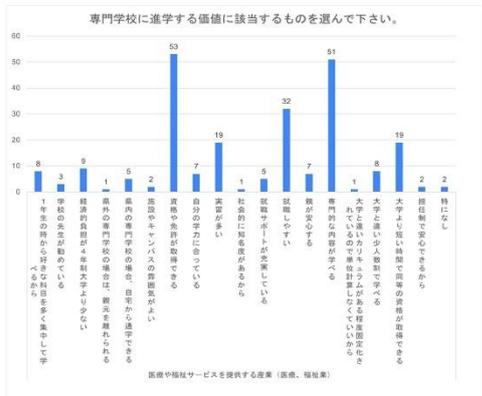
一方で「経済的負担が少ない」や「施設やキャンパスの雰囲気が良い」は 1 票にとどまり、学びの内容や資格の取得が進学動機として優先される傾向が顕著に見られた。教育や学習支援分野においては、専門学校が「学びの質」と「資格取得」に強みを示すことで、志望者のニーズに適切に応える情報提供が求められる。



・希望職業(生活関連サービス・娯楽業) × 専門学校のイメージ

生活関連サービスや娯楽業を希望する生徒では、「資格や免許が取得できる」が 44 票で最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 37 票となった。これは、サービス業や美容、娯楽分野において資格取得や専門知識が重要視されていることを示している。また、「実習が多い」は 15 票、「就職しやすい」は 14 票と、実践的なスキル習得や就職のしやすさも評価されている。

一方で、「経済的負担が少ない」や「大学より短い時間で資格が取得できる」はそれぞれ 4 票と少なく、費用や期間よりも専門性や資格が求められることが分かる。生活関連サービス・娯楽業を目指す生徒に対しては、資格取得のサポートや実践的な学びの充実度を強調することで、専門学校の魅力を効果的に伝えられると考えられる。



【クロス集計②: 考察】

「将来の就職先として現在どんな業種を考えていますか」に対する回答の上位三項目（「医療・福祉」「生活関連サービス業・娯楽業」「教育・学習支援業」と）専門学校に進学する価値に該当するものを選んでください」をクロス集計した。いずれの業種でも「専門的な内容が学べる」と「資格や免許が取得できる」が最も多く票を集め、専門学校が提供する具体的なスキルや資格取得の重要性が共通して認識されていることが分かった。

「医療・福祉」では「資格や免許が取得できる」(53 票)に加え、「大学より短い時間で資格が取得できる」(19 票)が他の業種より高い割合で選ばれ、短時間で実務に就ける点が特に評価されている。また「就職しやすい」(32 票)も高く、安定した職業への期待が示された。

「生活関連サービス業・娯楽業」では「資格や免許が取得できる」(44 票)や「専門的な内容が学べる」(37 票)が突出しており、特定分野の専門スキル習得が求められている。一方、「就職しやすい」(14 票)や「実習が多い」(15 票)も選ばれ、実践的な学びが重視されていることが分かる。「教育・学習支援業」では「専門的な内容が学べる」(34 票)と「資格や免許が取得できる」(32 票)が突出しており、学習分野でも知識や資格取得が進学理由として重要視されている。一方で「実習が多い」(11 票)が一定の票数を集めており、実務経験の価値も認識されている。

総じて、専門学校は希望職業に応じた「資格取得」「実践的な学び」へのニーズに応える場として位置づけられており、各業種に合わせた情報提供が求められる結果となった。

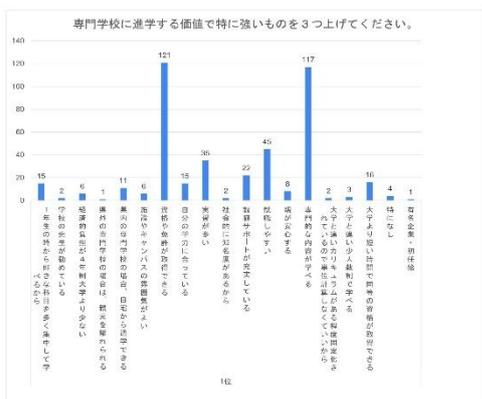
・希望職業(医療・福祉業) × 専門学校のイメージ

医療・福祉業を希望する生徒では、「資格や免許が取得できる」が 53 票と最も多く、次いで「専門的な内容が学べる」が 51 票となった。医療や福祉分野では、資格の取得や専門知識の学びが進学の大きな動機となっていることが示された。また、「就職しやすい」は 32 票で、実務に直結する職業への就職支援に高い期待が寄せられていることが分かる。

一方、「実習が多い」が 19 票を集め、実践的な学びの需要も高いことがうかがえる。その他、「大学より短い時間で資格が取得できる」も同じく 19 票であり、効率的に資格取得を目指す点が評価されている。医療・福祉分野を志望する生徒に対しては、専門学校が提供する資格取得支援、実践的な学び、そして就職のしやすさを具体的に伝えることで、進学意欲をさらに高められると考えられる。

【クロス集計③】 進学希望 × 就職に有利と思う要因

●専門学校に進学先として選ぶ理由が就職の有利さに関係しているかを分析。



【クロス集計③: 考察】

進学希望×就職に有利と思う要因の分析について、専門学校を第一希望とする学生にとっては、資格取得や専門的な学習を通じて、将来の職業に直結するスキルを得ることが最優先されていると考えられる。また「就職しやすい」と「実習が多い」の票数に大きな差が見られなかったことから、実践経験の豊富さが就職のしやすさに直結するという認識が共有されていることが示唆される。

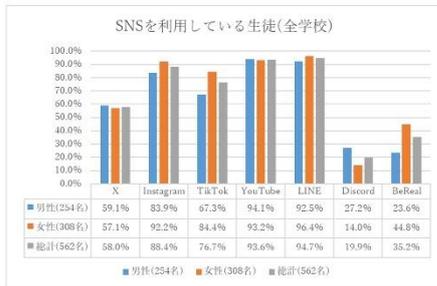
さらに、票数は少ないものの「大学と違い少人数制で学べる」(16 票)や「大学より短い時間で資格が取得できる」(3 票)といった点も挙がっており、効率的かつ個別に学びやすい環境が専門学校の魅力として評価されている。

総じて、専門学校を希望する学生は、資格や専門知識の取得、実践的な学びを通じて、即戦力として働く準備ができる点を強く価値として感じていることが明らかとなった。これらの要素をさらに強調し、進学後のキャリアイメージを具体的に伝えることで、学生の志望意欲を一層高めることが期待される。

「進学先として希望順位をつけてください」の回答で「専門学校」を一位に選んだ学生と「専門学校に進学する価値で特に強いものを3つ上げてください」の回答をクロス集計した結果、「資格や免許が取得できる」が 121 票で最も多く、次いで「大学と違い少人数制で学べる」が 117 票とほぼ同数で上位を占めた。これに続いて「就職しやすい」が 45 票、「実習が多い」が 36 票と、実践的な学びや就職支援が進学の動機として重視されていることが分かった。

【特別集計：SNS 分析調査について】

SNS を利用している実態について高校別に集計したところ、以下の通りの SNS 利用率となった。



このグラフは、全学校(A高校・B高校を含む)における生徒の SNS 利用状況を示しており、全体的な傾向と男女差がより明確に浮き彫りになっている。

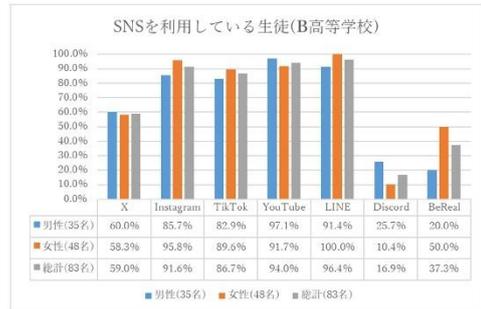
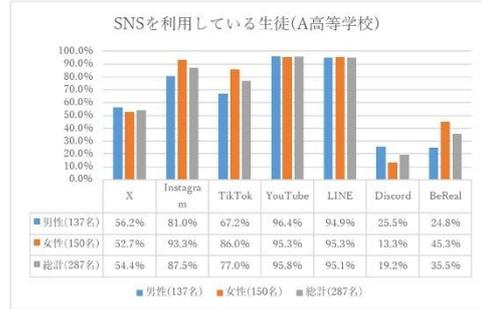
まず、YouTube と LINE は依然として利用率が非常に高く、全体で 93.6%(YouTube)および 94.7%(LINE)と、日常的な利用が定着していることが分かる。男女差もほとんどなく、世代を超えて広く浸透している SNS といえる。

一方で、Instagram と TikTok は女性の利用率を大きく上回っている。Instagram では男性**83.9%に対し、女性は 92.2%と高く、TikTok も男性 67.3%に対し女性 84.4%**と差が大きい。これらの結果は、ビジュアル中心の SNS が女性に人気である傾向が反映されている。また、X(旧 Twitter)の利用率は全体で 58.0%と低めであり、他の SNS と比べてやや控えめな印象である。男女差はほとんど見られず、特定の目的で利用している層が多いと考えられる。

BeReal に関しては、女性の利用率が男性の約 2 倍と顕著な差があり、男性**23.6%に対し女性は 44.8%である。女性の間で新しい SNS や日常共有型のアプリが人気であることがうかがえる。

さらに、Discord は男性の利用率が女性を大きく上回り、男性**27.2%に対し女性 14.0%である。ゲームやコミュニティ向けの用途が男性を中心に利用されていることが明確である。

総括すると、LINE や YouTube は男女問わず高い利用率を維持している一方で、Instagram や TikTok、BeReal は女性の利用が目立つ。また、Discord のように男性の利用が多い SNS も存在し、性別や用途に応じた SNS の使い分けが行われていることが分かる。



A高校とB高校の SNS 利用状況を比較すると、全体的な傾向には類似点が見られるものの、いくつかの興味深い違いが明らかである。

Instagram と TikTok では、両校とも女性の利用率が男性を大きく上回っている。A高校では Instagram の利用率が女性 93.3%、男性 81.0%であったのに対し、B高校では女性 95.8%、男性 85.7%とやや高い傾向である。TikTok も A高校より B高校の方が男女共に利用率が高く、B高校の方が SNS への依存度が高い可能性が伺える。

YouTube と LINE の利用率は両校とも非常に高く、男女差はほとんど見られない。A高校の YouTube 利用率は 95.8%、LINE は 94.0%とわずかな差である。一方、LINE については B高校の女性が 100%利用している点が特徴的であり、日常的な連絡手段としての活用がより浸透していると考えられる。

BeReal に関しては、両校とも女性の利用率が高いが、B高校では女性が 50.0%と A高校(45.3%)よりもさらに高い結果となっている。男性の利用は両校とも低く、SNS 利用における男女の志向の違いが反映されていると考えられる。

また、Discord の利用は A高校と同様に男性が中心であるが、B高校では女性の利用率が 10.4%とさらに低い数値となっている。これは、ゲームやコミュニティ向けの SNS が男性を中心に支持されていることを示している。

全体として、B高校の生徒は A高校よりも Instagram や TikTok の利用が積極的であり、特に女性の SNS 利用率が顕著に高い点が特徴である。LINE や YouTube の安定した利用も含め、B高校では日常生活に SNS がさらに深く浸透している傾向が見られる。

【A高等学校の学科別 SNS 利用率】

一番回答数が多かった A高校にて、「学科別」にて SNS の集計を行った。

	X	Instagram	TikTok	YouTube	LINE	Discord	BeReal
その他(高専・専修・わからない等)	61.3%	85.8%	78.3%	95.3%	94.8%	25.0%	33.0%
工業系学科	59.0%	82.0%	92.0%	100.0%	92.0%	0.0%	9.0%
商業・ビジネス系学科	63.0%	88.4%	83.7%	97.7%	97.7%	23.3%	41.9%
情報系学科	61.5%	100.0%	92.3%	100.0%	100.0%	15.4%	15.4%
総合学科	62.0%	94.7%	99.5%	94.7%	94.7%	15.8%	52.6%
芸術科	47.2%	85.8%	68.9%	95.3%	95.3%	13.2%	34.9%
総計	64.3%	87.2%	78.8%	95.8%	95.2%	19.4%	35.2%

この表から、学科別の SNS 利用傾向には顕著な差異が見られる。主なポイントを以下にまとめる。

●YouTube と LINE の全体的な普及

YouTube(95.8%)と LINE(95.2%)は、どの学科でも極めて高い利用率を示している。特に LINE はコミュニケーションツールとして必須の地位を確立しており、学科間の差異が少ない点が特徴である。

●Instagram の学科間差

Instagram は全体で**87.2%と高い利用率を示しているが、学科ごとに微妙な差が見られる。例えば、ある学科では 100.0%に達している一方で、別の学科では 50.0%**と極端に低い数値も確認される。これは、ビジュアル共有型 SNS に対する興味や利用シーンが学科ごとに異なることを示唆している。

●TikTok の利用傾向

TikTok は全体で**76.8%の利用率だが、学科によってばらつきが見られる。高い学科では 89.5%に達する一方、低い学科では 50.0%**と半数にとどまるケースもある。エンターテインメントや短尺動画への関心が、学科ごとに異なる可能性がある。

●X(旧 Twitter)の利用率

X は全体で**54.3%と他の SNS と比較してやや低めであるが、学科によって利用率は 61.3%から 47.2%**と差が出ている。情報収集やニュース、趣味の発信といった用途に対するニーズが学科ごとに異なることが考えられる。

●BeReal と Discord の大きなばらつき

BeReal は一部の学科で**52.6%と高い利用率を示す一方、別の学科では 0.0%とまったく利用されていないケースもある。同様に、Discord も特定の学科では 25.5%に達するが、他の学科では 0.0%**である。これは、SNS の用途(リアルな日常共有やゲームコミュニティ)への関心や必要性が学科ごとに大きく異なるためであると考えられる。

●総括

学科別の SNS 利用状況には明確な差があり、LINE や YouTube のように全学科で高い普及率を示す SNS もあれば、Instagram や TikTok のように学科によって大きな差が生じる SNS も存在する。特に BeReal や Discord は学科ごとの興味・関心の違いが顕著に反映されており、学科ごとのライフスタイルや SNS 利用目的が異なることが示唆される。

4. 講評

(1) 調査概要

本調査は、山口県内の高校生を対象に、進路選択に関する意識を詳細に調査したものです。質問項目は、進路希望、進学先、将来のキャリア、専門学校へのイメージ、山口県へのイメージなど多岐にわたっており、高校生たちの進路選択に関する深い理解を得ることを目的とした。

(2) 主要な傾向と考察

・進路選択の多様化と地域への意識
・進学希望：進学希望者が全体の半数以上を占め、大学、専門学校、短大への進学を検討している。
・進学先：県内と県外の進学を希望する割合がほぼ同数であり、地元への愛着と同時に、より広い世界へ羽ばたきたいという意欲も強いことが伺える。
・将来のキャリア：医療・福祉、美容、IT など、多岐にわたる分野への関心がみられる。また、具体的な職業名まで回答している学生もあり、将来像を明確に描いている学生が多いことがわかる。

(3) 専門学校への期待と不安

・専門学校への期待：専門学校は、短期間で専門的な知識やスキルを習得できる点、就職に強い点が評価されている。
・専門学校への不安：一方で、専門学校に関する情報不足や、大学との比較における優位性について疑問を持つ学生も一定数存在する。

(4) 山口県へのイメージ

・地元への愛着：山口県への愛着は根強く、自然や人情味といったポジティブなイメージを持つ学生が多い。
・地域への貢献：地元企業に就職したいと考えている学生もあり、地域への貢献意識が高いことが伺える。

(5) SNS 利用状況

・SNS の浸透：現代の高校生は、SNS を日常的に利用しており、情報収集やコミュニケーションの手段として活用している。
・情報発信：SNS 上で積極的に情報発信を行っている学生も少なくないことから、自己表現の場として利用していることがわかる。

(6) 専門学校に関する詳細分析

・専門学校の魅力：資格取得、実践的な学び、短期間での就職といった点が魅力として挙げられている。
・専門学校への不安：学費が高い、情報が少ない、大学との違いがよくわからないといった点が不安として挙げられている。
・専門学校への期待：専門学校では、自分の興味のある分野を深く学べると期待している。

(7) キャリアプランに関する分析

・自己評価：自身の能力については、客観的な自己評価ができている学生が多い一方で、将来のキャリアについては、まだ漠然としたイメージを持っている学生もいる。
・仕事選びの基準：好きなこと、得意なこと、将来の安定などを重視しており、多様な価値観に基づいて仕事を選んでいることがわかる。

(8) その他

・山口県へのイメージ：山口県を「のどかで安心できる」「自然が多い」と評価する一方で、「交通機関が少ない」「人が少ない」といったネガティブなイメージを持つ学生もいる。
・進路相談：親や学校の先生に相談する学生が多く、周囲の意見を参考にしながら進路を決めていることがわかった。

(9) 今後の課題と展望

・専門学校に関する情報提供の充実：専門学校に関する正確な情報を提供し、学生の誤解を解くことが重要である。
・地域との連携強化：地域の企業や大学と連携し、高校生が地域の魅力や進路選択に関する情報をより深く理解できるような機会を提供する必要がある。
・キャリア教育の充実：高校生のキャリア意識を高め、自己理解を深めるためのキャリア教育の充実が求められる。
・本調査の結果を基に、高校生がより良い進路選択ができるよう、学校や地域社会全体で支援していくことが重要である。

(10) まとめ

本調査は、山口県内の高校生を対象に、進路選択に関する意識を詳細に調査したものです。その結果、現代の高校生は、多様な情報源を活用し、自分自身の将来について真剣に考えていることが明らかになった。

特に、専門学校への関心が高まっていること、そして、地域への愛着と同時に、より広い世界へ羽ばたきたいという意欲を持っていることが特徴的です。専門学校の魅力としては、短期間で専門的な知識やスキルを習得できる点、就職に強い点が挙げられる。一方で、専門学校に関する情報不足や、大学との比較における優位性について疑問を持つ学生も一定数存在する。

キャリアプランについては、自己評価ができている学生が多い一方で、将来のキャリアについては、まだ漠然としたイメージを持っている学生もいる。仕事選びの基準としては、好きなこと、得意なこと、将来の安定などを重視しており、多様な価値観に基づいて仕事を選んでいることがわかる。山口県へのイメージは、自然や人情味といったポジティブなイメージを持つ学生が多い一方で、交通機関が少ない、人が少ないといったネガティブなイメージを持つ学生もいる。進路相談は、親や学校の先生に相談する学生が多く、周囲の意見を参考にしながら進路を決めていることがわかる。本調査の結果を踏まえ、高校生がより良い進路選択ができるよう、学校や地域社会全体で支援していくことが重要だ。具体的には、専門学校に関する情報提供の充実、地域との連携強化、キャリア教育の充実などが挙げられる。

専門学校の特長や魅力を積極的に発信し、学生一人ひとりの個性や希望に合わせたきめ細やかな進路相談を行うなど、より多くの高校生にとって魅力的な教育機関となるための取り組みが求められる。

文部科学省委託事業
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校系転換等推進事業」
「地域中小企業と連携によるIT担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業」

高校生地域進路意識調査報告書

令和7年2月
学校法人 YIC 学院
〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号

●本表の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。

5-4 専門学校生地域就職意識アンケート調査 資料15-1

文部科学省委託事業令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」「地域中小企業と連携によるIT担当育成・雇用促進モデル開発と普及推進事業」

「専門学校生地域就職意識調査（アンケート調査）」 報告書

学校法人VIC学院

1

1. 事業の目的

経済財政運営と改革の基本方針2023（令和5年6月16日閣議決定）において、成長分野への学部再編や先端技術に対応した高等教育の高度化などによる学びの転換の促進、未来を支える高度専門人材を育成する専門学校等の機能強化が重要課題として指摘されている。

一方、民間調査では、IT関連製品・サービスを提供するITベンダーやニューズ企業の構築システム部門で活躍するIT人材が2030年には45万人不足するとの試算もあり、地方におけるIT人材不足への対応も急務である。特に、2024年問題も重なり、働き盛りの若年人口が少ない地方都市では、コロナ禍後の経済活動停滞に伴い人材不足が深刻化している。こうした中、山口県中小企業家同友会では、会員企業の人材不足解消に向け、山口県と連携して採用強化に取り組んでいる。また、山口県は産業活性化・人口減少対策として、魅力ある働き先としての企業誘致に力を入れている。誘致企業にとって人材採用・育成は大きな課題となるため、地域若年層の職業教育機関との連携が不可欠である。

本事業では、以上のような地域ニーズに応えるため、中小企業で働くために必要とされる「限局的かつ多様な能力・スキルを備え、協働的な働き方でICT技術を活用して積極的に課題解決に取り組める人材」を育成する学科（以下、「新学科」）を構築することを目指す。

2. 調査の趣旨および目的

上記のような事業計画の下で、現役の専門学校生が、中小企業が多くを占める地域（拠点）での就職にどのようなイメージを抱いているかを把握することは、新学科のカリキュラム開発におけるキャリア教育や就職支援のあり方を検討していくために有用である。また、IT（IT）に関する知識やスキルの習得がからみ、専門学校生がそれぞれの所属校においてどのような学びを体験しているのかを把握することも重要である。以上のことを踏まえ、本調査では、専門学校生の地域就職への意識、就職意向を把握し、カリキュラム開発の中でもキャリア教育・就職スキームの開発強化を促すことを目的とする。そのうえで、専門学校生の将来に対する希望や不安を把握し、キャリアカウンセリングに役立てていく。

3

目次

- 1. 事業の目的
- 2. 調査の趣旨および目的
- 3. 調査結果
 - 3.1 調査概要と方法
 - 3.2 集計結果
- 4. 総評

付録

専門学校生地域就職意識調査（アンケート調査）質問項目

2

3. 調査結果

3.1 調査概要と方法

調査は、2024年11月20日から12月11日にかけて、Microsoft Forms を利用して実施した。対象は、本事業に参画する3つの学校法人に属する4つの学校の一部の学科である。それぞれの学科に所属するすべての学生を対象とした。

調査項目は、付録に示す通りである。調査の実態にあたっては、①回答はあくまで任意であり途中で中断することもできること、②収集したデータのうち個人情報は取り扱わないこと、③個人が分からないよう統計的処理を行うこと、④本事業にかかわる目的以外の利用はしないことを事前に説明・表示し、同意する場合はアンケートへ回答していただく。

3.2 集計結果

以下に本調査の結果を示す。

なお、問4「以下のうち、専門学校以外に卒業・修了したことのある学校種をすべてお答えください」については、集計の結果、選択肢の「専修専門学校」「専修学校等」を「専修学校等（専修学校）」とを統合していると思われる回答が多くを占め、分析と解釈に支障をきたすと考えられることから本稿では掲載しないこととする。

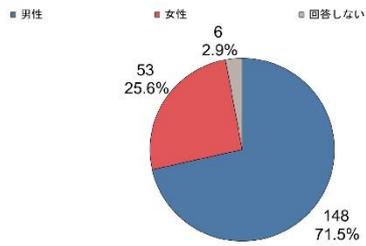
また、問28および問29は、夜間内容が問28および問29とはほぼ同じものとなっていることから、こちらも分析と解釈に支障をきたさないように本稿では不掲載とする。

なお、自由回答項目については、「何にもなし」「なし」「まあいい」「などの意図のない記述は筆者の判断で削除している。

問1. あなたの性別をお答えください。

男性	148	71.5%
女性	53	25.6%
回答しない	6	2.9%
計	207	100%

4

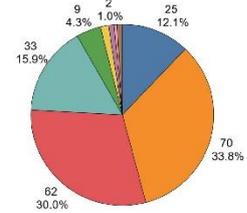


回答者は男性が71.5%、女性が25.6%、回答しないが2.9%であった。回答者の多くが「業系分野」の所属であることが影響していると思われる。

問2. あなたの年齢をお答えください。

18歳	25	12.1%
19歳	70	33.8%
20歳	62	30.0%
21歳	33	15.9%
22歳	9	4.3%
23歳	3	1.4%
26歳	2	1.0%
28歳	1	0.5%
未回答	2	1.0%
計	207	100%

■ 18 ■ 19 ■ 20 ■ 21 ■ 22 ■ 23 ■ 26 ■ 28 ■ 未回答



回答者のほとんどが、高校卒業後にブランクなく専門学校へと進学したと思われる18歳～22歳であった(96.1%)。23歳以上の者は6名とほとんどいなかった。

問3: 現在の居住地(都道府県)をお答えください。

沖縄県	77	37.2%
山口県	58	28.0%
京都府	28	13.5%
滋賀県	20	9.7%
大阪府	17	8.2%
兵庫県	2	1.0%
三重県	1	0.5%
奈良県	1	0.5%
愛知県	1	0.5%
回答しない	2	1.0%
計	207	100%

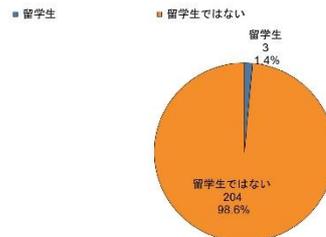
■ 沖縄県 ■ 京都府 ■ 大阪府 ■ 三重県 ■ 愛知県
■ 山口県 ■ 滋賀県 ■ 兵庫県 ■ 奈良県 ■ 回答しない



問6にて後述する各学校の所在県に該当する沖縄県(37.2%)、山口県(28.0%)、京都府(13.5%)が大半を占めていたが、滋賀県(9.7%)や大阪府(8.2%)など京都府近隣に所在している者も一部見られた。

問5. あなたは留学生ですか。

留学生	3	1.4%
留学生ではない	204	98.6%
計	207	100%



回答者のうち留学生は3名であり、ほとんどが日本人学生である(98.6%)。

問 6. 現在所属する専門学校名をお答えください。

YIC 京都工科自動車大学校	71	34.3%
YIC 情報ビジネス専門学校	58	28.0%
国際電子ビジネス専門学校	60	29.0%
エルケア医療保育専門学校	17	8.2%
回答しない	1	0.5%
計	207	100%

YIC 京都工科自動車大学校に所属する回答者が最も多く (34.3%)、以後、国際電子ビジネス専門学校 (29.0%)、YIC 情報ビジネス専門学校 (28.0%)、エルケア医療保育専門学校 (8.2%) と続く。

問 7. 学科名をお答えください。

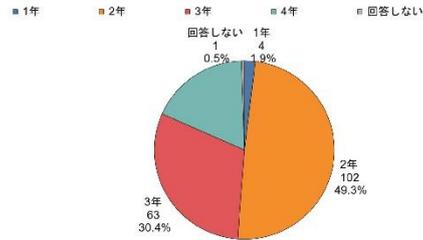
YIC 京都工科自動車大学校	一般自動車整備科	34	16.4%
	自動車整備科 目録コース	35	16.9%
YIC 情報ビジネス専門学校	自動車整備科 二輪コース	2	1.0%
	メディアデザイン科	4	1.9%
国際電子ビジネス専門学校	情報ビジネス科	11	6.8%
	情報工学科	40	19.3%
エルケア医療保育専門学校	医薬品スペシャリスト科	9	4.4%
	医療福祉ビジネス科	8	3.9%
国際電子ビジネス専門学校	ICT マネジメント科	24	11.6%
	IT エンジニア科 グラフィック・デザインコース	36	17.4%
回答しない	回答しない	1	0.5%
計		207	100%

回答者全体のうち、最も大きな比率を占めているのは YIC 情報ビジネス専門学校の情報工学科 (3年制) (19.3%) であった。なお、本項目への回答は自由記述であり、正確な学科名を記載していない回答も見られたが、所属学校 (問 6) の情報をもとに筆者の判断でマージした。

9

問 8. 何年制の課程に所属していますか。

1年	4	1.9%
2年	102	49.3%
3年	63	30.4%
4年	37	17.9%
回答しない	1	0.5%
計	207	100%

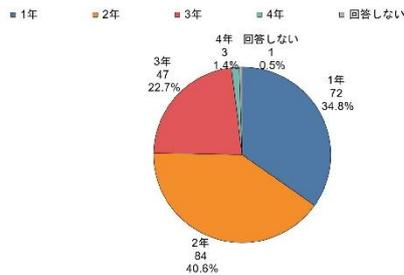


最も多かったのは 2 年生課程 (49.3%) であり、3 年制課程 (30.4%)、4 年制課程 (17.9%) と続いた。なお、1 年制と回答した者が 4 名いるが、問 6 および問 7 で見た学校はいずれも 2 年生課程以上であるため、誤って選択したものと思われる。

10

問 9. 現在何年生ですか。

1年	72	34.8%
2年	84	40.6%
3年	47	22.7%
4年	3	1.4%
回答しない	1	0.5%
計	207	100%

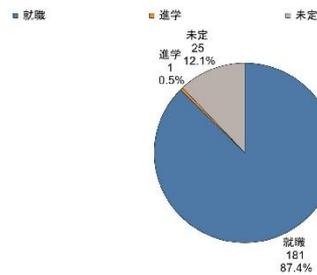


最も多かったのは 2 年生 (40.6%) であり、1 年生 (34.8%)、3 年生 (22.7%) と続いた。問 8 で見たように 4 年生課程所属者が一定数いたものの、最終学年にあたる回答者はほとんどいなかった。

11

問 10. 現在希望する進路を教えてください。

就職	181	87.4%
進学	1	0.5%
未定	25	12.1%
計	207	100%

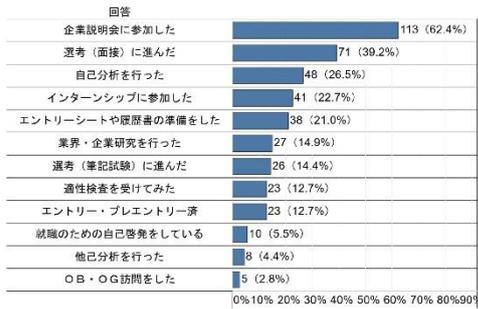


回答者のほとんどが就職を希望しており (87.4%) であり、進学を検討している者はほとんどいなかった。

12

問 11. 問 10 で「就職」を選んだ方にお聞きします。現在のあなたの就職活動の状況を教えてください。

企業説明会に参加した	113	62.4%
選考（面接）に進んだ	71	39.2%
自己分析を行った	48	26.5%
インターンシップに参加した	41	22.7%
エントリーシートや履歴書の準備をした	38	21.0%
業界・企業研究を行った	27	14.9%
選考（筆記試験）に進んだ	26	14.4%
適性検査を受けてみた	23	12.7%
エントリー・プレエントリー済	23	12.7%
就職のための自己啓発をしている	10	5.5%
他已分析を行った	8	4.4%
OB・OG訪問をした	5	2.8%



現在の就職活動の状況を見ると、最も多かったのが「企業説明会に参加した」(62.4%)という段階であった。なお、本項目は複数回答であるため、より先のステップ（例えば「選考（筆記試験）に進んだ」、「選考（面接）に進んだ」など）に進んでい

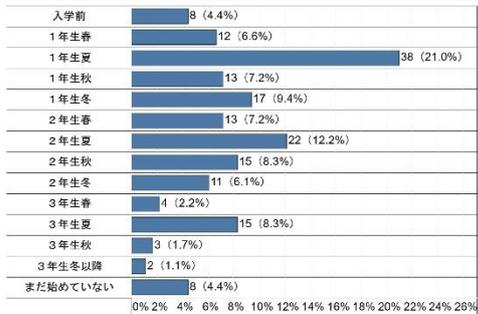
13

る者が、それ以前の段階もあてはまる状況として回答している可能性がある点に留意が必要である。また、問 40 にて指摘されているように、本項目にはすでに内定を得ている者を把握する選択肢が設けられていなかった。

問 12. 問 10 で「就職」を選んだ方にお聞きします。就職活動はいつから始めましたか。

入学前	8	4.4%
1年生春	12	6.6%
1年生夏	38	21.0%
1年生秋	13	7.2%
1年生冬	17	9.4%
2年生春	13	7.2%
2年生夏	22	12.2%
2年生秋	15	8.3%
2年生冬	11	6.1%
3年生春	4	2.2%
3年生夏	15	8.3%
3年生秋	3	1.7%
3年生冬以降	2	1.1%
まだ始めていない	8	4.4%
計	181	100%

14



15

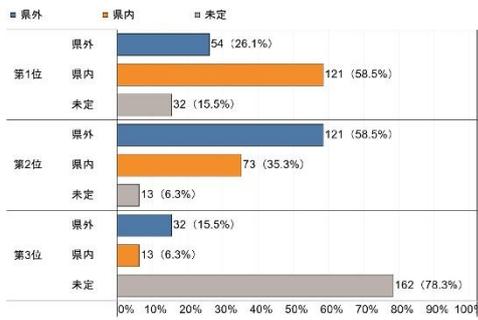


回答者の約半数が、2年生に上がるまでに就職活動を開始していることがわかる。課程別に見てみると、3年制課程では2年生になってから、4年生課程では3年生になってから開始する者が比較的多い。なお4年生課程においては約4割が1年生の段階から開始している。これは、業界的な特徴も関係していると思われる。

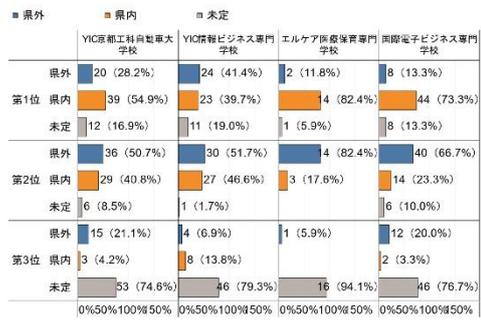
16

問 13. 現在希望する進路の場所はどこですか。

順位	場所	人数	割合
第1位	県外	54	26.1%
	県内	121	58.5%
	未定	32	15.5%
第2位	県外	121	58.5%
	県内	73	35.3%
	未定	13	6.3%
第3位	県外	32	15.5%
	県内	13	6.3%
	未定	162	78.3%



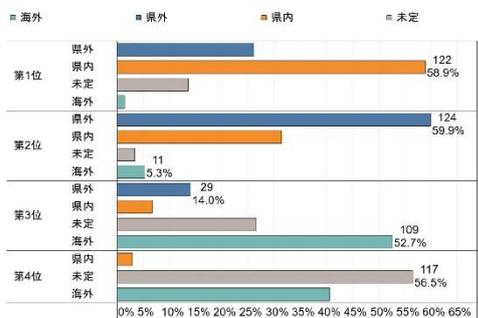
現在希望する進路の場所の優先順位を見てみると、最も優先度が高かったのは県内(58.5%)であった。一般的に専門学校生は卒業後、「地元」に就職する比率が高いことが知られている(文部科学省 2021)が、その傾向は、希望段階である本調査においても示唆される。



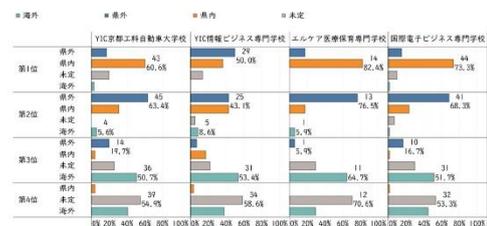
これを学校別に見てみると、沖縄県に所在するエルケア医療保育専門学校と国際電子ビジネス専門学校では、どちらも県内を希望する者が非常に多いことがわかり特徴的である。一方、山口県に所在するYIC情報ビジネス専門学校では、わずかではあるが県外を希望する者が最も多くなっている。

問 14. 将来就職する場所はどこがいいですか。優先順位を教えてください。

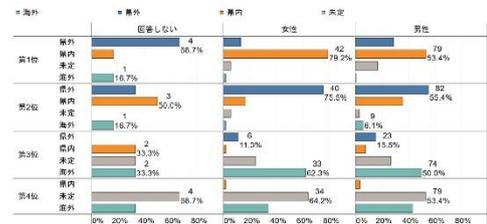
順位	場所	人数	割合
第1位	県外	54	26.1%
	県内	122	58.9%
	未定	28	13.5%
第2位	海外	3	1.4%
	県外	124	59.9%
	県内	65	31.4%
第3位	海外	7	3.4%
	県外	11	5.3%
	県内	29	14.0%
第4位	県内	14	6.8%
	未定	55	26.6%
	海外	109	52.7%



問 13 と同様に、就職希望地についても、最も優先順位が高いのは県内(58.9%)であった。一方、「海外」を優先的に選んだものは少数派であった。



これを学校別に見てみると、YIC 情報ビジネス専門学校(山口県)のみ、他校と異なり「海外」を第一希望の就職地としているものが多い(50.0%)という特徴がみられた。



さらに男女別で見てみると、男女とも「県内」を希望する者が最も多いが、その比率は女性の方でより高くなっている(男性53.4%、女性79.2%)という特徴がある。

問 15. 1番に選んだ場所の理由を教えてください。

YIC 京都工科自 動車大学校	未定
	その他
	まだわからない
	まだ何も決まってない
	まだ決めていない
	まだ先が見えない
	一人暮らしがしたい
	一人暮らしができないから
	遠いのは続かないと思うから
	家から近いところに就職したいから
	家から近い方がいいからです
	楽しそう
	楽だから
	楽だから、最初の生活がしんどいから
	慣れ親しんだとこ
	慣れ親しんだ地域だから
	環境が良かったから
	気分
	給料がいい
	京都
	京都が好きだから
	京都に思入れがないから
	京都は伴々のに適していないから
	近いから
	近くに親したことはない
	近いほうがいいから
	近い方がいい
	近い方がいいから
	近くで働きたいから
	県外に出てみたい
	県外の企業の方が待遇が良いから。
	県内ではよ
	好き
	行きたいところが県外だから
	行きやすいから
	行く企業次第
	滋賀

21

	自宅から近い場所がいい
	自宅から通勤したいから。
	自分の知っている土地だから
	実家があるから
	実家が近いほうが良いから
	実家に近いほうが良いから
	実家の近く
	実家の近くがいいから
	住みやすい土地感がある通いやすい
	住居が県外だから
	設備が新しいから
	他社を知らないから
	大阪を出る理由がないから
	第一希望が県外だから
	知らないところが好きだから
	地元が一番住めば都
	地元だから
	地元をいたから
	通える近さの方がいいから
	通勤しやすい
	通勤しやすい
	通勤しやすさ
	通勤時間に時間がかからないため
	都会が好きだから
	働きやすそうだから
	特になし。
	日本は狭い
	配属先が未定のため
	未定だから
	無し
YIC 情報ビジネ ス専門学校	ITが発達しているから
	エンジニア企業が多いから
	これから決めていく予定
	デザイン会社が県内に少なく、自分の気になる会社が県内にある か分からないため
	とくになし
	まだ決まっていないから
	まだ特に決めていないから

22

	まだ分からないから
	やりたい事が出来る会社に入りたいから
	一人暮らしが大変だから
	覚えてるから
	何となく
	家から近いから
	街がさかえている場所で働きたいから
	慣れているから
	慣れている土地が良かったから
	給料
	給料と待遇がいいから
	近場の方が楽だから
	県外に行くことが怖いから
	県外に出たい
	県外に出たいから
	県外に出たくないから
	県外の環境にも興味があるから
	県外の方が待遇の良い企業が多いから
	県外広島 彼女も広島だし何かとアクセスがいいから
	県内がいいから
	県内が狭く感じるから
	県内で就職して活躍したいから
	県内で働きたいから
	県内は不便だから
	県内より県外の方が有望な企業があるから
	好きな都道府県に住んで仕事をしたいから。
	山口からでたい
	山口から出たいから。
	山口が好きだから
	山口県から離れたいから
	山口県に就職したい会社がないから(今のところ)
	山口県を出たいから
	自立
	自立して生活したい、学部ではITの業種が少ないと思ったから
	実家から近い方がいいから
	実家に近い方がいいから
	奨学金返済制度がある市があるため

23

	場所より企業に注目したい
	親の希望
	生まれ育った土地がいいから
	地元が近いから
	地元で働きたいと思ったから
	通勤の時間を短縮したいから
	都会に出たいから
	東京付近に住みたいから
	特になし
	彼女と同様するから
	幅広く仕事を見つけない
ニルケア医療保 育専門学校	安心だから
	沖縄だと安心して仕事できるから
	家から近い場所がいいから
	館内がいいから
	県外に住んでみたい
	県外や海外だと一人暮らしが大変そうだから
	県内の方が安心だから
	広い世界を見たい
	自分が住み慣れた場所だから。
	住み慣れたとこがいい
	住み慣れた場所で働きたいから
	住み慣れているから
	奨学金返済のため
	地元の人手に役に立つ仕事をしたい
	通いやすさ
	独立、スキルアップ
	琉球大学病院の薬局で働きたいから。
国際電子ビジネ ス専門学校	未定
	おきなわがいいから
	しばらくは貯金をしたいため実家から通いたい
	すぐに一人暮らしを始められないから
	とりあえず外に出て周りを見たい
	まずは近くで経験を積みたいから
	まだ決まってない
	まだ決まってないです
	まだ決められていないから

24

まだ詳しく決めていないから
まだ悩んでいる
安心するから
安心できるから
安定して生活が出来ると思ったから
沖繩がいい
沖繩から出たくない
沖繩から離れたくないから
沖繩が好きだから。県外にいきなり行くのこわい
沖繩で良い。
沖繩にいたいから
沖繩の方が働きやすそう
家族や友人がいるから
慣れ親しんだ場所の方が安心して仕事ができると思ったから。
県外で挑戦してみたいから
県外に行った方が将来的に自分のためになるだろうから。
県外は考えられないから
県内の方が自分に合っている（環境など）
交通が便利だから
最初に就職する場所は県内が良いと思ったから
最初は慣れたでの頃は県内のほうがいい
最初は県内で経験した方がいいと思う
私生活と仕事の両立が難しいから
実家から近いところで働きたいから。
実家から通いたいから
実家から通えるから。
住みなれているから
住みやすいから
休み慣れているから
働きやすいから
給料
生活に慣れているから
接客業を希望していたから
知っている土地なのと、沖繩が好きだから
地域貢献
地元が好きだから県内なるべく探したいため
地元だから
地元だから安心

地元には知り合いがいるので、安心して生活を送ることができる。
地元を離れたくないから
特になし
特になし
特に決めていないため
特に県外に対して目標がないから
特に明確に決まっていなかったのでとりあえず県内で探してみようと思ったから
内地に行きたいから
馴染みがあるから
慣れない場所で新生活は不安があるため

問 16. 就職先として現在どんな業種を考えていますか。(複数選択)

情報通信業	65	31.6%
サービス業（他に分類されないもの）	59	28.6%
学術研究、専門・技術サービス業	53	25.7%
医療、福祉	15	7.3%
卸売業、小売業	12	5.8%
製造業	8	3.9%
建設業	7	3.4%
金融業、保険業	5	2.4%
宿泊業、飲食サービス業	5	2.4%
その他	5	2.4%
未定	4	1.9%
副業サービス業	3	1.5%
生活関連サービス業、娯楽業	3	1.5%
電気・ガス・熱供給・水道業	3	1.5%
不動産業、物品賃貸業	2	1.0%
農業、林業	2	1.0%
運輸業、郵便業	2	1.0%
公務（他に分類されるものを除く）	1	0.5%
教育、学習支援業	1	0.5%

情報通信業	65 (31.6%)
サービス業（他に分類されないもの）	59 (28.6%)
学術研究、専門・技術サービス業	53 (25.7%)
医療、福祉	15 (7.3%)
卸売業、小売業	12 (5.8%)
製造業	8 (3.9%)
建設業	7 (3.4%)
金融業、保険業	5 (2.4%)
宿泊業、飲食サービス業	5 (2.4%)
その他	5 (2.4%)
未定	4 (1.9%)
副業サービス業	3 (1.5%)
生活関連サービス業、娯楽業	3 (1.5%)
電気・ガス・熱供給・水道業	3 (1.5%)
不動産業、物品賃貸業	2 (1.0%)
農業、林業	2 (1.0%)
運輸業、郵便業	2 (1.0%)
公務（他に分類されるものを除く）	1 (0.5%)
教育、学習支援業	1 (0.5%)

最も希望者が多い業界は「情報通信業」であった。これは、回答者の約6割が情報系分野に所属していることが影響していると思われる。また、2番目に多い「サービス業（他に分類されないもの）」には、「その他」を選択し具体的な内容として「自動車整備」や「カーディーラー」「デザイン系」などと記述している回答を含んでいる。

問 17. 将来の就職について現在どんな職種を考えていますか。(複数選択)

専門・技術的職業	119	57.8%
サービス職	42	20.4%
事務職	41	19.9%
営業・販売職	18	8.7%
管理的職業	13	6.3%
輸送・機械運転従事者	4	1.9%
その他	4	1.9%
未定	3	1.5%
建設・採掘従事者	3	1.5%
保安的職業	2	1.0%
情報系	1	0.5%

経理	1	0.5%
運転・清掃・包装等従事者	1	0.5%

専門・技術的職業	119 (57.8%)
サービス職	42 (20.4%)
事務職	41 (19.9%)
営業・販売職	18 (8.7%)
管理的職業	13 (6.3%)
輸送・機械運転従事者	4 (1.9%)
その他	4 (1.9%)
未定	3 (1.5%)
建設・採掘従事者	3 (1.5%)
保安的職業	2 (1.0%)
情報系	1 (0.5%)
経理	1 (0.5%)
運転・清掃・包装等従事者	1 (0.5%)

最も回答者が多かったのは「専門・技術的職業」(57.8%)であった。その他、サービス職(20.4%)や事務職(19.9%)を希望する者も見られた。

問 18. 具体的な職業名がある方は職業名を教えてください。

YIC 京都工科自動車大学 校	アルバイト
	サービス業（他に分類されないもの）
	その他
	トラックドライバー
	バイクの整備士
	バイク屋
	技術アジャスター
	自動車の整備士
	自動車関係者
	自分が好きに自由に働ける職業
二輪の整備士	
YIC 情報ビジネス専門学 校	ITエンジニア
	SE

	SE・PM
	SF、PG、CE
	WEBデザイナー
	アプリケーションエンジニア
	インフラエンジニア
	エンジニア
	カーディラー、彫り師、アパレル会社など
	カーディラー・アパレル
	サーバエンジニア
	システムエンジニア
	システムエンジニア、ネットワークエンジニア
	セキュリティエンジニア
	その他
	ディ・ビ・ティ株式会社
	プログラマー
	ユニクロ
	開発管理エンジニア
	極秘
	情報通信業
	動画制作
	不二輸送機株式会社
エルケア医療保育専門学校	未定
	その他
	医師事務作業補助者
	医薬品登録販売者
	医療事務
	調剤事務
	登録販売者
	登録販売者か調剤事務
国際電子ビジネス専門学校	未定
	DTPオペレーター
	DTPデザイナー
	Dオペレーター
	WEBコーダー
	WEBコーダー・DTPオペレーター
	WEBディレクター

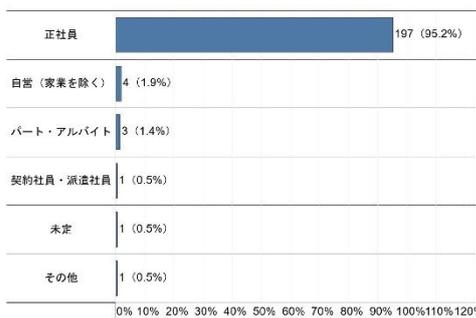
29

	WEBデザイナー
	WEBデザイン
	カメラマン
	グラフィックデザイナー
	サービス業（他に分類されないもの）
	サンヨー イオン
	その他
	デザイン、広告企画課
	ハウスメーカーの営業
	まだ未定
	わからない
	映像クリエイターまたは動画クリエイター
	会社員
	管理職
	広告代理
	接客業
	未定です

30

問 19. 希望する勤務形態を選択してください。

正社員	197	95.2%
自営（家業を除く）	4	1.9%
パート・アルバイト	3	1.4%
契約社員・派遣社員	1	0.5%
未定	1	0.5%
その他	1	0.5%
計	207	100%

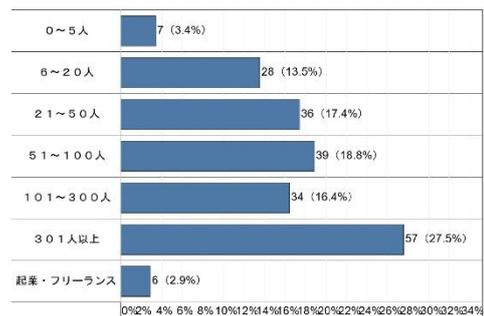


ほとんどの者が正社員での雇用を希望しており（95.2%）、パート・アルバイト（1.4%）や契約社員・派遣社員（0.5%）などの非正規雇用は少数にとどまっている。

31

問 20. 希望する事業規模（従業員数）を選択してください。

0～5人	7	3.4%
6～20人	28	13.5%
21～50人	36	17.4%
51～100人	39	18.8%
101～300人	34	16.4%
301人以上	57	27.5%
起業・フリーランス	6	2.9%
計	207	100%



希望する企業規模として最も比率が高かったのは301人以上であった（27.5%）。小企業に当たる100人未満を希望しているのは、全体の34.3%であった。

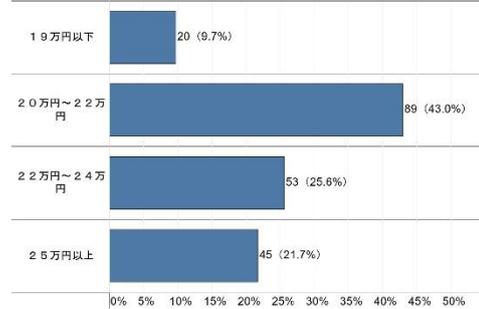
32

	YIC京都工科大学	YIC情報ビジネス専門学校	エルケア医療保育専門学校	国際電子ビジネス専門学校
0～5人	4 (5.6%)	1 (1.7%)	1 (2.9%)	1 (1.7%)
6～20人	11 (15.9%)	4 (6.2%)	5 (12.4%)	9 (15.0%)
21～50人	9 (11.3%)	10 (23.9%)		13 (21.7%)
51～100人	6 (8.5%)	15 (25.9%)		18 (30.9%)
101～300人	9 (12.7%)	11 (19.5%)	2 (11.8%)	12 (20.0%)
301人以上	30 (42.3%)	13 (22.4%)	9 (52.9%)	5 (8.2%)
総数・フリーランス	3 (4.2%)			2 (3.3%)

これを学校別に見てみると、自動車分野が中心のYIC 京都工科大学では「301人以上」の企業を希望している者が最も多い(42.3%)が、情報系分野が中心のYIC 情報ビジネス専門学校と国際電子ビジネス専門学校では、「51人～100人」および「21～50人」の比較的小規模の企業を希望している傾向が見られた。

問21. 就職する際に希望する初任給はどれくらいですか。

19万円以下	20	9.7%
20万円～22万円	89	43.0%
22万円～24万円	53	25.6%
25万円以上	45	21.7%
計	207	100%



希望する初任給として最も多かったのは、20万円～22万円(43.0%)であった。その後、「22万円～24万円」(25.6%)、「25万円以上」(21.7%)と続いている。「19万円以下」を選択した者は10%に満たなかった。

	YIC京都工科大学	YIC情報ビジネス専門学校	エルケア医療保育専門学校	国際電子ビジネス専門学校
19万円以下	1 (1.4%)	2 (3.4%)	5 (29.4%)	12 (20.0%)
20万円～22万円	17 (23.9%)	26 (44.8%)	9 (52.9%)	37 (61.7%)
22万円～24万円	18 (25.4%)	24 (41.4%)	3 (17.6%)	8 (13.3%)
25万円以上	35 (49.3%)	6 (10.3%)		3 (5.0%)

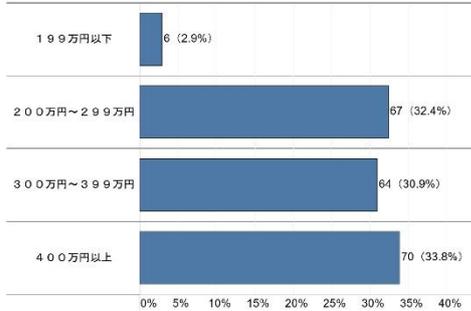
これを学校別に見てみると、YIC 京都工科大学では「25万円以上」を選択した者の割合が約半数となっている(49.3%)。YIC 情報ビジネス専門学校では、「20万円～22万円」と「22万円～24万円」がほぼ同程度であり、エルケア医療保育専門学校と国際電子ビジネス専門学校では「20万円～22万円」を希望している者が最も多い。同じ情報系であるYIC 情報ビジネス専門学校と国際電子ビジネス専門学校は希望する給与額に差が出ているが、これはそれぞれの学校が立地している地域状況が背景にあると考えられる。

	回答しない	女性	男性
19万円以下		12 (22.6%)	8 (5.4%)
20万円～22万円	1 (16.7%)	30 (56.6%)	58 (39.2%)
22万円～24万円	2 (33.3%)	9 (17.0%)	42 (28.4%)
25万円以上	3 (50.0%)	2 (3.8%)	40 (27.0%)

また男女別に見てみると、男性では22万円以上と回答している者が65.4%となっているが、女性では20.8%と2倍以上の差があることがわかる。

問 22. 就職する際に希望する年収はどれくらいですか。

199万円以下	6	2.9%
200万円～299万円	67	32.4%
300万円～399万円	64	30.9%
400万円以上	70	33.8%
計	207	100%



最も比率が高いのは400万円以上(33.8%)だが、「200万円～299万円」(32.4%)、「300万円～399万円」(30.9%)と大きな差異はない。1199万円以下)と回答した者は少数派であった。

	YIC京東工科自動車大学校	YIC情報ビジネス専門学校	エルクア医療保育専門学校	国際電子ビジネス専門学校
199万円以下	0	1 (1.7%)	1 (0.9%)	4 (6.7%)
200万円～299万円	10 (14.1%)	17 (29.3%)	10 (58.8%)	30 (50.0%)
300万円～399万円	11 (15.5%)	35 (43.1%)	6 (35.3%)	22 (36.7%)
400万円以上	50 (70.4%)	15 (25.9%)	0	4 (6.7%)

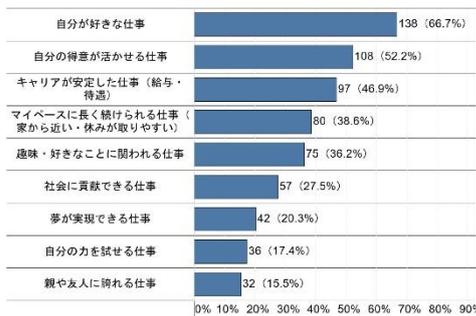
学校別に見てみると、YIC京東工科自動車大学校では「400万円以上」が70.4%と多数であるが、YIC情報ビジネス専門学校では「300万円～399万円」(43.1%)、エルクア医療保育専門学校と国際電子ビジネス専門学校では「200万円～299万円」(それぞれ58.8%、50.0%)が最多であった。

	回答しない	女性	男性
199万円以下	0	4 (7.5%)	2 (1.4%)
200万円～299万円	1 (16.7%)	25 (47.2%)	41 (27.7%)
300万円～399万円	2 (33.3%)	23 (43.4%)	39 (26.4%)
400万円以上	3 (50.0%)	1 (1.9%)	66 (44.6%)

さらに男女別に見てみると、男性では400万円以上(44.6%)が最多であるが、女性では1人(1.9%)しかおらず、性差の大きな項目となっている。

問 23. あなたが将来就きたい仕事を選ぶ基準は何ですか？(複数選択)

自分が好きな仕事	138	66.7%
自分の得意が活かせる仕事	108	52.2%
キャリアが安定した仕事(給与・待遇)	97	46.9%
マイペースに長く続けられる仕事(家から近い・休みが取りやすい)	80	38.6%
趣味・好きなことに関われる仕事	75	36.2%
社会に貢献できる仕事	57	27.5%
夢が実現できる仕事	42	20.3%
自分の力を試せる仕事	36	17.4%
親や友人に誇れる仕事	32	15.5%



最も多かったのは「自分の好きな仕事」であった(66.7%)。「自分の得意が活かせる仕事」(52.2%)、「キャリアが安定した仕事(給与・待遇)」(46.9%)も約半数が選択しており、重視されていることがわかる。他方、「自分の力を試せる仕事」(17.4%)や「親や友人に誇れる仕事」(15.5%)はそれほど重視されていない。

問 24. 問 23 でチェックした仕事選びの基準についてなぜそう思うのか簡単に教えて下さい。

YIC京東工科自動車大学校	すきだから
	家から近くてお金も欲しいから
	将来の安定のため
	生活を豊かに暮らせる
	働きやすい環境で働きたいから
	夢は大きく
	いい仕事
	お金が欲しいから
	そうしたいから
	なんとなく
	モチベーションが高く保てるから
	やりたいことをしたいから
	何にも因わずに働きたいから
	家から近く給料も大事だから
	楽しく生きるため
	楽しく働きたいから
	楽しないと続かないから
	楽しみつつ好きなことをしたいから
	好きなことをしながら社会に貢献できる仕事がいいから
	好きなことをやることは楽しいと思うから
	好きなことを仕事にするのがいいと思うから
	好きな仕事をしたいから
	好きな事で仕事をしたいから
	好きな事をしたいから
	仕事が続きやすいから
	自分のために働くため
	自分の好きなことを長く続けて自分の技術を磨きたいため
	趣味の延長線で仕事をするほうが楽しめると思ったから
	人の為になりたい
	直感
	物心ついた時からそう考えている
	好きなことをして生きたいから

	マイペースだから
	たのしいから
	やりたいことができるから
	お金は大事だから
	しらない
	そうじゃないと続かないから
	なんとなく
	バイクをカスタムするのが好き
	モチベ
	やめるまで続けたいことだから。
	やりがいがあるから
	楽しみたいから
	給与が安定している仕事に長く続けたいから
	興味があるから
	好き
	好きだから
	好きな仕事だから
	好きを仕事にしたいから
	仕事を楽しむことはとても重要だとおもったから
	仕事を続けやすいから
	仕事を続けるため
	自分の好きなことだから
	興味を仕事にしたいから
	上記の通りです
	人生を謳歌したいから
	全力で仕事をしたい
	長く続けようだから
	長続きできると思ったから
	仕事が嫌にならな
	好きなことをしたいから、
	夢を叶えたいから
	自分がやりたいから
YIC 情報ビジネス専門学校	自分のやりたい事で将来が安定していきたいから
	なんとなく
	仕事が続く続かないと意味ないから
	生きていて楽しいと思いたいから
	得意を生かした方が楽しそう

41

	あまり分らない
	なんとなく
	やりたくないことでも長く続かないから
	安定した仕事につけば、やりやすいから
	安定した職につきたいから
	給料が多く安定してることがいい
	仕事を好きになりたいから
	自分(従業員)を大切にしてほしい
	自分がやりたい仕事をやればいいと思うから
	人に浴れる仕事で安定した職に付けるのがいい
	続けられるかどうか
	得意を活かしたい
	デスクワークがしたいから
	やりたいことだから
	pcで作業がしたいから
	お金が大事だから
	したいと思ったから
	好きな仕事じゃないと続かない
	その方がいいと思った
	どうせやるなら好きな事
	プライベートを大切にしたいから。
	モチベーションのため
	より成長していきたいから
	ワークライフバランスを大切にしたいから
	安定した職場で学んだことを活かしてやりたい事をやりたいから
	安定した企業に就職したいから
	安定した生活をしたいから
	楽しいと思える事でないとは続かないから
	給料が高い方がいいから。
	好きじゃ無い仕事でもすぐ辞めるから
	好きなことで活躍したいから
	好きな仕事は長くと思うから
	仕事が続くと思うから
	自己肯定感が上がるから
	自分の興味がある分野で自分の好きなことを仕事にしたいから

42

	自分を第一に考えたいから
	実力をつけたいから
	社会に貢献したいから。
	趣味にお金を使いたいから
	心の余裕が保てそうだから
	生活に関わるから
	精神的に追い詰めたくない
	専門学校で得た知識を活かしたい
	続けていくため
	長く働くために必要な事だから
	得意じゃないところの挑戦しても現実問題難しいから
エルケア医療保育専門学校	仕事を続けたいため
	安定した給料で働きたいから。
	楽しくしごとしたいから
	休みが取りやすいことが大事だから
	仕事を長く続けていく上で最低限必要だと思うから
	自分のペースでしたい
	将来性を考えたから
	長く続けるために重要だと思ったから
	この時代お金がないと生きていけない
	スキルアップ
	なんとなく
	何も無い限り続けるつもりだから
	自分の方を楽解しながら、色んな人と交流したいから
	社会人生活を長い目で見た時に得意なことを生かした職業だと長続きしそうだから
	長く続けられて給料が安定していてしっかり休みが取れる環境が良いと思ったから。
	得意なことだと頑張れるから
国際電子ビジネス専門学校	好きじゃないと続かないから
	安定した生活を送りたい
	気楽に生きたい
	居心地の良い職場で働きたいから
	お金が欲しいから
	ストレスなく楽しく自分の好きな仕事をしたほうが長く続けられると思うから
	それが、継続していくうえで大事だと思ったから。

43

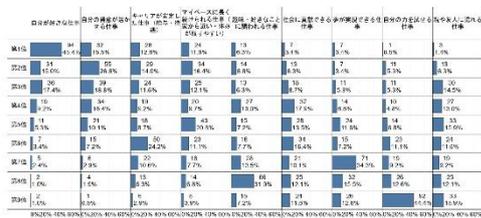
	なし
	楽しい仕事があったら
	企業と自分の価値観や軸があってないと続かないから。
	給与は高い方が嬉しい
	好きな仕事だったらやりがいがある
	仕事を長く続けることが大事だから
	刺激を求めているから
	自己成長のため
	自分のやっている仕事があるまま夢や、やりたいことにつながると思いたったから。
	自分の持っているスキルがあることで、より早く成果を出すことができます。また、自分の成長やキャリアを考えた時に、充実感や満足感を得るための一つの基準だと思います。
	続けられなかったら意味ないから
	続けるためには必要だと思うから
	休調を崩しやすいから
	長く働きたいから
	長続きするのが1番だから
	長く働けそう
	好きな物じゃないと続かない
	どうせなら好きなことで働きたい
	安定も欲しいしやりがいも欲しい
	楽しく仕事があったら
	楽しめるものをやりたいから
	興味がないと続かないから
	嫌いなことはしたくない
	今までの経験上、これらの要素が一つもないとモチベーションが湧いてこないことが多かったから。
	自分がやりたい職業が現実的にも無理なモノでないか自分に向いている、やりやすい仕事を選ぶため
	自分の休調面のこと考えるとマイペースで長く続けられる仕事がいいから
	自分の得意なことを活かしたいから。また、誰かの役に立ってる実感が無いと働くの辛そうだから
	自分の能力を活かして、周りに認めてもらえる仕事
	推し活や生きていく上での最低限になって

44

安定して続けられる仕事がいいから。
自分が好きなことを長く続けていけるところで安定して働きたいから。
モチベーションをあげるため
楽しく長く続けられる仕事に就きたい
楽しく仕事をしたいから
好きなものを仕事にしたいから。
仕事も楽しくやりたいから
自分ができることを仕事にした方が長く続きそうだから。
自分の好きなことだと成長しながら楽しく続けられると思ったから
将来安定して趣味や休みを取りたいから。
長く続けられる為
楽しそうな職場
嫌な気持ちで仕事したくない
好きなことや得意なことだと仕事を苦痛に感じることが少ないと思ったため
自分が進んで楽しく続けることができるものが将来的に長く働けると思ったから。
自分の好きなことで仕事ができたらいいなと思ったので
自分の好きなことや得意なことを活かして人の手助けをしたい
自分の好きなことが仕事で出来るのであれば長く続くから
自分が好きな仕事じゃないと、続けられないと思うからやくにたちたいから
モチベーションが保ちやすい

問 25. あなたが就職先を選ぶときに優先するものの順番をつけてください。(順位)

	自分が好きな仕事	自分の得意な仕事	キャリアが安定的な仕事(給与・待遇)	マイペースに長く続けられる仕事(家から近い等)	趣味・好きなことに関わる仕事	社会に貢献できる仕事	夢が実現できる仕事	自分の力を試せる仕事	複や友人に認められる仕事
第1位	度数 94 比率 15.4%	32 5.3%	36 5.9%	24 3.9%	13 2.1%	7 1.1%	7 1.1%	1 0.2%	3 0.5%
第2位	度数 31 比率 5.0%	36 5.8%	29 4.7%	34 5.5%	14 2.2%	13 2.1%	7 1.1%	11 1.8%	13 2.1%
第3位	度数 36 比率 5.8%	38 6.1%	24 3.9%	25 4.0%	13 2.1%	8 1.3%	11 1.8%	11 1.8%	50 8.0%
第4位	度数 19 比率 3.0%	21 3.4%	19 3.0%	20 3.2%	27 4.3%	37 5.9%	14 2.2%	10 1.6%	37 5.9%
第5位	度数 11 比率 1.8%	21 3.4%	18 2.9%	13 2.1%	16 2.5%	28 4.5%	24 3.8%	16 2.5%	33 5.3%
第6位	度数 7 比率 1.1%	15 2.4%	50 8.0%	23 3.7%	18 2.8%	34 5.4%	15 2.4%	23 3.7%	24 3.8%
第7位	度数 5 比率 0.8%	6 1.0%	32 5.2%	16 2.5%	16 2.5%	28 4.5%	21 3.4%	19 3.0%	18 2.9%
第8位	度数 2 比率 0.3%	7 1.1%	13 2.1%	14 2.2%	66 10.5%	25 4.0%	32 5.1%	26 4.2%	25 4.0%
第9位	度数 2 比率 0.3%	1 0.2%	6 1.0%	8 1.3%	15 2.4%	24 3.8%	25 3.9%	92 14.6%	33 5.3%



問 23 でみた 9 つの項目について、就職先を選ぶ際に重視することの優先順位を示したものが本設問である。問 23 と同様、もっとも優先的に選ばれているのは、「自分が好きな仕事」(45.4%)であった。「自分の得意が活かせる仕事」が 2 番目に優先されているのも問 23 と同様の傾向である。

問 26. 今の自分について各項目を教えてください。

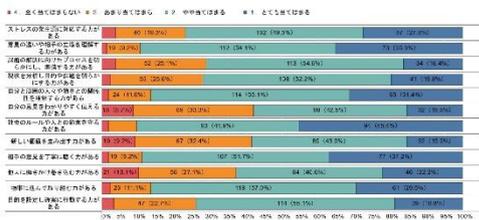
	1. とても当てはまる	2. やや当てはまる	3. あまり当てはまらない	4. 全く当てはまらない
最後までやり抜く力がある	度数 59 比率 28.0%	125 60.4%	29 9.7%	4 1.9%
自分ならできると思いながら行動ができる	度数 61 比率 24.6%	110 53.1%	42 20.3%	4 1.9%
自分には価値がある	度数 52 比率 26.1%	93 44.9%	51 24.6%	11 5.3%
自分の感情や行動をコントロールすることができる	度数 72 比率 34.8%	92 44.4%	37 17.9%	6 2.9%
自分は前向きな人間だと思う	度数 44 比率 21.3%	83 40.1%	62 30.0%	18 8.7%
自分は大切な人間だと思う	度数 61 比率 29.6%	101 48.8%	32 15.6%	13 6.3%
初めて会う人でもコミュニケーションがとれる	度数 58 比率 28.0%	88 42.5%	46 22.2%	15 7.2%
誰か合ったり、意見の違いがあっても他者を認めて共に行動できる	度数 109 比率 49.8%	90 43.5%	12 5.8%	2 1.0%
人付き合いをすることが出来る	度数 74 比率 35.7%	87 42.0%	37 17.9%	9 4.3%
積極的にものごとに取り組める	度数 54 比率 26.1%	122 58.9%	28 13.6%	3 1.4%
相手の気持ち、立場になって物事を考えることができる	度数 87 比率 42.0%	104 50.2%	15 7.2%	1 0.5%
相手の気持ちに寄り添うことができる	度数 80 比率 38.6%	100 48.3%	23 11.1%	4 1.9%
相手をバカにせず、敬い、尊重することができる	度数 96 比率 46.4%	91 44.0%	18 8.7%	2 1.0%
他人と仲間関係を築くのは得意だと思う	度数 59 比率 28.6%	97 46.9%	43 20.8%	6 3.0%
目標に向かってワクワクして集中できる	度数 65 比率 31.4%	109 52.7%	30 14.5%	3 1.4%



多くの項目で肯定的な回答が目立っている。特徴としては以下の点が挙げられる。
 第一に、「譲り合ったり、意見の違いがあっても他者を認めて共に行動できる」(とても当てはまる+やや当てはまる: 93.3% (以下同じ))、「相手の気持ち、立場になって物事を考えることができる」(92.2%)、「相手をバカにせず、敬い、尊重することができる」(90.4%) など、他者とともに行動したり他者に共感したりする能力意識が高いことがわかる。
 しかしながら第二に、「人付き合いをすることができる」(77.7%)「初めて会う人ともコミュニケーションが取れる」(70.0%)、「他人と信頼関係を築くのは得意だと思う」(78.4%) など、他者と関係構築をしていくことについては、他の項目と比較して苦手意識を持っている学生がいることがうかがえる。
 また第三に、「自分より前向きな人間だと思う」(61.4%)、「自分には価値がある」(60.0%) など、いわゆる自己肯定感については、一般的な若者の傾向と同様に低い傾向にあることが示唆される。

問27. 自分の能力について教えてください。

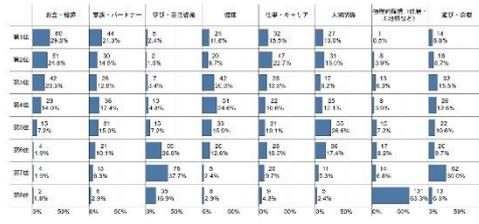
	1. とても当てはまる	2. やや当てはまる	3. あまり当てはまらない	4. 全く当てはまらない
ストレスの発生源に対応する力がある	度数: 57 比率: 27.5%	度数: 102 比率: 49.3%	度数: 40 比率: 19.3%	度数: 8 比率: 3.9%
意見の違いや相手の立場を理解する力がある	度数: 73 比率: 35.3%	度数: 112 比率: 54.1%	度数: 19 比率: 9.2%	度数: 3 比率: 1.4%
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、納得する力がある	度数: 34 比率: 16.4%	度数: 113 比率: 54.6%	度数: 52 比率: 25.1%	度数: 8 比率: 3.9%
現状を分析し目的や課題を明らかにする力がある	度数: 41 比率: 19.8%	度数: 105 比率: 52.2%	度数: 53 比率: 25.6%	度数: 5 比率: 2.4%
自分と周囲の人々や物との関係性を理解する力がある	度数: 65 比率: 31.4%	度数: 114 比率: 55.1%	度数: 24 比率: 11.6%	度数: 4 比率: 1.9%
自分の意図をわかりやすく伝える力がある	度数: 32 比率: 15.5%	度数: 88 比率: 42.5%	度数: 69 比率: 33.3%	度数: 18 比率: 8.7%
社会のルールや人との約束を守る力がある	度数: 94 比率: 45.4%	度数: 93 比率: 44.9%	度数: 18 比率: 7.7%	度数: 4 比率: 1.9%
新しい価値を生み出す力がある	度数: 32 比率: 15.5%	度数: 89 比率: 43.0%	度数: 67 比率: 32.4%	度数: 19 比率: 9.2%
相手の意見を丁寧に聴く力がある	度数: 77 比率: 37.2%	度数: 107 比率: 51.7%	度数: 19 比率: 9.2%	度数: 4 比率: 1.9%
他人に働きかけ巻き込む力がある	度数: 46 比率: 22.2%	度数: 84 比率: 40.6%	度数: 56 比率: 27.1%	度数: 21 比率: 10.1%
物事に進んで取り組む力がある	度数: 61 比率: 29.5%	度数: 115 比率: 57.0%	度数: 23 比率: 11.1%	度数: 5 比率: 2.4%
目的を設定し確実に行動する力がある	度数: 39 比率: 18.8%	度数: 114 比率: 55.1%	度数: 47 比率: 22.7%	度数: 7 比率: 3.4%



各項目に記した能力意識について尋ねたところ、「社会のルールや人との約束を守る力がある」(とても当てはまる+やや当てはまる: 90.3% (以下同じ))や「意見の違いや相手の立場を理解する力がある」(89.4%)、「相手の意見を丁寧に聴く力がある」(88.9%) など、他者関係を構築していく上で必要となる能力が身につけていると感じている学生が比較的多いことがわかる。この点は、問26の結果とも重なる。
 一方、「自分の意図をわかりやすく伝える力がある」(58.0%)、「新しい価値を生み出す力」(58.5%)、「他人に働きかけ巻き込む力がある」(62.6%)などは、その他の項目と比較して肯定的な回答が相対的に少ない。
 問30. あなたが大切にしているもの、大切にしていきたいものについて、1番を最大にして順位をつけてください。(順位)

	お金・経済	家族・パートナー	学び・自己啓発	健康	仕事・キャリア	人間関係	社会的環境(住居・土地料など)	遊び・余暇
第1位	度数: 60 比率: 29.0%	度数: 44 比率: 21.3%	度数: 5 比率: 2.4%	度数: 24 比率: 11.6%	度数: 32 比率: 15.3%	度数: 27 比率: 13.0%	度数: 1 比率: 0.5%	度数: 14 比率: 6.8%
第2位	度数: 51 比率: 24.6%	度数: 30 比率: 14.5%	度数: 2 比率: 1.0%	度数: 20 比率: 9.7%	度数: 17 比率: 8.2%	度数: 31 比率: 15.0%	度数: 8 比率: 3.9%	度数: 18 比率: 8.7%
第3位	度数: 42 比率: 20.3%	度数: 26 比率: 12.6%	度数: 7 比率: 3.4%	度数: 42 比率: 20.3%	度数: 28 比率: 13.5%	度数: 17 比率: 8.2%	度数: 13 比率: 6.3%	度数: 32 比率: 15.5%
第4位	度数: 29 比率: 14.0%	度数: 36 比率: 17.4%	度数: 10 比率: 4.8%	度数: 51 比率: 24.6%	度数: 22 比率: 10.6%	度数: 25 比率: 12.1%	度数: 8 比率: 3.9%	度数: 26 比率: 12.6%
第5位	度数: 15 比率: 7.2%	度数: 31 比率: 15.0%	度数: 15 比率: 7.2%	度数: 33 比率: 15.9%	度数: 21 比率: 10.1%	度数: 55 比率: 26.6%	度数: 15 比率: 7.2%	度数: 22 比率: 10.6%

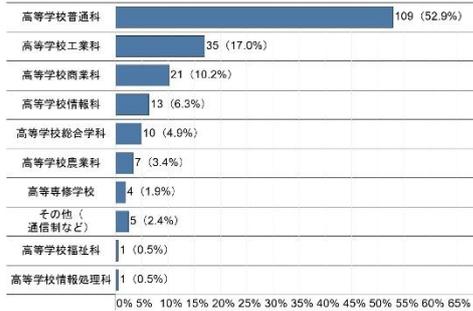
第6位	度数	4	21	55	26	28	36	17	20
比率	1.9%	10.1%	26.6%	12.6%	13.5%	17.4%	8.2%	9.7%	9.7%
第7位	度数	4	13	78	5	20	11	14	62
比率	1.9%	6.3%	37.7%	2.4%	9.7%	5.3%	6.8%	30.0%	
第8位	度数	2	6	35	6	9	5	131	13
比率	1.0%	2.9%	16.9%	2.9%	4.3%	2.4%	63.3%	6.3%	



「大切にしているもの、大切にしていきたいこと」についての順位を尋ねたところ、最も優先的に選択されたのは「お金・経済」(29.0%)であった。この項目はほぼ第5位までに選択されており、専門学校生の多くが金銭的な面を価値観として重視していることがわかる。また、「家族・パートナー」、「仕事・キャリア」も比較的優先的に選択される傾向にある。他方、「学び・自己啓発」、「物理的環境(住居・土地料など)」はあまり重視されていない。特に「物理的環境(住居・土地料など)」は半数以上の者がもっとも優先度を低くみている。

問 31. 卒業した高等学校・高等専修学校の学科をお答えください。

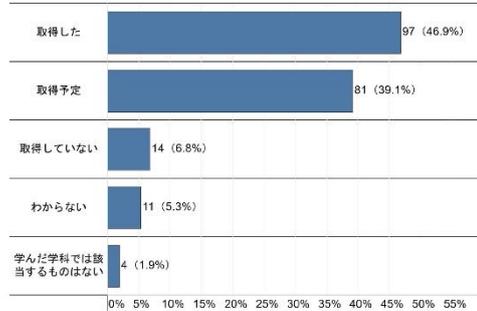
高等学校普通科	109	52.9%
高等学校工業科	35	17.0%
高等学校商業科	21	10.2%
高等学校情報科	13	6.3%
高等学校総合学科	10	4.9%
高等学校農業科	7	3.4%
高等専修学校	4	1.9%
その他（通信制など）	5	2.4%
高等学校福祉科	1	0.5%
高等学校情報処理科	1	0.5%
計	206	100%



回答者のうち約半数が普通科の出身である（52.9）。また、回答者に自動車系、情報系分野に所属する学生が多いことから、工業科（17.0%）や商業科（10.2%）、情報科（6.3%）などの専門学科出身も比較的多い。他方、その他（通信制高校）出身は、今回の回答者の中にはほとんどいなかった。

問 32. 専門学校に入って当該学科で目指す資格取得をしましたか。

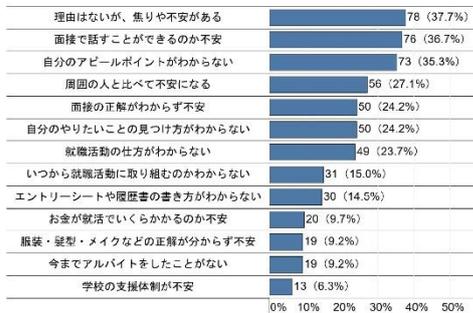
取得した	97	46.9%
取得予定	81	39.1%
取得していない	14	6.8%
わからない	11	5.3%
学んだ学科では該当するものはない	4	1.9%
計	207	100%



所属学科において目指す資格をすでに取得、あるいは取得予定であると回答したものは86.0%であり、回答者のうちほとんどが何らかの資格取得を見込んでいる。

問 33. 就職活動で不安なことはありますか。（複数選択）

理由はないが、焦りや不安がある	78	37.7%
面接で話すことができるのか不安	76	36.7%
自分のアピールポイントがわからない	73	35.3%
周囲の人と比べて不安になる	56	27.1%
面接の正解がわからず不安	50	24.2%
自分のやりたいことの見つけ方がわからない	50	24.2%
就職活動の仕方がわからない	49	23.7%
いつから就職活動に取り組むかわからない	31	15.0%
エントリーシートや履歴書の書き方がわからない	30	14.5%
お金が就活でいくらかかるのか不安	20	9.7%
服装・髪型・メイクなどの正解が分からず不安	19	9.2%
今までアルバイトをしたことがない	19	9.2%
学校の支援体制が不安	13	6.3%



就職活動で不安なこととして、最も多く選択されたのは「理由はないが、焦りや不安がある」であった（37.7%）。また、「面接で話すことができるのか不安」（36.7%）、「自分のアピールポイントがわからない」（35.3%）といった、主に面接にかかわる不

安も大きいことがわかる。一方で、「学校の支援体制が不安」を選択した者は少なく（6.3%）、各学校が行っている就職支援を不満に感じているものは少数派であることがわかる。

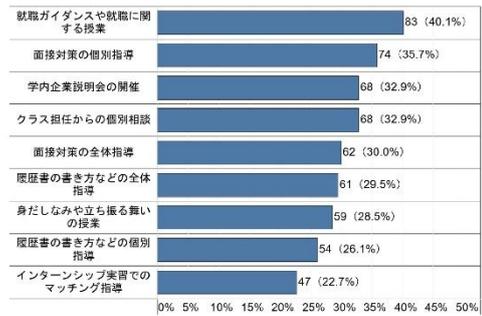
問 34. 選択肢以外に就職活動で不安なことはありますか？

YIC 京都工科自動車大学 校	その他
	どんな仕事かわからない
	これからの日本と物価
	その他
	もし面接などで落ちた時
	健康面でいけるかどうか
	実際に働いたときのギャップ
	受かるかどうか
	受かるか不安
	周りとの進路が違う感じ
	就職できるか不安
	適正検査が少し不安
その他	
その他	
その他	
わからない	
実家を継ぐかどうか	
終わるかららない	
選択肢にもない	
その他	
YIC 情報ビジネス専門学 校	その他
	その他
	ちゃんと就職出来るかどうか
	その他
	資格
	その他
	社会人として仕事や生活ができるか不安
	就活が終わっているためなし
	就職先が決まっているので不安は無い
	第1志望の業界へ就職できるかどうか
面接が不安です	

エルケア医療保育専門学校	その他
	全部
	面接 2年生に上がった時の実習期間。 選んだ職場が自分に合っているのか不安
国際電子ビジネス専門学校	その他
	面接など会社の人と話すのが緊張する
	ガクチカ
	どんな仕事に就きたいか決まっていない
	就活支援のサイトもともに機能せず学校の支援が全く当てにならなかった
	その他
	ストレスすごいのにストレス発散の方法がわからない
	その他
	思いつかない
	親に迷惑をかけそうで怖い。
	その他
	どういう人と働きたいかわからなくなっている。
	具体的なやりかたがわからない
	自分に合う就職先を見つける方法
その他	

問 35. 今後、所属校に対して就職活動支援で期待することはありますか。(複数選択)

就職ガイダンスや就職に関する授業	83	40.1%
面接対策の個別指導	74	35.7%
学内企業説明会の開催	68	32.9%
クラス担任からの個別相談	68	32.9%
面接対策の全体指導	62	30.0%
履歴書の書き方などの全体指導	61	29.5%
身だしなみや立ち振る舞いの授業	59	28.5%
履歴書の書き方などの個別指導	54	26.1%
インターンシップ実習でのマッチング指導	47	22.7%



所属校の就職支援として期待することについて尋ねたところ、「就職ガイダンスや就職に関する授業」(40.1%)を筆頭に、「面接対策の個別指導」(35.7%)、「学内企業説明会の開催」(32.9%)、「クラス担任からの個別相談」(32.9%)と続いている。

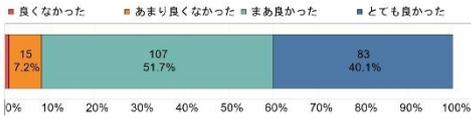
問 36. 選択肢以外で就職活動支援で欲しいことはありますか？

YIC 京都工科自動車大学 校	その他
	仕事内容の提示
	いろいろ
	その他
	学方面の支援
	自分の困っている事への相談や手助け
	色々な会社を知れる機会
	働いてる人と喋りたい
	面接練習
	履歴書の添削
	その他
	その他
	その他
	わからん
選択肢にもなし	
YIC 情報ビジネス専門学 校	その他
	どんな会社があるか教えて欲しいです
	アドバイスなど
	いい所の紹介
	その他
	そんなに無い
	まだ分からない
	わからない
	その他
	企業説明会の質問内容(基準がわからないから何も言えない)
個別面談	
考え中です	
今とこは大丈夫	
面接対策	
エルケア医療保育専門学 校	その他
	就職について先輩と話す機会を作って欲しい
	分かりません ありません

国際電子ビジネス専門学 校	今のところありません。
	自己分析のしかた
	その他
	いろんな仕事の紹介・説明など
	もっと生徒に寄り添いながら動くべきだと思った
	資格取得
	面接対策
	SPI対策
	その他
	思いつかない
	自己分析の進め方
その他	
自己分析	
インターンの仕方	
自己分析	
その他	

問 37. 専門学校に入ると良かったと思いますか。

とても良かった	83	40.1%
まあ良かった	107	51.7%
あまり良くなかった	15	7.2%
良くなかった	2	1.0%
計	207	100%



回答者のほとんどが、専門学校へ入学したことに満足している（「とても良かった」：40.1%、「まあ良かった」：91.8%）。

問 38. 専門学校に入ると良かったと思う点を教えてください。

YIC 京都工科自動車大学校	好きを仕事にできる 進路が明確に見える 専門性があるところ 専門知識や先生の話が聞ける。先輩からも話が聞ける 専門的なことを学べる 友達が出来た いろいろ学べる おもしろい たくさんの企業の情報が得られるため たのしいから わからない 学びたいことを学べている 楽しい作業が出来る 技術、知識が身についた
----------------	---

61

繋がりが増えた 好きなことの専門的なことを学べた 資格が取れた 資格が取れて就活に強い 資格が取れて就職活動に強い 自分が学びたいことに集中して取り組むことができる 自分のやりたい仕事について学べたこと 自分の趣味と同じ趣味を持っている友達がいること 色々な車を使って色々な実習を通して実際に現場で働く時に役立つ知識を沢山蓄えられる 成長を実感できる。 整備のことを学べる 専門的な技術や知識、資格を取得できた事 専門的な事が学べる 専門的な知識を学べる 全部 対策がされてる 知らない事を詳しく学べる 知りたかった知識が学べた。 特になし 専門の知識が学べた その他 たくさん学べた おもしろい とても楽しい！目指せる ながすぎ わからん 楽しい 好きなことについて学べる 好きなもの同士が集まること 資格取れる 資格取得ができる 自分の学びたいと思うことを学べること 自分の興味がある物事について学べる 自分の取りたい資格が取れたから 自分の知りたかったことを学べる 授業が楽しい

62

	詳しく勉強できる 色々学べるから 専門的な事が学べるから 専門的に学べる 専門分野について学べる。技術を身につけられる。 徹底して学べる 友達が出来た 好きなことを詳しく知れる ちゃんと学べる 内容の濃い授業を受けられている 自分のやりたいことができ、毎日が充実していること 自分の学びたいことが学べて楽しい 自分の好きな分野をとことん突き詰められるから。 新しいソフトに触れられる 専門的な知識が身につく 資格 資格が取れた 資格が取れる 資格を取得できたこと 資格取得 先生が優しい 専門的な知識がつく 専門的な知識が学べる 専門的な知識が蓄くところ 専門分野が学べる 友達が出来たこと 時間に余裕が出来た ITについて知れてよかった その他 ボランティアで地域の学生と関わったこと 学びたいことが学べる。 希望する職種で、第一希望の企業から内定を頂けたから 技術を学べるから 好きなことを並行して学べることが出来る 自分に分野が向いている 就職したい道を決めることが出来た 就職できたから
--	---

63

	専門を学べること 専門知識を学べる 専門的なことが学べた 専門的な技術やその分野の最先端が何かを知ることができる。 専門的な知識が学べる 専門的な知識を学べる 専門的な分野が集中して学べる 専門的な知識や技術を学べるから 専門分野が学べる 専門分野を学べること 知らなかったことが学べた 知見が増えた 適度な縛りがあったりやりやすい 特定の分野に特化した知識が身につく 内定を取ることができた 雰囲気が良い 勉学に意欲的に取り組めるようになった 勉強 夢がある。叶える可能性がある
ニルケア医療保育専門学校	自分の学びたいことを専門にして学べる いろんな資格が取得できる サポートが充実している 金曜日が自宅学習の日で、勉強する時間を確保できるから 資格 自分が取得したかった資格が全部取れたから。 色々な学びができて居る所 専門の資格取得以外にも実践的なことを学べるから 同じ目標に向かって頑張れる友達が沢山居た 人間性を学べる クラスのみんなで丸となって頑張れるところ たくさんの資格を取得することができたから 資格がたくさん取れる 先生に気軽に相談できる点 専門的な知識を学ぶ事ができ、様々な人と交流出来ること。 沢山の資格取得や接遇について学べたこと 目標が定まった 資格が取れる
門路電子ビジネ	資格が取れる

64

専門学校	しっかり、支えてくれる先生がいる
	就職支援してくれる
	友達もできたパソコンの使い方やお金の周り方経理の仕方見方人間関係の重要さを学べて良かった
	グループで問題の解決
	わかりやすい
	検定取得
	資格が取れる
	資格取得をたくさんとれたり経験したことない事もできたのでよかったです
	自分が好きなスキルを学べること。
	自分で考える、自分から動くなど、前よりアクティブになった。
	主体的に行動できるようになったと思う
	取りたい資格がとれた
	就職する際に必要なことを身につけられた
	商業的な知識を得たこと
	色々な知識を得ることができるから
	新しい友達が作れたから
	人と関わる機会があった。
	専門的な知識が学べるのと、キャリアアップなどもできるからです。
	専門的な知識を得れること
	友人ができた
	有用な資格を取れる
	比べる基準が分からない
	友達が出来た
	pc、アプリの使い方を知れた
	いろいろな先生のサポート
	その他
	やりたいことを学べた
	環境が変わったこと
	資格が沢山取れた
	自分がやりたいことを学べる
	自分が好きなことを深く学べる
	実践的な技術と知識をすぐに学べる
	麻痺しやすい
	色々なことを学べた

65

	大学と違って早めに就活を初めて働けること
	知らないことを学べる。人と関わりを持てる。
	目指す職業に必要な資格や検定が取得できて、スキルアップもできる点。
	自分のスキルが沢山増えた。
	就職活動の支援が手厚かったこと、即戦力が鍛えられること。
	学べるがあった
	初めてのことでも一から学んでいけるという所
	広告デザインについて知り、作り方を学べたところ
	資格がたくさん取れる
	資格が取れて新たな人間関係が作れる
	自分の好き・得意な分野を伸ばすことが出来た
	専門知識を学ぶことができる点
	専門的な技術が学べること。
	同じところを目指す友達ができるから
	いろんな資格とれること
	デザインに関する経験の機会がたくさんある。
	学びたかったことが学べる
	自分の興味があることややりたいことへの技術や知識を得ることができているから
	自分の好きな事、得意なことを伸ばすことが出来て良かった
	多くに資格を取得できたため
	資格取得が沢山出来る
	好きな事が増えた
	資格が取れる
	興味がある分野の勉強ができる

66

問 39. 専門学校に入って良かったと思う点を教えてください。

YIC 京都工科自動車大学校	休みが少ないところ
	経験が積れる
	変な奴しかおらん
	3割くらい趣味は仕事にするもんじゃなないと思ったこと
	かなり授業がビリビリしやすい。
	その他
	トラブルへの対応が早い。
	プライベートの時間が削られる
	ルールが厳しい
	遠い
	休みが少ない
	金がない
	授業の教え方
	授業の教え方が分かりにくい先生が多い
	就職している人との技術の差が出来た事
	将来役に立つか疑問に思うところがある
	小さな不備がちょこちょこあって困る
	単位が厳しくて休みが少ない
	年100万円以上学費がかかるのに下に見られ給与水準が未だに低いこと
	疲れがすぐ溜まる
	勉強することが多く遊びの時間が少ない
	毎日しんどい
	臨時講師がピンキリ
	授業の時間暇が多い
	ある
	その他
	2年制なので就職までの時間がすぐに来る
	その他
	ながすぎてくさ
	何に困しても連絡が悪い、先生が適当すぎる
	学費が高い
	教え方が悪い
	高熱が出て休めない。
	週五がしんどい

67

	人が悪い先生方の対応が悪い授業でYouTube流し始める
	専門的な知識以外は学べないこと
	男しかおらん
	電子レンジが少ない
	普通の大学生生活も送ってみたいかった
	その他
YIC 情報ビジネス専門学校	専門知識以外の基本知識をやらないといけないこと
	その他
	クラスがうるさい
	そんなに無い
	メリハリがない
	より専門的なことを学びたいと思った
	時間が無いのと専門的な事が学べないところ
	取れる資格が取れてない
	授業が少し詳しい
	授業の進むスピード
	就職すれば良かった
	人間関係
	大学に比べて時間が無いところ
	授業中うるさい人がいる
	やっぱり勉強嫌いな人はとても辛い環境だと思う
	レベルが低い
	学校のイベントが少ない
	環境
	高卒に比べて出遅れる事
	今のところ無し
	時間が足りない
	時間が無い
	倍量の多さに疲弊
	生徒のレベルが低い
	先生の授業が分かりづらい時がある
	大学と違い一般常識などの教養分野の授業がない
	大学に行っていないので将来が不安。
	勉強量が想像以上に多い。
	忙しいところ
	忙しい所
	毎日学校に通うこと

68

	毎日強制で学校に行くこと
	毎日登校なのでバイトする時間があまり取れない
ユルケア医療保育専門学校	学生生活が楽しくない
	いろいろ
	学校外で活動がある時の場所が行きづらいこと
	思っていたのと違うが多い
	就職する時に、大学卒と比べると給料が低い
	商業の子が多かったからか、クラスの私語が多かったところ。
	忙しい
	今のところありません。
	人との関わりが狭い
国際電子ビジネス専門学校	大卒との年収の格差
	お金がかかる
	少し、自分の気の緩みがみられる
	同じ授業が続くことが多いので苦手な分野だとやる気がなくなる
	だらけちゃう
	わからない
	休暇に与えられた時間が少し長すぎたりと感じたり、逆に短すぎと感じたこと。
	資格がすべてではないこと
	時間かけなくてもいいところに時間をかけている
	時間を有意義に使えないことがあった
	授業の進め方が遅いこと
	授業内容が薄い、特定の先生の授業内容が非常に中身の少ないものになっている。情報系の学校なのにプリントが多すぎてかさばるのが地味に困る
	説明会で行った時と違う授業してるのがよくわからない
	通学
	必要な学費とそれに見合った学びを得ているかずっと疑問になっている。
	無駄な授業が多く、先生は生徒には遅刻するなどというのに、平気で遅刻すること
	余裕がありすぎる。
	多分ない

69

	お金がかかる
	すぐに就職活動をしなければならない。
	その他
	一般常識の勉強をする時間が少ない点。
	基礎がないまま課題や実習が多く、学生の負担が大変
	先生に癖が強いなーと思う人がたまに居る
	駐車場がない
	努力次第では独学でも学べる
	家から遠いので運転がしんどいです。
	借金
	その他
	検定と課題が多すぎてバイトと両立させるのが大変
	実践的な授業と課題が多く、基礎がないまま進むところ
	奨学金がかかる
	課題が多い
	自主制作をする余裕を作れない
	その他

70

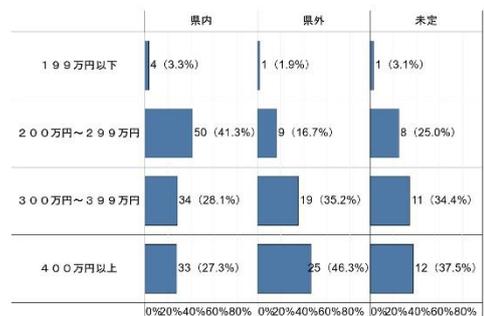
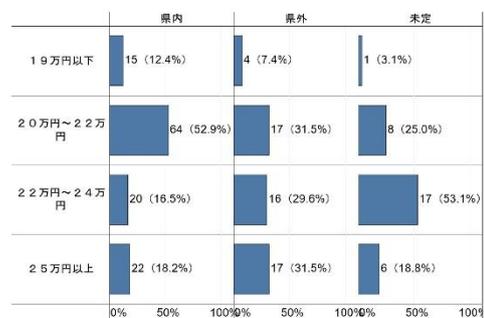
クロス集計①：希望する進路の場所（県内／県外）×希望企業規模、希望初任給、希望年収

	県内	県外	未定
0～5人	5 (4.1%)	2 (3.7%)	
6～20人	18 (14.9%)	7 (13.0%)	3 (9.4%)
21～50人	17 (14.0%)	10 (18.5%)	9 (28.1%)
51～100人	26 (21.5%)	6 (11.1%)	7 (21.9%)
101～300人	19 (15.7%)	9 (16.7%)	6 (18.8%)
301人以上	31 (25.6%)	19 (35.2%)	7 (21.9%)
起業・フリーランス	5 (4.1%)	1 (1.9%)	

本事業では、主に地域（地元）の中小企業へと参入していく人材の養成が目指されているが、ここまで見てきたように、本調査においては回答者の多くが、キャリアを形成していくにあたって「お金・経済」面を価値観として重視していることがわかった（問30）。本調査対象者の所属する学校の多くは他府県であり、最終的な進路先を県内にするか／県外にするかは、「お金・経済」面に大きな影響をもたらす選択となりうる。そこで、問13「現在希望する進路の場所はどこですか」という設問に対し、第一優先を「県内」としたか、「県外」としたか（あるいは「未定」としたか）によって、金銭面の指標である希望給与と希望年収への意識に差がみられるかを確認してみた。

まず、希望する企業規模について上記区別に見てみよう。101名以上の企業を希望する者の比率を見ると、県内は41.3%であるのに対し、県外は51.9%と約10ポイントの差がみられる。

71



次に、希望する給与（月給）と年収を上記区別に見てみよう。まず給与（月給）について、県内では「20万円～22万円」が52.9%と過半数を占めているのに対し、県

72

外では31.5%にとどまっている。その代わり、「22万円～24万円」や「25万円以上」が、県内より高い比率にあることがわかる。この点は、年収にもあらわれている。県内では「200万円～299万円」を希望している者が41.3%と全体の中で最も多いが、県外では「400万円以上」が46.3%と最も多い。この背景には、そもそも女性の方が進路先として県内を優先している傾向にあることもあるが、進路希望先の優先度の違いによって、希望する給与（月給）や年収に差異がみられる傾向にあることは重要なポイントであると思われる。

クロス集計②：希望する進路の場所（県内/県外）×能力意識

本調査では、問26および問27において、専門学校生の上観的な能力意識について尋ねている。この能力意識が、進路希望先（問13）によって異なるかを確認するため、両項目のクロス集計を実施した。先ほどと同様、問13については、最も優先度が高いとしたのが「県内」か「県外」かによって分類を行っている。

項目	県内		県外	
	人数	割合	人数	割合
「とても自信がある」と感じる	11 (12.2%)	11.2%	11 (12.2%)	11.2%
「自信がある」と感じる	46 (51.1%)	46.5%	46 (51.1%)	46.5%
「自信が少しある」と感じる	29 (32.2%)	29.3%	29 (32.2%)	29.3%
「自信がない」と感じる	10 (11.1%)	10.2%	10 (11.1%)	10.2%
「とても自信がない」と感じる	0 (0.0%)	0.0%	0 (0.0%)	0.0%

た層がほとんどであることがわかる。これはつまり、回答者に社会人入学者等が少ないということでもある。また留學生はほとんど含まれていなかった。

次に進路希望について、回答者の87.4%が就職を希望しており、現在の段階で「未定」の者を除き、進学を希望している者は少数派であった。就職活動の状況としては「企業説明会に参加した」という段階が最も多い(62.4%)。ただし、本項目は複数回答であるため、より先のステップに進んでいる者が、それ以前の段階も経験したのとして選択している可能性があることに注意が必要である。換言すれば、必ずしも就職活動の現段階を示しているわけではないということである。また、最も優先度の高い進路希望地域は県内(58.9%)であり、専門学校生の地元志向が垣間見える。

就職希望については、情報通信業(31.6%)が最も多く、次いでサービス業(28.6%)が多くなっている。これは、回答者の所属分野の構成比を反映した結果であるといえる。これは希望職種として専門・技術的職業が57.8%となっていることも関係している。また、勤務形態としては正社員を希望する者が95.2%と大半を占めている。希望する企業規模や初任給、年収についてはそれぞれボリュームゾーンがあるものの、学校ごとや性別ごとに分けると差が顕著に見える項目でもあった。

次に仕事選びの基準として、最も重視されているのは「自分の好きな仕事」(66.7%)であった。このほか、「自分の得意が活かせる仕事」(52.2%)や「キャリアが安定した仕事(給与・待遇)」(46.9%)も重視されている。キャリアの安定性については、大切にしている価値観として「お金・経済」(29.0%)が最も優先的に選択されていることとも関係しているであろう。

自己認識や主観的な能力意識については、他者と強調したり他者に共感したりする能力が身についていると感じる者が多い一方で、他者との関係構築や自己肯定感が相対的に低い傾向がみられた。

次に就職活動への不安については、「理由はないが、焦りや不安がある」(37.7%)が最も多く、学生の多くが漠然とした不安を抱いていることがわかる。他方、「面接で話すことができるか不安」(36.7%)や「自分のアピールポイントがわからない」(35.3%)といった具体的な不安を抱いている者もいる。こうした中、就職活動支援としては「就職ガイダンスや就職に関する授業」(40.1%)、「面接対策の個別指導」(35.7%)、「学内企業説明会の開催」(32.9%)、「クラス担任からの個別相談」(32.9%)などを期待していることがわかる。

最後に、専門学校への満足度については、91.8%の学生が肯定的に評価しており、非常に高いと評すべし。自由意志をみると、専門知識や専門技術、資格などの習得や就職支援などが評価されていることがわかる。他方、学費の高さや時間の制約、専門分野以外のいわゆる教養についての学びの不足などを指摘する声もあった。

以上の調査結果のポイントとして、ここでは2点をあげておきたい。

一つは、調査対象の学生は、地域(県内)就職を希望する一方で、キャリア形成のうえでは経済的な安定を重視する傾向にもあるということである。同じ情報系の分野

※4. 最も重視する能力 ※5. 最も自信がある ※6. 最も自信がない

項目	県内		県外	
	人数	割合	人数	割合
「とても自信がある」と感じる	11 (12.2%)	11.2%	11 (12.2%)	11.2%
「自信がある」と感じる	46 (51.1%)	46.5%	46 (51.1%)	46.5%
「自信が少しある」と感じる	29 (32.2%)	29.3%	29 (32.2%)	29.3%
「自信がない」と感じる	10 (11.1%)	10.2%	10 (11.1%)	10.2%
「とても自信がない」と感じる	0 (0.0%)	0.0%	0 (0.0%)	0.0%

「とても当てはまる」「やや当てはまる」をポジティブな回答、「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」をネガティブな回答としたとき、両者に10ポイント以上の差がある項目(いずれもポジティブな回答の比率)は、「自分から行動ができる」(県内:82.6%、県外:66.7%、差:15.9%)、「意見の違いや相手の立場を理解する力がある」(県内:91.7%、県外:81.5%、差:10.2%)、「自分の意見をわかりやすく伝える力がある」(県内:83.7%、県外:64.8%、差:18.9%)、「新しい価値を生み出す力がある」(県内:52.9%、県外:66.7%、差:13.8%)、「目標を設定し前向きに行動する力がある」(県内:70.2%、県外:81.5%、差:11.3%)の5つであった。「県内」「県外」の志向性の違いは、問13の学校別の状況で確認したように、学校の所在地による影響も大きい。そのことはまた、個別の学校において行われている教育活動の影響の大きさも意味する。多くの項目において「県内」「県外」ともに類似の傾向を示している中、両者の違いによって比較的大きな差が生じている上記の5つについて、これらの要因も含めた検討が必要になると思われる。

4. 総評

本事業は、地方におけるIT人材不足の解消という地域ニーズを背景に、地域の中企業と連携し「汎用的かつ多様な能力・スキルを醸成し、協働的な働き方でICT技術を活用して積極的に課題解決に取り組める人材」を育成する学校の構築を目指している。これをふまえ、本調査は、専門学校生の地域就職への意識、就職活動を把握し、カリキュラム開発の中でもキャリア教育・就職スキームの開発知見を得ることを目的に実施されたものである。以下、調査結果の概要を整理する。

まず、回答者の属性について、男性が71.5%、女性が28.5%と男性が大半を占めていた。これは工業系分野の回答者が多いことが影響していると考えられる。また18歳から22歳までの回答者が96.1%となっており、高校卒業後すぐに専門学校へ進学し

であっても、県内就職希望者が大半を占めるKBC国際電子ビジネス専門学校(神純県)と約半数が県外就職を希望しているYIC情報ビジネス専門学校(山口県)とでは、後者の方がより高い給与や待遇を求めていることが示される。

二つ目は、自己認識や主観的な能力意識について、「協調性」や「共感性」は高いものの、いわゆる自己肯定感や他者との関係構築に関わる能力については、上記の能力と比較してそれほど自信を持つことができていないということである。また、自分の意見を伝えるための能力や新たな価値を生み出す能力についても、苦手意識を持っている学生が少なからず存在していることもわかる。

最後に本調査の結果を踏まえ、本事業の目的を遂行するための提言を行いたい。

第一に、就職支援活動として、地域の中企業で働くことの魅力やキャリアパスを具体的に提示することが必要となるであろう。調査対象者の多くは地域(県内)での就職を希望しており、いわゆる地元志向が高い状態にあるといえる。他方で経済的な安定性を重視する傾向にもある。それは一方で、経済的な安定性に対する不安が県外への就職のブッシュ要因となる可能性があるということでもあるだろう。そのような不安を解消するために、地域の中企業の給与水準や福利厚生などに関する情報を積極的に提示しつつ、個々の学生の希望に沿うかたちでの就職支援体制を構築していくことが重要となる。その際には、地域の中企業との連携も肝要となるであろう。これらの企業との情報交換や意見交換等を通じて、企業側のニーズを把握しつつ、学生側が地域の中企業に対する理解を深めていくことが求められる。

第二に、学生が苦手に感じている能力意識を補完するような体制を整える必要もあるだろう。今回の調査では、先ほど指摘した通り、相対的に自己肯定感や他者との関係構築に関わる能力に苦手意識を感じている学生が多いことがわかった。こうしたなか、例えば日々の学習の中で小さな成功体験を積み重ねたり、授業中のグループ活動や実習などを抱いて身近なところから関係性を構築していきたりするような機会を増やしていくことが、学生の苦手意識を解消していくことに繋がる可能性がある。

第三に、就職活動に対して学生が持っている不安を解消していくための体制づくりも重要となる。今回の調査では、学生が就職活動に対して漠然と不安とともに、特に面接対策や自己のアピールポイントの提示の仕方にも不安を抱えていることが明らかとなった。自由記述にも、これらへの対策を求められがみられている。すでに様々な就職支援活動が実施されているところであるが推察するが、このような学生の声を真摯に受け止めた就職支援体制の見直しがいよいよ一層重要になると思われる。

今後、以上の結果を踏まえた具体的な施策の検討や実行が求められるであろう。

5-5 専門学校生地域就職意識ヒアリング調査 資料15-2

文部科学省委託事業令和6年度「地方やデジタル分野における専門学校理系転換等推進事業」「地域中小企業と連携によるIT担当育成・採用促進モデル開発と普及推進事業」

「専門学校生地域就職意識調査 (ヒアリング調査)」 報告書

学校法人 YIC 学院

1

目次

1. 事業の目的
2. 調査の趣旨および目的
3. 調査結果
3.1 調査概要と方法
3.2 調査結果
4. 総評

付録

専門学校生地域就職意識調査（ヒアリング調査）質問項目

2

1. 事業の目的

経済財政運営と改革の基本方針2023（令和5年6月16日閣議決定）において、成長分野への学部再編や先端技術に対応した高専教育の高度化などによる学びの転換の促進、木質を支える高度専門人材を育成する専門学校等の機能強化が重要課題として指摘されている。

一方、民間調査では、IT関連製品・サービスを提供するITベンダーやホームページの情報システム部門で活躍するIT人材が2030年には45万人不足するとの試算もあり、地方におけるIT人材不足への対応も急務である。特に、2024年問題も重なり、働き盛りの若者人口が少ない地方都市では、コロナ後の経済活動停滞に伴い人材不足が深刻化している。こうした中、山口県中小企業家同友会では、会員企業の人材不足解消に向け、山口県と連携して採用強化に取り組んでいる。また、山口県は産業活性化・人材減少対策として、魅力ある働き先としての企業誘致にも力を入れている。誘致企業にとって人材採用・育成は大きな魅力となるため、地域産業型の職業教育機関との連携が不可欠である。

本事業では、以上のような地域ニーズに合わせるため、中小企業で働くために必要とされる「汎用的かつ多様な能力・スキルを養いとし、実働的な働き方でICT技術を駆使して積極的に課題解決に取り組める人材」を育成する学科（以下、「新学科」）を開業することを目標とする。

2. 調査の趣旨および目的

上記のような事業計画の下で、複数の専門学校生が、中小企業が多くを占める地域（地元）での就職にどのようなイメージを持っているかを把握することは、新学科のカリキュラム開発におけるキャリア教育や就職支援のあり方を検討していくために有用である。また、ICT（IT）に関わる知識やスキルの習得にかかわって、専門学校生がそれぞれの所属校においてどのような学びを経験しているのかを把握することも重要である。本調査では、専門学校生の進路意識への意識、就職活動を把握し、カリキュラム開発の中でもキャリア教育・就職スキームの開発知見を得ることを目的とする。

3

る。そのうえで、専門学校生の進路に対する希望や不安を把握し、キャリアカウンセリングに役立てることを目指す。

4

3. 調査結果

3.1 調査概要と方法

調査は、2024年12月5日から2025年1月21日にかけて、13名の専門学校生に対して実施した。調査にあたっては、事前に調査内容を説明するとともに、調査結果の取り扱いについて同意書を取得した。加えて、ICレコーダーの利用についても承諾を得た。音声データは調査後、テキストデータに書き起こしたうえで、内容について調査対象者に確認を依頼した。本報告書で使用するデータはすべて調査対象者の確認と許諾を得たものである。

調査は、事前に質問項目を用意しおしつ、状況によって追加の質問等を行う半構造化のかたちで実施した。調査時間は、1人あたりおおよそ1時間～1時間半であった。対象は基本的に1人であったが、調査対象者や調査対象校の都合により2人同時に実施するケースもあった。

以下に、調査対象者の属性などの基本情報を示す。

調査番号	氏名	分野	分野詳細	学年	現学年	性別	出身地
1A	T	工業	自動車系	2年制	2年	男	滋賀県
2B	工業	自動車系	4年制	4年	男	大坂府	
3C	商業系	ペット系	3年制	2年	女	京都府	
4D	商業系	ペット系	3年制	2年	女	奈良県	
5E	商業系	医療事務系	2年制	2年	女	兵庫県	
6F	商業系	医療事務系	2年制	2年	女	兵庫県	
7G	工業	情報系	3年制	2年	男	兵庫県	
8H	工業	情報系	3年制	2年	女	兵庫県	
9I	商業系	医療事務系	2年制	2年	女	兵庫県	
10J	工業	情報系	3年制	2年	男	山口県	
11K	工業	情報系	3年生	1年	男	山口県	
12L	工業	情報系	2年制	2年	男	山口県	
13M	工業	情報系	2年制	1年	男	山口県	

5

3.2 調査結果

以下では、上記の調査項目をいくつかピックアップするからで結果を示すこととする。調査対象者とのやり取りを示す際には、上記の氏名（アルファベット）を用いる。なお、Xはインタビュアー（担当）である。その他、学校関係者等の参加がある場合は、YやZなどの記号で示すこととする。

①専門学校への進学理由

専門学校への進学理由は、大きく以下の4つに分類できる。すなわち、(1)好きなこと、やりたいことのため、(2)高校時代までに学んだことをより深く学びたいため、(3)将来に役立つため、(4)三指す職業のためである。以下、それぞれの語りとともに見ていきたい。

1つ目は、(1)好きなこと、やりたいことについて専門的に学ぶためという動機である。言い換えれば、自身の「好き」なことを仕事にするために、専門学校へと進学したパターンである。例えば、自動車系分野のバイクコースに通うAさんは、中学時代に好きになったバイクについて専門的に学ぶために、すでに当時から専門学校への進学を見越した高校選択（工業高校）を行っている。

A: 進学を決めた理由というのが、中学生の頃からバイクを友達に見せてもらったのがきっかけで、こういうバイクの整備に好きになっていって、中学生の頃から、ここをずっと見てましたね。

X: じゃあ、中学の頃からバイクのことに興味を持っていられたっていうことなんですけど、高校はどんな？

A: 高校は、ここらよっつとでも業にこれるようになっていって、工業高校にいます。

X: じゃあ、よく言う、大学にいきなったら普通科でとかって、もっと業に言う、勉強ができれば普通科でとかっていうふうな言い方をされたりしますが、Aさんの場合は、はっきり目的意識を持って、最終的に工業高校のほうに進学をされたというふうなことなんですか

ね。

A: はい。

X: ありがとうございます。じゃあ、中学の頃から自動車系の専門学校にいてるところを考えたんです？

A: いこうと思ってました。

こうした、いわば趣味的なものきっかけに、その分野を深く学びたいと考え専門学校進学を選択した者として、Kさんの事例が挙げられる。

K: 自分が専門学校に進学した理由がもともと自作パソコンをやってた上で、それに付随してOSのインストールとかっていろいろあるんですけど、そのときに何かいらないエラーが出てきて、よくわからんけど、とりあえずGoogleに聞いて、そのまま対応するっていうんだけど、じゃなく、どうもエラーでそういうエラーが起こってるのかっていろいろとか、どうも理由でそういうエラーが起こるのかっていろいろも知りたいんで、それが自分こういうことだよっていうんで、自分の解に落ちるようなかたちで理解できるというのが目的で専門学校進学っていうのがいいかなっていうので進学しました。

2つ目は、(1)と類似するが、高校時代までに学んできたことをより深く学びたいという動機である。Iさんは、高校卒業時点で将来の夢がはっきりと決まっていなかった中、商業高校で学んでいたプログラミングや簿記などをより深く学べば、結果的に夢や目標が見つかるのではないかという見直しをもって専門学校への進学を決めている。

I: 高校のとき、高校がまず商業系の高校に通ってて、その商業で学んだプログラミングとか簿記とか商業にまつわることをより深く学びたかった。高校から特に将来の夢がまだ決まっていなかったんで、より

7

深くプログラミングとか簿記とかを学んだら、夢、目標がより広がるかなと思って進学しました。

また、医療事務系の学科に所属しているIさんも、商業高校で学んできたPCスキルをはじめとする事務的能力を活かしていけるのが医療事務職なのではないかと考え、専門学校への進学を決めている。Iさんの場合は、もともと心理カウンセラーになりたいと考えていたが、その仕事を食い潰すとしていくことが現実的に難しいことや、一方で家庭の事情により早く働きたいという自身の考えを総合的に評価したうえでの決定であることが、特徴的である。

I: 自分、もともと医療関係の仕事に就きたいなとは思ってて、で、その中で自分、商業高校だったんです。なので、商業高校で学んだ、事務的能力ですという、大きく言うよ、パソコンだったり、そういうものを学べるものって医療事務じゃなくって(笑)、思って、で、特にこちらの学校だったら、自分もともと患者さんに心から寄り添える医療事務員になりたいって、XX(所属校一筆書注)の志願っていう科目が選べるんですけど、そこで一緒にまた専門的に医療を学べるっていうことで、こちらに入学しました。

X: 例えば、さっきおっしゃった医療分野っていつでも、今回こちらの学校だけではなくて、大学さんとか短大さんとか、もしくはほかの専門学校さんもあったと思うんですけど、高校で進学するとき選んでませんでした？

I: 選いました。本当は最初、〇〇大学の心理学の分野のところがあるんですけど、そこらよっつと心理学に興味があって、そこいきたいなと思ってたんで、ちよっつと将来的に考えて、心理学という分野で心理カウンセラーの系とかで生きていくのは難しいよというところもあって、心理カウンセラーだったら看護系と一緒にやったりとか、だから自分は正直、早めに働きたくて、家庭の事情もあって、ちよっつと早めに

8

好きじゃなかったんで、大学は断念して、専門学校を選んだという感じ
です。

3つ日は、専門学校で学習し習得する知識やスキルが、将来的に役に立つ
であろうという見直しを持って進学してきたパターンである。これは時に情
報系分野に所属する学生に共通して見られた特徴である。以下は、該当する
CさんとMさんの語りである。

C: 私はもう本当に最初、看護学校に行こうとしたんですけど、全然違っ
んですけど、落ちてしまって。もうどこでもいいからとにかくいきたく
て、見つけたのが〇〇(所属法人一筆書注)のこの学校だったん
ですけど、この学校のこの学科に志望した理由が、マーケティングと
かExcel、パワーとか、パソコンを使うものって困ることないなと思
って、この先、絶対的に必要になってくるのかなと思って、それで希
望して入学したって感じです。

M: 〇〇(所属法人一筆書注)を知った経緯につきましては、親友から一
緒にこちらのオープンキャンパスに来ないかっていう誘いがあった
のが、一番大きかったんですけど、自分がこの科を選んだのは、今の
時代、Excel、Wordは絶対使えないと、多分事務職とかそちら側に就
くには必要だし、kintone っていうのを大学の先生にお聞きしたら、
そういうものは習わなくていいんで、こういうのは武器になるか
なと思って選んだのが、一番の理由です。

・・・中略・・・

X: Mさんご自身は、進学先として、大学とか、短大とか、そんなところは
考えなかったんですか?

M: 第一志望が関西公立大学でして、1年生のときの単位が少なかつたこ
ともあって推薦取れなくて一般で受けたんですけど、一般で落ちてしま
ったので、

X: じゃあ、あくまで最初は大学志望だったんですね。

M: 大学志望。金銭的なこともありませんし、親からは大学行ってほしい
って言われてたんで、一応、第一志望、大学で、第二志望、この〇
〇(所属校)の〇〇科(所属科)。

X: 僕のこれは勝手なイメージなんですけど、割ともう入学進学してい
うふうに決めて受験を考えられてる人で、そもそも専門学校のオー
プンキャンパスでもう見ようともしなみたいイメージがある
んですけど、声をかけられてっていうふうなお話だったんですけど、
きっかけっていうのは、お友達に声をかけてもらって、初めて〇〇(所
属校)のこと知ったんですか、それ。

M: はい。

X: じゃあ、それまでは専門学校のこと知ってたりしましたか?
高校生のとき。

M: 第二志望の際に、私立大もしくは専門学校考えといたほうがいと
担任の先生から言われていたので、一応調べようと思ってたところ
でちょうど友達から声をかけてもらったので、せっかくなんで行って
みようかなと思って。

両者とももともとは入学進学を目指していたものの、希望を叶えることが
できず、第二志望以下の選択として専門学校への進学を決めている。しかし
ながらその過程には、今後の時代においてICT(IT)関連スキルがより必須
の能力となるであろう見直しのもとで、それらを大学ではなくとも専門的に
学べる場所として専門学校が浮上しているところが特徴的である。

1つ日は、特定の職業に就くために必要となる資格等を取得するためとい
う動機である。一般的に専門学校への進学理由としてイメージされるのが、
これにあたるだろう。今回のヒアリング対象者の中では、ペット系の学部に
て「愛玩動物看護士」資格の取得を主としているCさんやDさんの事例があ
げられる。

C: まず、このペットの進学理由が、もともと動物が好きで、動物関係の
仕事に就きたいなって思ってたんですけど、国家資格作られていなく
て、進学を決めるときに、それで、一度人間の看護の学校に進学した
んですけど、やっぱりどうしても動物とかかわれる仕事がないと思
って、で、そのタイミングで国家資格化っていうのが決まっていたの
で、人間のその看護の専門学校を辞めて、こちらに進学したい
なと思って、で、辞めてから学校を探して、近鉄を利用してらんで
すけど、近鉄で1本で乗れるのでっていうのと、学校の寮制とかも
すごくよくて、オープンキャンパス2回ぐらい参加したんですけど、
先生も話やすい人が多かったし、この学校を選びました。

D: 進学理由は、動物看護師の国家資格を取りたかったので、資格を取
ってなったら、関西圏では家の近くがここだったので、専門学校にし
ました。

以上、ここでは調査対象者の専門学校への入学動機を大きく4つに分類し
て、具体的な語りとともに見てきた。「好き」を理由とした進学、目標とす
る職業に就くための資格取得を目指した進学など、それぞれの入学動機が多
様であるのはもちろんだが、注目したいのは、すべての方が明確に自身の入
学動機を語っているという事実である。その中にはIさんやGさん、Mさん
のように、本気希望していた進路(=大学)への道が断たれてしまったがゆ
えの消極的な進路もあるが、そうした状況の中でも将来的な必要性を考慮し
ながら戦略的に専門学校への進学を決定していることは非常に興味深い。新
学科の設営においても、多様な背景のもとでの進路選択を経て入学してくる
学生の存在を考慮する必要があるだろう。

②入学動機としてのオープンキャンパスへの参加

本調査において非常に印象的だったのは、先述のCさんの語りに見られる
ようなオープンキャンパスでの経験である。多くの対象者が、入学のきっか
けとしてオープンキャンパスでの経験をあげていた。例えば、自動車系分野
の学校に通うBさんは、オープンキャンパスに参加した際、「現場」を知っ
ている教員が多いことをやりとりから知ったことが、進学の原因となったと
語っている。

X: 先生の寮制がっていうふうにおっしゃってたのは、例えばオープ
ンキャンパスみたいなものには来られてっていうことなんですか。

B: オープンキャンパスに来たときに、たまたま縁があったっていうの
もあったんですけど、そこでおやじが先生を測すというか、いや、ち
よっと言い方悪いんですけど、

X: いやいや。

B: 今の現場において、エンジン、オーバーホールしますかっていうこと
を先生に全員聞いてもらって、そこで、あんまりしないですけど言
われたのが△△(所属校一筆書注)以外の全部の学校だったんです。
△△の学校だけ、いや、今でもエンジン、オーバーホールしますよっ
ていうことを言われたのが△△の先生だけだったんで、そこで先生の
技量っていうか技術力が、現場の人なんやなっていうのが、ほかの学
校は、結局〇〇さん(別の専門学校一筆書注)も現場で働いてた方の
先生も多かったんですけど、メーカー出資の〇〇さんか〇〇さんが、
メーカーから派遣っていうか出向してきたような感じの先生が多くて、
ちゃんと現場経験してるっていう先生が本当に△△はたくさんいてる
っていうことから、△△を選んだ理由にもなってる感じですね。

また医療事務系の分野に所属するEさんは、アルバイトを通じて知った
「登録販売者」の資格を取得できる学校を県内で探し、現在の所属校を見つ
けている。そのうえでオープンキャンパスに参加し、単に資格取得だけでは

ね。そういう専門的なことを、今、苦戦されたっていうふうなお話があったんですけど、一つは、勉強の仕方です。工夫をしたことがあったかということ。もう一つは、苦戦されたときに、どなたかに相談したりとか、友達とか協力者とかに、先生に相談したとか、いろいろあると思うんですけど、どんなふうにご自身の苦戦したことを乗り越えられたのかなっていうことですね。その二つ、教えていただきたいんですが、

J: 僕の場合は、周りの人にまづ聞いたところから、自分の中で工夫したポイントかなと思います。そのうえで、ある程度理解力っていうのを高めたうえで、実際、自分で調べながら勉強するといった感じだと思います。

高校時代と異なり、分野固有の専門知識を、主に2年間から3年間という限られた時間の中で修得していかなければならないのが専門学校の一つの特徴であるが、そうした中で感じた困難を他者と集団的に活動することによって乗り越えている様子が、Jさんの語りからはうかがえる。こうした他者との協働活動の益みは、次に見るグループワーク活動での成長感にもつながるだろう。

今回の調査対象者から共通して挙げられたのは、授業内でのグループワーク活動や実習での経験を通じた成長についての語りである。例えばEさんとFさんは、皆員の授業のなかで成長を感じる機会があったかを尋ねたところ、次のように答えている。

- F: グループワーク?
E: グループワークぐらいかな。
F: グループワークが多かった。
E: グループワーク、船に出てみんなに発表するみたいなので、一応グループで出た授業も、いいところを全部覚えて、それを発表したり止まかな。

17

また、GさんとHさんも同様に、授業の中で成長感として、グループワークのことに言及している。

- H: 印象に残ったのは、よく検査対策とか授業でやるんですけど、でもチームでグループになって教え合ったりとか、あとは、点数も測ったりとかしてやるんですけど、教え合うことで自分の知識も身につくし、教えられるので、友達とかの距離も縮められるんで、そこは印象に残った。
X: 結構そういう検査対策がってのは多かったりするんですけど、授業として。
H: 1年生とかは検査メインとかが多いので。
X: ありがとうございます。Gさんにも伺っていいですか。
G: 私はパソコンがもう、こんな指で押すくらいしかできなかったんですけど、もうめちゃくちゃ速く打てるようになったっていうのが一番かいですし。
X: タイピング?
G: そうです。そうそう。あとは、自分、グループワークみたいなのがめっちゃ好きで、リソースっていうのがあったんですけど、リソースとか、授業でグループワークしていくのがめっちゃ好きで、それ、全力で取り組むのがめっちゃ好きで、協力してくれない方もいますけど、協力してくれる方と一緒に頑張っていくっていうのが、自分、結構大きかったですね。プレゼンとか発表、そういう機会も増えて、緊張とかもなくなっていく感じがするので、自信が持てるみたいな。

このように、学生にとって普段の授業のなかで展開されるグループワークは、成長を感じることのできる最も身近な機会の一つであるということができるだろう。

また正課内としては、より実践的な活動の口でリーダーシップ等の能力が身についたという語りがある。情報系分野に所属するJさんは、アプリ開発

18

にかかわる活動にリーダーとして携わった経験が貴重な経験になったと答えている。

J: リーダーシップっていうのは、もちろんゲーム開発っていうのもあって、そこでもリーダーっていうのをやらしてもらって、ほかの人が仕事を振ったりとか、あとは、自分だけじゃなくて、ほかの人の進捗の管理であったりとか、自分だけじゃなくてほかの人のことも見るといっているのは、すごく、あまり経験がなかったんで、すごい苦戦っていう感じですね。苦戦はしたんですけど、貴重な経験はできたかなって思いました。

さらに本調査において特徴的なのは、上記のような正課内の授業等の中だけでなく、正課外の活動を通じた成長感についての語りである。具体的には、学園祭の実行員や各学校における学生の自治団体である「学生会」、オープンキャンパスでの学生スタッフといった経験が、リーダーシップやファシリテーションなどの力を身につける機会になったといったものである。

例えばBさんは、実習でのグループ活動における「リーダー」の経験を通じて、リーダーシップなどの能力が身についたと語った後、そうした正課内活動以外の成長の機会として、学園祭実行委員会での経験を言及している。

B: リーダーシップで言ったら、結構実習の中でもエンジンとか分解するとき、そんな数があるわけじゃなくて、その数に対して1班、エンジン1個に対して4人、5人、ちょっと人数が多いんですけど、それでも1人ってなると1人、人が余ったりとか、全員が作業しにくっていうこともあったりするんで、その点を1人リーダーシップ、リーダー的な役割の人がおれば、この人はこれやって、この人は次、この作業やって、君はこっこのほうの作業してみたいな、そこで一つの班でもリーダーシップが必要って思ったこともありまし、それに、その班が10個ぐらいあったので、1人1回はリーダーシップを

19

経験できるのがあるかなとは思いますが。

- X: じゃあ、全員何かしらのことから、そういうのを経験できる機会は一応は設けられているような感じだったっていうことですね。
B: そうなんですけど、でも、それは自分でリーダーシップ発揮したいなら、それなりに自分で意識しないといけないっていうの、そういう臨機応変がないと、そこに立てないみたいな感じではあるんですけど、でも、それは1人1回必ずある機会やと思ってます。
X: ありがとうございます。
B: しかも授業外のことなんですけど、去年の学園祭の実行委員を立候補して。それも、月ったら、自分で月って、任意の参加なんですけど、それでもちゃんと先生には優秀だからこれやってね、リーダーやってみたいって感じじゃなくて、全員いる中でリーダーやりたいみたいな感じで聞いて、誰にでもリーダー、実行委員長、副実行委員長みたいな立場がちゃんと誰でも立候補しやすくて、環境があるっていうのもいいと思いました。
X: 誰でもそういうのに参加ができるような環境が用意されてるっていうようなことですね。
B: はい。
X: それでご自身で、ある種、手を挙げて実行委員長になられたっていう?
B: そうです。
X: 実際、学園祭はすごいまくいったりした?
B: うまくいくんですけど、反省点もあったりするんで、そこをみんなで見直したところを来年に生かすみたいな会議になったりするときに、ファシリテーションっていう言葉使われてたら、そういうところも結構身についたりするのではないかなって思いました。

次に、「学生会」についての語りである。JさんとHさんは同じ学校に所属しているが、両者とも、授業や実習のほかはこの「学生会」への参加が、専

20

門学校で学んできたことを受入れることのできた一つの契機になっているという。このうちJさんは、専門学校で学んできた2年間のなかで役に立ったこととして、国家試験に向けた進学と実習をあげつつ、合わせて「学生会」の活動に言及している。

J: まずは、1年生の頃にやった座学による国家試験の取得っていうのと、もう一つは、実習です。っていうのは、就職活動にすごく役立ったなと考えています。あと、授業とはあんまり関係ないんですけど、学校として、ある学生会っていう活動もあって、それもすごい役立つななと考えてます。

Lさんも、同様に以下のように語っている。

X: 実際は今まで、まだ会社で働いてるわけじゃないので、学生の中でっていうことなんですけど、今までの学生生活の中でそういう知識とかを身につけておいて、役に立ったなというふうに思われた体験って何かありますか？

L: 学生会とかで投票、その学生の投票結果とかを集計とかまとめてたりする表を作ったりするのにExcelとかを作ったり。ほかの学科はExcelとかを学んでないので、自分たちが率先して作ったりしたいな。

X: なるほど。ほかの学科のぶんもまとめて作ったりしてるんですか。

L: はい、全体で。

最後にオープンキャンパススタッフについての語りである。先ほどとりあげたEさんとFさんは、高校時代にも所属校のオープンキャンパスに参加しているが、専門学校入学後に、今度は自らがその運営に関わる学生スタッフとして参加している。専門学校に入學し、時に受立ったと感じることにについて尋ねたところ、それぞれ以下のように語っている。

F: はい。です。で、オープンキャンパススタッフやってから、リーダーシップとか結構伸びたなって思います。

またこれらとは性格が少し異なるが、ボランティア活動での経験を通じた語りも見られた。Cさんは、子供の頃からボランティアでグループの中心的役割を担い、上級の能力の成長感があったと語っている。

X: 今、社会人として求められる力とか、世間的にいろいろいわれの中で、リーダーシップとか、あるいは、ほかの人に共感する力とか、ファシリテーション力、ほかの人の意見とかも取りまとめてとかって、そういう能力も求められるみたいな話があったりするんですけど、ミタムラさんがこれまで専門学校の中で学んできた中で、そういうものが身につくような場面みたいなのがあったなとかっていうのがあれば、ちょっと伺いたいですけども。

C: ありましたね。春ぐらいに予科の預かりボランティアっていうのを行っているんですけど、そのときは基本的に先生はかかわってこそずに、自分たちで役割とかも決めながら、役割分担しながらボランティアを進めていって感じたんですけど、特に1年生のときも今年の2年生も、ちょっと中心的にやらせてもらって、やっぱり意見がすれ違ふこともあったんですけど、そのたびに話し合いながら解決して、ボランティア進めていったって感じなんです。

X: その中心的にやらせてきたっていうのは、ご自身で手を挙げて選ばれたというか、やった感じなんですか。

C: 結構おめな人が多いので、誰かが言わないと始まらないだろうなっていうので、大体言い始めて、リーダーっぽい立ち位置に最後までいたみたいなきっかけですね。

X: クラスの中でもそういう立ち位置でっていうふうな。この預かりボランティアの中でも生きてきたっていうふうな感じなんですかね。

C: そうですね。

E: 私はオープンキャンパスの学生スタッフをやったので、それで高校生の来てくださった学生の方に、学科の魅力とか、学校生活どんなだよとか、こういう授業してまってるというのが結構大きかったです。あとは英語、マナーの授業があったので、それで言葉遣いとか入道室とかの学びをできたかな。あとは、パソコンの授業が週に何回かあったので、Word、ワープロとExcelは少しだけですけど、タイピングも記憶が伸びたりはしました。

X: ありがとうございます。最初に言っていたいただいたオープンキャンパスの学生スタッフって、自分で応募したりするものなんですか。

E: そうです。もともとやりたいなと思ってたんですけど、1年生の初めに、やりたい人いないですかって、いいなと思って、担任の先生に、やらない？って言われて、じゃあ、やりたいですっていう感じでした。

さらに、リーダーシップやファシリテーション能力が身についたと感じる場面についても、両者はオープンキャンパススタッフの経験が印象的だという。

E: 自分はオープンキャンパスがおもしろい。この学科のリーダーをやったので、上場日の朝の朝礼、職員の先生たちの朝礼に参加して、それ、今日の人数何名ですとかいうのを聞くんですけど、あとは、今日はもし雑物の設備とかが揃ってたら、エレベーターの使い方とかをみんなに共有してねとか、あとは、募集、総合型とかの案内が入るんだしたら、その先生、案内に案内しないといけないので、学科の先生たちに案内してもらってっていう共有を、ほかのメンバーにやったりとかかな。そんな感じですかね。

X: すごいですね。結構先生たちに近い距離で経験されてるんですね。ありがとうございます。Fさんはいかがですか。

F: 私も同じくオープンキャンパスのスタッフなんです。X: されてたんですね。

同じく学外での活動経験として、より専門性の高い現場での経験を語っているAさんのような例もある。

A: 僕は去年の夏と今年の夏に、船橋の8時間耐久レースのピットクルーとして参加していたんですけど、

X: すごいですね。

A: 1年目はリーダーのもとで動く役だったんですけど今年はリーダーとして参加していたので、そのときに実習とかで学んできた技術も発揮できましたし、そこでみんなをまとめてっていうのはだいぶ理解できたかなと思います。

X: すごいですね。それって、当然リーダーだから、1人しかいないというか。

A: 一応サブリーダーがいたので、サポートはしてもらいながら。

X: それはご自身で自己推薦的に手を挙げるものなのか、選ばれるのか。

A: 選ばれた。クルーとして行きたいっていうのは自分で言うんですけど、リーダーは学校からっていう感じ。

以上のように、今回の対象者はいずれも、授業内のグループワーク活動や実習、課外活動など専門学校内でのさまざまな学びの機会を通じて成長感を感じることのできる機会を積極的に導入していくことが求められるといえるであろう。

④現在のICT（IT）関連スキルについて

本事業では、「中小企業で働くために必要とされる汎用的かつ多様な能力・スキルを担いとし、協働的な働き方でICT技術を活用して積極的に課題解決に取り組める人材」を育成する学科の構築を目指している。これを検討するにあたって、学生が現在の学びの中でICT（IT）関連のスキルをどの程度身につけているのか、それほどのような学修をきっかけにしたものかを把握する必要がある。

この点について、共通して言及があったのは、タイピング技術やMicrosoft WordやExcelといった基本的なソフトなどのスキルについてである。情報系分野に所属するGさんとHさんは以下のように語っている。

- X：ICT技術やスキルについてってことなんですけど、今もちろん専門的にいろいろと学んでこられてる最中なので、たくさんあるかなというふうに思うんですけど、具体的にどんなスキルとか技術を学んでるんですかっていうのを伺いたいです。すみません、僕が素人なもので、どうということ学んでいるかって教えていただいていいですか、特にICT関係について。
- G：お金のこと、簿記だったり経済の仕組みですね、あとは、今後、社会で生きていくうえで絶対的に必要ってわけじゃないんですけど、Excelとかパワポとか、そういう技術あったほうが優遇じゃないですけど、ない人よりは全然あったほうがいいじゃないですか。そういう細かいところまで学べるっていうのがあります。
- X：Hさんはいかがですか。
- H：さっき言ったんですけど、データマーケティングでの、ビッグデータを使って、データを読み解く力を身につけたりとか、あとはビジネスマナーとかも授業であって、敬語とか、そういうの、読書とかでも使えるようなものとかを学んだりもします。
- X：実際、まだ就職活動とかもこれからになってくるんですかね。
- G：インターン行くぐらいですね。

25

- X：そういうインターンの例えば経験とかの中で、学んできたExcelとかパワポの技術とか、あるいは、さっきビジネスマナーとか、いわゆる振舞みたいなものが役に立ったなっていう感じはありますか。
- G：インターン行って役に立ったなはないんですけど、仕事先で、例えば経理とかだったら、パソコン打つタイピングの速さとかも重要じゃないですか。ExcelのデータまとめるとかだったらExcelの基礎知識とか関数とかいろいろあるじゃないですか。そういうのも便利に使えますし、検定受けてよかったなっていう実感はありますね。
- X：そうなんですか。それを感じる場面っていうのは、実際、その力を、発揮できたときとかいうか。
- G：そうですね。
- X：お二人とも検定受けてっていうふうな話だったんですけど、具体的にどういったのを取られてるんですか、今の時点。
- H：今だと、サーティファイ主催のExcelの検定とか、あとはMOSのパワーポイントとExcel、あとはワープロ検定だったり、あとは日商の簿記検定だったり。

同様の技術やスキルについては、非情報系分野に所属しているEさんとFさんからも言及があった。2年間の学習の中でどのようなことが役に立ったかを尋ねた際、Eさんは以下のように答えている。

- E：私はオープンキャンパスの学生スタッフをやったので、それで高校生の来てくださった学生の方に、学科の魅力とか、学校生活どんなだよとか、こういう授業してますっていうのが結構大きかったです。あとは検定、マナーの授業があったので、それで言葉遣いとか入室宣言とかの学びをできたかな。あとは、パソコンの授業が薄に何回もあったので、Word、ワープロとExcelは少しだけですけど、タイピングも記憶が鮮やかになりました。

26

EさんとFさんによれば、医療事務系の分野においても面接時にこれらのスキルの習得状況を聞かれたという。

- X：そもそも、お二人の就いていかれようとしてるお仕事、登録販売とか医療事務とかって、ICT技術とかスキル、どれくらい求められるものなんですか。
- E：いや、求められるんじゃないよ。
- F：はい、面接でめっちゃ聞かれました。どのくらいですか、何級レベルですかとか。
- X：具体的に、それってWord、Excelとかのことですか。
- F：Excelが、めっちゃ、聞かれました。やり方。

また情報系分野に所属するIさんは、就職活動時に、企業側が一定程度のタイピングスキルがある前提の上で募集活動を行っている印象を受けたという。

- X：情報系の学科に今、おられるということなので伺いたいですけど、○○さん（就職先企業－筆名注）を主に見られてたということなんですけど、ほかの就がないときに見た車のメーカーとかPC関連の会社とかを見るときに、これくらい今、ICTとかの技術、スキル、WordとかExcelは最低限できたほうが良いなって思われてるんだなみたいなこと。そんなことがご経験の中であれば教えてほしいんですけど、あんまりそういうのは求められてないと思うのか、一方でこの辺まで求められるんだと思うのか。
- I：ある程度のタイピング技術はあるみたいなお感じで、前提で話されました。結構。
- X：タイピングは、じゃあ、結構大事なんですね。
- I：はい。
- X：そういうソフトウェア何使えるとかっていうことよりも、タイピン

27

グのほうが。

- I：そうですね。
- X：割といろんな企業でも重視されてる印象がある。
- I：はい。

このように、情報系分野はもちろん非情報系分野においても、タイピング技術やMicrosoft WordやExcelといった基本的なソフトの能力が重視をされているし、実際に学生は専門学校での学習を通してこれらの技術やスキルを身につけていっていることがわかる。

さらに、こうした基本的なツールのスキル取得は、それ自体が専門学校への進学動機になっている場合もある。同じく、情報系分野に通うMさんは以下のように語る。

- M：○○（所属校－筆名注）を知った経緯につきましては、親友から一緒にこちらのオープンキャンパスに来ないかっていう誘いがあったのが、一番大きかったですけど。自分がこの科を選んだのは、今の時代、Excel、Wordは絶対使えないと、多分事務職とかさっさと働けるのには必要だし、kinronってものを大学の先輩にお聞きしたら、そういうものは習わなくていいから、こういうのは武器に使えるかなとあって選んだのが、一番の理由です。

また、特に情報系に通う学生は一般的な専門学校生と比較しても高いICT（IT）関連スキルを有している。その典型がJさんである。もともと機械好きで、中学生のころから触るようになったパソコンについてより深く学びたいと現在の学校に進学したJさんは、プログラミングやアプリ開発などの知識・スキルなどに自信を持っていると語る。

- J：プログラミング、アプリ開発だったりとかは、自分が、まあ得意とい

28

うよりかお難易さな分野っていうのもあって、ほかは、あとネット
リンク関連の二つは、結構で見て自信を母でると思ってます。

さらに情報系分野の学生は、そうしたより専門的なスキルについて、自身
で意欲的かつ積極的に学習している場合もある。現在1年生のKさんへのヒ
アリングの中では、次のようなやりとりが聴かれた。なおここでLは、同席
していた前属校の教員である。

X: 今の中で今後自分に役立ちそうだと感じるものはありますか？
K: 自分の中ではLinuxの授業が一番、OSごと学びたいっていうので、
一番わかりやすい授業かな。わかりやすい授業っていうか、それに近
い授業かなっていうんで、何かに役立ってるかな。この初めで役立っ
んじゃないかなっていうふうには勝手に思ってるだけなんで。
X: あと自主的に自分で技術とかスキルを向上させるために何か行っ
てることってありますか？自主学習。
K: 自主学習、いや、特にはテスト前ぐらい(笑)。テスト勉強ぐらい。
L: こんな分野の本買ってなやん。
K: あればこれに入るんですけど。
L: 入る。あれLinuxとかセキュリティを『ハッキング・ラボのつくり
かた』って6000円ぐらいするのがあるんですけど、私、結構学生に
本、紹介するんですけど、なかなかやっぱり学生、本買わないんです
けど、木次さん、この正月にね。
K: そうですね。1万円ぐらい買ってもらったんで、それで。
L: それも自分で多分勉強するために。

また同じく情報系分野に通うLさんは、すでに就職が決定している企業内
で用いるシステム(Drupal)を積極的に学んでいる。ChatGPTをはじめとし
た生成AIの利用状況について尋ねる中で、Lさんはそのシステムのために
生成AIを活用しながら自主学習に取り組んでいると語っている。

29

X: それからもう一つは今、ChatGPTとかGeminiとかいろいろ生成AI
が割と人口に馴染してる、いろんな人に使われるような状態になっ
てるかなと思うんですけど、金子さんご自身はそういう生成AIを使っ
たりはありますか？

L: はい、ChatGPTすごく使ってます。
X: ChatGPTを一番メインに使ってますか？
L: はい。
X: ChatGPTで何を使ってるんですか？
L: 最近でいったら自分の就職先で使うサービスみたいな、ペンチャー
ですけど、一応勉強でやって、行き詰ったときとかはChatGPTに聞
いて。
X: なるほど。ちなみに多分聞いてもわからないんですけど、そのサービ
スってどういうサービスなんですか？
L: Drupal(ドゥルーパー)というサービスですね。
X: 初めて聞きました。どんなサービスなんですか、それって？
L: 一応ノーコードで構築できるウェブページを作れるみたいな、
WordPressみたいな感じ。
X: WordPress使ったことがあります。
L: それにもうちょっとカスタマイズ性が加わったみたいなのがDrupal。
X: 何となくイメージがつかえました。それは、じゃあ、教員で今、やられ
てるんですね。
L: 一応教員とかいっていいんですけど、ちょっと難しいので、ChatGPT
にもうちょっとかみ砕いて説明お願いしたいです。
X: 割と、じゃあ、自分で辞書使いこなしてる感じというところでしょね。

以上のように、情報系分野かどうかを問わず、専門学校生にとってタイ
ピング技術やMicrosoft Word、Excelといった基本的なツールの利用に関する
スキルを身につけておくことが必須となっていることがわかる。特にタイ

30

ピングに関しては、情報系分野に通うLさんが語っているように、企業側がある
種前提として想定しているスキルとなっているといえる。そして、情報系
分野においてはその他の分野に所属する学生と比べて、生成AI等のより高
度なICT(IT)関連スキルを身につけ、自主的にそうしたスキルを磨こうと
努力していることも示唆された。

なお余談ではあるが、こうした生成AIの普及について危機感を抱く学生
の声もあった。先ほど語りを取り上げたFさんは現在医療事務職への就職
が決定しているが、将来的には看護師の資格取得も目指しているという。そ
の背景には、AI等の発達により、医療事務職の仕事が奪われてしまうのでは
ないかという懸念があると述べている。

F: AIとか機械が増えていってるので、今、医療現場でも受付が機械で
受付になったりとかしてるので、いずれなくなったらどうしようかと
かは思ってます。
X: 自分の仕事ってこと？
F: AIに変わったら？とか思いますが、それはめっちゃ。
B: 私、全然考えたことがなかった(笑)。
X: 笑臉、お仕事は内容的にすごい危機感を感じられたりするものなん
ですかね。
F: はい。一応人力する仕事なので、接客とか普通だっつたら、人にしかで
きないことがあるじゃないですか。だけど、誰か作ったりカルタを
まとめたりするのは機械でもできそうなのがしてきて(笑)。いずれ
なくなったらどうしようかなとかは思ってます。
X: さっき、看護のことを学んでみたいっていうふうにおっしゃってた
のは、反面、そういう危機感というか、
F: ちよっと。
X: 大丈夫かなっていう？
F: 安定したのが、仕事は安定させたいから、全くならない仕事がいいで
す。

31

本調査では、Fさんが語っている生成AI発達の効果についても質問をし
ているが、多くの者がそのメリット/デメリットの両面を語っている。この
点について、自動車系分野に所属するBさんの語りが印象的であるため紹介
しておきたい。Bさんは、授業の中でエンジンオイルの役割を生成AIに尋
ねた際の使用感について、次のように語る。

X: お客様の車を直すという観点から、AIって、まだ不完全な部分もあ
ったりするじゃないですか。その信頼性から、すべてAIに任せ
てしまった場合に、もしお客様の車に故障、そのAIで出した結果に故
障があった場合、誰が責任を取るのかっていう観点から、自分はAIを
使わないかなって思います。
X: 今の技術的なことではってことですね。
B: そうですね。部品名称に対しての説明とか、一例授業でAIを使った
ことがあって、そのAIのところでは、エンジンオイルの役目は何で
すかってAIに問いかけたんですけど、自分たちの最適な答えは、エ
ンジンオイル交換しないといけない理由として、家で使われてる尺が
ら油は、基本的に1回、2回で終わらせますよね、それを3回目以降
で使ったら危いですよねみたいな話をして、なら、天ぷら油もちゃん
と交換しますよねって。天ぷら油も外に置いて半年ぐらいたつた
ら、それは使えないよねみたいな感じと同じようにエンジンオイルも
交換して欲しいっていう感じのが、
X: わかりやすいですね。
B: 僕たち1年生の説明やっつたんですよ。でも、それに対してAIは何を
答えたかっていうと、人間と同じような血液の役割であるのがエン
ジンオイルであるっていうことを、確かに、ああ、でも、それもあるな
と思っただけですけど、でも血液ってなると、いろんなものを運んだり
するってなったりすると、的を射た(?)っていうか正確な答えでは
ないかなとは思ったんです。抽象的には合ってるんですけど、細かい

32

ところで言ったら、血液っていったら、老廃物すべて流すとか、そういうわけでもないじゃないですか。ってなったときに、エンジンオイルってのはちゃんと老廃物、酸欠とかも除去してくれたりするっていうところを見ると、それやったら、まだお客様のおかりやすい観点からいくと、血液がいいかなと思っただんですけど、自分たちの言いたいことを伝えると大ぶら歯になったりっていうところで、AI との相違は。

X: じゃあ、突然授業で使ってみて、あまり納得感を得てないレベル感だっているの？

B: いや、どちらも理解が上がってるって感じですね。お客様にわかりやすく説明するのであれば、AI に理解が上がってたんです。血液っていう言い方、ワードがAI が勝ってたんですけど、意味としては自分たちの大ぶら歯のほうの方が勝ってたっていう、引き分けみたいな感じのあたりだったんです。

X: ある種、それは、じゃあ、言いつ的には、でも完全ではないっていうことですね。

B: そうですね。

X: そういってお話を伺っていると、ある種、折衷していくというか、さらにAI の、ある意味、よきですね。血液っていう表現をすることでわかりやすいっていうよきとかを自身の説明とかに取り入れるっていうふうなあたりで、さらにいいものを作っていくときには使えるかもしれないっていうふうな感じですかね。

B: 答えを聞くんじゃなくて、その途中にある、まあ言ったら、壁とかアイデアを欲しいときにAI を使うのがちやうどいいんじゃないかなっていうのは思いました。答えにすべてAI に任せちゃうと、結局は自分で考えずに、それをどうやってどうしたんかみたいな、その答え、途中が覚えないうちこそ、答え作ったところで自分が何をしているのかわからなくなると思うんで、途中で考えるところをAI に任せたらちやうどいいんじゃないかなって、あの授業で思いました。

た。

生成 AI の技術的発展が著しい中、F さんのような危機感はある種当然なのかもしれない。実際、十数年後の社会では労働人口の約半数の仕事が AI によって代替可能な試算が出されて久しい。そうした状況の中で、B さんのような冷静な状況把握と分析の手段の獲得が、今後より一層重要になってくると思われる。

⑤県内／県外でのキャリア展望

現在考えている進路について、県内／県外のどちらを希望するかを尋ねた。すでに就職先が決定している者については、就職先企業の所在地を尋ねている。

現在の居住地ベースで分類すると、明確に県内を希望（ないし就職決定）している者が6名、県内もしくは近隣県を希望（ないし就職決定）している者が6名、明確に県外を希望している者が1名であった。県内を希望する6名のうち5名は全員が沖縄出身であり、地域的な特徴が示唆される項目でもあった。以下、それぞれの語りを記していきたい。

まず、県内を希望（ないし就職決定）している者である。医療事務系の分野に所属し地元の沖縄県内での就職が決まっているEさんは、高校卒業後の進路を考える段階から、すでに地元での就職を見据えていたという。

X: 二つ目の質問ともかわるんですけど、ほかに例えば大学にいったりみようとかが、あるいは短大とか、そういうところに行ってみようとかな感じで迷われたりされましたか。

E: いや、大学とかは考えてなくて、一応県外の専門学校、整骨院系ののとも探したんですけど、いずれは県内就職がいいなと思ってたので、それを考えたら、地元っていうか、沖縄で実習とかできたほうがいいのかと思って県内にしました。

このような個人的なキャリア観のほか、家族との関係から地元での就職を希望している者もいた。これは以下のHさんのような語りが典型的である。

H: 自分も県内で考えてますが、姉が2人、県外での就職してて、私自身が姉で一番最後なんで、自分も県外に行っちゃったら、親にも何かあったときにすぐ聞かれないなと思って、それで県内就職で、今のところ思ってます。

以上のように、県内就職を希望している者は、「地元がいい」という個人的キャリア観とともに、身近な家族との関係性を考慮した選択であることがわかる。特に親が身体的・精神的な困難を抱えている場合などは一層、自身がそばにいてあげたいと地元での就職を希望する傾向にあるといえるであろう。ここでは語りを掲載していないが、沖縄県の医療事務系学科に所属するIさんの事例などがあてはまる。そしてこうした家族を考慮した選択は、次に見る県内もしくは近隣県を希望（ないし就職決定）している者にも見られる。

近隣県での就職を希望しているMさんは事務や経理の職へと就くことを想定しつつも、夢であるアニメ会社への就職も希望している。そうした事情もあり、現在はあくまで県外での就職を希望しているが、自身の身体的担当や一人っ子であるという理由から、県外だとしても近い方がよいと考えている。以下、その語りである。

X: さっきアニメ会社とかも含めて事務とか経理のお仕事っていうふうなお話されてんですけど、将来的に就職先を選ぶとき、偏所っていうのは、出口県内とかで考えたいのか、それとも東京とか大阪で、あと京都なのかな、出たっていうふう思うのって聞かれるとかいがありますか。

M: 今は県外で考えます。主に福岡だったり、広島、岡山、そのあたりで、今、考えます。できるだけ近いほうがいいかなっていうのは考えてます。自分、一人っ子で、自分がいなくなる親2人になっちゃるんで、何かあったってことを考えてしまうと、遅くには遅れづらいですし、自分の病気のこともあって、何か助けを呼ぶってなったときにも満足するよ、誰も友達とかがいなくて状況になると、ちょっと不安になるのよ。県外に出たんですけど、東京とかだと満足するんで、近いほうがいいかなっていう考えになっちゃるんです。

このほか近隣県への就職が決まっているケースとして、Jさんの事例があ

げられる。Jさんは学校が所在する山口県の出身であるが、就職先は隣の広島県の企業である。広島県を選んだのは、自身がやりたいと考えていた雇発業務が行える企業が山口県内にはあまりなかったことが大きな要因だとしているが、他方で自身の趣味的活動を行う上で広島県の方が都合がよい面もあるという。また、現時点では山口県に戻るつもりはないが、そのように考えるのも、距離が近いということが影響していると述べている。なおここでZとは、同じくしていた学校関係者である。

X: 僕自身も、趣味とかの話にもなってくるんですけど、そういう面でも、やっぱり県外のほうが僕にとっても都合がいいといいますが、っていうのもあって、県外にいきたくていうふうになりました。

Z: あと、その先に将来、行ってすぐ戻ることはないと思うんで、まあ歸の県なんで、帰ってくるのかということ、かなり確率は低いかなと思うんですけども、将来は山口県に戻りたいとか、そういうのはあったりとか。

X: 今のところは考えてなくて、距離も近いので。

以上のように、県外への就職を希望しているも、それはなるべく地元に近い場所だと想定している者が今回の調査対象者に多くいる点は特筆すべきところである。全国的な動向においても、専門学校卒業者はその学校が所在する都道府県内に就職する比率が大学に比して高く、これは若年世代の人口流出やそれに伴う人材不足が懸念されているなか、専門学校の特徴や意義として非常に重要なポイントであると思われる。今回の調査対象者が有している就職地の希望を実現できるような体制整備が求められるであろう。

最後に、今回の調査では1名のみであるが、明確に県外での就職を希望する者である。これはCさんのケースが該当する。Cさんは動物看護士としての就職を検討しているが、その希望場所は彼女の地元である示都府から離れた北海道である。そこには、彼女が取得を目指す「愛玩動物看護士」は国家

資格化(2022年)されてからまだ日が浅いこともあり、有資格者としての業務に携われたり、十分な待遇を受けられたりする環境が十分に整っていないという背景がある。そうした中、自分にとって納得できる職場を全国の動物病院から探し、見つけたのが現在希望している北海道の病院であった。この点について、Cさんは以下のように語っている。

X: 動物病院のほうに勤められるっていうふうなことをおっしゃってなかなかというふうに思うんですけども、動物病院一本ですって考えて就職活動とかをされてきたのか、それとも、ほかの国家資格を生かせるような仕事も検討されてきたのか、そのあたりのこと、ちょっと何っでもよろしいでしょうか。

C: まずやっぱり臨床経験が欲しいなと思ってたので、動物病院一本で考えてきました。

X: 臨床経験が欲しいっていうふうに思うのは、どうしてなんですか。

C: 資格が動物看護士なので、卒業ができなければ、持っているだけなのかみたいな感じに思われてしまうかなっていうのと、もともと動物病院に勤めたいって思っていたので、絶対臨床経験は欲しかったなっていう感じですか。

X: ありがとうございます。病院って、すいません、これ、私、無知なので教えていただきたいんですけど、クリニックとか病院によって給与とか働き方とか、結構ばらばらしてるものなんですか。

C: はい、そうですね。結構地域とかによって給与も違いますし、やっている、見れる動物とかも違ったりするので。

X: 確かにそう言われてみればそうですね。ご自身は何を一番大事にして今の就職先に決められたんですか。

C: やっぱり国家資格化されているので、国家資格化されてからできることっていうのが増えてきているんですけど、いまだに国家資格ではない動物看護師さんが働いていらっしゃるるところとか、獣医さんの考え方によっては、動物看護士さんはちょっと獣医さんの補助みたいな

感じで働ける病院が多くて、で、私が今、入りたくて思っている動物病院さんは、国家資格化をすごく生かされていて、動物看護士は動物看護士の仕事ができる。動物看護士として国家資格を生かしたうえで働けるっていうのがすごくポイントで考えています。

Cさんの場合は、国家資格化されて間もない「愛玩動物看護士」の資格をきちんと活かせる職場を選択する経緯のなかで県外を希望しているが、先ほどの事例にも見られたように、地元圏外に自身の置かれた就職先の選択が少くないという声も聞かれた。

⑥地元企業へのイメージや地元就職のメリット/デメリット

本調査においては対象者の全員が各学政の所在地ないしはその近隣県の出身であった。その点で、比較的「地元」と距離が近い環境で学んでいるといえる。前学政においては、とりわけ地産(地元)の中小企業へと参入していく人材の養成が目指されているが、その際には「地元」で就職することへのメリットを積極的に提示するとともに、学生自身にもそのメリットを実感してもらうことが求められるであろう。このような見直しの下で本調査では、地元企業に対するイメージと地元で就職することのメリットやデメリットを尋ねた。すでに県外への就職が決まっている者に対しては、仮に地元企業に就職するということを考えたら、という仮定のもとで回答してもらった。以下、これに関わる語りをみていきたい。

まず地元企業イメージとして聞かれたのは、選根や給料の都市部との差についてである。このことは、就職先の選択に当たって、地元企業が選択肢として入りづらいこともわかっているであろう。例えば、情報系分野で学びずには地元企業(限外)への就職を決めているしさんは、地元である山口県の企業イメージを次のように語る。

J: 地元だと、まずIT業界企業っていうのが少ないっていう点と、あとは、IT企業じゃなくてもメーカー企業の社内SEっていったところが地元企業は多いのかなっていうふうに、個人的に感じました。

X: それに比べると、広島は全然違うんですけど、そういう規模とかも含めて。

J: 広島は企業全体を見たわけじゃないので、そこら辺に聞けば、あまり詳しくは言えないんですけど、自分が見た企業では、規模は全然違うなって感じました。

こうした選択肢の少なさについては、アニメ会社への就職を希望するMさんからも聞かれた。Mさんは合わせて都市部のほうが給料が高いのではというイメージも語っている。

X: ちなみに県外に出たっていうのは、何か理由があるんですか。
M: 一番っていうわけではないんですけど、もし自分がアニメ会社とか
そっち側に入ると決めた場合なんですけど、山口県だとないんです
よ。1カ所、2カ所ぐらいしかなくて、そこも本当にできることって
いったら、下請けの企業になってしまうんで受注されたことしかでき
ないし。ってなると、やっぱり大きいところに入りたいっていうのはあ
るんで、どちらにしろ、あと、給与とかそちらの面でも多分割合のほ
うが高いのかなっていうイメージが結構あるので。ちゃんと調べたっ
てわけではないので、ちゃんとしっかり山口県内が給料低いとは言え
ないんですけど、イメージとしては、県外のほうが給料高そうという
イメージがあるので。
X: 山口は、そういうアニメ系の会社とかが少ないんですね。
M: はい。周南に一つあったっていうぐらい。多分、周南市に一つあった
気がするんですけど、周南市かどうか忘れた。1カ所は、確かあった
気がします。

このような企業規模や給料の都市部との差異を認識しながら、他方で地元
であるがゆえのメリットについて触れている者もいる。自動車関連の企業
(隣県)への就職が決定しているAさんは、地元である滋賀県の企業とそこ
で働くことへのイメージを以下のように語っている。

X: 例えば地元で就職しなきゃいけないみたいなことになったら、
どういったことが制約になってくるか、まあ、地元で働くことのよさ
とか、一方で、安楽〇〇とか〇〇(自動車メーカー)とか、そういう
企業が滋賀にはないっていうふうな企業の数の少なさと選択肢
な少なさみたいなものも、いろんな要因としてあるのかなっていうふ
うに思うんですけど、Aさんの感覚として、地元で就職することと
か地元企業に対してのイメージとか、そういうものが今お持ちであ

41

扱の少なさであった。特に給与については、県内就職希望者からも進路を
決めるうえで重要な条件であるという語りがなされている。地元である神
奈川県内に就職が決定しているEさんとFさんは、この点について以下に
語っている。

X: そういうふうに地元で働きたいっていう人が増えていくために、も
うちょっと地元企業としてこういう条件があったりとか、こういう特
遇だったりとか、あるいは、こういう要素があったらとか、いろいろ
給料とか福利厚生とか仕事のやりがいとか、こういうふういろいろ
書いてるんですけど、もっとこういうのがあったら地元に残る人増え
るんじゃないかなっていうふうな、本当に思ってることで構いません、
アイデアとかがあれば教えていただきたいんですけど。
F: よりあえて、給料。

F: 給料。神籠は低いので給料と、あとは、通いやすさ。やっぱり車、
必要なので、自宅から通いやすかったりとか。あとは、もし通勤に任
んでて名簿に飛ばされますとかあったときに、社宅だったりとか社員
寮があったらいいのかな。会社によるかもしれないんですけど、あつ
たらいいと思う。

このように、地元である県内就職を決めている者も、その給与が県外就職
する場合と比較して相対的に低いことは認知している。「給与が大切」とし
ながらも、それが相対的に低い水準にある地元での就職を選択するのは、い
ったいなぜであろうか。

この点を考えるために、次に地元就職へのメリットとデメリットについて
の語りを見ていきたい。まずメリットとして挙げられたのは、地元であるこ
との「安心感」や、地元の人が「温かい」といった平直な思いである。医療
事務系の学科に所属するIさんは、高校時代の進路選択の際、親の身体的・
精神的辛重を考慮し、なるべく身近にいてあげたいという思いから、現在は

43

れば伺いたんですが。

A: 地元企業、滋賀のテレビとか見てると、いろいろCMやってて、滋賀
のことを誇ってやってはるので、そういうところはいいなという、すご
いよくやってはるなみたいな感じはあります。けど、やっぱり人が少な
いので、やることっていうのは思っちゃいますね、ディーラーと
か行くと。

X: 滋賀の劑と規模の小さなディーラーと、大きなところのディーラー
って、ディーラーとしてやる仕事とかも全然違うものなんですか。

A: 仕事のほうは、どうなんですかね。まあまあ、でも、手帳ができたり
できなかったりっていうのはあるかもしれないです。ただ、やっぱり小
さいと限定のお客さんがついてるので、そういうところはいいかなとは
思います。

X: 規模が小さいながらのメリットっていうのもあるだろうっていう
ことですね。

A: そうです。

X: お話を、じゃあ、何ってると、Aさんの別に滋賀に対して悪いイメ
ージを持ってるとかっていうのは全然なくて、

A: 全然。

Aさんが希望する規模の自動車メーカーは確かに地元の滋賀県にはないも
の、一方でCM等で地元企業の活動を見ると、が地元のことをしっかりと
考えていることがわかり好印象を持っているという。そのため、近隣県への
就職は「地元から出たい」というような消極的なものではないことが印象的
である。この点は、動物看護士を目指しているRさんからも、地元の企業ス
ポーツチームが地域活性化の取り組みに力を入れていることを好意的に評
価していることも直なる。

以上のように、主に県外(隣県を含む)への就職を希望していたり実際に
決定している者から語られたのは、地元企業の規模や給料などに起因する選

42

県内での就職を考えていると証す。Iさん自身、いずれは独立立ちたいと
いう思いを持ちつつも、他方でそうした身近な人と離れて一人で暮らしてい
くことに不安を感じており、葛藤している様子がうかがえる。その際にIさ
んが語っているのが、地元で暮らすことの「安心感」についてである。

I: 私の場合はやっぱりあまり地元から、親もいますし、離れたくないっ
ていう気持ちが一番強いですけど、やっぱり親、もともと南側のほう
に親戚に任んでるので、情報寄りなんですけど、やっぱり自分の精神的
にも、ちょっと身近な人と離れると、多分1人じゃ最初はきついつ
ていうのがわかってるんですけど、絶対ちよっときついでろうなってい
うの、わかっでいて、でも、独立立ちほしたいんです。一人暮らしほ
したいんですけど。

X: あこがれるね。

I: そうなんです。ただ、いきなり中絶にむかってとか、そんなんは老
分自分でできないなと思っていて、やっぱりローカルって安心感がどうし
てもあるっていいですか。ただ、給料だったり、交通の、なので、や
っぱり込み合ったりとか、そんなのも考えて、住むところだったり、
車だったり、バスだったり、そういうの考えていくと思うんですけど、
やっぱり今の現状、クリニックの給料が高かったり(笑)、とかも、
やっぱりするのでそこら辺で正直迷ったりもするんですけど、やっぱり
来もありましたし、貯金はしていきたいですし。

また、「住み慣れた場所」であるがゆえにメリットを感じるという声もあ
った。Iさんは、長年住み慣れた場所であるがゆえにその環境を知っている
ことは強みになると、鉄道を例に語っている。

X: 地元就職の魅力とか、一方で地元就職を英断されるからあんまり感
覚はないかもしれないんですけど、地元就職をすることのメリット、
こんなことがあるよねとって何か思いつくことがあったら教えて

44

いたきたいんですけど。

I: ずっとその地元に住んでたからこそ土産物とか不便さとか電車のとかわかるから、あと山のことを結構知ってるから、いろいろ便利かなと思います。

こうした点は、動物看護士を目指すCさんからもその専門性と絡めて語られている。

C: 地元で働くようになったら、やっぱりずっと住んでいるところなので、どれぐらいの人がペットを飼っているのかみたいなところもわかりやすく、気候とかもわかりますし、気候がわかることで動物の体調とかもわかったりすることがあるので、それぐらいですかね。

X: そういうご自身が動物看護士として働いていかれるときに、また、給与とか、そんなのとは別の働きやすさみたいなものが地元だとあるんじゃないかっていうところですかね。

C: はい。

一方、デメリットとしては、地元のネットワークの狭さについての言及があった。この点について、Bさんの語りを見てみたい。

B: ベッドタウンに住んでるからっていうのもあって、ディーラーとかも、ほかの市に比べてめっちゃ多いっていうわけでもないんですけど、それゆえに地元就職が難しいっていうところとか、近いところはないと思うんですけど、逆に近すぎて、お客さんに家を見えられたりするっていうのも嫌いかかっていうのもあったりすると思うんで。実際、お母さんのほうが経験したことがあって、お客さんのほうに家、見えられて、怖い思いしたっていうのも、弊、経験談で聞いたのもあったんで、地元でやるとしたら、人間関係が太く(?)ないといけなくていうところもあったりするんで、そういうところが難しいなってい

45

うところもあったりしましたね。

X: 人間関係的なこととか、個人情報とかのこともそうですね。

B: 地元って、世間話が広がるのも早いと思うんで、何か印象悪いことをすべて言われてしまったら、そこ、全員が印象悪く見えられたり怖いところもあったりするんで、地元就職っていうのは、そういうところのデメリットもあるのかなと思います。

以上のように、地元就職のメリットとしては「地元であることの安心感」や「住み慣れた場所」であるがゆえの強みに聞かれるものが、デメリットとしては地元のネットワークの狭さがあげられた。しかしながら、付言しておきたいのは、今回の調査対象者の中で明確に「地元が好きではない」と語った者はおらず、只今（近隣県）での就職を希望している者もあくまで給与などの外的環境がブッシュ要因になっているということである。

46

⑦就職（キャリア形成）において重視すること

以上のような県内／県外の就職希望意識に関わらず、「働く」にあたってどのようなことを価値観として大切にしているかを尋ねた。地域（地元）の企業への就職を促すにあたって、学生が大別している価値観を把握しておくことは非常に重要であると思われる。

この点について今回の調査対象者の語りとして特徴的だったのは、先ほどのEさんやFさんの語りに見られた「給料」についてである。合わせて休日についても重視しているという語りがみられた。以下、いずれも有報酬分野のJさん、Lさん、Mさんの語りである。

X: Jさんが今後キャリアを形成して働くときに、この辺は譲れないなっていう条件とか価値観みたいなものがあつたりすれば、それを教えていたきたいんですけど。

J: やっぱり休みの日っていうのは、週2日は欲しいなって考えてました。

X: その条件を満たしてるところがっていうのは給料最優先とか、候補の上位としてはあったような感じなんですかね。

J: そうですね。

X: Lさんご自身、何かそのあたりで重視されたポイントってあつたりしますか？

L: 休みとかです。休みとお命と、その辺です。お命とか休みとかです。

X: 具体的に例えば休みって。

L: 土日が休みがよかったです。

X: 完全の週休2日がよかったです。

L: はい。

X: その企業（地元企業一筆看注）に例えば就職するってなったときに、こういう条件とか要素は最低限あってほしいなとかって思うことって

て、給料とか、職場環境とか、休みとか、やりがいもそうだと思うんですけど。

M: その会社の経営自体に多分全然詳しくないと思うんで、働くのも初めてになるんで、給料に関してはあんまり言いたくないんですけど、できれば初任給は月18から20万もらえて、普通の毎月もらえる給料だと35万ぐらいもらえたらいいかなと思います。

X: ボーナスとかそんなのがいっぱいあつたほうがいいなっていうイメージですか。

M: はい、あと、休みは土日できたら休みが欲しいです。

X: 完全の週休2日だ、やっぱり。

M: はい、週に2日が。

以上の点は、本事業のアンケート調査（「専門学校生地域就職意識調査」）における問30「あなたが大切にしているもの、大切にしていきたいものについて、1番を最大にして順位をつけてください」に、多くの者が「お金・経済」を第一優先とみなしている結果とも符合する。また、休日についても言及がなされていることをふまえると、いわゆるワークライフバランスを重視する傾向にあることも示唆されるであろう。このことを明確に裏証しているDさんの語りを最後に引用しておきたい。

X: これから仕事、やりがいはずごくあつたほうがっていうふうなことをおっしゃってたと思うんですけど、こういうこと、働くにあたって大事にしていきたいなって思われてる価値観みたいなものって、あつたりされますか。

D: 私は、仕事とプライベートをどっちも充実させたいって思っているんで、それを大事にです。

X: いわゆるワークライフバランスみたいなものを大切にできるような会社だといっている感じですかね。

D: はい。

47

48

⑧就職支援について

最後に就職支援についてである。新学科でなされるべき就職支援体制の在り方について、専門学校生が就職活動等の中でのどのような学びや支援が役立っているのか、反対に、何が不足しているのかをふまえた検討が求められる。このことについて、授業内で行われる基本的な進路指導や面接指導への言及を見てみたい。EさんとFさんは、両高校の授業において行われている「センスアップセミナー」で面接対策を行ったことが、実際の就職活動でも活きたと語っている。

- F: 私はセンスアップセミナー、面接の。
 E: 面接の練習みたいな。
 F: 本番と同じようにやる行事じゃないよ、何だろう？
 E: 何で言えば？あれ。何で言えばいいんですか、機会があるんですけど、
 F: これ、1回だけじゃなくて結構何回あって。また私たち、学科でもあったんですよ。学科別とかで、学校の先生たちがランダムに、知らない先生たちが面接とかしたりするので、実際に面接するときの対策にはすごい役立ったかなと思うんですけど。あと、医薬品とは別なんですけど、私たちが、マナーじゃなくて秘書っていう授業があって、それもおんなじように言葉遣いとか身だしなみとかマナーとか学ぶんですけど、それがとっても役に立って自分では思っています。
 X: センスアップセミナーとかいうのも、あるんですね。ご自身のほうはそういうのは得意なほうですか、面接とかって。
 F: いや、私、本当に本当にだめで、面接。照準するんですよ、人前で。だけど、これ、少なくとも3回ぐらいあったんで鍛えられました。大丈夫でした。
 X: じゃあ、実際、就職活動の面接のときにも割と自信を持って？
 F: できました。

また、これから就職活動を行う者にとっては、履歴書の書き方や後遺とい

った基本的な指導が役に立っているという。CさんとMさんの語りである。

- C: 今年に就活に向けたような授業が組み込まれていて、履歴書の書き方だったりとか、電話のかけ方とかだったり、そういった授業があったんですけど、そういうのはすごく役に立って思っています。
 X: これまでご自身の人生の中で、あんまり履歴書を書いたりとか、電話の応対とか、いわゆる社会人マナーみたいなものって、あんまり学ぶ機会はないものなんですかね。
 C: そうですね。履歴書は何度かアルバイトを応募するのに書くんですけども、その正しい書き方っていうのはやっぱりわからず、アルバイトなので、ちょっと悪い部分もあるので、そういうのは知らなかったので、教えていただけるとありがたいっていう感じですね。
 X: これから就活とかされることになると思うんで、まだ具体的に何か活動されてるわけじゃないと思うんですけど、例えば学校の今まで受けてきたキャリア支援とか就職関係の指導とか支援みたいなもので、これは役に立ってるんとか、役に立ちそうだなみたいなことって、あったりされますか。
 M: そうですね。それを言います。今、履歴書の書き方というのを学ばせていただいたんですけど、多分バイトしてる方は書いたことあると思うんですけど、もしもでない方がいらっしゃらんなら、その方にとっでは本当にいい機会だと思いますし、面接じゃ、もう話が多分全然違うと思うんで、そこに関して本当に学べてよかったなとは思いました。

このような基本的な指導への言及はほかに多く見られた。以下、それぞれ該当する語りである。

- A: 合同企業説明会前に就職作法とかのやり方の授業があったので、そういうので就職とかはわかっていたので、そこはだいぶ安心できたか

なと思います。

- X: そういう社会人としての基本的なことっていうのが、実際に立ったかなってところなんですね。
 A: はい。
 I: 第一印象っていうのがやっぱり重要、大事だと思って、その中でやっぱり履歴書です。履歴書が今は箱子のところもあるみたいなんですけど、自分のこの〇〇(所属校-筆者注)に履歴という授業があって、授業の外部の講師の方が来てくださって、実際に履歴書を書き上げたんですね。で、実際のこの〇〇の生徒が先輩が実際に履歴書出したときに、何で、こんなにきれいな？みたいな(笑)、やっぱり声を結構いただくらしくて、なので、この文字を眺める時間があって、今はもう授業終わっちゃったんですけど、そこはもう、まず履歴書を仕上げるというスキルは身につけましたし、あとはセンスアップセミナーっていう、今からなるんですけど、実際に面接を先生方とする時間があって、で、そこでのいろいろ多分悪いところだったり、そういうのは多分成していく時間になると思うんですけど、そもそもスーツ整頓っていうのも、私たちがあって、前期が結構多かったんですけど、もう1、2とか、それが経ったりとかもして、やっぱりスーツって高ごなしが、やっぱり大事じゃないですか、なので、早かないように、この学校生活の中でスーツを1日着こなしながら授業を受けたりなどしていたので姿勢だったりとか、そういうものが結構学べたんじゃないかなと思います。先かせるんじゃないかなと思いますね。

このように、授業内で行われる基本的な進路指導や面接指導は、そうした活動を経験したことがない学生たちにとっての第一歩として、非常に重要な機会と経験になっていることがわかる。

次に、具体的な就職支援活動への言及である。その一つとして、就職支援専門部署の利用についてみてみたい。乳産対象校の中には、「キャリアサポートセンター」という専門部署を設けている学校があり、この利用についての語りもみられた。例えばLさんは、就職活動にあたりキャリアサポートセンターを利用していたが、利用者が多く予約の必要があり、また肝心の面接内容にかかわる練習というよりは形式的な入室についての指導が多かったこともあり、改革が必要ではないかと指している。

- X: 就職活動をする中でこの初めうらちよってやっとならよかったかなとかって思うことって何かあったりされますか？
 L: 面接練習ですね。キャリアサポートセンターみたいな教育があるんですけど、面接練習をしたのはしたんですけど、入室はやっぱりだったので、もうちょっと中身をやりかけたなって感じでした。
 X: 入ると出るところはすごい一生懸命やって出来たんですけど。
 L: はい、内容が。
 X: 実際内容がね、なるほど。そのサポート案でどれぐらい利用されるものなんですか、頻度とか。
 L: でも、結構全学科の人がそこに行くので、予約取らないといけない状況だったので2週間にも1回とかそのぐらいですね。
 X: それはご自身の感覚的にちよほどよかったっていう感じなのか、もって願望あったほうがよかったなと思うのか。
 L: もっとあったほうが、不安でした。面接の受け答えをずっと一人でやっていたので。
 X: そういうところはもしかするとサポートがあるといいかなみたいな話ですかね。
 L: はい。

またKさんは、上記の「キャリアサポートセンター」にて実施されている「就活カフェ」において、教職員から就活に関するさまざまな意見ももらい、

企業の見方に変化があったという。

K: 本当に先生たちがもう(笑)、口離れなく、あれやれよ、これやれよって言ってくれるんで、それに従って*** (笑)、大体はそれに従ってという感じですかね。

X: 先生ってというのは担任の先生?

K: 担任の先生もそうやし、〇〇先生や、ほかの先生もそうですし。

X: キャリアサポートの先生とかまで?

K: 1回、就職フェアに1回参加したんで、そのときに企業さんって、こういうふうな感じで、例えばなんですけど、給料面だけで見たら、例えば給料が下がったら、やる気なくなるから、そうじゃなくて、自分がやりたいって思うところをかついていうふうな感じで、こうしたらいいよってアドバイスっていうような、これはすごく自分、役に立つたなって思ってた、もともと給料上げりゃどこでも文えやろって(笑)、考え方が変わったんで、じゃあそれはよく思にやいけん(笑)。

X: そういう専門的なアドバイスをされるとごうれしい、うれしいっていうか、いいところみたいな。

K: そうですね。言ってもらえるのも、すごくありがたいんで、こちらとしてもありがたいと思うっていう感じですね。

ここまでみたように、就職活動を経験したことがない学生にとっては、基本的な面接指導や面接指導の経験が印象に残るとともに、「役に立っている」と感じられていることがわかる。また、就職支援のための専門的な部署を有している学校においては、やはりそうした部署の取組が就職支援として大きな役割を果たしていることがわかる。他方、利用者が多くなると、学生が希望している程度で利用することが難しくなり、その点の改善要望が出ていることには注意が必要であろう。

53

4. 総評

本事業は、地方におけるIT人材不足の解消という地域ニーズを背景に、地域の中小企業と連携し「汎用的かつ多様な能力・スキルを強みとし、高機能的な働き方でICT技術を駆使して積極的に課題解決に取り組める人材」を育成する学校の構築を目的としている。これをふまえ、本調査は、専門学校校生の地域就職への意識、就職活動を把握し、カリキュラム開発の中でもキャリア教育・就職スキームの開発知見を得ることを目的に実施されたものである。以下、調査結果の概要を整理する。

まず、①専門学校への進学理由については、大きく4つに区分できる。すなわち、(1)好きなこと、やりたいことのため、(2)高校時代までに学んだことをより深く学びたいため、(3)将来に役立つため、(4)目指す職業のためである。調査対象者の学生たちは、「好き」を理由とした進学、目標とする職業に就くための資格取得を目的とした進学など、それぞれ入学動機が多様であった。それはある程度当然のことではあるが、注目したいのは、すべての者が明確に自身の入学動機を語っているという事実である。特に、本来の希望であった大学への進学が叶わなくなった者たちにおいても、専門学校への進学は消極的な結果ではなく、「役に立つこと」や「やりたいことを別の道で」といった戦略的な意識のもとで行われていることが非常に特徴的であった。

また、そのような専門学校への進学のかきかけとして、②オープンキャンパスに関する語りが見られたのが、本調査において特徴的なことであった。オープンキャンパスに参加することで、曖昧だった学校へのイメージが具体化し進学を決めることになるというのは、よくある例ではある。そのことに加え、本調査で得られたのは、その際に「職場」出身の教員がその知見を活かした指導をしようのかを注意深く観察したり、教員の手厚い働きかけに感動したりといった様々な行動・経験を学生たちが行い、そうした経験を踏んで進学を決めているという具体的な内容であった。このことから、新学科の募集戦略上においても、オープンキャンパスが極めて重要な機会となりうることを示唆される。

本調査は、専門学校に在学する学生を対象にしたものであるが、③学生は

54

授業や実習といった正課内の活動はもちろんのこと、正課外活動やボランティアなど、在学時のさまざまな経験を通じて成長感を誇っていた。まず、授業内のグループワークを通じて、他者と共同したり自身の意見をわかりやすく伝えるような機会を重ねることが成長につながっていることが示唆された。また、学阿然の実行員や各学校における学生の自治団体である「学生会」、オープンキャンパスでの学生スタッフといった正課外活動での経験、さらには学外でのボランティア活動などが、リーダーシップやファシリテーションなどの力を身につける機会になっていると感じられていることも明らかにされた。

そうしたさまざまな契機における成長感がある中で、本事業において中心テーマである④ICT (IT) 関連スキルについて尋ねてみると、共通していたのは、タイピング技術やMicrosoft Word、excelといった基本的なツールのスキルが重要であると認識されていたことである。英数、情報系分野に所属している学生は、就職活動を経験する中で、一定程度のタイピング技術を有していることは、前提条件として企業側から考えられている印象を持っている。したがって、こうした基本的なスキル (特にタイピング技術) をより高めようとする意識に動いているという声も聞かれた。さらに、情報系分野に所属する学生に注目すると、より高度なICT (IT) 関連スキルの習得のために、積極的に学習に取り組んでいる様子が見られた。

次に進路選択の際の進路志向性を確認するために、⑤現在の進学希望や決定進路が県内か県外かを尋ねた。その結果、県内を希望 (ないし就職決定) している者が6名、県内を含む近隣県を希望 (ないし就職決定) している者が6名、明確に県外を希望しているものが1名であった。このことから、全国的な調査結果とも符合するように、専門学校校生の「地元志向」の高さを垣間見ることができ、進路先の希望別にその内容を得てみたところ、まず県内を希望 (ないし就職決定) している者からは、もともと「地元にいる」という思いを持っていただとの語りのほか、家族との関係から地元での就職を希望しているという事情があることが明らかとなった。特に親が高齢であったり身体的・精神的な困難を抱えており、なおかつ兄弟が近くにいない

55

といった状況がある場合は、そうした事情を考慮した就職先の選択が行われる可能性が高いといえる。

次に県内あるいは近隣県を希望 (ないし就職決定) している者の語りからは、地元との距離の近さを重視している様子が窺えた。所在県によっては、就職地が県外であっても実家から通うことができる者もあり、県外を希望していたとしてもなるべく出身地に近い場所で就職することを希望している者が一定数いることも、今回の調査から明らかになったことである。

最後に明確に県外を希望しているケースであるが、上述の通り、今回の調査対象の中には1名しか該当しない。この場合も、「地元から出たい」という意識が先にあるわけではなく、可成り資格を活かした業務に積極的に関与できる職場 (動物病院) を探す中で、県外が浮上している点は注目する。繰り返すことになるが、これらのことから、専門学校校生の地元志向の高さが示唆される。

また、本事業では地域 (地元) 中小企業で活躍する人材輩出を目的としていることから、⑥地元企業のイメージや地元就職することのメリット/デメリットがどこにあるかを尋ねた。まず地元企業へのイメージとしては、CAや企業スポーツチームの取組みを通じて、地元企業が地域活性化に携わっていることを高く評価している語りが見られた。他方、実際の就職活動の中で、地元には自身が希望する条件を持つ企業が少ないという声もあった。地元企業への就職を決めている者においても、地元企業の (都市部の企業と比較した) 相対的な賃金の低さを認識していた点は興味深い。

そうした地元企業へのイメージを持ちながらも、地元での就職を決めたのはなぜなのか。この理由に地元就職のメリットが垣間見えるであろう。調査対象者から聞かれたのは、「地が」というローカルな場所の安心感や、作み慣れた土地であるからこそその事情を熟知していることにもなる強みであった。他方、地元就職のデメリットとしては、地元のネットワークの狭さが、仕事や生活に悪影響を与える可能性についての言及があった。

さらに、⑦今後、職業世界へと参入しキャリア形成していく際に重視する価値観について尋ねてみたところ、本事業のアンケート調査と同様、給与に

56

関する語りや、休日の重要性に関する語りなどが聞かれた。これは専門学校生が、今後のキャリアを形成していく際にいわゆるワークライフバランスを非常に重視しているといえるであろう。

最後に、③就職活動支援について尋ねたところ、私設府で就職活動を経験したことがない専門学校生にとっては、履歴書の書き方や、転職作法、接遇、マナーなどの基本的な事項が役に立っていることがわかる。さらに就職が決定している者にとっては、学校内にある就職支援の専門部署の取組が、実際の就職活動の際にも有効であったとの回答があった。

最後に本調査の結果を踏まえ、本事業の目的を遂行するための提言を行いたい。

第一に、高専接続卒業の一環としてのオープンキャンパスの充実である。ヒアリング調査では、調査対象者の多くから、所属校への入学のきっかけとしてオープンキャンパスがあげられていた。単にそれぞれの学校の雰囲気や教育内容について詳しく知る機会になるだけでなく、そこでの教職員とのやり取りを通じて、入学後の学びを具体的にイメージできるようになったり、自身を受け入れてもらえるという感覚を持つことができたりする様子を、学生の語りから伺うことができた。加えて、当の学生にとってもオープンキャンパスの機会が重要である。今回の調査対象者の中には、自身が高校生の頃に参加したオープンキャンパスに、学生スタッフとして参加したことが、成長の機会になって事が語られていた。そのことはまた、参加者である高校生にとっても、先輩である学生との交流を通じて入学後のキャリアパスへのイメージを具体化する機会にもなりうるであろう。新学科における専攻職路上、オープンキャンパスのような高専接続卒業が重要になってくると思われる。

第二に、地元の中小企業との一層の連携である。今回の調査においては、多くの学生が地域（地元）ないしは近隣県での就職を希望しているものの、他方で地元企業の選取数の少なさを都府県と比較した際の相対的な資金の低さへの言及があった。こうした指摘の一部は確かに事実であるだろうが、

一方で「地元には選取数が少ない」「地元企業は資金が低く待遇も良いものではない」というイメージが先行してしまうことは、地元企業をも視野に入れた就職活動の機会を逸することにもなりかねない。実際、本事業の中継企業ヒアリング調査からも明らかになっているように、地元中小企業からの専門学校への期待は大きい。学生の持つイメージと実態との齟齬を埋めていくためには、学生側の地元企業理解が不可欠になるだろう。本事業の専門学校地域就職意識調査（アンケート調査）からは、ICT（IT）関連スキルについて専門性の高いVTC情報ビジネス専門学校において、全体的な傾向と異なり第一希望の就職先を「県外」としている者が半数を占めていることがわっている。こうした意識も、上記のようなイメージと実態の齟齬が背後にある可能性は否定できない。地元企業のニーズを取り入れた教育課程編成はもちろんだこと、学生が積極的に地元企業のことについて知り、地元企業に必要とされる人材であると感じられる機会の一層の充実が肝要となってくると思われる。

今後、以上の結果を踏まえた具体的な施策の検討や実行が求められるであろう。

付録：専門学校生地域就職意識調査（ヒアリング調査）質問項目

②専門学校生に対する地域就職意識調査質問項目

調査目的（説明）

- ・本調査は地域の地域就職への期待、就職活動状況を知り、より本県に就職の機会を増やすこと（就職先と地元企業との関係）を調査する目的で行う。
- ・本調査は地域の就職意識を調査し、より本県に就職の機会を増やすこと（就職先と地元企業との関係）を調査する目的で行う。

1. 専門学校への進学理由と専門学校での学びについて

- ・専門学校（就職の学校）を選んだ理由を教えてください（興味のある分野なのか、実務的知識を身に付けたいのか、実業から学びたいのかなどを自由に）。
- ・自分の学校内（大学や短大）や他の専門学校と比較しての強みは、どのように感じていますか？
- ・専門学校で学ぶ中で、特に「役に立った」と感じることはありますか？（授業、実習、就職活動など）
- ・専門科目や実習中、どのような学びや知識の活用、スキルやコミュニケーション力が身に付いたと感じていますか？
- ・入学前と比べて自身の就職意識、就職先や職種にどのような変化がありましたか？

【今後の就職先に関する内容について】

- ・就職、就職後の進路について、具体的にどのような進路を考えていますか？
- ・あなたの「自分や同級生を指導」する、関心がある分野や職種はありますか？
- ・AIが普及する中で、どのようなスキルや知識が必要だと感じていますか？

【ICT（情報システム）について】

- ・授業などを通じて学んでいる ICT（情報システム）はありますか？
- ・授業などが進んでいる ICT（情報システム）について、どの程度の理解を深めていますか？
- ・専門知識やスキルが、就職活動や実務にどのように活用されていますか？
- ・専門知識やスキルが、就職活動や実務にどのように活用されていますか？
- ・専門知識やスキルが、就職活動や実務にどのように活用されていますか？

2. 将来展望について

- ・現在進んでいる（決まっている）進路はありますか？その進路を教えてください。
- ・将来のキャリアについて、どのくらい具体的なイメージを持っていますか？（もしあれば就職、転職、起業、長期の計画など）
- ・将来のキャリアについて、どのようなスキルや知識が必要だと感じていますか？

【ICT（情報システム）について】

- ・授業などを通じて学んでいる ICT（情報システム）はありますか？
- ・授業などが進んでいる ICT（情報システム）について、どの程度の理解を深めていますか？
- ・専門知識やスキルが、就職活動や実務にどのように活用されていますか？
- ・専門知識やスキルが、就職活動や実務にどのように活用されていますか？

【就職先に関する内容について】

- ・就職、就職後の進路について、具体的にどのような進路を考えていますか？
- ・あなたの「自分や同級生を指導」する、関心がある分野や職種はありますか？
- ・AIが普及する中で、どのようなスキルや知識が必要だと感じていますか？

3. 専門学校実習や就職活動について

- ・学校での実習や実習先企業での実習について、どのような学びや知識の活用、スキルやコミュニケーション力が身に付いたと感じていますか？
- ・就職活動について、どのようなスキルや知識が必要だと感じていますか？

文部科学省委託事業令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校
校理系転換等推進事業』『地域中小企業と連携によるIT担当者育成・
採用促進モデル開発と普及推進事業』

「専門学校生地域就職意識調査（ヒアリング調査）」報告書

令和7年2月

学校法人VIC学院
〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。

5-6 高校生地域中小企業説明会実施およびアンケート集計報告書 資料16

文部科学省委託事業
令和5年度「地方やデジタル分野における専修学校職業訓練等推進事業」
「地域中小企業と連携によるIT担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業」

高校生地域中小企業説明会実施および アンケート集計報告書

学校法人 YIC 学院

0

目次

- 1. 事業の目的 … P3
- 2. アンケート調査の趣旨・目的 … P3
- 3. 高校生地域中小企業説明会… P4～P10
- 4. 高校生地域中小企業説明（Web版）とアンケート結果… P11～P19
- 5. 講評… P20～P23

2

1

1. 事業の目的

IT関連製品・サービスを提供するITベンダーや中小企業の情報システム部門で活躍するIT人材が2030年には45万人不足するとの試算がある中、働き盛りの若者人口が少ない地方都市では、コロナ禍後の経済活動活性化に伴い人材不足が深刻化している。産業活性化・人口減少対策として、魅力ある働き先としての企業誘致に力を入れるため、誘致企業にとって大きな魅力となる人材採用・育成のための地域密着型職業教育機関との連携は不可欠である。

本事業では、以上のような地域ニーズに応えるため、中小企業で働くために必要とされる「汎用的かつ多様な能力・スキルを涵養し、堅韌的な働き方でICT技術を駆使して積極的に課題解決に取り組める人材」を育成することを目指す。

2. 高校生地域中小企業説明会実施および アンケート集計の趣旨・目的

- 1. 地域中小企業の魅力を高校生に伝え、地域就職への関心を高める
- 2. 地域中小企業と高校生の相互理解を促進し就職するための社会人基礎力向上への意欲を高める

この2点を目的として、参加企業は中小企業、参加者は地域高校生を対象として説明会を企画し運営する。

同時に、地域の高校生、専門学校生等地域の企業へ就職をする対象層へアンケート実施する事により、本事業に反映させる。

3

3. 高校生地域中小企業説明会

(1) 説明会概要と告知状況

実施日	令和7年1月31日
参加企業名	参加企業8社 1 国際貿易株式会社 2 株式会社ナカノ 3 株式会社ホンダカーズ光東 4 大村印刷株式会社 5 株式会社田村ビルズグループ 6 キチナグループ株式会社 7 株式会社中冷山口 ※オンデマンド参加 8 株式会社森園工務店 ※オンデマンド参加
参加高校生数	参加高校生数1名 (資料配布数970枚)
高校告知	案内チラシ配布と案内高校 29校 松風館 50部 野田学園 200部 誠英 200部 以下各20部 (クラス数+掲示・配布用) 高川学園 防府西 防府商高 防府 山口県鴻城 山口 山口 中央 山口農業 中村女子 東京 炭光館 萩商工 萩 長門高等学校 大津緑洋高等学校日置校舎 大津緑洋高等学校大津校舎 大津緑洋高等学校水南校舎 ネムハイスクール山口校 精華学園高校 成進 美鈴吉嶺 厚狭 田部

4

	山口農業西市分校 立修館 サビエル
実施アンケート	Webによるアンケート

(2) 参加者募集チラシ

●A4サイズ (片面カラー) 1000枚制作

(ポスター: A2サイズ片面カラー 両デザインで200枚制作)

可能性は無敵大
高校生地域中小企業説明会

開催日時
1/31 15:30
2025 18:00
※受付案内開始は15:00~

会場
YIC情報ビジネス専門学校
2号館 21~24教室
(山口県小野真倉町2番24号)

参加申込 事前申し込み不要! 飛び込み参加大歓迎! 服装自由!

山口県の魅力ある中小企業が集結!!
地域から日本を元気にする原動力! 地域中小企業を知って
自分のスキルや経験が活かせる未来を考えてみよう

【参加者へ】 ①自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう
②自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう

③仕事の体験を通して、自分の社会人基礎力のUPにつなげよう!
④大人たちの話を聞いて、自分だけのキャリアプランを作ろう!

主催 学校法人YIC学院
〒754-0021 山口県小野真倉町2番24号 YIC Studio
TEL 083-976-8355 https://www.yic.ac.jp/

5

(3) 当日案内チラシ

●A4サイズ (両面カラー) 100枚制作

山口県の魅力ある中小企業が集結!!
地域から日本を元気にする原動力! 地域中小企業を知って自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう

可能性は無敵大
高校生地域中小企業説明会

開催日時
1/31 15:30
2025 18:00
※受付案内開始は15:00~

開催日時
YIC情報ビジネス専門学校
2号館 21~24教室

会場案内図

出展企業

- 1 国際貿易株式会社
- 2 株式会社ナカノ
- 3 株式会社ホンダカーズ光東
- 4 大村印刷株式会社
- 5 株式会社田村ビルズグループ
- 6 キチナグループ株式会社
- 7 株式会社中冷山口 ※オンデマンド参加
- 8 株式会社森園工務店 ※オンデマンド参加

参加高校生の皆さんへ
アンケートのお申し込み
イベントに参加後
右の二次元コードから
アンケートにお客さんの声
をお聞かせください。

学校法人YIC学院
〒754-0021 山口県小野真倉町2番24号 YIC Studio
TEL 083-976-8355 https://www.yic.ac.jp/

6

出展企業の紹介

対面参加企業 [6社]

- 1 国際貿易株式会社
【15分】
「日本の魅力」をテーマに、自分自身のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう
【20分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【30分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
- 2 株式会社ナカノ
【15分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【20分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【30分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
- 3 株式会社ホンダカーズ光東
【15分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【20分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【30分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
- 4 大村印刷株式会社
【15分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【20分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【30分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
- 5 株式会社田村ビルズグループ
【15分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【20分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【30分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
- 6 キチナグループ株式会社
【15分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【20分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【30分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」

オンデマンド参加企業 [2社]
1F学生ホールにて、企業案内動画の上映を行います。

- 7 株式会社中冷山口
【15分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【20分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【30分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
- 8 株式会社森園工務店
【15分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【20分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」
【30分】
「自分のスキルや経験を活かせる未来を考えてみよう」

7

(4) 説明会の様子



会場入り



田村ビルズグループブース



キザングループブース



ホシダカーズ東館ブース



大村印刷ブース(右側)

(5) アンケート項目と結果

- ①関心度：8社中4社の説明を聞いた（50%）
- ②職種認知度 -（実施なし）
- ③就職に対する不安：まだ具体的にわからない
- ④就職をしたい時期（実施なし）
- ⑤相談者 -（実施なし）
- ⑥就職の際の決め手（場所、親、賃金、休日数、福利厚生、その他） -（実施なし）
- ⑦説明会を終えて自分が身につけたスキル：社会人マナー

4. 高校生地域中小企業説明（Web版）とアンケート結果

(1) アンケート実施概要

説明会参加者が1名であったため、調査をカリキュラム開発に活かすため委員の了承を得て、追加で入学予定者の高校生178名に地元中小企業の認知度・関心度や採用HPサイトの魅力についてWebアンケート調査を行った。



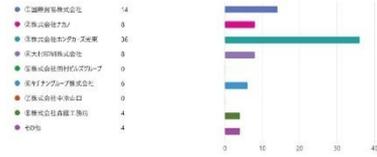
(2) アンケート実施対象者と回答数

対象 当校入学予定者 山口県内の高等学校3年生の生徒 178名
 回答数 57名の生徒より回答を得た (32.0%)

(3) アンケート結果

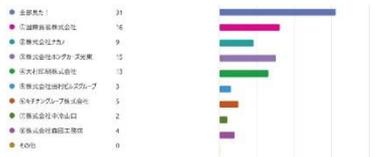
①企業認知度：16.7% (①～③までの集計数/ (8社×回答人数))

1. この企業名を知っている企業はありますか？ (複数選択可)



関心度は 8 社の企業採用 HP の閲覧状況より算出、69.1% (閲覧数/ (8 社×回答人数)) となった。この調査を実施することで参加者に対して企業認知度が 52.4% 向上した。

3. 貴校が貴校のサイトを閲覧して下さい。(複数選択可)



12

②職種認知度

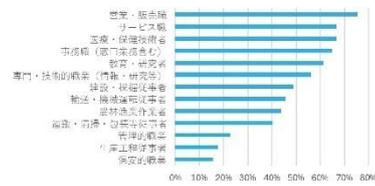
職種については JIS 規格の大分類コードを参考にアンケートを取得した。

○結果

職種	回答人数	職種認知度
1 管理的職業	13	23%
2 専門・技術的職業 (情報・研究等)	32	56%
3 医療・保健技術者	38	67%
4 教育・研究者	35	61%
5 事務職 (窓口業務含む)	37	65%
6 営業・販売職	43	75%
7 リービス職	38	67%
8 保安的職業	9	16%
9 農林漁業作業	25	44%
10 生産工程従事者	10	18%
11 輸送・機械運転従事者	26	46%
12 建設・採掘従事者	28	49%
13 運搬・清掃・包装等従事者	23	40%

上記の結果を認知度が高い順に4つに整理した。

職種認知度



13

高校生に認知度が75%以上であったのが1職種で営業・販売職、50～74%の認知度が5職種専門・技術的職業 (情報・研究等)、教育・研究者、事務職 (窓口業務含む)、医療・保健技術者サービス職であった。25～49%の認知度が4職種で運搬・清掃・包装等従事者、農林漁業作業、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者、0～25%の認知度が3職種で保安的職業、生産工程従事者、管理的職業であった。

地域中小企業の活性化には、若者の視点に立ち、彼らが求めるものを理解し、魅力的な情報や機会を提供することも重要なため、現時点の職種への関心度は今後の説明会開催へのヒントとなる。

次年度の説明会に向けては、連携先の中小企業・誘致企業の中で各職種がどのような活躍ができるのか、具体的な事例やキャリアパスを提示することも効果的と考えられる。

その中でも特に、地域課題の解決に貢献できる仕事や、地域独自の技術や文化を活かせる仕事など、地域中小企業ならではの活躍の様子を魅力としてアピールすることが重要となってくる。

次年度は企業の説明会という観点ではなく、参加する高校生の能動的な学びを促す「探求型ワークショップ」を連携企業と学生の PBL で実施し、新学科での学びの楽しさを体感してもらいながら、職種理解を深化させ地域に残る意義を見いだす一助とする。

14

③就職に対する不安

就職に対する不安については、面接への不安、初めての就職活動への戸惑い、自分に合う仕事・就職先を見つけることへの不安、企業理解などの順で不安が上げられた。

社会人生活における不安については主に内潜な職業生活を営むためのビジネスマナーについて不安を上げていた生徒が多かった。

就職活動に関する不安	
面接が不安	7
就職活動が初めてのため	4
自分に合う仕事・就職先が見つかるかどうか	3
自分に合う仕事・就職先の判断基準が分からない	2
なりたいたい職種の試談に合格できるか	2
いろんな企業を知らないから	1
どこから探し始めればいいのか難しい	1
県内で働くか、希望する就職先がない場合は県外に出るか迷う	1
社会人生活への不安	
ビジネスマナー (敬語を含む)	5
過労したり足手まといにならないか	1
社会人としての常識	1
生活の変化や環境の変化に慣れることができるか不安	1
ちゃんとやっていけるのが不安です。	1
知識不足	1
就職後の待遇	1
メンタルケア	1
払うべきお金	1

上記の結果が示す課題に対応するためには、新学科のカリキュラムにおいて、社会人として必要な基礎力と、就業体験を通じて自己理解を深める機会を提供する必要がある。

例えば、社会人基礎力の育成については4点、就業体験については3点を留意すると不安の解消につながると考えられる

15

【社会人基礎力】

- ① コミュニケーション能力：自己理解・他者理解を通じた多様性に対応する力。職場の人間関係のテーマに応じたグループワークやプレゼンテーションを取り入れ、相手に分かりやすく伝える力や、協調性を養う。
- ② 問題解決能力：課題解決型の授業や演習を取り入れ、論理的思考力や分析力を高める。
- ③ 自己管理能力：時間管理や目標設定に関する指導を行い、計画性や責任感を身につける。
- ④ ビジネスマナー：座学だけでなく、ロールプレイング形式での実践的な指導を取り入れ、言葉遣いや身だしなみ、電話応対などを習得する。

【就業体験】

- ① インターンシップ：事前学習・事後学習も含めたインターンシップカリキュラムにより、不安なく就業体験に踏み出す。実際の企業での就業体験を通して、時間管理、仕事内容や職場の雰囲気を理解する機会を提供する。
- ② PBL：教育連携企業との課題解決型の授業を実施し、様々な職種や働き方について学びを深めるとともに、新しい視点のアイデアや方策の提供などチャレンジ精神も育み、達成力を身につける。
- ③ OB・OG 訪問：卒業生との交流会を設け、就職活動の体験談やアドバイスを聞く機会を設ける。

④就職をしたい時期

84%以上の高校生が専門学校卒業時に就職を希望しているが、少数意見として高校生の時にしたかった、しばらくゆっくりしたい等という意見もあった。

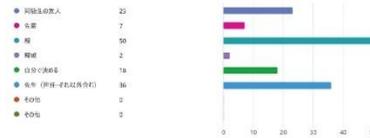
あなたが就職したい時期を教えてください。(複数選択可)



⑤相談者

高校生の相談者は、1 親、2 先生、3 同級生の順が多かった。特に 87.8%の高校生が親に相談をしていた。高校生は進路を決める際に、親や先生といった身近な大人を頼る傾向が強いことが示された。また、友人との情報交換も重要な要素であり、自分で決める人も 30%と一定数存在することも分かった。進路相談の傾向は、高校生の個性や置かれている状況によって異なるため、専門学校としては生徒が必要だと考えられる。スクールカウンセラーやキャリアコンサルタントの配置、キャリアセンターや学校独自のコミュニケーションツールにおける進路情報提供、OB・OG との交流機会の提供、地域企業との連携が考えられる。

あなたが相談したい相談者を教えてください。(複数選択可)



⑥就職の際の決め手(場所、親、賃金、休日数、福利厚生、その他)

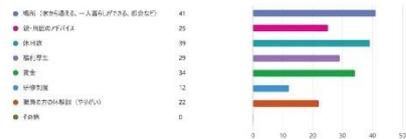
就職を決める際の優先事項として、1 場所(71.9%)、2 休日数(68.4%)、3 賃金(59.6%)の順であったが、研修制度・やりがいについても 20~40%の関心が寄せられている。

就職に対して、仕事内容だけでなく、生活面や待遇面も含めた総合的な満足度を求めていることが分かった。一方で、研修制度・やりがいについても一定数の関心度はあることから、仕事内容や職場の雰囲気を知る機会があれば、就職後のミスマッチを防ぎ、長期的なキャリア形成に繋がると考えられる。

そのため、新設学科にはインターンシップや PBL を通じた職場体験の機会を増やし仕事内容や職場の雰囲気の理解を促進させること、企業説明会や OB・OG 訪問の機会を設け、様々な職種や働き方について知ることも重要であると考えられる。

また、キャリア教育の授業で、現実的な労働条件や福利厚生に関する基礎知識を得ること。自己分析を通して、自分の興味や能力、価値観を明確にするなどといった将来の目標やキャリアパスを具体的に考えることも長期的なキャリア形成に繋がると考えられる。

あなたが就職を決める際の決め手(気になること)を教えてください。(複数選択可)



⑦説明会を終えて自分が身につけたいスキル

調査結果として社会人としてのマナー：31人が選択、専門知識を身につける：23人が選択、語学力を向上させる：3人が選択しており、「社会人としてのマナーを学ぶ」と回答した高校生が最も多く、全体の約半数を占めた。地域中小企業では、大企業と比べて社員一人ひとりの役割が大きく、周囲とのコミュニケーションや協力が不可欠であると Web サイトからも学んだと考えられる。そのため、設置学科においても、実践的なビジネスマナーを身につけ、インターンシップや PBL の事前事後指導もさることながら、自ら職場体験と大人とのコミュニケーションを通じ、円滑な人間関係を築けるカリキュラムの構築が必要となる。

地域中小企業で働くために、今、何を身につけたいですか？(複数選択可)



5. 講評

本報告書は、令和7年1月31日に実施された高校生地域中小企業説明会および追加で実施したWebアンケート調査の結果を踏まえ、得られた知見と考察を行い、次年度へ向けての課題を抽出する。

1. 次年度への課題

今年度は高校生にとっての地域中小企業の認知度や就職に向けての気持ちと、実際に企業説明を聞いた上での変化を収集した。参加企業としても初の試みであり、就職に直結するような説明会であったことで本事業の魅力が伝わりにくかった面がある。

次年度は、高校生の能動的な学びを促す「探求型ワークショップ」を連携企業と学生のPBL体験会として実施し、新学科での学びの楽しさを体感してもらいながら、職種理解を深化させ、高校生が地元地域に残り「地域企業を元気にするIT人材」として専門学校で学び成長する意義を見いだすことを目指していく。

また大きな理由として今回の説明会では、認知活動を29校に行ったものの参加高校生が1名にとどまり、高校教員や高校生の企業認知度や関心度も低い状況であった。そのため当校に入学予定である高校生を対象として、地域の企業で働く魅力を採用HPから閲覧してもらいWebアンケート調査を追加で実施した。

その結果、高校生が就職に対して、仕事内容だけでなく、生活面や待遇面を含めた総合的な満足度を求めている一方で、具体的な仕事内容や職場の雰囲気に関する理解が不足していることが示唆された。

具体的には下記の4点を整理できる。

20

【プログラム例】

例えば、高校の探求の授業に合わせたテーマ設定（地域課題やSDGsなど）を行い、高校生の興味関心に沿ったテーマを設定。

また、グループワークも体験してもらい専門学校生と高校生が混ざり合い、グループで課題について話し合うことで学び活性化を深める。

そしてグループごとに話し合った内容を発表し、参加者全体で共有し、他者の考えを理解し、多様性への対応力を磨いていく。

さらに専門学校生が高校生のアイデアに対して、1年間学んだ専門的な知識や視点からアドバイスを行い専門学校生にも有益な時間とする。

なお、評価については、高校教員、専門学校教員、企業、行政、地元経済団体の方にも協力頂き、考えたことが形になる過程を共に楽しむといった探求の時間を作ることによって高校の授業に組み込めるものとする。

このような流れを作ることで、地域一体となって地域人材を育成する一助となる事業を次年度は提案したいと考える。また、高校生は主体的に考え、学び、成長する楽しさを味わいながら、地域企業への理解を深め、将来のキャリア形成に繋げたい。

最後に

今回の高校生地域中小企業説明会は、参加高校生が1名という結果に終わりましたが、Webアンケート調査を通して、高校生の就職に対する意識や課題を把握することができた。

特に、高校生が就職に対して、仕事内容だけでなく、生活面や待遇面を含めた総合的な満足度を求めている一方で、具体的な仕事内容や職場の雰囲気に関する理解

22

■今回の企業説明会で得られた具体的な知見

高校生の就職に対する不安: 面接への不安、初めての就職活動への戸惑い、自分に合う仕事・就職先を見つけることへの不安、企業理解不足などが示唆された。

高校生の就職の決め手: 場所、休日数、賃金が上位を占め、待遇面を重視する傾向が示された。

高校生の相談相手: 親が最も多く、次いで先生、同級生という順で相談者の多様性が乏しいことが分かった。

高校生が身につけたいスキル: 社会人としてのマナーが最も多く、専門知識も重視していた。

これらの知見を踏まえ、次年度はPBL授業体験会について、高校生の不安解消や疑問解決にも繋がるプログラムを構築していく必要がある。

21

が不足していることが示唆されたことは、次年度のPBL授業体験ワークショップを企画する上で重要な知見となった。

次年度は、今回の反省を踏まえ、高校生が主体的に学び、企業や地域社会との繋がりを深めることができるPBL授業体験ワークショップを実施し、高校生の地域就職への関心を高めるとともに、新学科の魅力を効果的に伝えることを目指す。

【次年度の運営改善】

広報活動の創意工夫

今回のような高校への案内チラシ配布だけでなく、SNSやWebサイトを活用した情報発信、高校の先生方との連携強化や授業への提案など、より効果的な広報活動を展開する。

提供するプログラム内容の充実

高校教員へのヒアリングを通し、高校生の興味関心に沿ったテーマ設定や、グループワーク、発表会など、能動的な学びを促すプログラムを企画する。

専門学校生との連携強化

専門学校生が高校生のメンターとして参加し、学習サポートやキャリア相談を行うなど、専門学校生との連携を強化する。

企業との連携強化

この事業を通じて教育連携企業をつくり、高校生に対して、仕事内容や職場の魅力、働くやりがいなどを直接伝える機会を設けるなど、企業との連携を強化する。

以上の取り組みを通して、高校生が地域中小企業で働くことの魅力や、新学科で学ぶことの意義を理解し、将来のキャリア形成に繋げられるようなPBL授業体験ワークショップを目指す。

23

経営マーケティング分野

No.	所属区分	所属部署	所属職種	所属部署				所属部署													
				所属部署	所属部署	所属部署	所属部署														
1	11	11	11	●	●																
2	11	11	11	●		●	●														
3	11	11	11	●		●	●														
4	11	11	11	●		●	●														
5	11	11	11	●		●	●														
6	11	11	11	●		●	●														
7	11	11	11	●		●	●														
8	11	11	11	●		●	●														
9	11	11	11	●		●	●														
10	11	11	11	●		●	●														
11	11	11	11	●		●	●														
12	11	11	11	●		●	●														
13	11	11	11	●		●	●														
14	11	11	11	●		●	●														
15	11	11	11	●		●	●														
16	11	11	11	●		●	●														
17	11	11	11	●		●	●														
18	11	11	11	●		●	●														
19	11	11	11	●		●	●														
20	11	11	11	●		●	●														
21	11	11	11	●		●	●														
22	11	11	11	●		●	●														
23	11	11	11	●		●	●														
24	11	11	11	●		●	●														
25	11	11	11	●		●	●														
26	11	11	11	●		●	●														
27	11	11	11	●		●	●														
28	11	11	11	●		●	●														
29	11	11	11	●		●	●														
30	11	11	11	●		●	●														
31	11	11	11	●		●	●														
32	11	11	11	●		●	●														
33	11	11	11	●		●	●														
34	11	11	11	●		●	●														
35	11	11	11	●		●	●														
36	11	11	11	●		●	●														
37	11	11	11	●		●	●														
38	11	11	11	●		●	●														
39	11	11	11	●		●	●														
40	11	11	11	●		●	●														

39	201	201	201	●	●																
40	202	202	202	●	●																
41	203	203	203	●	●																
42	204	204	204	●	●																
43	205	205	205	●	●																
44	206	206	206	●	●																
45	207	207	207	●	●																
46	208	208	208	●	●																
47	209	209	209	●	●																
48	210	210	210	●	●																
49	211	211	211	●	●																
50	212	212	212	●	●																
51	213	213	213	●	●																
52	214	214	214	●	●																
53	215	215	215	●	●																
54	216	216	216	●	●																
55	217	217	217	●	●																
56	218	218	218	●	●																
57	219	219	219	●	●																
58	220	220	220	●	●																
59	221	221	221	●	●																
60	222	222	222	●	●																

95	プロジェクトマネジメント 世界一わかりやすいプロジェクトマネジメント教科書	高橋信輔 株式会社 高橋	プロジェクトマネジメント.pdf	1	同済情報ビジネス専門学校	ITエンジニア科	3
96	成功実践・コンピュータ系 140. よくわかるWebデザイナー 資格テキスト (140)	日商書院出版、新刊決定版	成功実践・コンピュータ系1.pdf	1	同済情報ビジネス専門学校	情報ビジネス科	2
97	成功実践 3冊 Down Learning ー Pythonで学ぶデータサイエンスの 実践と実践	日商書院	成功実践3冊.pdf	1	同済情報ビジネス専門学校	情報ビジネス科	3
98	情報リテラシーⅠ 情報リテラシーテキスト (初級編) よくわかるマスター 42019	日商書院	情報リテラシーⅠ.pdf	1	同済情報ビジネス専門学校	ITエンジニア科	1
99	情報リテラシーⅡ MS Excel 活用テキスト 活用編	日商書院	情報リテラシーⅡ.pdf	1	同済情報ビジネス専門学校	ITエンジニア科	1
100	情報活用Ⅰ 統計Ⅱ 日本統計学会公式認定 統計検定4級対応 「データの活用」、日本統計学会公式認定 統計検定Ⅱ 4級公式問題集(2) 対応版	日商書院	情報活用Ⅰ.pdf	1	同済情報ビジネス専門学校	ICTマネジメント科	2
101	実践英語Ⅱ (PythonⅡ 「英語からの統計学」: 「統計学が豊饒の学問である」) 101によるやさしい統計学	日商書院	実践英語Ⅱ PythonⅡ.pdf	1	同済情報ビジネス専門学校	ITインベメンション科	3

5-8 年限・カリキュラム案作成とりまとめ ※資料18

はじめに

本「年限・カリキュラム案作成」に先立ち行った「大学・専門学校文献調査」から導き出された大学・専門学校が現在行っている「IT人材の育成」に関するDPの共通点は以下に示す内容であった。

情報系・IT系のディプロマポリシー共通点まとめ

項目	共通の特徴
1. 学習構成	「基礎 → 応用 → 実践」の段階的カリキュラム
2. 実践的な学び	PBL（プロジェクト型学習）、フィールドワーク、インターンシップ
3. データサイエンス・AI	AI・機械学習・データ分析の強化
4. IT×経営・ビジネス	IT戦略・マーケティング・デジタル経営の融合
5. システム開発・ネットワーク	プログラミング、システム設計、ネットワーク技術
6. グローバル化	英語教育・国際連携・海外研修プログラム

マーケティング分野のディプロマポリシー共通点まとめ

項目	共通の特徴
1. 段階的な学習構成	基礎 → 応用 → 実践の体系的なカリキュラム
2. データ活用	AI・データサイエンス・統計を基盤にしたマーケティング
3. 実践的な学び	PBL、企業連携、インターンシップ、マーケティングコンペ
4. デジタルマーケティング	SEO、広告テクノロジー、EC戦略を重視
5. グローバル化	海外市場向けマーケティング戦略の習得

ビジネス分野のディプロマポリシー共通点まとめ

項目	共通の特徴
1. 基礎知識の体系化	経営・経済・商学・マーケティング・財務の基礎学習
2. 実践的な学び	PBL、企業連携、インターンシップ、ビジネスコンペ
3. データ活用・ITビジネス	データ分析・AI・デジタルマーケティングを強化
4. グローバル化	多国企業、国際ビジネス・英語教育
5. 起業・イノベーション	スタートアップ支援・アントレプレナーシップ教育

これらの結果を踏まえて、本カリキュラムにおいて強化すべき点は

アントレプレナーシップ(起業家精神)の涵養をベースにおいた地域企業との連携によって実現する「IT×経営・ビジネスとの融合」実現のための実践的教育であると考える。

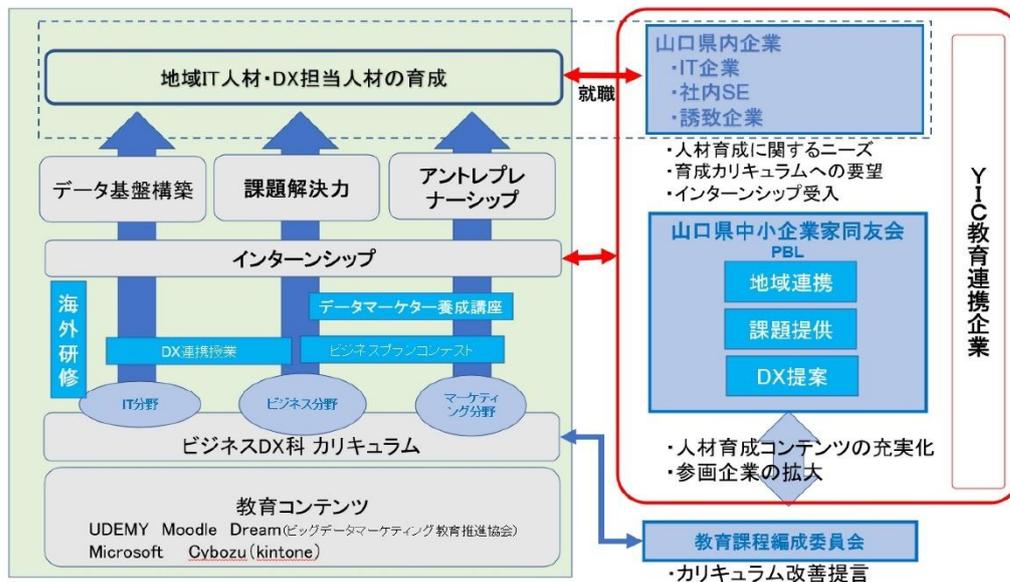
特に「アントレプレナーシップ教育」は学生に起業を推奨するためのものではなく、アントレプレナーシップの要件である

- リスクを恐れず、新しい挑戦を受け入れる
- 創造的な解決策を見出す意欲や能力がある
- 想像力や発想力、行動力がある
- 忍耐力や責任感、柔軟性、広い視野がある
- ポジティブ思考でいられる
- 様々な人材との協調力がある

が本教育の下支えになるだけでなく、企業内のチームとして働く場合でも必要とされる行動力と捉えられているからである。

本報告書ではこの目指すべき「IT人材の育成」のためのカリキュラム案を提示するが

まず、1.本「事業の全体像」を示し、その人材を育成するための2.「キャリアマップ全体像」を示し、続いて各分野「情報・IT」「マーケティング」「ビジネス」のカリキュラム体系を示している。



人材像

- ・地域・業界・業種・自社をクロスしたなかで何が問題となり、取り組むべき課題を明確にしてどのように解決するかを設計できる。
- ・上記の検討プロセスにおいてITを活用して思考し、実現手段としてのITを活用できる
- ・ITを活用して業務改善ができる(効率化)
- ・ITを活用して業務遂行ができる(基本的な操作と遂行力)



分野	情報	マーケティング	マネジメント
DP	最新のデジタル技術、AIやノーコードを積極的に活用しスピードをもって職場の構造改革に取り組むことができる。	地域観光資源、地域経済に係る統計データを分析し、データを通して課題の見直しができる思考ができる。	企業や地域における諸課題を自ら積極的に探求し、潜在する課題が新たな地域のビジネスとなるよう果敢に取り組む事ができる。
CP	"業務の基軸となるデータ基盤を構築し、DXを推進するためのノーコードツール、スマホに連携するアプリを作成する。開発を効率化するために、状況に応じた生成AIを活用する。	起業家精神のマインドをみにつけ、データに基づくビジネスアイデアを発想し、学生によるビジネスプランコンテストに応募する。	企業連携授業で企業が実際に抱える課題解決にとりくむため、課題整理業務モデル図の作成をする
キーワード	IT×経営・ビジネスとの融合	デジタルマーケティング×ITとの融合	起業・イノベーションマインドの育成
カリキュラムステップ			



AP	<p>ビジネスDX科では、「広い視野と柔軟な思考とそれを実践する行動力を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができる可能性を持った人を受け入れるため、以下の2点を学生受け入れの方針として明示します。</p> <p>1.求める学生像</p> <p>地域社会の発展に興味・関心を持つ人、ビジネス、経営、情報、社会等に関心を持つ人、多様な人々と「協創」して課題を解決しようとする人を広く求めます。</p> <p>2.本学の教育を通じて養う能力</p> <p>本校の教育目標を実現するために必要なビジネス知識とIT技能を習得し、課題発見・課題解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と「協創」して学びあう能力を有するとともに自ら学び続ける能力と、社会・地域に貢献できる能力を備えたものに高度専門士・専門士を授与する。</p>
----	---

マネジメント分野					
マネジメント分野育成人材像	ディプロマポリシー				
	知識・技能 (理解できる)	思考力・判断力・表現力等の能力/協働力 体現レベル(できる) 実践できる(活かせる)			
課題解決型実践学習を通じて、中小企業が抱える課題の抽出、解決案提示、解決に向けた施策を行うための活動を推進する。ビジネス人材として重要なスキルとして潜在ニーズを引き出すための質問力を身につけ、要求事項を明確にして企業の内外の課題に取り組む人材。	地域における諸課題を自ら積極的に探求し、潜在する課題が新たな地域のビジネスとなるよう果敢に取り組む事ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・批判的思考に基づき得た思考で地域社会や企業経営に対する洞察力を養い実践的課題解決ができる。 ・主体性をもってバックグラウンドを持つ人々と協調して共に課題解決に取り組む能力を身につける。 ・論理的かつ効果的なコミュニケーション能力を養い、チーム内外での協力を促進する。 			
カリキュラムポリシー					
企業連携授業で企業が実際に抱える課題解決にとりくむため、課題整理業務モデル図の作成をする					
分野	能力項目	主体的積極的思考 (意識・思考)	知識・技能 (理解)	(個人単位) 体現レベル (できる)	実践できる (活かせる)
ビジネス分野	マネジメント力	<ul style="list-style-type: none"> 役割認識 原価意識/コストマインド ③ ウェルビーイング 建設的問題意識 自己変革マインド コンプライアンスマインド 顧客志向 	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 PDCAサイクル ・マネジメントコントロール (基本知識：個人単位) ①-2 プロジェクトマネジメント (基本知識：チーム単位) ①-3 計数管理能力 (ビジネス会計・財務・コスト意識) <ul style="list-style-type: none"> ①-3-a 商業簿記 ①-3-b 工業簿記 ①-3-a 財務分岐 ①-4 経営学基礎 ①- ビジネス法務 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトケースによるマネジメント実践 ①-3 計数管理実践 (財務分析・原価分析演習) 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">経営系ワークショップ※</p>
	② ビジネスコミュニケーション力		<ul style="list-style-type: none"> ②-1 ビジスマナー(電話応対・郵便物) (対個人) ビジネスコミュニケーション ②-2 読解力・ヒアリング力・話し力 ②-5 交渉力(リーダースキップ) ②-3 プレゼンテーション力 ②-4 ネゴシエーション力 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップや演習を通じてスキルの実践習得 	
		<p>※黄色は意識やマインド・思考など分野を問わず共通項として育成もしくは本人が意識できるような機会が必要</p> <p>※本人が一番気づきが多い体験や機会は実践やワークショップなどの場面を活用。</p>			

マーケティング分野					
マーケティング分野育成人材像	ディプロマポリシー				
	知識・技能 (理解できる)	思考力・判断力・表現力等の能力/協創力 体現レベル (できる) 実践できる (活かせる)			
困難な課題に果敢に取り組む姿勢を養い企業における革新者の役割を担い、新たな企業価値を創出する。オープンデータの活用と自社データを統合して分析し、市場ポートフォリオを構築し、マーケティング戦略を立案できる人材。	マーケティングに関する知識・技能を体系的に修得し、実践的なマーケティングを立案・実行する能力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域観光資源、地域経済に係る統計データを分析し、データを通して課題の見直しができる思考ができる。 ・必要な情報を収集し、事象を構造化し、仮説を立てて検証・分析していくことができる。 ・議論と対話を軸として相互理解を進めるコミュニケーション力やマネジメント力をもって、チームを動かすことができる。 			
カリキュラムポリシー					
起業家精神のマインドを身につけ、データに基づくビジネスアイデアを発想し、学生によるビジネスプランコンテストに応募する					
分野	能力項目	主体的積極的思考 (意識・思考)	知識・技能 (理解)	(個人単位) 体現レベル (できる)	実践できる (活かせる)
マーケティング分野	<p>① 起業家精神</p> <p>② 統計データ分析から課題設定 (マーケティング・統計分析等)</p>	<p>チャレンジ精神</p> <p>忍耐力</p> <p>意思決定力</p> <p>顧客志向</p>	<p>③-1 デントレプレナーシップ概論</p> <p>④-1 着想・アイデア・チャレンジ精神</p> <p>④-2 アイデア企画からビジネスプラン</p> <p>④-3 事業計画(資金調達等)</p> <p>②-1 マーケティング基本</p> <p>データ分析力・問題発見力・論理的思考</p> <p>②-2 統計学基本</p> <p>②-3 データ分析(調査・分析)</p> <p>②-4 マーケティングツール</p> <p>②-5 ブランドマネジメント</p> <p>②-6 デジタルマーケティング (SNS活用等)</p> <p>②-7 地域経済学</p> <p>②-8 ビジネス数学</p>	<p>ビジネスアイデアプラン 実践(個人案)</p> <p>(課題解決型演習) ケースによるマーケティング戦略実践</p> <p>有関課題解決型演習 (課題解決型演習)</p>	<p>(起業家実践型演習) 起業家アイデアコンテスト</p>

情報・IT分野					
情報・IT分野育成人材像	ディプロマポリシー				
	知識・技能 (理解できる)	思考力・判断力・表現力等の能力/協創力 体現レベル(できる)実践できる(活かせる)			
業務における「ムリ・ムダ・ムラ」を見つけだし、改善をするための最適ツールで社内IT環境を再構築できる。最適化ツール活用を推進できる社内のITリーダーとしてDXによる構造改革を進めることができる人材。	最新のデジタル技術、AIやノーコードを積極的に活用しスピードをもって職場の構造改革に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分析による改善業務モデル図を作成し、実現に必要な最新技術情報の収集、構築に必用となる仕様条件を作成することができる。 ・技術的な内容を分かりやすく説明し、他の専門分野の人々と協力して課題解決に取り組む能力を身につける。 			
カリキュラムポリシー					
業務の基軸となるデータ基盤を構築し、DXを推進するためのノーコードツール、スマホに連携するアプリを作成する。開発を効率化するために、状況に応じた生成AIを活用する					
分野	能力項目	主体的積極的思考 (意識・思考)	知識・技能 (理解)	(個人単位)体現レベル (できる)	実践できる (活かせる)
情報・IT分野	① PC基本操作スキル (デジタルツール)	目的意識	①-1 デジタルシテスマンシップ	PC関連実務資格取得	社会課題解決のDX化
		思考力	①-2 データのグラフ化		
		整理力	①-3 データテーブル作成、抽出		
	② 情報システム開発スキル	構築力	②-1 システム開発	業務フロー圖作成	
原因分析力	②-2 業務分析				
③ ネットワークセキュリティ	コミュニケーション	②-3 セアリング手法、提案説明方法	情報セキュリティマネジメント資格		
倫理観	リスク分析・批判的思考力・倫理観	③-1 リスクアセスメント			
④ データサイエンス+AI	倫理観	③-2 セキュリティインシデント	③-3 セキュリティ法規制	市場調査	
		データ分析力・問題発見力・柔軟性			
		④-1 ビッグデータ分析、ビジネス構築	オープンデータ分析		
		④-2 クラウド設計処理、適切なクラウド			
④-3 生成AI活用	企業連携先企業の同業市場調査				

新しい未来を
切り拓く
学びへ

理系 転換等

地方やデジタル分野における
専修学校

推進事業

新設学科の魅力

養成人材
地域課題をデジタル技術を活用して解決するビジネスパーソン

背景
地方のIT人材不足を補い、地域活性化を実現

実践的なカリキュラム
DXスキル、地域課題解決型学習（PBL:Project-Based Learning）、長期企業実習

将来のキャリア
地域密着型企業での活躍、デジタル時代に即した幅広いスキルの習得

学校法人YIC学院
YIC 情報ビジネス専門学校（法人）

〒754-0021 山口県山口市柳井町2番24号
Tel:083-976-8354 Fax:083-974-5826
URL:<https://www.yic.ac.jp/ib>



地方やデジタル分野における専修学校

理系 転換等

推進事業
について

1 事業の目的

地域中小企業が抱えるIT人材不足を解消し、デジタル技術を活用した課題解決型人材を育成します。高校生が将来の仕事で活躍できるよう、ビジネススキルとIT技術を融合した新しい学科を設置します。

2 対象

- ◆ 高校生や地域での就職をめざす専門学校生
- ◆ 地域密着型の人材を求める中小企業や誘致企業

3 特徴

学びの内容

- ◆ IT技術（ローコード開発、生成AIなど）
- ◆ ビジネス基礎（マーケティング、会計）
- ◆ 地域課題解決型実践授業（企業訪問やPBL学習）

学科設置の背景

地元企業のIT化推進を支援するため、最先技術と地域密着型の教育を実現

4 期待される成果

- ◆ 高校生の地域企業認知度向上
- ◆ 地域中小企業へのIT人材供給
- ◆ 地域社会と経済の活性化

【参考データ】
令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校設置計画推進事業」



第6章 次年度以降に向けて

6-1 次年度以降の取組

令和6年度の事業実施内容・結果を踏まえ下記について、更に進展させていく。

(1) 令和7年度・令和8年度の事業予定

【令和7年度】

a. 事業実施体制の構築(6月～) 各5回委員会実施(ハイブリット形式)

- ・事業推進委員会
- ・カリキュラム作成委員会
- ・調査・普及委員会
- ・企業連携委員会

※事務局にて調整して運営する

b. 「調査・普及」

- ・連携高校・学校体験会 開発 PBL 体験実証講座(アンケート調査)
- ・連携高校・連携企業開拓(高校生 PBL 実証対象)
- ・高校生対象 カリキュラム・学科説明 PR 動画作成
- ・海外教育情報整理

c. 「カリキュラム作成」

- ・一部科目別シラバス・コマシラバス作成
- ・一部教材(動画含む)作成
- ・一部実証講座 実施
- ・教員研修

d. 「企業連携」

- ・連携中小企業・誘致企業連携先交渉
- ・海外研修先選定交渉

e.「成果報告等」

- ・学科説明用動画、学科説明用プレゼン資料
- ・シラバス・コマシラバス・教材作成
- ・年間報告書 作成
- ・新設学科申請書 作成準備
- ・ホームページ作成

【令和8年度】

a.事業実施体制の構築(6月～)各5回委員会実施(ハイブリット形式)

- ・業推進委員会
- ・カリキュラム作成委員会
- ・調査・普及委員会
- ・企業連携委員会

事務局にて調整して運営する

b.「調査・普及」

- ・連携高校・学校体験会 開発 PBL 体験実証講座(アンケート調査)
- ・連携高校・連携企業開拓(高校生 PBL 実証対象)
- ・高校教員・保護者対象 カリキュラム・学科説明 PR 動画作成
- ・海外教育情報整理

c.「カリキュラム作成」

- ・一部科目別シラバス・コマシラバス(改訂)
- ・一部教材(動画含む)作成
- ・一部実証講座 実施
- ・教員研修

d.「企業連携」

・連係中小企業・誘致企業 PBL・企業実習実証

・企業対象学科説明会

e.「成果報告等」

・調査報告書 作成・印刷

・カリキュラム案 作成

・成果報告書 作成

・新設学科申請書 提出

・ホームページ作成

6-2 次年度に向けて

令和6年度の成果を踏まえ、次年度は調査・普及、カリキュラム開発、企業連携をさらに強化し、地域におけるDX人材育成の実効性を高める。調査・普及面では、高校生や専門学校生の進路・就職意識のさらなる分析を進め、企業とのマッチングを促進するための新たなアプローチを検討する。特に、PR動画の活用を通じて、高校生・保護者・教員への情報発信を強化し、地域の中小企業に対する理解を深める。

カリキュラム開発では、PBL(課題解決型学習)の実証講座を本格実施し、企業との協働を通じた実践的な教育を強化する。科目別のシラバスや教材開発を進め、実証授業を通じて教育効果を評価・改善する。さらに、企業連携を拡大し、インターンシップやPBLを活用した実務教育の機会を増やし、即戦力となる人材の育成を図るプログラムの確立を目指す。

また、新設学科の申請準備を進めるとともに、全国の専門学校との情報共有を強化し、持続可能な人材育成モデルの確立を目指す。

以上

2025年3月

令和6年度文科省事業

「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」

地域中小企業と連携によるIT担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業

成果報告書

学校法人 YIC 学院

〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町2番24号

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。